

# HTML 要素総索引 | 令和6年12月版

## 序

本書は、HTML の要素を集めたものです。

HTML は 1989(平成元)年に始まった World Wide Web のマーク付け言語として作られ、30年以上にわたって変化を続けながら現在に至っています。HTML は後方互換性を重視する言語ではありますが、過去のすべてを引き継いでいません。現在の HTML を深く理解したり、過去の Web の姿を調べたりするためには、HTML がどのように変化してきたかを知る必要があります。

現在の HTML のことは『HTML Standard』に書かれていますが、過去のことはあまり書かれていません。入れ替わりの激しい Web の世界では、過去の HTML の情報もどんどん見つけにくくなっています。既に失われてしまったものも多いことでしょう。

本書は人々が HTML をどのように使おうとし、どのように変化させてきたのか、その様々な取り組みを通して HTML という言語の全体像を描こうと試みたものです。しかし HTML のあまりにも多様な使われ方を網羅できるはずもありませんから、本書ではいつどのような要素が考案されたか、主要な出来事を時系列で列挙するだけに留まらざるを得ませんでした。せいぜいが HTML という広大な世界の輪郭、骨組みというほどのものでしかありませんが、より詳しく調べたいときの「索引」として使えるように努めました。

わずか十数年前のことでも、今や不明となってしまったことが少なくありません。未解明のままの問題も多く残っています。漏れや誤りもあるはずですが、何卒ご容赦いただければ幸いです。

本書が HTML と Web の世界をより広く深く理解するための一助となることを願っています。

令和6年11月23日

## 凡例

本書は、HTML<sup>(434)</sup>という言語の大枠を示すため、その要素を列挙した。現行の要素はもちろんのこと、過去存在した要素、提案されたが実現しなかった要素も可能な限り採録した。

あるものが「HTML という言語の要素」かどうかの判断は意外と難しい。現行仕様と異なる歴史的な言語や要素<sup>(1)</sup>に対して適用可能な客観的な基準が確立されていないため、多くは主觀により判断せざるを得なかった。その言語体系が HTML を称するかどうか、その言語体系と Web ブラウザの HTML との歴史的関係性、HTML 名前空間<sup>(166)</sup>に属するかどうか、文書要素<sup>(202)</sup>の要素名、といった点を重視しつつ総合的に判断した。

HTML の要素のうち、標準化団体によって開発された歴代の標準仕様書に記載があるもの、実装事例があるものは、すべて採録した。それ以外に、標準化団体でよく議論されたもの、実際の文書でよく利用されたもの、解説等でよく紹介されたもの、有力者が提案したもの、その他特に関心を引くものを採録した。<sup>(2)</sup>一方で、メーリングリストや SNS などの単発の提案や思いつきのようなもので具体化しなかったもの、要素名のみの対案などは、原則として対象外とした。

参考のため、SVG<sup>(400)</sup>と MathML<sup>(311)</sup>の要素も、主要な仕様に含まれるものに限って掲載する。<sup>(3)</sup>

各要素は、要素名の ASCII 順で掲載する。ただし、整列時に大文字と小文字は区別しない。要素名は、原則としてすべて小文字で示

---

(1) HTML が爆発的なブームとなって以来、様々な分野で HTML の拡張、HTML とよく似た言語、HTML の一部を取り込んだ言語、HTML を埋め込める言語、HTML を生成できる言語、HTML のようなものを使えるプログラミング言語のライブラリー、といったものが作られている。[SW:HTMLもどき] 同じように見える構造が、HTML の機能拡張と理解されることもあるれば、HTML と共存する別言語の構文と理解されることもある。

(2) 採録対象については \*, \*:\*, -\*- の項も参照されたい。

(3) SVG(400)と MathML(311)は HTML 文書に含められるので、HTML 文書にこれらのタグ名<sup>(21)</sup>が出現しても、HTML の要素とは限らないから、索引としての便宜のために収録した。要素名と仕様の版以外の情報は省略した。

す。<sup>(4)</sup>ただし XML<sup>(5)</sup>でのみ利用されるものや SVG と MathML の要素は、元の綴りに従う。

各要素の本文には、その要素が出現するまでの過程を時系列で示す。<sup>(6)</sup>現行『HTML Standard』<sup>(7)</sup>で規定される要素は、『HTML Standard』（またはその前身）に追加された時期も示す。その他、重要と考えられる出来事があれば示す。紙幅等の関係で、最初の形になって以後の変遷や、意味、属性、内容、実装状況、利用実態などはほとんど省かざるを得なかった。

既に消失した資料も多く、正確な時期を特定できていない事項もある。ある時点で「何々がある」か「何々が追加された」かの表現の違いに注意されたい。後者は1つ前の版により、または変更履歴の存在により時期を確認できたことを示す。<sup>(8)</sup>なお、「現存最古」とは執筆時点で入手し得た資料の最古を意味する。

本文の後には、要素が主要な HTML の仕様書に出現する場合に、どの仕様書にあるかを示す。この欄では仕様書として、標準化動向の歴史的経緯と Web ブラウザーの実装状況や知名度などを考慮しつ

---

(4) 要素名や属性名について、HTML や多くの SGML 応用では大文字と小文字を区別しない。XML<sup>(5)</sup>では区別する。20世紀末頃まで、要素名や属性名は大文字で書かれることが多かった。『HTML4』<sup>(394)</sup>は仕様書上の表記法として要素名は大文字、属性名は小文字とした。[HTML4-19971218:about] 多くの解説等がそれに倣った。ところがその後 XHTML<sup>(201)</sup>が要素名と属性名をすべて小文字としたため、HTML でも小文字が一般化した。

(5) XML Extensible Markup Language (拡張可能マーク付け言語)。SGML<sup>(78)</sup>を大幅に簡略化したマーク付け言語<sup>(186)</sup>。[XML] HTML ブームを引き継ぐ形で平成時代中期頃には猫も杓子も XML を使うのが良いとされた。本来のマーク付け言語の領域を超えてあらゆるデータ構造の記述と交換に使われたが、無理を重ねた使いづらさから失速。今は限られた分野で使われている。

(6) 非標準の要素などは、調査が進んでおらず出現過程が未だ明らかでないものも多い。

(7) 『HTML Standard』現在の HTML の仕様書。[HTML] WHATWG<sup>(414)</sup>で開発が続けられている。本書では執筆時点で著者<sup>(52)</sup>の利用が認められたものに「適合」と示した。また、構文解析器における分類 Special (特殊), Formatting (書式付け), Ordinary (普通) を示した。更に、構文解析器で特別な挙動が定められたものには「HTML 構文解析器」と示した。

(8) 組織内部の非公開版への追加は知り得ないので、原則として考慮しない。

つ、初期 HTML<sup>(9)</sup>, HTML1<sup>(11)</sup>, HTML 2.0<sup>(149)</sup>, HTML 2.x<sup>(122)</sup>, HTML+<sup>(72)</sup>, HTML 3.0<sup>(105)</sup>, HTML 3.2<sup>(127)</sup>, HTML4<sup>(394)</sup>, ISO-HTML<sup>(207)</sup>, XHTML 1.0<sup>(45)</sup>, XHTML 1.1<sup>(368)</sup>, XHTML m12n<sup>(92)</sup>, XHTML Basic<sup>(247)</sup>, XHTML-Print<sup>(12)</sup>, XHTML 2.0<sup>(184)</sup>, HTML5<sup>(191)</sup>, HTML Standard を取り上げた。詳しくは各注釈を参照されたい。

借用先欄には、HTML 以外のマーク付け言語<sup>(186)</sup>でその要素を取り込んだと考えられるものを示す。当該言語の仕様書等に明確に記述されない場合も多く判断が難しいため、仮に要素名と一致するもののうちから主観的に選んだ。<sup>(13)</sup>

文献欄には、その要素の技術開発の過程を取り扱った文献を示す。開発当事者がまとめた分量で述懐したものや、ある程度の時間が経過してから技術史的観点で取りまとめられたものを対象とした。

→欄には、関係する他の要素を示す。ただし本文中で言及したものには省いた。

SVG 欄、MathML 欄には、SVG や MathML でその要素名を定めた主な仕様書の版を示す。<sup>(14)</sup>

---

(9) 本書では Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>の 1992(平成4)年1月9日版仕様書、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の 1992(平成4)年7月15日版 HTML DTD<sup>(10)</sup>, 1993(平成5)年1月6日版 HTML DTD に含まれるかを示した。[WWW19920109] [HTML19920606] [HTML19930106:DTD] 規定が未完成のものは、「言及のみ」と示した。また、1991(平成3)年までの日付の HTML 文書で使われた要素は、本文中に現存最古の出現日を示した。

(10) 最終的に『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>へと発展する HTML DTD の最古の版に当たる。[SW:HTML2]

(11) HTML1 HTML 1.0 1993(平成5)年6月の HTML 仕様案を指すことが多い。文中には版番号が 1.1 や 1.2 と書かれているが、いつしか HTML 1.0 と呼ばれるようになった。[HTML11] [HTML12] [SW:HTML1] HTML1 は紆余曲折ありつつも開発が続けられ、『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>に発展した。本書では仕様書中の Mainstream (主流), Extra (追加分), Obsolete (廃止) の分類も示した。

(12) XHTML-Print XHTML1 系仕様の 1つ。廉価印刷機への送信用とされる。印刷機事業者らによって開発され、W3C<sup>(185)</sup>に移管された。2度 W3C 勧告<sup>(395)</sup>になったが、内容はあまり変わっていない。[XHTMLPrint20060902] [XHTMLPrint20101123] 本書では W3C 勧告版に含まれるかを示した。

(13) 記号主体の Wiki 構文等、HTML との関係が明白でも対象外としたものがある。

(14) HTML, SVG<sup>(400)</sup>, MathML<sup>(311)</sup>で同じ要素名が使われるとしても、その意味や用法は異なる場合がある。

HTML の要素には QR コードを示す。その要素に関する『SuikaWiki』の記事の URL を表している。『SuikaWiki』の記事には、より詳細な情報や、関連する文書等へのリンクが書かれていることがある。<sup>(15)</sup>

用語や固有名詞には、古くなり意味が分かりづらくなりつつあるものを中心に、注釈を付す。

本書の記載内容には可能な限り出典を明記する。出典となる文献は巻末に、参照記号の Unicode 順で示す。ただし、整列時に大文字と小文字は区別しない。実際の用例群などが根拠ですべてを出典として示すと煩雑になる場合は、関係する『SuikaWiki』の記事を示すので、あわせて参照されたい。

本書の編集にあたり、『SuikaWiki』の記事や『data-web-defs』のデータファイルを活用した。[SW] [dwd] それらすべての編集者や貢献者に感謝する。

なお、本書の電子版は公式サイト <<https://suikawiki.org/>> で配布する予定である。

---

(15) 『SuikaWiki』は、Wiki の 1 つ。Web 技術関連の記事が多数ある。[SW]  
本書は『SuikaWiki』の HTML 要素関係の記事を要約して再編集したものである。本書の誤り、記載漏れ、新出史料などをご存知の方は、『SuikaWiki』に情報提供いただけすると幸いである。



\* ! <!> はタグ名<sup>(21)</sup> ! の開始タグのようにも見えるが、HTML5 構文解析器<sup>(389)</sup>は空文字列の注釈<sup>(16)</sup>とみなす。SGML<sup>(78)</sup>では注釈宣言<sup>(17)</sup>だった。

注釈は、低品質な解説等でしばしば要素やタグ<sup>(20)</sup>として紹介された。開始タグが <!--, <!--, <! 、終了タグが -->, > 、タグ名が !--, !-, ! などと説明される。SGML に於いても現在の HTML に於いても誤りである。

平成 12 (2000) 年頃、T-Time<sup>(24)</sup>は ! を実装していた。現在の ruby 等に当たる。<sup>[TTX230]</sup>

借用先 TNF<sup>(398)</sup>

→ !rb, t-/rb, t-r, t-rb



!- 注釈<sup>(16)</sup>は、低品質な解説等でしばしば要素やタグ<sup>(20)</sup>として紹介された。開始タグが <!--, <!--, <! 、終了タグが -->, > 、タグ名<sup>(21)</sup>が !--, !-, ! などと説明される。SGML<sup>(78)</sup>に於いても現在の HTML に於いても誤りである。

『Compact HTML』<sup>(31)</sup>の tag list に、element として !- があ

---

(16) 注釈 comment HTML 構文に出現し得る構造の一種であり、DOM 節点の一種でもある。SGML<sup>(78)</sup>では注釈宣言<sup>(17)</sup>に相当する。SGML では注釈宣言の内部構造を注釈という。

(17) 注釈宣言 comment declaration マーク付け宣言<sup>(18)</sup>の一種で、<! から始まり > で終わる。-- から次の -- までが注釈<sup>(16)</sup>とみなされる。<!> は、注釈がない空の注釈宣言である。

(18) マーク付け宣言 markup declaration マーク付け<sup>(19)</sup>の一種。注釈宣言<sup>(17)</sup>、マーク付き区間宣言、文書型宣言<sup>(332)</sup>などがある。

(19) マーク付け マークアップ マーク markup mark up 文章に目印として挿入される記号列。また、その挿入作業。英語では名詞のとき 1 語、動詞のとき 2 語で綴る。また、JIS<sup>(236)</sup>では当初名詞をマーク、動詞をマーク付けと訳し分けていたが、一般にはあまり区別されずに使われている。<sup>[JISX4151]</sup> [SW:マーク付け]

(20) タグ tag マーク付け<sup>(19)</sup>の一種。開始タグと終了タグの 2 種類がある。俗に要素のこともタグという。また、その他の構文もみなタグということがある。こうした不正確な専門用語の使い方は、技術の正確な理解と円滑な運用の障害であり、適切ではない。なお、他の言語や構文ではまったく別のものをタグということがある。

(21) タグ名 tag name タグ<sup>(20)</sup>に書かれた要素名の部分。『HTML5』<sup>(191)</sup>により正式に構文上的一部分の呼称となつたが、元は要素名の俗称だった。DOM の属性名 tagName は俗稱に由来する。

る。[CHTML]

!-- <!-- から始まり --> で終わるものは、注釈<sup>(16)</sup>であり、タグ<sup>(20)</sup>ではない。タグとは構文がまったく異なる。



注釈は、低品質な解説等でしばしば要素やタグとして紹介された。開始タグが <!--, <!--, <! 、終了タグが -->, > 、タグ名<sup>(21)</sup>が !--, !-, ! などと説明される。SGML<sup>(78)</sup>に於いても現在のHTMLに於いても誤りである。

Microsoft Corporation も HTML 注釈要素は開始タグと終了タグが必須と紹介していた。[MSDHTML:Comment]

**!gdoc** 1992(平成4)年4月16日付ファイルのHTTP応答仕様案に<!GDOC HTML>, <!/GDOC>等の構文がある。<sup>(22)(23)</sup> [HTTPPEX1] なお CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>の文書要素<sup>(202)</sup>が gdoc で、その影響を受けた可能性がある。



**!action** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>

→ t-action



**!doctype** 文書型宣言<sup>(332)</sup>は、低品質な解説等でしばしば要素やタグ<sup>(20)</sup>として紹介された。[SW:!DOCTYPE]



Microsoft Corporation は、Internet Explorer 3.0 で対応した終了タグのない要素として !DOCTYPE を紹介していた。[MSDHTML:DOCTYPE]

(22) HTML の一部というよりは HTML を識別するための構文と思われる。

(23) SGML<sup>(78)</sup>と説明されているが、一般的な SGML にこのような構文はない。こう記述できないことはないが普通ではない。

(24) T-Time 平成時代前半の日本で販売されていた電子書籍閲覧ソフトウェアの1つ。Windows版、Macintosh版があった。TTX<sup>(25)</sup>, TTZ<sup>(26)</sup>, ドットブックなどの形式に対応していた。

(25) TTX T-Time<sup>(24)</sup>の独自拡張機能を含むHTMLと、CSS風の独自言語。T-Timeの初期の版では単にHTMLと呼ばれていた。

(26) TTZ TTX<sup>(25)</sup>や関係ファイル一式を独自の方式でコンパイルした電子書籍ファイル形式。

\*

『Compact HTML』<sup>(31)</sup>の tag list に、 element として !DOCTYPE がある。[CHTML]



**!gdoc** 1992（平成4）年4月16日付ファイルの HTTP 応答仕様案に <!GDOC HTML>, <! /GDOC> 等の構文がある。<sup>(22)(23) [HTTPEx1]</sup> なお CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>の文書要素<sup>(202)</sup>が gdoc で、その影響を受けた可能性がある。

**!img** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装して いた。<sup>[TTX230]</sup>



→ img, t-img  
**!middle** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装 していた。<sup>[TTX230]</sup>



**!pb** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装して いた。改頁を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ page, page\_break, pg\*, t-pb  
**!pdef** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装して いた。挿絵を表す。<sup>[TTX230]</sup>



**!phead** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装し ていた。挿絵を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ !pdef, !ptail, fig, figure, t-pdef, t-phead, t-ptail  
**!ptail** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装し ていた。挿絵を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ !pdef, !phead, fig, figure, t-pdef, t-phead, t-ptail  
**!rb** 平成12（2000）年頃、 T-Time<sup>(24)</sup>が実装して いた。現在の ruby 等に当たる。<sup>[TTX230]</sup>



**[CDATA[** CDATA 区間<sup>(27)</sup>は、低品質な解説等でしばしば要素やタグ<sup>(20)</sup>として紹介された。平成 15 (2003) 年の i モード対応 XHTML<sup>(61)</sup>の一覧に要素の 1 つとして ! [CDATA[ がある。*[iXHTML]*



\*

**\$** Help System<sup>(28)</sup>が \$ を使っている。見出し中の章節番号に当たる部分を表している。*[SW:\$]*

→ secno



**&xxx;** 文字参照<sup>(30)</sup>は、低品質な解説類でしばしば要素やタグとして紹介された。マーク付け宣言<sup>(18)</sup>をタグ<sup>(20)</sup>とみなすのはまだ理解できるが、<, > で囲まれない文字参照をタグと強弁するのは無理があろうかと思われる。



『Compact HTML』<sup>(31)</sup>の tag list にも element として &xxx; が掲載され、 comments として文字実体参照や十進数文字参照が示されていた。*[CHTML]* また、 i モード対応 HTML<sup>(34)</sup>, i モード対応 XHTML<sup>(61)</sup>の一覧には要素として &xxx; が掲載されていた。*[iXHTML]*

(27) CDATA区間 CDATA section マーク付け(19)を認識せず文字データのみなす構文。SGML<sup>(78)</sup>ではマーク付き区間宣言の一種。XML<sup>(5)</sup>および HTML では<! [CDATA[ から始まり ]]> で終わる。

(28) Help System Getleft<sup>(29)</sup>で使われていたヘルプシステム。そのドキュメントは HTML で記載されており、Tcl で実装された独自の HTML 構文解析器で処理される。

(29) Getleft 平成時代後期頃に使われた Web サイトの一括ダウンロード用ソフトウェアの 1 つ。*[Getleft]*

(30) 文字参照 character reference マーク付け(19)の一種。 & から始まり、何らかの文字を表す。

(31) Compact HTML CHTML 平成 10 (1998) 年 2 月 9 日付で ACCESS Co., Ltd.<sup>(32)</sup>らが W3C<sup>(185)</sup>に提出した仕様案。ガラケー<sup>(63)</sup>用 Web ブラウザーのために、標準および Netscape や Microsoft の HTML の機能の一部を抽出したもの。*[CHTML]* それに基づく NTT ドコモの仕様が i モード対応 HTML<sup>(34)</sup>である。

(32) 株式会社ACCESS ACCESS Co., Ltd. NetFront Browser<sup>(33)</sup>を開発していた企業。

(33) NetFront Browser Web ブラウザーの 1 つ。日本の多くのガラケー<sup>(63)</sup>をはじめとする各種の組み込み機器で、その標準 Web ブラウザーとして採用されていた。独自開発だったが、後継の NetFront Browser NX 等の製品は WebKit<sup>(155)</sup>を使っている。

(34) iモード対応HTML i-mode Compatible HTML i モード<sup>(62)</sup>用 HTML 仕様の系列の 1 つ。 CHTML<sup>(31)</sup>を基に拡張したもの。

\* 本書では便宜上、要素名中で \* を任意の文字列の意味で用いる。実際に \* を要素名中で使ったものではない。<sup>(35)</sup>



素の SGML<sup>(37)</sup>ではすべての要素名は DTD<sup>(194)</sup>で宣言するものであり、未宣言の要素の出現する文書は適合しないから、その取扱いは規定されていなかった。<sup>[ISO8879]</sup>

HTML は当初 SGML 応用を志向していたものの、実際には SGML<sup>(78)</sup>として処理されることは稀だった。DTD なしに自由に拡張されたため<sup>(39)</sup>未知の要素が出現する状況が普遍的に存在した。

正式な HTML の仕様は SGML 応用であると主張していたため、この状況を明確に記述できなかった。マーク付け宣言<sup>(18)</sup>により、あるいは独自の方法により、非標準の要素を明記することとした仕様案や実践も一部でなされたが、広く普及することはなかった。

1991(平成3)年4月2日付の WorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードでは、未知のタグ<sup>(20)</sup>は無視されていた。当時は CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>形式の既存の SGML 文書に a を書き加えるなどして HTML 文書を作成していたようで、HTML が(まだ)対応していないタグが含まれる場合があった。そのため必然的にこの仕様となったようだ。<sup>[SW:HTML1991]</sup>

(35) 要素名に \* を使った事例は確認できない。なお DOM の getElementsByTagName 等では \* は任意の要素を表す。CSS 等の選択子<sup>(36)</sup>では \* は任意の要素と一致するが、それは \* 字句の場合であり、通常の要素名のような識別子字句の \* とは異なる。

(36) 選択子 selector CSS 等で要素を選択する式言語。

(37) 素の SGML Web SGML<sup>(38)</sup>以前の当初の SGML<sup>(78)</sup>。

(38) Web SGML ISO 8879 附属書 K で Web SGML Adaptations として規定された SGML<sup>(78)</sup>の改訂版。WWW 用と称して素の SGML<sup>(37)</sup>にいくつもの改変を加えている。<sup>[WEBSGML]</sup> HTML4<sup>(394)</sup>が Web SGML を利用している。また、XML 文書は Web SGML の文書として解釈できる。<sup>[WEBSGML]</sup>

(39) 当初の HTML はそもそも文書型宣言<sup>(332)</sup>を書いていなかった。

(40) WorldWideWeb 最初の Web ブラウザ。NeXTSTEP<sup>(41)</sup>で動作し、Web ページの閲覧と編集ができた。後に Nexus と改称された。<sup>[WorldWideWeb]</sup>

(41) NeXTSTEP Unix 系 OS の 1 つ。先進的な GUI 環境で知られた。後に Apple 社に買収され Mac OS X へと発展した。Windows も多くの影響を受けたという。

『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>は、実装は未知の要素のタグを字句化時に無視していると説明している。[RFC1866]

Internet Explorer<sup>(281)</sup>の構文解析器は未知の開始タグをそのタグ名<sup>(21)</sup>の空要素<sup>(42)</sup>、未知の終了タグを / にタグ名が続く要素名の空要素とみなした。IE4 DOM<sup>(59)</sup>や CSS での挙動を確認できる。[SW:IE4DOM]

Internet Explorer が対応していない要素を使いたい著者<sup>(52)</sup>らはこの挙動に悩まされてきた。平成時代半ば頃、構文解析前に createElement を呼び出すことでそのタグ名は内容を持つタグであると認識されることが判明し、HTML5<sup>(191)</sup>の新要素の利用が進むことになった。[SW:IE4DOM]

『HTML4』<sup>(394)</sup>は非妥当な文書の処理は定めないとしつつも、未知の要素は内容をレンダリングすることを推奨している。[HTML4-19971218:notes](43)

しばしば解説類は、SGML や XML<sup>(5)</sup>では HTML と違って著者が任意の要素名を使える、といったような説明をしていた。HTML とは違って、と説明されることもあれば、将来の HTML や Web はそう発展する、のような説明のことわざがあった。こうした解説の筆者や読者が技術的詳細や業界動向をどこまで正確に把握していたのかは疑わしい。

1997(平成9)年3月9日付で Microsoft が W3C<sup>(185)</sup>に提出した仕様案や Internet Explorer 5 の実装では、xml の内容に任意の XML が記述できるとされていた。タグは HTML 要素を表すものではなく、XML の要素と解釈された。<sup>(44)</sup> [XMLsubmit]

Internet Explorer 5 では object の内容に任意の XML が書けることがある?) とされた。<sup>(44)</sup> [MSDN:XMLDSO]

(42) 空要素 empty element 内容が空の要素。

(43) 『HTML5』<sup>(191)</sup>より前の時代の標準仕様は不適合の入力に対する挙動を定めないのが普通だった。

(44) 本書ではそのような形の XML<sup>(5)</sup>の要素は採録対象外とした。

\* 1999(平成11)年にW3C勧告<sup>(395)</sup>となったXML名前空間<sup>(168)</sup>では、いくつかの方法で異なる名前空間に属する複数の語彙を混在させられた。そのうちの1つは、`xmlns`属性を指定する方法だった。この方法でHTML以外の要素を使う仕様、この方法を使ったXHTML文書もいくらか作られた。<sup>[XF20000406] [MML2:Parsing] [XMS]</sup>  
<sup>[CEA2014Ae](44) [CEA2014Ae] [MML2:Parsing] [XF20000406] [XMS]</sup>

1999(平成11)年9月16日付Open eBook<sup>(326)</sup>仕様は、XHTML 1.0<sup>(45)</sup>の部分集合を定めていたが、著者がそれ以外の要素を自由に使えるとしていた。CSSで表示方法を指定できた。<sup>[OEBPS1]</sup>

2009(平成21)年6月3日、『HTML5』は未規定の要素を著者は利用してはならないと規定した。『HTML5』は未規定の要素に遭遇した実装の挙動も定めている。<sup>[HTMLr3183]</sup>

PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものでは任意の要素名を著者が使えるようだ。<sup>(46) [POSTHTML] [POSTHTML:CE] [POSTHTML:WC]</sup>

2018(平成30)年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>では、任意の関数名等を定義して、要素として使える。<sup>[HTMLasPL]</sup>

X\_ITE X3D Browser<sup>(47)</sup>はカスタム要素<sup>(51)</sup>`x3d-canvas`の内容に

---

(45) XHTML 1.0 XHTML1仕様の1つ。2度W3C勧告(395)となったが、3度目は開発中止された。<sup>[XHTML10-20000126] [XHTML10-20020801]</sup>  
<sup>[XHTML10-20090602] [KINDER] [W3C2009]</sup> HTML4<sup>(394)</sup>をXML<sup>(5)</sup>に移植したものと説明されるが、実際には細かな違いも多い。<sup>[KINDER]</sup>要素は『HTML4』以来変わっていない。XHTML 1.0の2つのW3C勧告にはStrict(厳密), Transitional(移行用), Frameset(フレーム集合)の3種類のDTD<sup>(194)</sup>があり、本書ではそのいずれに含まれるかも示した。

(46) Custom ElementsやWeb Componentsに対応すると称するプラグインでは任意の要素名や属性名が使える。<sup>[POSTHTML:CE] [POSTHTML:WC]</sup> 他のプラグインも独自の要素名や属性名を使っている。また、設定により要素名や属性名をカスタマイズできるとしている。本書では公式に提供されているプラグインの要素名と別名としての利用例が明示されている要素名を採録対象とし、それ以外は対象外とする。

(47) X\_ITE X3D Browser Webページ上でX3D<sup>(48)</sup>データを表示できるJavaScriptライブラリ。

(48) X3D 3次元データを記述するXML文書。ISO/IEC国際標準ISO/IEC 19776。X3DデータをHTML文書内に直接記述する手法がX3D側からHTML5<sup>(191)</sup>の開発グループに打診されたことがあったが、実現しなかった。<sup>[X3D+HTML5]</sup>

X3D<sup>(48)</sup>を直接記述できるとしている。<sup>(44)(49)</sup> [X\_ITE:DOM]

→ `render, tag, unknown`

**\*-\*** 本書では便宜上、文字 - が含まれる要素名を  
-\*-\* と表す。<sup>(50)</sup> 実際に \*-\* を要素名とするものではない。



2013（平成25）年1月17日、『Custom Elements』は、カスタム要素<sup>(51)</sup>の要素名を - を含むものと緩和した。  
[WC:NameDef]

2013（平成25）年6月13日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>にカスタム要素が追加された。これにより - が入った要素名は著者<sup>(52)</sup>の裁量で自由に利用可能となった。<sup>(54)</sup> 現行仕様である。[HTML:AddCustom]

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / Ordinary

→ \*:\*, element, x-\*

**\*:\*** 本書では便宜上、文字 : が含まれる要素名を \*:  
\* と表す。<sup>(55)</sup> 実際に \*:\* を要素名とするものではない。



1999（平成11）年頃、Internet Explorer 5 はカスタム

---

(49) HTML 要素と要素名が衝突するものもあり、例えば `Script` には `type` 属性を指定して Web ブラウザーの HTML としての処理を回避させるような配慮が必要となっている。[X\_ITE:DOM]

(50) カスタム要素<sup>(51)</sup>は原則として本書の採録対象としない。ただし、カスタム要素機能の導入以前から存在するものや、敢えて取り上げるべき事情があるものは対象とした。

(51) カスタム要素 `custom element` 著者<sup>(52)</sup>が用法と挙動を定義できる要素。要素名の制限により通常の要素と区別される。Web Components<sup>(53)</sup>で導入された。

(52) 著者 `author` 文書の作成者。作業分担やソフトウェアか人間かの違いを問わず総体を指す。

(53) Web Components `template`, カスタム要素<sup>(51)</sup>, 影 DOM などの機能群とその開発プロジェクト。成果物は『DOM Standard』,『HTML Standard』<sup>(7)</sup>などに取り込まれている。

(54) MathML<sup>(311)</sup>や SVG<sup>(400)</sup>で既に利用されている要素名と同じものは禁止されている。[HTML]

(55) 要素名に文字 : を含み、`xmlns` 属性などの形で Internet Explorer<sup>(281)</sup> や XML 名前空間<sup>(168)</sup>の仕様に沿って HTML 以外の要素を埋め込んで利用することを企図したと思われるものは、実際にその意図の通りに機能したか否かを問わず、原則として本書の採録対象としない。

\* タグ<sup>(56)</sup>を実装した。現在のカスタム要素<sup>(51)</sup>に当たる。  
[MSDHTML:Custom]

1999(平成11)年にW3C勧告<sup>(395)</sup>となったXML名前空間<sup>(168)</sup>では、いくつかの方法で異なる名前空間に属する複数の語彙を混在させられた。そのうちの1つは、`xmlns:*`属性を指定して名前空間接頭辞を宣言した上で、その名前空間接頭辞と`:`の後に名前空間に属する要素の名前を書く方法だった。この方法でHTML以外の要素を使う仕様、この方法を使ったXHTML文書や、それを意図したHTML文書も少なからず作られた。  
[XV1] [WML2] [RDF] [RDDL20010102] [XMS]  
[iXBRL] [FBML] 現在も稀に残る。

1999(平成11)年にW3C勧告となった『RDF』<sup>(70)</sup>は、`head`内に`rdf:RDF`を書く方法を提示していた。また、将来のHTML仕様の拡張も予告していた。  
[RDF] [XHReport] ところがそれが実現することはなかった。

そこでRDFをHTML文書で使いたいが、同時にHTML4<sup>(394)</sup>やXHTML1.0<sup>(45)</sup>のDTD<sup>(194)</sup>に対する妥当性も主張したい人々は、注釈<sup>(16)</sup>に`rdf:RDF`を含めるという奇行に走った。そのような文書が作られるだけでなく、注釈の内容を解釈する実装も出現した。本末転倒である。ブログシステムの出力などの形で現在も多く残る。  
[SW:RXH]

→ \*-\*

---

(56) カスタムタグ `custom tag` Internet Explorer 5 が実装した機能の1つ。`html`に`xmlns:*`属性を指定して名前空間接頭辞を宣言することで、その名前空間接頭辞と`:`から始まる要素名が使えるようになる。また、DHTML behaviors<sup>(57)</sup>でその挙動を記述できる。Microsoft Office のHTML形式での入出力は、HTMLやCSSで記述できないものをこの機能と同形の要素で記述していた。『XML Namespaces』に基づくとされるが、当時の仕様案(その名の通りXML<sup>(5)</sup>用)をHTML用に改変したもので、現行仕様とは異なる。

(57) DHTML behaviors Internet Explorer 5 が実装した機能の1つ。著者<sup>(52)</sup>が作成したHTC<sup>(364)</sup>を指定する他、default behaviors<sup>(58)</sup>も指定できた。

(58) default behaviors Internet Explorer<sup>(281)</sup>に組み込まれていたDHTML behaviorのこと。JavaScriptやDOMの標準APIにない便利機能やストレージなどが提供されていた。VMLやHTML+TIMEもこの形で利用するものとなっていた。

**.date** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



\*

**.find.key** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.mail** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.name** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.search.key** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.search.match** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.search.max** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**.time** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。ファイルを開いたときに置き換えられる部分を表す。[TTX230]



**/\*** Internet Explorer<sup>(281)</sup> の構文解析器は未知の開始タグをそのタグ名<sup>(21)</sup>の空要素<sup>(42)</sup>、未知の終了タグを / に



\* タグ名が続く要素名の空要素とみなした。IE4 DOM<sup>(59)</sup> や CSS でこの挙動を確認できる。[SW:IE4DOM]

Internet Explorer が対応していない要素を使いたい著者<sup>(52)</sup>らはこの挙動に悩まされてきた。平成時代半ば頃、構文解析前に createElement を呼び出すことでそのタグ名は内容を持つタグ<sup>(20)</sup>であると認識されることが判明し、HTML5<sup>(191)</sup>の新要素の利用が進むことになった。[SW:IE4DOM]

開始タグと対応関係がない不正な終了タグは通常無視されるが、</br> と </p> には特例があり、開始タグと読み替えられることがある。HTML5 構文解析器<sup>(389)</sup>で明文化されたが、古くから Web ブラウザーが実装していた挙動である。[HTML]

→ unknown

**?xml** XML 宣言<sup>(60)</sup>は、低品質な解説等でしばしば要素やタグ<sup>(20)</sup>として紹介された。i モード対応 XHTML<sup>(61)</sup>の一覧には要素として ?xml が掲載されていた。



**@a** 平成 9 (1997) 年 3 月付で発表された論文で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> [電子添削]



(59) IE4 DOM Internet Explorer 4.0 で実装された DOM API。初めて JavaScript から文書のすべての構成要素にアクセスできるようになった。現在も各種要素オブジェクトや document.all など多くの機能が使われ続けている。

(60) XML宣言 XML declaration XML 文書の先頭に書ける構文。<?xml で始まり ?> で終わる。文書途中に書ける処理指令の構文とほぼ同じだが、区別される。XML(5)の版などを記述できる。

(61) iモード対応XHTML i-XHTML i モード(62)用 HTML 仕様の系列の 1 つ。i モード対応 HTML(34)を XHTML(201)風構文にしたもの。

(62) iモード i-mode NTT ドコモのガラケー(63)向けインターネット接続サービス。端末に搭載された独自の Web ブラウザーにより、独自の Web サービスおよび一般的の Web サイトを閲覧できた。

(63) ガラケー ガラパゴス携帯 日本市場向けフィーチャーフォン(64)の通称。

(64) フィーチャーフォン feature phone スマートフォンに対して、旧来の携帯電話。

(65) W3C(185)に提案予定とあるが、実行されたか不明。

**@d** 平成 9 (1997) 年 3 月付で発表された論文で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> [電子添削]

→ @a, @r, correct, del, edit, ins, s



\*

**@r** 平成 9 (1997) 年 3 月付で発表された論文で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> [電子添削]

→ @a, @d, correct, del, edit, ins, s



**a** 1990 (平成 2) 年 8 月 20 日頃に作られたと思われる HTML 例文に a (href 属性), p, title がある。[SW:HTML1991]



2005 (平成17) 年 4 月 12 日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> に a が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

2005 (平成17) 年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup> のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第 5 位が a だった。[WAStats:P&E]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6

HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0

1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001 (H13) Core Modules • Hypertext Module 必須

XHTMLBasic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18) XHTML1.1 2001 (H13)

XHTML2 2010 (H22) XHTML Hypertext Module HTML5 2009 (H21) 適合

HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Formatting

借用先 BML(84), CMMML(116), DNML(406), DTBook(197), ENML(210), HDML(275), LeXML(296), NITF(340), ODF(381), ReSpec(172), SMIL(256), SVG(400), TNF(398), WML(141), XMLspec(173)

文献 [EARLYHTML] [ProtoHTML]

→ \*, ae, anchor, area, as, author, description, external-body, ftploc, last-modified, link, nameloc, neighbor, url, urlloc, xref

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

(66) Google検索 Google Search Google 社の検索エンジン。高性能な検索結果と単純で使いやすい画面構成で、登場後瞬く間に普及した。HTML5(191)の開発当時 Google に在籍していた Ian Hickson(291)は、世界中の Web ページを収集し続ける Google 検索のデータベースを活用して HTML の実態を調査した。[WAStats:P&E]

**abbr** 1997(平成9)年11月7日、『HTML 4.0』の  
acronymはabbrに改称された。<sup>[HTML4-19971107:text]</sup>



2005(平成17)年1月26日、Tantek Çelik<sup>(67)</sup>は、かねてから議論されていた日時の記述について、abbrを用いる手法を考案した。『HTML5』<sup>(191)</sup>にtimeが追加されるまでmicroformats<sup>(69)</sup>のデザインパターンの1つとして活用された。<sup>[ABBRPattern] [DatesSolved]</sup>

2005(平成17)年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にabbr, dfnが追加された。現行仕様に近いが違いもある。<sup>[SW:WA1]</sup>

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal Module XHTML\_Basic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18) XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Text Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), LeXML(296), ReSpec(172)

**abbrev** 1993(平成5)年10月28日版  
『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。<sup>[HTML+19931028]</sup>



1994(平成6)年11月30日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>にある。<sup>[HTML3-19941130]</sup>

1995(平成7)年3月1日版 『HTML 3.0』 DTD にあ

---

(67) Tantek Çelik MacIE<sup>(68)</sup>の開発者として、後にMozilla<sup>(177)</sup>プロジェクトの幹部として、Web標準化に寄与している。CSS hack, microformats<sup>(69)</sup>, IndieWebなどを提唱しコミュニティーを率いている。

(68) IE:mac MacIE Classic Mac OS版Internet Explorer<sup>(281)</sup>の通称。レンダリングエンジン<sup>(179)</sup>はTasmanと呼ばれた。WinIE<sup>(282)</sup>と異なり当時としてはWeb標準への適合性が高く、Web開発者らには好まれた。

(69) microformats HTMLを利用したデータ記述の方式を定めた一連の仕様群と、その方法論やコミュニティーの総称。平成時代中期頃、HTMLの開発が凍結されて新機能追加は期待できず、Semantic Web<sup>(71)</sup>はHTMLと切り離されてWebサイトでの利用に難があるという状況で、既存のHTML要素やclass属性を活用したより高度な情報の記述手法がTantek Çelik<sup>(67)</sup>らにより模索された。Web標準に関心がある人々や同時期に勃興しつつあったブログシステムなどでしばしば使われた。方法論は『HTML5』<sup>(191)</sup>の開発に、技術面はマイクロデータに大きな影響を与えた。

る。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は少なくとも構文解析において `abbrev` を実装していた。  
[E/W3:Parse]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
→ `abbrev`

**about** 1996 (平成8) 年 11 月 13 日や 1997 (平成9) 年 1 月 28 日の W3C<sup>(185)</sup>の文書で、 `about` が検討されていた。他の資源同士のリンクを記述する。  
[DescLinkRes]  
[StyleLink] 後に RDF<sup>(70)</sup>に発展したものと思われる。



→ `resource`

**aboutbox** HTML TADS<sup>(387)</sup> に `aboutbox` がある。ソフトウェアについての情報ダイアログの内容を表す。  
[HTMLTADS:Deviations]



**above** 1994 (平成6) 年 11 月 30 日 版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19941130]



1995 (平成7) 年 3 月 1 日版 『HTML 3.0』 DTD にある。  
[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**abbrev** 低品質の解説等で `abbrev` を `abbrev` と紹介したものがいくつもある。そのうちのいくつかは内容に類似性があり、共通の情報源に由来する可能性がある。  
HTML 3.0<sup>(105)</sup> 時代のものゆえ現存数は少ないが、かつては現在知ら




---

(70) RDF Resource Description Framework。Semantic Web<sup>(71)</sup>の中核となるデータモデルと構文。  
[RDF] HTML との統合を目指して GRDDL, RDFa など様々な提案があった。

(71) Semantic Web 21世紀初頭に W3C<sup>(185)</sup>が提唱、推進していた新世代の Web の技術群とその思想・体系。RDF<sup>(70)</sup>, OWL などで構成される。おぼろげな概念のみは一世を風靡したが、従来の Web とかけ離れた技術と思想が理解され広まることはなかった。後に Linked Data に発展した。

れている以外にも同様の解説等が存在していた可能性がある。  
[SW:abrev]

**abs** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**abstract** 1985（昭和60）年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。  
[DCFGML3e]



1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。  
[SGMLguid]

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に**abstract**がある。文書の概要を示す。  
[HTML+19931028]

1995（平成7）年時点で、html-helper-mode<sup>(74)</sup>が実装していた。  
[HHMKeybindings]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5

→ `ompe.abstract`

**access** 2005（平成17）年5月27日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に**access**が追加された。  
[XHTML2-20050527]  
XHTML 2.0 の一部として作られたが、後に単独の仕様書としても発行された。名前空間は紆余曲折を経て最終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。現在の**accesskey**属性に当たる。



XHTML2 2010 (H22) XHTML Access Module

---

(72) HTML+ 初期のHTML仕様書の1つ。実装済み機能中心の『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>の系統と並行して開発され、未実装の新機能を積極的に取り入れた。後に『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>に発展した。1993（平成5）年4月頃に開発が開始されたが、1993（平成5）年7月13日版DTD<sup>(194)</sup>が現存最古。  
[SW:HTML+] 本書では1993（平成5）年7月13日版DTD、1993（平成5）年11月8日版仕様書本文、1994（平成6）年4月5日版DTD<sup>(73)</sup>に含まれるかを示した。  
[HTML+19930713] [HTML+19931108] [HTML+19940405] 1994（平成6）年4月5日版DTDにはCore（中核）とそれ以外の区別があり、前者に含まれれば「Core」と示した。

(73) 時期が明確なHTML+(72)の版の最新。

(74) html-helper-mode Emacs用HTML編集ソフトウェアの1つ。

**acronym** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版  
 『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。[HTML+19931028]



1994 (平成6) 年 11 月 30 日 版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>  
 DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]

1995 (平成7) 年 3 月 1 日 版 『HTML 3.0』 DTD に あ  
 る。[HTML3-19950301]

1997 (平成9) 年 7 月 8 日、『HTML 4.0』に **acronym** が追加され  
 た。[HTML4-19970708:text]

1997 (平成9) 年 11 月 7 日、『HTML 4.0』の **acronym** は **abbr**  
 に改称された。[HTML4-19971107:text]

1997 (平成9) 年 12 月 18 日、『HTML 4.0』に **acronym** が追加さ  
 れた。[HTML4-19971218:text]

2006 (平成18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、  
 廃止と明記された。[HTMLr358]

2009 (平成21) 年 7 月 31 日、『HTML5』で **acronym** の処理が規  
 定された。[HTMLr3502]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準  
 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset  
XHTML\_m12n 2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline  
 Phrasal Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard Ordinary  
 借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), ReSpec(172)

**action** 1998 (平成10) 年 10 月 1 日の xHTML<sup>(75)</sup>仕  
 様案に **event**, **action**, **noaction** がある。イベントハン  
 ドラーを記述できる。[ModBroadcast]



2000 (平成12) 年 8 月 28 日、『XHTML Events』<sup>(76)</sup>に **onevent**,  
 (75) xHTML DASE (Digital Television Application Software Environment) 仕様案が定義していた HTML 用 XML DTD モジュール群。w3HTML (World Wide Web HTML), bHTML (Broadcast HTML), cHTML (Compact HTML(31)) の 3 つのプロファイルが定義されていた。 XHTML(201) とは異なる。

(76) 『XHTML Events』『XHTML Events Module』後に『XML Events』となる  
 仕様書だが、内容には違いが多い。

`action, stopevent` が追加された。イベントハンドラーを表す。[\[XHTMLEv20000828\]](#) WML1<sup>(141)</sup>の `onevent` と関係するかも知れないが、互換性はない。

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は『XML Events 2』<sup>(206)</sup>の XML Handlers を HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。イベントハンドラーを記述する。[\[SW:XHTML2\]](#)

2011(平成23)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `action` がある。ページめぐり操作の挙動を表す。[\[交換規格\]](#)

XHTML2 2010(H22) XForms Module XML Handlers Module

**add** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[\[HTMLasPL\]](#)



**added** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に `added` がある。[\[HTML+19931028\]](#) 現在の `ins` に当たる。



HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5

→ changed

**addEventListener** 2009(平成21)年、  
『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は『XML Events 2』<sup>(206)</sup>の XML  
Handlers を HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。  
イベントハンドラーを記述する。[\[SW:XHTML2\]](#)



XHTML2 2010(H22) XML Handlers Module

**address** 1985(昭和60)年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実  
装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から  
GMLで使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



(77) GML Generalized Markup Language IBM の Charles F. Goldfarb によって開発されたマーク付け言語<sup>(186)</sup>。後に SGML<sup>(78)</sup>に発展した。

(78) SGML Standard Generalized Markup Language。マーク付け言語<sup>(186)</sup>の一つ。[\[ISO8879\]](#) これ自体はそのまま利用できる言語ではなく、適用対象ごとの文書型を作成し、それに従い文書を作成する。20世紀の後期に ISO/IEC 国際標準となり、電子文書の標準的で正統的な記述方法と認識されていた。初期の HTML が SGML 応用として仕様化されたのはそうした環境による。他にも多くの SGML 応用が作られた。

1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。  
[ISO8879]

1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。  
[SGMLguid]

1991（平成3）年1月31日付ファイルにaddressがあるのが現存最古の用例である。  
[SW:HTML1991]

1991（平成3）年2月1日、WorldWideWeb<sup>(40)</sup> Version 0.5 がaddressを実装した。  
[WWWHistory]

1991（平成3）年3月5日、Line Mode Browser<sup>(83)</sup>がaddressを実装した。  
[LMHistory]

1992（平成4）年6月6日版 HTML DTD に address がある。  
[HTML19920606]

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、address, byline がある。どちらも同義で、addressは後方互換性のためとされる。  
[HTML+19931028]

2004（平成16）年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>でaddressの明確化が必要な旨の注釈が含まれていた。  
[WA1-20041208]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream  
HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)  
HTML2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

(79) ISO 8879:1986 E.1 ISO 8879 : 1986 附属書E(参考)にはSGML<sup>(78)</sup>の利用例が示されている。そのうちE.1には、ISO TR 9573と同じDTD<sup>(194)</sup>が掲載されている。CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>はこれを参考に設計された。

(80) CERN SGMLguid CERN<sup>(81)</sup>でマニュアル等の記述に使われていたSGML応用。HTMLの直接の祖先に当たる。

(81) CERN 欧州原子核研究機構。スイスにある物理学研究所。1990年代初頭にTim Berners-Lee<sup>(82)</sup>が在籍し、ハイパーテキストシステムの研究開発に取り組んでいた。

(82) Tim Berners-Lee TBL WWWの考案者。HTML, HTTP, URLなどを考案し初期の標準化を主導した。W3C<sup>(185)</sup>を設立し、長年代表職を務めていた。

(83) Line Mode Browser 最初期のWebブラウザの1つ。当時の多くの環境で動作し、Webページを閲覧できた。普及した最初のWebブラウザとされる。

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
 2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Block Phrasal  
 Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Structural Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
 借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)

→ `author, credit, footer, header, sig`



**adview** 2013 (平成25) 年 3 月、 Chromium<sup>(85)</sup> は  
 Chrome アプリ<sup>(87)</sup>用に **adview** の実装を開始したが、 未  
 完成に終わった。広告のためにプロセスを分離したフレー  
 ムを提供するものだった。 [Ch40965759]



**ae** 1994 (平成 6) 年 4 月 9 日頃の HTML DTD の注  
 釈<sup>(16)</sup>に、 **as, ae** を使ったアイデアが記載されていた。 **a**  
 のままでは望ましい内容モデル<sup>(88)</sup>を SGML DTD で記述で  
 きなかったため、 開始タグと終了タグを **as, ae** に置き換えるのがい  
 い方法なのだとという。 [HTML19940409]



**agroup** 1997 (平成 9) 年 4 月 発表の **displets**<sup>(199)</sup> 機  
 能案の実例として **agroup** が使われた。一対多リンクを表  
 す。 [DISPLAYS1997]



**alert** 2009 (平成21) 年、 『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
 XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
 した。



XHTML2 2010 (H22)

(84) BML Broadcast Markup Language。 XHTML1 の一部に独自の機能を追加した XML 応用。日本のデジタルテレビ放送で使われている。[BML]

(85) Chromium Google のオープンソース Web ブラウザ。 Chrome(86)の開発版に当たる。

(86) Google Chrome Google 社の Web ブラウザ。 Android に標準搭載されるなど、非常に広く用いられている。

(87) Chromeアプリ Chrome Apps Chrome(86)を使ったプラットフォームの名称。また、それによるアプリケーションプログラム。

(88) 内容モデル content model 要素の内容が満たすべき条件。

**alias** 1995(平成7)年12月1日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`insert`, `param`, `alias`がある。1995(平成7)年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』に、`insert`, `param`, `alias`がある。`img`, Microsoft の `dynsrc` 属性, Netscape の `embed`, Sun Microsystems の `app`, `applet`を統一、拡張するものと銘打っていた。[HTML3LE19951220]



A

1996(平成8)年2月26日版<sup>(90)</sup>では `insert` は `object` に改称され、`alias` は `object`, `param` に統合されたが、編集が不完全で `alias` も一部残っている。[HTML3LE19960226]

**alt** 2000(平成12)年1月11日の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>仕様案に `alt` が含まれていた。<sup>(91)</sup>現在の `alt` 属性に当たる。この当時の名前空間名<sup>(167)</sup>は模索中だったらしく、HTML 名前空間<sup>(166)</sup>だったり新規 URL だったりで一定しない。また、体制を変更して作り直された 2000(平成12)年7月時点の XHTML 2.0 DTD<sup>(194)</sup>案には `alt` は含まれていない。[SW:XHTML2]



2000(平成12)年10月20日の『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>DTDに Provisional XHTML 2.0 Qualified Names として `alt` が含まれていた。すなわち将来の XHTML 2.0 を想定した要素名の定義が含まれ

---

(89) 『HTML3 Linking and Embedding Model』HTML3 世代の仕様書の1つ。[HTML3LE19951220] [HTML3LE19960226] 後に HTML4(394)に発展した。

(90) 1996(平成8)年1月24日版 DTD(194)ではまだ `insert` だった。

(91) 当時の W3C HTML WG(312)の議事は非公開で、仕様案も未公開だった。この時期の仕様案は平成時代の後半に入った頃に公開されたが、現存しない。

(92) 『Modularization of XHTML』『XHTML Modularization』『XHTML m12n』HTML をモジュールと呼ばれる機能群に分割し XML DTD などの形にしたもの。2001(平成13)年4月10日に W3C 勧告(395)となり、以後何度か小改訂された。[M12N20010410] [M12N20081008] [M12N20100715] W3C 勧告となって以後のどの版も要素は同じだが、細かな違いは多い。[KINDER] [SW:XHTMLm12n] 本書では要素が所属するモジュールを示した。モジュールによっては必須、非推奨、例示の区分があるので、あわせて示した。『XHTML 1.1』(368), 『XHTML Basic』(247), 『XHTML+MathML+SVG』[XMS], 各種業界団体の XHTML(201)プロファイルなどがモジュールを使う形で定義されている。SVG 1.1, MathML2 などが『XHTML m12n』に倣ったモジュール構成を採用した。

ていたが、何の説明もされなかった。<sup>(93)</sup> [M12N20001020] 『XHTML m12n』の以降の版にもそのまま引き継がれている<sup>(94)</sup>。

A **XHTML\_m12n** 2001 (H13) xhtml-image-2.mod

→ figd, image

**altGlyph** SVG 1.1, HTML構文解析器

**altGlyphDef** SVG 1.1, HTML構文解析器

**altGlyphItem** SVG 1.1, HTML構文解析器



**anchor** 1990（平成2）年頃と推測される現存最古の HTML の仕様書の `link` の項に <ANCHOR> への言及がある。この仕様書には `a` の規定はあるが、 `anchor` はない。明らかに `a` を指すが、実文書の用例も実装も古くから `a` であり、他に `anchor` としたものではなく、真意は定かではない。<sup>[ProtoHTML]</sup> [SW:HTML1991]

**and** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**and-bits** 2018 (平成30) 年 の HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup> にある。<sup>[HTMLasPL]</sup>



**anim** 1995（平成7）年頃の情報によると、Netscape Navigator<sup>(329)</sup> は版によっては `about:jwz`<sup>(96)</sup> でアドレスバー横のロゴ<sup>(98)</sup>が変化した。イースターエッグのようなも



(93) 『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>、『XHTML 1.1』<sup>(368)</sup>、初期版『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>が一體的に開発された名残りであることが、後に公開された当時のファイル群から判明した。[SW:XHTML2]

(94) `alt` を含まない『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>仕様書が公表された後も残り続けた。

(95) HTML-as-programming-language HTML 風の独自構文のコンパイル型プログラミング言語。Hyper Text MACHINE Language とも称する。HTML に似ている (looks like) とされており、将来完全に HTML に基づき (fully 100% HTML-based in the future) たいと説明がある。<sup>[HTMLasPL]</sup>

(96) `about:jwz` Netscape Navigator<sup>(329)</sup>で開くと Jamie Zawinski<sup>(97)</sup>の Web ページが表示される URL。Netscape Navigator にはこのような `about:` URL が多数実装されていた。

(97) Jamie Zawinski Netscape Navigator<sup>(329)</sup>の開発者の1人。

(98) 当時の Web ブラウザの多くはアドレスバー横にロゴを表示し、Web ページ読み込み中にアニメーションさせていた。

のだろう。この Web ページには意味深なコメントとともに `anim` 開始タグが書かれていた。<sup>[SW:anim]</sup>

これを見つけた人々は `anim` がロゴのアニメーションを制御していると推測したが、その用法は判明しなかった。更に追求した人々によると、`anim` タグは見せかけだけのダミーに過ぎず、実は特定の URL の Web ページでだけアニメーションが変化するのだという。<sup>[SW:anim]</sup>

2011（平成23）年、Jamie Zawinski<sup>(97)</sup>が回想でその真相を説明している。<sup>[AboutJWZMoz]</sup>

→ `animate`

**animate** 1995（平成7）年 時点で IBM WebExplorer<sup>(99)</sup>は、`animate`, `frame` を実装していた。アドレスバー横のロゴ<sup>(98)</sup>を独自のアニメーションに設定するものだった。<sup>[SW:animate]</sup>



1996（平成8）年9月13日付の HotJava<sup>(101)</sup>用 DTD<sup>(194)</sup>に `animate` がある。情報がほとんどなく用法は不明。IBM のものとは無関係と思われる。<sup>[HJDTD]</sup>

→ `anim`

**SVG** 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**animateColor** SVG 1.1, Tiny 1.2, HTML構文解析器

**animateMotion** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**animateTransform** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**animation** SVG Tiny 1.2

**annotation** MathML 3.0, 4.0 Core

**annotation-xml** MathML 3.0, 4.0 Core, HTML構文解析器

---

(99) IBM WebExplorer IBM の Web ブラウザー。OS/2(100)で動作した。

(100) OS/2 IBM の OS の 1つ。DOS の後継として開発され、Windows NT とは生き別れの兄弟に当たる。

**any** 平成 9 (1997) 年 3 月 21 日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S 式を記述する。



**app** 1995 (平成 7) 年頃、Java 1.0α3 の頃の HotJava<sup>(101)</sup>は、app を実装した。<sup>[SW:app]</sup>



1995 (平成 7) 年 5 月頃、Sun Microsystems Inc. は applet, param, data 仕様案を公表した。それまで app の HTML 仕様への追加提案を準備していたが、SGML DTD で記述できないため改めたのだという。<sup>[AppletProposalTerry]</sup>

→ alias, embed, insert, nohotjava, object

**applet** 1995 (平成 7) 年 5 月頃、Sun Microsystems Inc. は applet, param, data 仕様案を公表した。それまで app の HTML 仕様への追加提案を準備していたが、SGML DTD で記述できないため改めたのだという。<sup>[AppletProposalTerry]</sup>



1995 (平成 7) 年頃、Java 1.0β の HotJava<sup>(101)</sup>は、applet, param を実装した。<sup>[SW:applet]</sup>

Netscape Navigator 2.0 は applet を実装した。その後他の Web ブラウザーも追随した。Java アプレット<sup>(102)</sup>を埋め込むもので、一時はかなり多くの Web サイトで利用されていた。

2006 (平成 18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。<sup>[HTMLr358]</sup>

2017 (平成 29) 年 8 月 21 日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>は applet の Java アプレット実行に関する規定を削除した。今は構文解析器や DOM に関する規定が残るのみである。<sup>[HTMLRemoveApplet]</sup>

HTML 3.2 1997 (H9) HTML4 1997 (H9) Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000 (H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001 (H13)  
Core Modules • Applet Module 非推奨 HTML5 2009 (H21) 廃止

(101) HotJava Sun Microsystems の Web ブラウザー。それ自体が Java で実装されている。また、Web ページ内の Java アプレット<sup>(102)</sup>を実行できる。

(102) Java アプレット Java applet Java プログラムの一種。

HTML Standard HTML構文解析器 / Special

→ alias, embed, include, insert, nohotjava, object

apply MathML 3.0 Content, 4.0 Content

approx MathML 3.0 Content, 4.0 Content

appview 2014 (平成26) 年、 Chromium<sup>(85)</sup> は appview を実装した。 webview と似ているが、 Chrome アプリ<sup>(87)</sup>を埋め込む。 [Ch41101890]



→ iframe

arc 1997 (平成9) 年 4月 発表の displets<sup>(199)</sup>機能案 の実例として graph, node, arc が使われた。グラフ (graph) を表す。 [DISPLETS1997]



arccos MathML 3.0 Content

arccosh MathML 3.0 Content

arccot MathML 3.0 Content

arccoth MathML 3.0 Content

arccsc MathML 3.0 Content

arccsch MathML 3.0 Content

arcsec MathML 3.0 Content

arcsech MathML 3.0 Content

arcsin MathML 3.0 Content

arcsinh MathML 3.0 Content

arctan MathML 3.0 Content

arctanh MathML 3.0 Content

area 1994 (平成6) 年 10 月 の WWW '94<sup>(103)</sup>で、 Spyglass, Inc.<sup>(304)</sup>の James L. Seidman は、 クライアント側画像写像<sup>(306)</sup>の仕様案を発表した。 map, area がある。 [CSIM] 現行仕様である。




---

(103) WWW '94 Second World Wide Web Conference '94 1994 (平成6) 年 10月 17日から 1994 (平成6) 年 10月 20日まで開催された国際会議。

1995(平成7)年頃のNetscape Navigator 2.0は、クライアント側画像写像を実装した。<sup>[NSHTML3]</sup>

A 1996(平成8)年8月、Spyglassの論文とほぼ同じものがRFC 1980として発行された。<sup>[RFC1980]</sup>

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104) [WA1-20050901]</sup>

2006(平成18)年11月1日、『Web Applications 1.0』に、`iframe`, `embed`, `object`, `param`, `map`, `area`が追加された。現行仕様である。<sup>[HTMLr236] [HTMLr238] [HTMLr240]</sup>

現行の要素である。

HTML 3.2 1997(H9) HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997(H9); 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001(H13) Client-side Image Map Module XHTML\_1.1 2001(H13)  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DjVu XML(251), ENML(210)

→ `a`, `figa`

**arg** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に  
ある。<sup>[HTML+19931028]</sup>



1995(平成7)年時点で、`html-helper-mode`<sup>(74)</sup>が実装していた。<sup>[HHMKeybindings]</sup>

HTML+ 1993(H5)/11/8; 1994(H6)/4/5

MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**args** 1996(平成8)年6月21日、HTTP キャッシュの制御のため `dynamic`, `template`, `args`, `variable` が提案された。<sup>[HTTPDelta] [HTTPDeltaOld]</sup>



**arrow** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。<sup>[HTML3-19941130]</sup>



1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

---

(104) 2004(平成16)年12月8日より後に追加されたものである。

1995(平成7)年3月13日、『HTML 3.0』DTD の `arrow` が `row` に変更されたとみられる。[HTML3-19950324]

**array** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup> の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、`math`, `box`, `over` がある。本文に `array`, `item` がある。例文に `rd` がある。本文で `sub`, `sup` が `math` 内でも使えるとされている。[HTML+19931028]



1994(平成6)年1月5日版『HTML+』DTD に、`math`, `over`, `box`, `root`, `array`, `item` がある。[HTML+19940105]

1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD にある。[HTML3-19941130]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTD にある。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

**article** 2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> の文書ソース注釈に、`entry`, `post`, `article` の構想がある。[WA1-20040923]



2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』に `article` がある。現行仕様である。[WA1-20041208]

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

(105) 『HTML 3.0』HTML3 世代の仕様書の1つ。HTML+(72)を引き継ぎ、次世代の HTML として 1994(平成6)年から 1995(平成7)年にかけて開発が進められた。その後、機能ごとに分割した仕様書群として仕切り直されることになった。また、それらとは無関係に、あらゆる新機能は俗に HTML 3.0 といわれた。本書では、1995(平成7)年3月28日頃と推測される仕様書本文と、それに付属する 1995(平成7)年3月24日版 DTD<sup>(194)</sup>に含まれるか否かを示した。[HTML3-19950324] [HTML3-19950328] [SW:HTML3.0] 仕様書本文と DTD には不整合もあった。また、仕様書本文で言及されただけの要素がいくつかあり、「言及のみ」と示した。

(106) Emacs/W3 Emacs で動作する Web ブラウザ。平成時代初期に利用されていた。

→ comment

A

**as** 1994(平成6)年4月9日頃のHTML DTDの注釈<sup>(16)</sup>に、**as**, **ae**を使ったアイデアが記載されていた。**a**のままでは望ましい内容モデル<sup>(88)</sup>をSGML DTDで記述できなかったため、開始タグと終了タグを**as**, **ae**に置き換えるのがいい方法なのだという。[HTML19940409]



**aside** 2005(平成17)年4月4日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の**sidebar**は**aside**に改称された。現行仕様である。[SW:WA1]



現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ note, warning

**assembly** 2018(平成30)年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**assign** 2018(平成30)年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**atop** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]



1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において**math**と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995(H7)/3/24

**attr** 1997(平成9)年4月のWWW6<sup>(107)</sup>でdisplets<sup>(199)</sup>が提案された。**tag**, **attr**を使って独自の要素や属性を定義できる。HotJava<sup>(101)</sup>を基に実装実験され



(107) Sixth International World Wide Web Conference WWW6 1997  
(平成9)年4月に開催された国際会議。

ていた。[DISPLETS1997]

→ attrib, entity

**attrib** 1996（平成8）年11月16日付のHTML Pro<sup>(431)</sup>のDTD<sup>(194)</sup>に、comment, entity, attrib, elementがある。既存のcomment, entityを流用しattrib, elementを追加してSGML<sup>(78)</sup>の要素名等の記述に用いることとしたものである。elementはその説明文書自体の記述に使われている。attrib, entityも同様に名前を記述すると推測されるが、commentの用法は定かではない。[HTMLPro]

→ attr

**Attribution** 2011（平成23）年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>がHTML.next<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にある。[HTML.next]

**au** 1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]

1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析においてau, personを実装していた。[E/W3:Parse]

HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

→ name

**audio** 1995（平成7）年頃、Vosaic<sup>(408)</sup>は、audio, videoを実装した。1995（平成7）年12月13日のWWW4<sup>(109)</sup>で発表された。[VOSAIC] 現行仕様とは異なる。

2007（平成19）年3月21日、Appleはvideo, audioの仕様案をWHATWG<sup>(414)</sup>に提案した。[AppleTimed]

(108) HTML.next W3C(185) HTML WGが『HTML 5.0』<sup>(191)</sup>の次の版として仮称していたもの。

(109) Fourth International World Wide Web Conference WWW4 1995（平成7）年12月に開催された国際会議。



2007(平成19)年3月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は `audio`, `source` を追加した。<sup>(110)</sup>現行仕様である。[HTMLr687] [HTMLr689]

A

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 LeXML(296)

→ `bgsound`, `include`, `sound`, `tts`

SVG Tiny 1.2

**audioscope** 2000(平成12)年時点で WebTV<sup>(124)</sup>



は `audioscope` を実装していた。 `audioscope`、つまり  
再生中の音の振幅を図示して表示する。<sup>(111)</sup>  
[WebTV:AUDIOSCOPE]

**authform** 1999(平成11)年2月3日に Agranat Systems, Inc. と Microsoft Corporation が W3C<sup>(185)</sup>に提出した仕様案に、`authform`がある。認証フォームを表す。  
[AUTHFORM]



**author** 1985(昭和60)年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990(平成2)年8月20日頃に作られたと思われる HTML 例文に `author` がある。[SW:HTML1991]

1994(平成6)年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われて

(110) 『HTML5』<sup>(191)</sup>はこれ以前から `Audio` インターフェイスを規定しており、Opera<sup>(409)</sup>が実装していた。追加された `audio` と統合された。

(111) 音を再生する機能はなく他の要素による。

(112) 2023(令和5)年に Dan Connolly<sup>(170)</sup>が公開した `develop.tar.gz` 内の `web/drafts/reliable-links.sgml` (1994(平成6)年5月12日付)。[HTML2RCS]

いる。[ReliableLink]

『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で書誌情報の記述に使われている。[SW:pg\*]

平成 19 (2007) 年 1 月 23 日時点できつて `author`, `editor`, `isbn`, `emph`, `opt`, `pub` が提案または利用された事例があったと記録されているが、詳細不明。[SW:pub]

→ `a`, `address`, `name`

**available** 1990 (平成 2) 年頃と推測される現存最



古の HTML の仕様書に `available` があった。説明がなく用法は不明。[SW:HTML1991]

**axpart** 1998 (平成 10) 年 4 月発表の `displets`<sup>(199)</sup> 機



能案の実例として Z 記法用の SGML DTD の語彙が使われた。HTML と混在させて用いることができた。[DISPLETS1998]

**b** 1988 (昭和 63) 年 5 月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に



`@code`, `@samp`, `@kbd`, `@key`, `@file`, `@dfn`, `@var`, `@cite`, `@emph`, `@strong`, `@b`, `@i` がある。[TEXINFO11]

1993 (平成 5) 年 1 月 6 日、HTML に `code`, `samp`, `kbd`, `key`, `dfn`, `var`, `cite`, `em`, `tt`, `strong`, `b`, `i`, `u` が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993 (平成 5) 年 10 月 28 日版 『HTML+』<sup>(72)</sup> にある。[HTML+19931028]

1995 (平成 7) 年 3 月 1 日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> にある。[HTML3-19950301]

(113) 1993 (平成 5) 年 1 月 6 日版 HTML 仕様書の本文は現存が確認されていない。案内メールによって `em`, `samp`, `code` の追加が知られる。[HTML19930106:Dan] 同じ日付の HTML DTD が現存し他の要素の追加も確認できる。[SW:語句化内容]

(114) 追加要素のうち `em`, `tt` は GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に同名の命令がなく、`@emph`, `@t` がある。L<sup>T</sup>E<sub>X</sub><sup>(232)</sup> に `\em`, `\tt` がある。`u` は GNU Texinfo にも L<sup>T</sup>E<sub>X</sub> にもなく出所が不明である。[SW:語句化内容]

1995(平成7)年3月5日、『HTML 3.0』DTDで`term`が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`, `hat`, `tilde`, `t`, `bt`が追加された。`b`も使えるとされている。[HTML3-19950324]

B

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において`math`と数式用各要素を実装していた。

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第15位が`b`だった。[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

2006(平成18)年12月22日、『HTML5』は`i`, `b`, `div`を追加した。`i`, `b`は新たな意味で再定義された。現行仕様である。[HTMLr456]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra  
HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)  
HTML 2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Text Extension Modules • Presentation Module • XHTML Inline  
Presentational Module XHTML\_Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13)  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Formatting  
借用先 BML(84), ENML(210), HDML(275), LeXML(296), markup (Unity)(276),  
WebVTT(277), WML1(141), 朝刊太郎改(115)

**b1** 1997(平成9)年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案に`b1`, `b2`, `b3`, `b4`, `b5`, `b6`がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[ISOHTML19970327] 

ISO-HTML 1997 (H9)

→`bn`

---

(115) 朝刊太郎改 新聞紙面作成用 DTD(194)ソフトウェアの1つ。「htmlに似たタグ」を使うと説明されているが、似ているのは雰囲気だけで、異なるところの方が多い。[朝刊太郎タグ]

**b2** 1997（平成9）年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案にb1, b2, b3, b4, b5, b6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[\[ISOHTML19970327\]](#)



ISO-HTML 1997 (H9)

**b3** 1997（平成9）年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案にb1, b2, b3, b4, b5, b6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[\[ISOHTML19970327\]](#)



ISO-HTML 1997 (H9)

**b4** 1997（平成9）年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案にb1, b2, b3, b4, b5, b6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[\[ISOHTML19970327\]](#)



ISO-HTML 1997 (H9)

**b5** 1997（平成9）年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案にb1, b2, b3, b4, b5, b6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[\[ISOHTML19970327\]](#)



ISO-HTML 1997 (H9)

**b6** 1997（平成9）年3月27日のISO-HTML<sup>(207)</sup>DTD<sup>(194)</sup>案にb1, b2, b3, b4, b5, b6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[\[ISOHTML19970327\]](#)



ISO-HTML 1997 (H9)

**banner** 1995（平成7）年3月21日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にdivから分離してbannerが追加された。[\[HTML3-19950324\]](#)



1997（平成9）年4月のLynx<sup>(335)</sup>2.7.1は、bannerを実装していた。[\[Lynx2.7.1\]](#)

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
借用先 NITF<sup>(340)</sup>

**bar** 1995(平成7)年3月5日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>で `term` が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`, `hat`, `tilde`, `t`, `bt` が追加された。`b` も使えるとされている。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

**base** 1993(平成5)年3月10日版と思われるHTMLの本文およびDTD<sup>(194)</sup>に `base` がある。[HTML199303] これ以前の遠くない時期に `savedas` を改称したものだった。[HTML199303]



2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。[WA1-20050901]

2007(平成19)年4月30日の Ian Hickson<sup>(291)</sup>のIRC発言によるところ、Google検索<sup>(66)</sup>の収集したデータ中、5%のWebサイトが `base` を使っていた。[whatwg20070501]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 言及のみ HTML1 1993(H5)/6 Mainstream

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9)

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Base Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTMLPrint 2006(H18)

XHTML1.1 2001(H13) HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML<sup>(84)</sup>, CMM<sup>(116)</sup>, DjVu XML<sup>(251)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ROE XML<sup>(254)</sup>

文献 [BASE起源]

**basefont** 1994(平成6)年頃のNetscape Navigator 1が `font`, `basefont` を実装した。1994(平成6)年10月14日時点では既に実装・公開済みだったと




---

(116) CMM<sup>L</sup> Continuous Media Markup Language。媒体を記述するXML応用。[CMM<sup>L</sup>]

推測される。[SW:center] [NNExts]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

2009(平成21)年2月11日、『HTML5』から **basefont** の実装の規定が削除された。[HTMLr2778] 今は構文解析器、利用者エージェントスタイルシート<sup>(117)</sup>、DOM関連の規定に痕跡が残る。

HTML 3.2 1997(H9) HTML4 1997 Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001(H13)  
 Legacy Module 非推奨 HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special

→ **fontbase**

**bb** 2008(平成20)年7月22日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に **bb** が追加された。Webブラウザの機能を呼び出すボタンを表すものだった。[HTMLr1894]



2009(平成21)年9月14日、『HTML5』から **bb** が削除された。[HTMLr3621]

→ **button, device**

**bdi** 2010(平成22)年11月4日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に **bdi** が追加された。[HTMLr5669] 現行仕様である。



現行の要素である。

HTML Standard 適合 / Ordinary

→ **bdo**

**bdo** 1995(平成7)年9月25日、HTML 2.1<sup>(118)</sup>から **bidi** が削除され、**bdo** が追加された。[HTML21]



2005(平成17)年4月15日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、**bdo, ins, del** が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997 Strict / Transitional / Frameset

(117) 利用者エージェントスタイルシート user agent style sheet Webブラウザに組み込まれたスタイルシート。

(118) HTML 2.1 HTML 2.x<sup>(122)</sup>が一時 HTML 2.1と称していた。

ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001 (H13) Text Extension Modules • Bi-directional Text Module

XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合

HTML Standard 適合 / Ordinary

B 借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)

→ bdi, span



**beit** エチオピア暦 2010 年 第 2 月 23 日

(平成 29 (2017) 年 11 月 2 日)、 Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup> の

Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup> に ዘማ<sup>(160)</sup> (Zaima)

の記述のための要素群を提案した。 [ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]

**below** 1994 (平成 6) 年 11 月 30 日 版

『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> にある。 [HTML3-19941130]



1995 (平成 7) 年 3 月 1 日 版 『HTML 3.0』 DTD にあ

る。 [HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において math と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28



**bgsound** 1995 (平成 7) 年に公開された Internet

Explorer 2.0 は、 bgsound を実装した。 同時期、

Mosaic が実装した。その後、いくつかの Web ブラウ

ザーが実装した。現在の audio に当たる。

Netscape Navigator<sup>(329)</sup> が実装しなかったので本格的には普及しなかったが、少なくない Web サイトで利用されていた。

NCSA から Microsoft Corporation に移った Chris Wilson<sup>(119)</sup> の

(119) Chris Wilson 1993 (平成 5) 年から NCSA Mosaic<sup>(120)</sup> の開発に中心的に携わる。1995 (平成 7) 年から Microsoft で Internet Explorer<sup>(281)</sup> の開発を主導し、多くの Web 標準技術に寄与した。2022 (令和 4) 年から Google 代表として WHATWG Steering Group<sup>(121)</sup> に参加している。

(120) NCSA Mosaic 初期の Web ブラウザの 1 つ。WWW を一般に普及させた立役者。

(121) WHATWG Steering Group WHATWG<sup>(414)</sup> 諮問部会 (SG)。参加企業の代表によって構成され組織運営にあたる機関として 2017 (平成 29) 年に設置された。[FurtherWMChanges]

1995（平成7）年10月9日のUSENET<sup>(421)</sup>への投稿によると、**bgsound**はMosaicへの機能追加の要望に応えたものだったという。[MSHTMLChris]

現在の『HTML Standard』<sup>(7)</sup>でも構文解析器やDOM関連の規定に痕跡を残している。

HTML Standard HTML構文解析器 / Special  
→ **sound**

**bib** 1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]



1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990（平成2）年12月19日付ファイルに**bib**, **bibref**, **bl**がある。CERN SGMLguidからHTMLに変換したファイルで、参考文献を表している。[SW:HTML1991]

**bibref** 1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]



1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990（平成2）年12月19日付ファイルに**bib**, **bibref**, **bl**がある。CERN SGMLguidからHTMLに変換したファイルで、参考文献を表している。[SW:HTML1991]

**bidi** 1995（平成7）年8月15日のHTML 2.x<sup>(122)</sup>に**bidi**がある。現在の**dir**属性と**bdo**に当たる。[HTML2x-00]

→ **span**



(122) HTML 2.x HTML 2.0<sup>(149)</sup>の次の世代、HTML3世代のHTML仕様の1つ。ietf-html<sup>(147)</sup>によって開発され、最終版がRFC 2070として出版された。[RFC2070] HTML 2.xの機能は後にHTML4<sup>(394)</sup>に取り込まれた。本書ではHTML 2.xに含まれるかを示した。Deprecated（非推奨）とされたものにはそのことを示した。

**big** 1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19950301]



2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

B

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n

2001 (H13) Text Extension Modules • Presentation Module • XHTML Inline Presentational Module XHTML-Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13)

HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Formatting

借用先 BML(84), ENML(210), LeXML(296), tdf(342), WML1(141)

→ font, small

**bind** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は  
XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



XHTML2 2010 (H22)

MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**binding** 2010(平成22)年9月3日、  
『XBL 2.0』<sup>(182)</sup>(HTML版)で binding が定義された。歴史的には『XBL 2.0』(XML<sup>(5)</sup>版)、XBL 1.0 に遡る。[XBL-20]



**bitr** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3  
Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



**bl** 1986(昭和61)年10月23日の ISO 8879 : 1986  
E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]



1986(昭和61)年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>に  
ある。[SGMLguid]

1990(平成2)年12月19日付ファイルに bib, bibref, bl がある。

(123) XForms フォーム用の XML 応用の 1つ。当初は HTML のフォームの改良版として W3C HTML WG(312)によって開発が開始されたが、最終的には考え方から構文に至るまでまったく異なるものとなった。当初 Mozilla(177)が実装していたが、あまり使われることなく削除された。その後はサーバー側で細々と利用されている。[SW:XForms]

CERN SGMLguid から HTML に変換したファイルで、参考文献を表している。[SW:HTML1991]

**blackface** WebTV<sup>(124)</sup>は、**blackface** を実装していた。double-weight typeface font でもって通常の文章より強調して表示するもので、WebTV の独自の拡張だという。[WebTV:BLACKFACE]



**blink** Netscape Navigator<sup>(329)</sup>が初期から実装していた。現在の CSS の '`text-decoration:blink`' に当たる。文字を点滅させると説明されることが多いが、Macintosh 版 Netscape Navigator では背景が点滅したという。[SW:blink]



Internet Explorer<sup>(281)</sup>が未対応で、両ブラウザーの非互換性の代表事例として有名だったが、表示効果がないだけで要素として認識はしていたらしい。[SW:blink]

点滅効果が不快だと悪名高いが、多くの Web サイトで利用されていた。編集ソフトウェア等も対応したもののが多かった。[SW:blink]

1994(平成6)年10月19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない 10 個の HTML 拡張を列举したという風刺記事を投稿した。`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth` と挙げ、最後に `blink` という落ちだった。[TopTenHTML]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemay の提示した、`wired`, `roach`,

(124) WebTV 米国等で販売されていた、テレビに接続してインターネット(主にWeb)接続機能を提供する装置の1つ。専用Webブラウザが搭載されていた。後にMicrosoft社に買収されMSN TVとなった。当時はパソコンとテレビの融合が両業界の一大テーマで、各社が多様な製品を投入していた。

(125) Laura Lemay HTML等の解説書で知られる。1995(平成7)年の著書『Teach Yourself Web Publishing with HTML in a Week』はWeb制作についての2番目に古い書籍とされる。[WP:Laura]

(126) Mosaic Netscape 0.9 後のNetscape Navigator<sup>(329)</sup>の最初の版。NCSA Mosaic<sup>(120)</sup>の開発メンバーが独立起業して開発したもので、技術的にはMosaicと無関係。

`kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`, `blink` を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。<sup>[E/W3Supported]</sup>

B

Netscape Navigator 独自拡張の代表 `blink` と Internet Explorer 独自拡張の代表 `marquee` は、しばしばセットで紹介された。両ブラウザに対応させる苦肉の策として、両方のタグで囲んで何らかの視覚的变化が発生すればいいとの使われ方もまま行われた。

『HTML 3.2』<sup>(127)</sup>では、`blink`, `marquee` のどちらも標準化しないという政治的取引があった。<sup>[HTMLBG] [Raggett4:2]</sup>

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。<sup>[HTMLr358]</sup>

HTML5 2009(H21)廃止 HTML Standard Ordinary  
→ blinquee

**blinquee** 2002(平成14)年8月16日、Gecko<sup>(176)</sup>に `blinquee` の追加が提案され、利用者エージェントスタイルシート<sup>(117)</sup>による実装案が提示された。



`blink` と `marquee` を組み合わせたものだった。この直前に Gecko で `marquee` が実装されたことを快く思わない人々が賛同していたと思われる。<sup>[Moz163050]</sup>

**block** 2021(令和3)年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup>にある。<sup>[HTMLLang]</sup>



PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。<sup>[POSTHTML:EXTENDS]</sup>

(127) 『HTML 3.2』はじめて W3C 勧告<sup>(395)</sup>となった HTML の仕様書。1996(平成8)年初頭時点で広く実装されている HTML を記述したものと説明されている。<sup>[HTML32-19970113] [HTML32-19970114]</sup> 本書では HTML 3.2 に含まれるかを示した。Deprecated(非推奨)とされたものにはそのことを示した。また、仕様書本文で言及されただけの要素があり、「言及のみ」と示した。

(128) HTMLLang JavaScript ライブラリーの1つ。HTML as a Programming Language と謳っている。<sup>[HTMLLang]</sup>

**blockcode** 2003 (平成15) 年 5 月 6 日 版  
『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> で **blockcode** が 追 加 さ れ  
た。[XHTML2-20030506] 現在の **pre** と **code** の組み合わせ



に相当する。名前空間は、紆余曲折を経て最終版では HTML 名前空  
間<sup>(166)</sup>となっていた。

XHTML2 2010 (H22) XHTML Structural Module

**blockquote** 1992 (平成4) 年 11 月 12 日 の  
DocBook<sup>(129)</sup> 1.0 DTD<sup>(194)</sup> に **BlockQuote** がある。<sup>(130)</sup>  
[DOCBOOK1]



1992 (平成4) 年 12 月 4 日、 Dan Connolly<sup>(170)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup>  
への投稿で、 HTML への追加機能案の例示として **blockquote** に  
言及した。[SpecEvolves] 現存最古の言及だが、 要素名のみで詳細はな  
い。[BQORIGIN]<sup>(131)</sup>

1993 (平成5) 年 1 月 6 日 版 HTML DTD に **blockquote** があ  
る。[HTML19930106:DTD]

1993 (平成5) 年 5 月 10 日、 Dave Raggett<sup>(132)</sup> は www-talk の投  
稿で、 **blockquote** は使われているのかと質問した。8 文字超の要  
素名を扱えない SGML 構文解析器<sup>(133)</sup> のため **quote** に改称するかと  
の提案だった。[USEBQ]

1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版 『HTML+』<sup>(72)</sup> に、 **quote**,  
**blockquote** がある。いずれも現在の **blockquote** に当たるが、  
**blockquote** は後方互換性のためとされた。[HTML+19931028]

(129) DocBook SGML 応用の 1 つ。[DOCBOOK1] 技術系の書籍やマニュアル  
の記述に使われた。

(130) 他に **quote** もある。

(131) 追加の経緯は不明となっていたが、 Sean B. Palmer と Dan  
Connolly<sup>(170)</sup> による 2017 (平成29) 年の調査の結果 DocBook<sup>(129)</sup> からの借用  
だったことが判明した。[BQORIGIN]

(132) Dave Raggett 平成時代初期の HTML の標準化の中心人物の 1 人。  
W3C 職員。表や **object** など新機能の追加に特に尽力した。

(133) ISO 8879 の定める参照量集合では **NAMELEN** が 8 となっている。つまり  
参照量集合を使う場合名前の長さは 8 を超えられない。[ISO8879] SGML 宣言に  
よりこの値は変更できるが、対応できない実装もあったのだろう。

1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTDに**bq**,  
**blockquote**がある。[HTML3-19941130]

B 1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDに**bq**,**blockquote**がある。**blockquote**は非推奨とされる。[HTML3-19950301]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup>[WA1-20050901]

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Mainstream  
HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1994(H6)/4/5 HTML 3.0  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 言及のみ HTML 3.2 1997(H9)  
HTML 2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001(H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Block Phrasal  
Module XHTML\_Basic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18)  
XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Structural Module  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)

文献 [BQORIGIN]

→ credit

**bn** b1等を総称して**bn**と書くことがある。このままの要素名ではない。



**body** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[DCFGML3e]

1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[SGMLguid]

1992(平成4)年4月16日付ファイルのHTTP応答仕様案に**header**, **body**がある。<sup>(134)</sup>HTMLの**header**, **body**とは異なる

(134) HTMLの拡張と意識されたものか、HTMLの兄弟に当たるような言語と認識されたものか明確ではない。

る。[HTTPEx1]

1992(平成4)年6月10日付でCERN<sup>(81)</sup>のWorld Wide WebプロジェクトWebサイトで公開されていたHTMLの改正案は、HTML文書をheader sectionとbody sectionに分離するとしていた。具体的な分離方法は記載がない。[HTML2CTB]

1992(平成4)年7月15日版HTMLDTDにbodyがある。[HTML19920715] HTMLのbodyの初出と思われる。混合内容問題<sup>(404)</sup>回避のためとされる。前月のDTD<sup>(194)</sup>ではsectionだったが、最外のみbodyに改められた。

1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、文書の「body」の大部分を含めるdocument要素を新設するのがよいとした。別案として、要素名をbodyとし、対になるheadingを追加することも提案した。[DTDIssuesDan]

Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はそれに対する返信で、後者案に賛同した。[DTDIssuesTim] このとき編集されたと思われるWebページでは、後者案をもとにHeaderとBodyと書いている。<sup>(136)</sup> [FuturePlans]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、当時のWebサイトのほとんどがhtml, head, body, titleのタグを使っていた。[WASstats:P&E]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Mainstream

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Core Modules • Structure Module 必須 XHTMLBasic 2000(H12)

(135) www-talk World Wide Webプロジェクトの公開メーリングリスト。HTMLをはじめとするWeb技術の初期の開発が行われた。

(136) ここでのHeaderはWebページ内の見出しで、要素名は明らかでない。

XHTML-Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)  
XHTML Document Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DjVu XML(251), DTBook(197), JIS X 4052(244), NITF(340),  
ROE XML(254), SMIL(256), TTML(392), yhtml(347), 松風(163)

B → epilogue, prologue

**bodytext** 1995 (平成7) 年 3月 24 日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、**bodytext**, **figtext** が追加された。混合内容問題<sup>(404)</sup>回避のためとされる。[\[HTML3-19950324\]](#)



1995 (平成7) 年 12月 20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>は、**insert** と **fig** で **bodytext** を使っている。<sup>(137)</sup> [\[HTML3LE19951220\]](#)

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において **bodytext**, **figtext** を実装していた。[\[E/W3:Parse\]](#)

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24

→ embed.body, textflow

**bold** 1992 (平成4) 年 12月 4 日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>に 1992 (平成4) 年 12月 2 日版 HTML 仕様書の案内を投稿したが、その例文で **bold** が使われた。仕様書本体は現存が確認されず、**bold** が含まれていたかは不明。<sup>(138)</sup> [\[HTML19921204:Dan\]](#)



**box** 1986 (昭和61) 年 10月 27 日 の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)



1990 (平成2) 年 12月 19 日付ファイルに **box** がある。

---

(137) 1995 (平成7) 年 12月 1日版 DTD<sup>(194)</sup>の **insert** では **body** が使われていた。

(138) 当時 **text/richtext**<sup>(139)</sup>の **bold** と **italic** の借用が検討されたことはあったが、現存する前後の HTML DTD に含まれていない。[\[SW:語句化内容\]](#)

(139) **text/richtext** MIME の文書形式の 1つ。太字、下線等の表示様式、文字の大小、字下げなどを SGML<sup>(78)</sup> タグ<sup>(20)</sup>風の独自の構文で記述する。[\[RFC1341\]](#) 後に **text/enriched** となった。HTML の初期の設計で参照されたが、あまり参考にならないと判断されている。[\[SW:語句化内容\]](#)

CERN SGMLguid から HTML に変換したファイルで、注意事項のようなものを表している。<sup>[SW:HTML1991]</sup>

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、**math**, **box**, **over**がある。本文に **array**, **item**がある。例文に **rd**がある。本文で **sub**, **sup**が **math**内でも使えるとされている。<sup>[HTML+19931028]</sup>

1994(平成6)年1月5日版『HTML+』DTDに、**math**, **over**, **box**, **root**, **array**, **item**がある。<sup>[HTML+19940105]</sup>

1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTDにある。<sup>[HTML3-19941130]</sup>

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において **math**と数式用各要素を実装していた。

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

**bq** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に **bq**, **blockquote**がある。<sup>[HTML3-19941130]</sup> 

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDに **bq**, **blockquote**がある。**blockquote**は非推奨とされる。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において **bq**を実装していた。

1997(平成9)年4月の Lynx<sup>(335)</sup> 2.7.1は、**bq**を **blockquote**同様に実装していた。<sup>[Lynx2.7.1]</sup>

HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

借用先 NITF<sup>(340)</sup>

→ credit

**br** 1993(平成5)年7月の WWWWW<sup>(140)</sup>で、brの追加が合意された。[\[WWWWWWNotes\]](#)



B 1 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、br,

[HTML+19931028] 1 は内容を行とする。

1994(平成6)年4月1日、HTML DTDにbrが追加された。

2004(平成16)年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>でbrの明確化が必要な旨の注釈が含まれていた。[\[WA1-20041208\]](#)

2005(平成17)年4月14日、『Web Applications 1.0』に、span, q, cite, brが追加された。現行仕様である。[\[SW:WA1\]](#)

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第8位がbrだった。[\[WAStats:P&E\]](#)

現行の要素である。

HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Structural Module XHTML\_Basic 2000(H12) XHTML\_Print 2006(H18)

XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Text Module

HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DNML(406), DTBook(197), ENML(210), HDML(275), JepaX(285), JIS X 4052(244), LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172), TateJPN(239), tdf(342), TNF(398), TTML(392), WML1(141), 朝刊太郎改(115), 松風(163)

→ line, spacer, w3br, x

**browsr** 2012(平成24)年3月、Mozilla<sup>(177)</sup>は



B2G<sup>(142)</sup>でアプリの埋め込みに使っていた iframe

(mozbrowser 属性付き)を新設の browsr で置き換える

(140) World-Wide Web Wizards Workshop WWWWW W5 1993(平成5)年7月27日から1993(平成5)年7月30日に開催された国際会議。

(141) WML1 フィーチャーフォン(64)用マーク付け言語(186)の1つ。[\[WML11:DTD\]](#) HTMLと似ているが違いも多い。

(142) B2G Firefox OS Mozilla(177)が開発していた、Gecko(176)を中心とするOS。

ることを計画した。後にこれを知った Google は Chrome アプリ<sup>(87)</sup>の Web ブラウザー埋め込み機能を **browser** として実装した。<sup>(143)</sup> [BrowserAPIProposal] [Moz738172]

2012 (平成24) 年 8 月 2 日、 Google は **browser** を **webview** と改称することを提案し、 Mozilla も同意した。その後 Chrome アプリの実装は **webview** に改められ、一般に利用可能となつた。[Moz738172]

**browserplugin** 2016 (平成28) 年 時 点 で Electron<sup>(144)</sup> は **webview**, **browserplugin** を実装していた。内部的にのみ使われる想定と思われる **browserplugin** が Chromium<sup>(85)</sup> の **webview** にほぼ相当し、 **webview** はそれを使って実装されていた。[Electron:WV.js]



**bt** 1995 (平成7) 年 3 月 5 日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> で **term** が廃止され、 **vec**, **bar**, **dot**, **ddot**, **hat**, **tilde**, **t**, **bt** が追加された。 **b** も使えるとされている。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において **math** と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**button** 1996 (平成8) 年 3 月 8 日付 W3C<sup>(185)</sup> 文書で **button** が提案されていた。[FORMS19960308]



1997 (平成9) 年 7 月 8 日の最初の『HTML 4.0』公開版に **button** がある。[HTML4-19970708:Forms] [HTML4-19970708:Forms]

2006 (平成18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に構想が追加された。[HTMLr358]

2008 (平成20) 年 9 月 3 日、『HTML5』に **button** が追加され

---

(143) 製品版には至らなかった。

(144) Electron Chromium<sup>(85)</sup>を使ったアプリケーション開発プラットフォームの 1 つ。

た。[HTMLr2145]

現行の要素である。

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Forms Modules → Forms Module

XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84)

→ bb, doneinput

**bvar** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**byline** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版

『HTML+』<sup>(72)</sup>に、address, byline がある。どちらも同義で、address は後方互換性のためとされる。[HTML+19931028]



2004 (平成16) 年 4 月 7 日 版 『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>に byline, footer, section の構想がある。要素名のみで詳細不明。[WA1-20040407]

2004 (平成16) 年 5 月 3 日の Opera<sup>(409)</sup>と Mozilla<sup>(177)</sup>が The W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents<sup>(240)</sup>に提出した position paper に byline, footer, section, navigation 等の構想が示されていた。[WACDFWS:OPERA]

2004 (平成16) 年 6 月 2 日 版 『Web Applications Markup Language 1.0』に byline, footer, section, navigation の構想がある。Web アプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に navigation, header, footer, section, post, message, content, h の構想がある。[WA1-20040602]

HTML+ 1993 (H5)/11/8

---

(145) 『Web Applications Markup Language 1.0』 Web アプリケーション<sup>(146)</sup>向け機能の仕様書案。後に『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>と改称された。

(146) Web アプリケーション Web application HTML を中心とする Web 技術で記述され Web ブラウザ内で動作するアプリケーションプログラム。

**c** 1995（平成7）年5月2日、Alex Hopmannはietf-html<sup>(147)</sup>メーリングリストにcを提案した。以前fontとして提案したものだった。[CharFormatAlex][ColorTextAlex]



1995（平成7）年7月3日、Benjamin C. W. Sittlerはwww-style<sup>(150)</sup>メーリングリストにtextを提案した。対してAlex Hopmannはかねてからのcを提案した。textとcで議論となり、最終的にcが選ばれた。[FontsAlex][FontsBenjamin]

1995（平成7）年11月22日版『HTML and Style Sheets』<sup>(151)</sup>にcがある。用法はtextとして提案されたものを引き継いでいる。[HTMLStyle00]

1996（平成8）年1月23日、『HTML and Style Sheets』はcをspanに改称した。[HTMLStyle01]

2018（平成30）年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にあらる。[HTMLLasPL]

文献 [HTMLWiki:span]

---

(147) IETF HTML Working Group ietf-html HTMLの標準化を担当したIETF(148)の作業部会。ietf-htmlで開発された『HTML 2.0』(149)は初めて標準化団体から承認されたHTMLの仕様書となった。[RFC1866]しかし爆発的に増加した利害関係者の調整を付けられず『HTML 3.0』(105)の開発に失敗、HTMLの標準化は公開されたIETFから非公開のW3C(185)へと移ることになった。[Raggett4:2][Involvement]

(148) IETF Internet Engineering Task Force インターネット技術の標準化団体。標準仕様をRFCとして制定している。初期のHTMLやURLの標準化の舞台となった。現在もHTTPの標準仕様を開発している。

(149)『HTML 2.0』初めて標準化団体で承認されたHTMLの仕様書。1994（平成6）年6月時点で広く実装されているHTMLを記述したという。[RFC1866]後にHTML 2.x(122)やHTML 3.2(127)の基礎となった。基礎となるLevel 1とフォームを追加したLevel 2がある。また、Deprecated（非推奨）とされる機能とそれ以外のStrict（厳密）がある。本書ではこれらの区別を示した。また、仕様書本文で言及されただけの要素がいくつもあり、「言及のみ」と示した。

(150) www-style W3C(185)の公開メーリングリストの1つ。CSSに関する議論が行われた。

(151)『HTML and Style Sheets』HTML3世代の仕様書の1つ。[HTMLStyle00][HTMLStyle01]後にHTML4(394)へと発展した。

<b>c1</b> 『Taiju Notebook』 <sup>(258)</sup> で短歌の句に使われている。 [SW:pg*]	
→ c2, c3, c4, c5, r1, r2, r3, r4, r5	
<b>c2</b> 『Taiju Notebook』 <sup>(258)</sup> で短歌の句に使われている。 [SW:pg*]	
→ c1, c3, c4, c5, r1, r2, r3, r4, r5	
<b>c3</b> 『Taiju Notebook』 <sup>(258)</sup> で短歌の句に使われている。 [SW:pg*]	
→ c1, c2, c4, c5, r1, r2, r3, r4, r5	
<b>c4</b> 『Taiju Notebook』 <sup>(258)</sup> で短歌の句に使われている。 [SW:pg*]	
→ c1, c2, c3, c5, r1, r2, r3, r4, r5	
<b>c5</b> 『Taiju Notebook』 <sup>(258)</sup> で短歌の句に使われている。 [SW:pg*]	
→ c1, c2, c3, c4, r1, r2, r3, r4, r5	
<b>cake</b> 2018 年 の HTML-as-programming-language <sup>(95)</sup> にある。[HTMLasPL]	
<b>calendar</b> 2004 (平成16) 年 9 月 23 日版 時点の『Web Applications 1.0』 <sup>(157)</sup> で calendar が定義されていた。 hCalendar <sup>(152)</sup> を使って予定をカレンダー表示するものだった。 <sup>(153)</sup> [WA1-20041208]	
<b>call</b> 2021 (令和3) 年 4 月 6 日の HTMLLang <sup>(128)</sup> にある。[HTMLLang]	

(152) hCalendar iCalendar を microformats<sup>(69)</sup>として HTML に移植したもの。予定などを記述できる。Google 検索<sup>(66)</sup>はリッチスニペットと称して検索結果に hCalendar の日時や場所などを表示する。

(153) カレンダー機能はこれ以前から仕様書の文書ソース注釈に構想があった。

**canvas** 2004(平成16)年6月28日から開催されたAppleのイベントWWDC2004での新規公開情報に**canvas**が含まれていた。その後提供されたSafariやDashboardウィジェット<sup>(154)</sup>で実装されていた。現行仕様とは細部が異なる。[\[IntroCanvas\]](#)



2004(平成16)年8月16日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に**canvas**が追加された。[\[CanvasTagHixie\]](#) 現存最古は2004(平成16)年9月23日版である。[\[WA1-20040923\]](#) 現行仕様である。

C

現行の要素である。

**HTML5** 2009(H21)適合 **HTML Standard** 適合 / Ordinary

**caption** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に



1995(平成7)年9月21日版HTML2.1E<sup>(187)</sup>DTD<sup>(194)</sup>、1995(平成7)年11月22日版HTML2.1Eに**caption**, **credit**がある。[\[HTML21E19950921\]](#) [\[HTML21E19951122\]](#)

1995(平成7)年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>に、**fig**, **caption**が将来拡張案として示されている。**insert**と併用する。[\[HTML3LE19951220\]](#) 現在の**figure**, **figcaption**, **object**に当たる。

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr277\]](#) [\[HTMLr278\]](#) [\[HTMLr280\]](#) [\[HTMLr282\]](#) [\[HTMLr287\]](#) [\[HTMLr288\]](#)

現行の要素である。

(154) Dashboard ウィジェット WebKit<sup>(155)</sup>で動作する小型アプリケーションプログラム。また、その実行環境。

(155) WebKit Appleのレンダリングエンジン<sup>(179)</sup>。Apple製品に搭載されSafariなどで使われている。App Storeで配布されるアプリは独自のレンダリングエンジンを利用できないため、実質的にすべてのiPhoneやiPadのWebブラウザーやアプリ内ブラウザーはWebKitを使っている。一時はChrome<sup>(86)</sup>もWebKitを採用しており、市場の多く、スマートフォン市場のほとんどをWebKitブラウザーが占有していた。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ;  
1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n  
2001 (H13) Table Modules ▶ Basic Tables Module Table Modules ▶ Tables  
Module XHTML Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Caption Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285),  
LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172)  
→ tbl, tt

**card** 1996 (平成8) 年 3月 8 日の W3C<sup>(185)</sup> 文書で  
card, cardset が提案されている。タブ<sup>(156)</sup>群を表す。  
[FORMS19960308]



2004 (平成16) 年 9月 23 日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に  
card がある。 hCard<sup>(158)</sup>データを表す。[WA1-20041208]

→ section, switch, tab, tabbox  
MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**cardset** 1996 (平成8) 年 3月 8 日の W3C<sup>(185)</sup> 文書で  
card, cardset が提案されている。タブ<sup>(156)</sup>群を表す。  
[FORMS19960308]



→ section, switch, tab, tabbox  
**cartesianproduct** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

---

(156) タブ tab 利用者インターフェイスの構成要素の一種。

(157) 『Web Applications 1.0』当初は Web アプリケーション(146)向けに HTML 等の新機能を規定する仕様書だったが、徐々にカバー範囲を拡大し、『Web Forms 2.0』(190)と合わせて HTML5(191)と通称されるようになった。その後正式に『HTML5』と改称された。更に後には、『HTML5』と政治的理由から『HTML5』から分離された仕様書群を再統合した仕様書が再び『Web Applications 1.0』と名付けられ、『HTML5』と同時に存在した。最終的にこれらの仕様書群は『HTML Standard』(7)に統一された。最盛期は毎日のように更新されていたが、初期は Web サイト上で上書き編集されており一部の版しか現存しない。2006 (平成18) 年 3月 2 日以降はすべての版が現存する。[SW:WA1]

(158) hCard vCard を microformats(69)として HTML に移植したもの。人や組織の連絡先情報（名刺）を記述する。

**case** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。



平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に **case**, **nocase** がある。条件分岐を表す。[交フオ報]

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]

**XHTML2** 2010 (H22)

→ **t-case**, **t-nocase**

**cbase** エチオピア暦 2010 年 第 2 月 23 日  
(平成 29 (2017) 年 11 月 2 日)、Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup>の Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に **ዘማ**<sup>(160)</sup> (Zaima) の記述のための要素群を提案した。[ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]



**cbody** 2009 (平成21) 年 6 月 1 日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**cbytes** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**ceiling** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(159) Ethiopic Text Layout Task Force W3C<sup>(185)</sup> の Internationalization Interest Group の下部組織。エチオピアの文字や組版の取り扱いを検討している。W3C の国際化担当の Richard Ishida や、長くエチオピアの情報処理に取り組む Daniel Yacob を中心に活動している。

(160) **ዘማ** Zaima エチオピア正教・エリトリア正教の歌謡。ここではその歌詞等を表記したもの。

(161) HTML6 『HTML5』<sup>(191)</sup>の後 HTML は版 (バージョン) 番号を廃止して『HTML Standard』<sup>(7)</sup>となつたため、HTML6 は存在しない。この方針が定まる前、HTML5 の次世代を HTML6 と非公式に言うことがあった。具体的な計画があったわけではない。[SW:HTML6] 2007 (平成19) 年 4 月 1 日には WHATWG<sup>(414)</sup>のブログでエイプリルフールの冗談記事として HTML6 の開発計画が発表された。[HTML6]

(162) 『HTML6』<sup>(161)</sup>は、2007 (平成19) 年から 2009 (平成21) 年に Dmitry Turin が開発していた文書。[DTHTML6] HTML5<sup>(191)</sup>を議論しているグループに、まったく方向性の違う独自の仕様書を次の版だと称して提出して、如何なる成果が得られると考えていたのか疑問ではあるが、関連する各メーリングリストに頻繁に意見を提出しているから、提案者にとっては重要なことだったのだろう。他に SQL5, Unicode7, Computer 2.0 といったものが提案されていて、[SW:DTHTML6] なお『HTML6』を称する提案は他にもあった。

C



**cell** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。<sup>[SW:NN4]</sup>

平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。<sup>[交フォ報]</sup>



**cell\_draw\_image** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。<sup>[交フォ報]</sup>



**cell\_scene** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。<sup>[交フォ報]</sup>



**center** 1994 (平成 6) 年頃の Netscape Navigator<sup>(329)</sup>は、center を実装した。1994 (平成 6) 年 10 月 14 日時点で既に実装・公開済みだったと推測される。<sup>[SW:center] [NNExts]</sup>

2006 (平成 18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。<sup>[HTMLr358]</sup>

HTML 3.2 1997 (H9) HTML4 1997 (H9) Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000 (H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001 (H13)  
Legacy Module 非推奨 HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special

借用先 ENML(210), HDML(275), TateJPN(239), tdf(342), TNF(398), 松風(163)  
→ centre, div, div1, left, right, section



**centre** たまに解説等で center を centre と誤るものがあった。<sup>(164) [SW:centre]</sup>

誤記に対応するため Netscape Navigator 4.0 が centre を実装していたとする説があるが、信憑性は不明。<sup>[SW:centre]</sup>

**cerror** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(163) 松風 平成時代初期頃の日本で使われた Windows 用ワープロソフトウェアの 1 つ。専用ファイル形式は SGML(78)風の構文を採用していた。<sup>[SW:松風]</sup>

(164) center は米語、centre は英語。

**certificate** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。[\[SW:NN4\]](#)



**certs** 1996（平成8）年2月、S-HTTP<sup>(165)</sup>の利用のため **certs**, **cryptopts** が提案された。[\[SHTML00\]](#) 証明書と暗号オプションを指定できる。



1999（平成11）年8月、RFC 2659として発行された。[\[RFC2659\]](#)

**challet** 2000（平成12）年10月20日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。[\[M12N20010410\]](#)



[XHTML\\_m12n](#) 2001 (H13) An Example Abstract Module Definition • XHTML Skiing Module 例示

**changed** 1993（平成5）年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に **changed** がある。[\[HTML+19930713\]](#) 変更箇所を表す。



1993（平成5）年10月28日版『HTML+』にある。[\[HTML+19931028\]](#)

[HTML+](#) 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
→ **added**, **mark**, **removed**

**chant** エチオピア暦 2010 年第 2 月 23 日（平成 29（2017）年 11 月 2 日）、Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup>の Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に **ዘማ**<sup>(160)</sup> (Zaima) の記述のための要素群を提案した。[\[ZaimaDM\]](#) [\[ZaimaPagesYacob\]](#)



**chapter** Open eBook<sup>(326)</sup>仕様書が著者<sup>(52)</sup>による拡張の例文で使っていた。[\[OEBPS1\]](#)



**chapterhead** Open eBook<sup>(326)</sup>仕様書が著者<sup>(52)</sup>による拡張の例文で使っていた。[\[OEBPS1\]](#)



(165) S-HTTP HTTP のセキュリティ機能の提案の 1 つ。[\[RFC2660\]](#) 広く実装されることはなかった。

**charles** Netscape Navigator 4.0 の頃 jean, charles が実装されていた。イースターエッグのようなものだろう。[SW>NN4]



**chart** 1997(平成9)年4月発表の displets<sup>(199)</sup>機能案の実例として chart が使われた。グラフ(chart)を表す。[DISPLETS1997]



2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup>[DTHTML6]

**child** 民国84(1995)年(平成7年)頃中華民国の研究者らが開発した Web を利用した教育システムが parent, child, preread を実装していた。1995(平成7)年12月の WWW4<sup>(109)</sup>で発表された。[EduEnv] 関係する文書を指定する。現在の link に当たる。

**choice** 1993(平成5)年1月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、Dan Connolly<sup>(170)</sup>案への返信として、フォームコントロールの要件を整理し、input, select, choice の案を提示した。choice は現在の option に当たる。[QueryFormsInput:Dave]

**choices** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

(166) HTML名前空間 HTML namespace 名前空間名(167)が http://www.w3.org/1999/xhtml の XML 名前空間(168)。歴史的にはともかく、現在では HTML 名前空間に属する要素が HTML 要素である。[HTML]

(167) 名前空間名 namespace name XML 名前空間(168)を識別する名前。絶対 URL を使うことになっている。現在の XML(5)や DOM の仕様上はこの URL に自動的にアクセスすることはないが、スキーマの URL とするなどいろいろな考え方があった。

(168) XML名前空間 XML namespace XML(5)の要素や属性が属する名前空間。名前空間名(167)を使って互いに区別される。現在の HTML や DOM では、要素名や属性名が同じでも、名前空間が異なれば別の要素や属性として扱われる。名前空間の扱い方にはこの他にもいろいろな考え方があった。

**choose** 1995 (平成7) 年 3 月 13 日、  
『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> に **choose** が追加された。  
[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において **math** と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24

**ci** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**circle** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**cite** 1988 (昭和63) 年 5 月 時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に @code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var, @cite, @emph, @strong, @b, @i がある。[TEXINFO11]



1992 (平成4) 年 11 月 19 日、Dan Connolly<sup>(170)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup> への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5 に代わる新要素群の案を提示した。[DTDIssuesDan] 後に em, tt, cite などが追加され hp1 などは廃止された。

1992 (平成4) 年 12 月 8 日の Dan Connolly の www-talk への投稿によると、Dan Connolly は GNU Texinfo から HTML に em<sup>(171)</sup>, strong, code, file, cite 等を追加しようとしていた。  
[UseSGMLKbd]

1993 (平成5) 年 1 月 6 日、HTML に code, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, u が追加された。<sup>(113)</sup> GNU

---

(169) GNU Texinfo GNU プロジェクトの文書システム。命令混じりのテキストファイル 1 つから印刷物を作成したり、画面表示用のマニュアルファイルを生成したりできる。そのため特定の表示方法の指定ではなく語句の性質を記述する命令群が発達し、HTML に影響を与えた。

(170) Dan Connolly 平成時代初期の HTML の標準化の中心人物の 1 人。W3C 職員。最初期の仕様書から『HTML5』<sup>(191)</sup>まで関わっており、特に『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>は Dan Connolly によるところが大きい。SGML<sup>(78)</sup>に精通し、HTML を SGML 応用として整えるため尽力した。初めて HTML DTD を作成したのも Dan Connolly である。

(171) GNU Texinfo<sup>(169)</sup>では @emph。

Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup>  
[HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。  
[HTML+19931028]

C 1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19950301]

2005（平成17）年4月14日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、  
span, q, cite, br が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra  
HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)  
HTML2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal  
Module XHTMLBasic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTMLStandard 適合 / Ordinary

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)

→ work

**clause** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける別名例にある。[POSTHTML:EXP]



**clipPath** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器



**cmd** 1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。  
[HTML+19931028]

1995（平成7）年時点で、html-helper-mode<sup>(74)</sup>が実装していた。[HHMKeybindings]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5

**cn** MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**code** 1988（昭和63）年5月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に @code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var,

`@cite, @emph, @strong, @b, @i` がある。[TEXINFO11]

1992(平成4)年12月8日のDan Connolly<sup>(170)</sup>のwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿によると、Dan ConnollyはGNU TexinfoからHTMLに`em`<sup>(171)</sup>, `strong`, `code`, `file`, `cite`等を追加しようとしていた。`[UseSGMLKbd]`

1993(平成5)年1月6日、HTMLに`code`, `samp`, `kbd`, `key`, `dfn`, `var`, `cite`, `em`, `tt`, `strong`, `b`, `i`, `u`が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfoに着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。`[HTML+19931028]`

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。`[HTML3-19950301]`

2005(平成17)年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`code`, `var`, `samp`, `kbd`, `sup`, `sub`が追加された。現行仕様である。`[SW:WA1]`

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Extra

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9)

HTML2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001(H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Inline Phrasal Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTMLPrint 2006(H18)

XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Text Module

HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Formatting

借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, XMLspec<sup>(173)</sup>  
→ blockcode

(172) ReSpec 仕様書作成ソフトウェアの1つ。W3C<sup>(185)</sup>等の仕様書の多くの生成に利用されている。独自の機能を追加したHTML風の言語で記述する。[RESPEC]

(173) XMLspec 『XML』<sup>(5)</sup>や関連仕様等の記述に使われたXML応用。[XMLspec]

**codomain** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**col** 1995(平成7)年9月25日、HTML3表仕様<sup>(174)</sup>のcolwがcolに改称された。[\[HTMLTables19950925\]](#)



2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr277\]](#) [\[HTMLr278\]](#) [\[HTMLr280\]](#) [\[HTMLr282\]](#) [\[HTMLr287\]](#) [\[HTMLr288\]](#)

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001(H13) Table Modules・Tables Module XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Tables Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), NITF(340)

**colgroup** 1995(平成7)年12月22日、HTML3表仕様<sup>(174)</sup>にcolgroupが追加された。[\[HTMLTables19951222\]](#)



2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr277\]](#) [\[HTMLr278\]](#) [\[HTMLr280\]](#) [\[HTMLr282\]](#) [\[HTMLr287\]](#) [\[HTMLr288\]](#)

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001(H13) Table Modules・Tables Module XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Tables Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), NITF(340)

**color-profile** SVG 1.1

**colormap** Netscape Navigator 4.0の頃に実装されていた。Netscape社のドキュメントに出現するが、詳細不明。[\[SW:NN4\]](#)



(174) HTML3世代の仕様書の1つ。[\[HTMLTables19950707\]](#) [\[HTMLTables19950925\]](#) [\[HTMLTables19951222\]](#) 最終版はRFC1942となつた。[\[RFC1942\]](#) 規定されていた機能はHTML4(394)に取り込まれた。

**column** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義してい  
る。[交フオ報]



**column\_break** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電  
子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に column\_break がある。  
改段を表す。[交フオ報]



→ t-cb

**colw** 1995 (平成7) 年 7 月 7 日版 HTML3 表仕  
様<sup>(174)</sup>に colw がある。[HTMLTables19950707] 現在の col  
に当たる。



**combobox** 2023 (令和5) 年、Open UI<sup>(175)</sup> は  
combobox 仕様案を検討開始した。[OUICombobox]



**comic\_cell\_type\_** 平成 23 (2011) 年 3 月 31  
**body** 日版電子書籍交換フォー  
マット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義してい  
る。[交フオ報]



**comic\_page\_type\_** 平成 23 (2011) 年 3 月 31  
**body** 日版電子書籍交換フォー  
マット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義してい  
る。[交フオ報]



**command** 2004 (平成16) 年 9 月 23 日版 時点の  
『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に command, commandset が  
ある。メニュー等で利用する命令を定義するものであ  
る。[WA1-20040923]



(175) Open UI HTML の利用者インターフェイス部品機能群の改善を目指す  
グループ。機能の要件を研究し、現行仕様への追加・変更案を取りまとめ、実装  
実験をしつつ WHATWG(414)や CSS WG に提案している。Microsoft の社員ら  
が中心的に活動している。

2011(平成23)年、Gecko<sup>(176)</sup>は `command` の実装を開発していたが、`menuitem` と改称することを決め、仕様書にも変更を提案した。[\[W3C13608\]](#) [\[Moz676236\]](#) 要素名は XUL<sup>(180)</sup>によったものと考えられる。

2011(平成23)年8月3日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の `command` は `menuitem` に改称された。これを含む `menu` 機能は実装者の意向をもとに大幅に改められた。[\[HTMLr7602\]](#)

HTML5 2009(H21)適合

**commandset** 2004(平成16)年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に `command`, `commandset` がある。メニュー等で利用する命令を定義するものである。[\[WA1-20040923\]](#)



**comment** Line Mode Browser<sup>(83)</sup> Version 1.2d は、将来の利用のためとして `comment` を実装した。1992(平成4)年2月12日より後、1992(平成4)年5月18日より前のことだった。[\[LMHistory\]](#)



1994(平成6)年3月25日の libwww 2.15 は、後方互換性のため  
(176) Gecko Mozilla<sup>(177)</sup>プロジェクトによるレンダリングエンジン<sup>(179)</sup>。Mozilla Suite<sup>(178)</sup>, Firefox<sup>(331)</sup>, XULRunner などで使われている。

(177) Mozilla (1) Netscape Navigator<sup>(329)</sup>の開発コード名で愛称。現在では Classic Mozilla ともいう。(2) オープンソース化された Netscape 製品の開発プロジェクト。(3) Mozilla Suite<sup>(178)</sup>。

(178) Mozilla Suite Mozilla<sup>(177)</sup>プロジェクトによる Web ブラウザ、MUA 等の統合製品。製品名は Mozilla だが、区別のため Mozilla Suite とも呼ばれた。同等の商用製品として Netscape 6 なども並行して公開されていた。Web ブラウザの Firefox<sup>(331)</sup>, MUA の Thunderbird などに発展した。

(179) レンダリングエンジン rendering engine Web ブラウザーの中核となるソフトウェア部品。本来の語義はレンダリング、つまり表示に関わる部分を指すが、実際には構文解析、DOM API なども含まれるほか、製品ごとの構造の違いや文脈によっても指し示される範囲はまちまちである。単体の Web ブラウザー製品としての他に、アプリ内ブラウザーのような形でも用いられ、プログラムの他の部分と一体化して利用者に Web ブラウザーと認識されないで使われることもある。

(180) XUL XML User Interface Language。Mozilla<sup>(177)</sup>の利用者インターフェイスを記述する XML 応用。Mozilla Suite<sup>(178)</sup>, Firefox<sup>(331)</sup>, Thunderbird などで利用されていた。

として `comment` を実装していた。[LWWHistory]

Mosaic や Internet Explorer<sup>(281)</sup>や WebTV<sup>(124)</sup>は実装していたが、Netscape Navigator<sup>(329)</sup>は実装していなかった。そのため Internet Explorer の独自拡張と紹介されることもあった。

1996(平成8)年11月16日付のHTML Pro<sup>(431)</sup>のDTD<sup>(194)</sup>に、`comment`, `entity`, `attrib`, `element`がある。既存の `comment`, `entity`を流用し `attrib`, `element`を追加して SGML<sup>(78)</sup>の要素名等の記述に用いることとしたものである。`element`はその説明文書自体の記述に使われている。`attrib`, `entity`も同様に名前を記述すると推測されるが、`comment`の用法は定かではない。[HTMLPro]

2010(平成22)年頃からたびたび、WHATWG<sup>(414)</sup>メーリングリストで、ブログ等のコメントのための `comment` が提案された。`article` で表現可能として却下されている。[Comment5:Richard] [Comment5:Hixie] [NEComments:Hixie]

2012(平成24)年、WHATWG メーリングリストで現行 `small` の代案として提案されたことがある。`small` がより妥当として却下されている。[ElementsFeedback]

**complexes** MathML 3.0 Content

**compose** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**cond** 2021(令和3)年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup>に  
ある。[HTMLLang]



**condition** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**condl** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



**condr** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



**conjugate** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**const** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**constraint** 平成 9 (1997) 年 9 月 24 日の論文によると、Forsdonnet<sup>(181)</sup>にある。仕様と検証の形式的記述に使う。[Forsdonnet1] [Forsdonnet2]



**content** 2004 (平成16) 年 6 月 2 日版 『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup> に `byline`, `footer`, `section`, `navigation` の構想がある。Web アプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に `navigation`, `header`, `footer`, `section`, `post`, `message`, `content`, `h` の構想がある。[WA1-20040602]



2010 (平成22) 年 9 月 3 日、『XBL 2.0』<sup>(182)</sup>で `content` が定義された。歴史的には XBL 2.0 (XML<sup>(5)</sup>版) `content`, XBL 1.0 `children` に遡る。[XBL2-20100903]

2011 (平成23) 年 9 月 12 日、『Component Model』<sup>(183)</sup> に `content` が追加された。[CMContentRendering]

2012 (平成24) 年頃、現在の `main` の別案として `content` が提案されたことがある。[SW:main]

2015 (平成27) 年 8 月、『Shadow DOM』の `content` は削除され `slot` が追加された。[W3C28561]

---

(181) Forsdonnet Formal specification document on network。「形式的記述(仕様および検証記述)に自然言語等による説明を加えた拡張された HTML」と説明されている。等式論理に基づく仕様記述言語を HTML に組み込んだもので、Emacs/W3(106)を拡張した実装があった。[Forsdonnet1] [Forsdonnet2]

(182) XBL 2.0 要素の挙動を JavaScript 等で記述する言語の 1 つ。初期は XML 応用で、HTML や XML<sup>(5)</sup>とは別ファイルとして参照する形だった。Mozilla<sup>(177)</sup>で Ian Hickson<sup>(291)</sup>を中心開発され、他の Web ブラウザー事業者も前向きに検討していた。2010 (平成22) 年の大改訂で単独言語から HTML の追加機能に改められた。XBL 2.0 として実装されることになったが、更に大掛かりな再設計により Web Components<sup>(53)</sup>に発展した。

(183) 『Component Model』 Web Components<sup>(53)</sup>の初期の仕様書。後に各機能個別の仕様書に発展した。

2019(令和元)年時点で Apple Inc. の Web サイトで用いられていた。ページ内の JavaScript によって挿入され、利用されるものだった。  
[BuyAirPods]

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。同名の他の提案とは異なる。  
[POSTHTML:MODULES]

→ maincontent, template

C

**context** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける別名例にある。  
[POSTHTML:EXP]



**cookie** Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、 cookie を実装している。イースターエッグのようなものだろう。  
[SW:cookie]



**coordinates** 2024(令和6)年 時 点 で MapML<sup>(309)</sup>にある。  
[MAPML]



**copy** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

**XHTML2** 2010(H22)

(184) XHTML 2.0 XHTML2 W3C<sup>(185)</sup>が開発していたマーク付け言語<sup>(186)</sup>。 XHTML1の後継ながらも互換性はない。2000(平成12)年頃に開発が開始されたが、方針が二転三転して難航。当初の支持者も次第に離れていった。2010(平成22)年に開発が打ち切られた。  
[SW:XHTML2] 本書では最終版に含まれるかを示した。  
[XHTML2-20101216] また、それ以前の版にのみ含まれる要素もすべて採録した。

(185) W3C World Wide Web Consortium Web 技術の標準化団体の1つ。Web やインターネットに関係する企業が会員として参画する企業コンソーシアムで、1994(平成6)年に設立後、MIT や慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC)などを拠点としていた。2023(令和5)年から米国法人となっている。平成時代初期には HTML 仕様の開発者らの活動母体として、平成時代中期には HTML をはじめとする Web 関連技術の標準化団体として機能した。現在も CSS や JavaScript 用の Web API などの標準仕様を多く開発している。

(186) マーク付け言語 markup language 計算機用の言語の種別の1つ。文章データに適宜マーク付け<sup>(19)</sup>を埋め込んだような形態のものを指すのが本来だが、XML<sup>(5)</sup>などが多方面で利用されるため説明が難しい。

**correct** 平成 9 (1997) 年 3 月付で発表された論文  
で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup>  
[電子添削]



→ @a, @d, @r, del, edit, ins, s

**cos** MathML 3.0 Content

C

**cosh** MathML 3.0 Content

**cot** MathML 3.0 Content

**cOTH** MathML 3.0 Content

**credit** 1995 (平成 7) 年 3 月 1 日 版  
『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に credit がある。注釈によれば 1995 (平成 7) 年 2 月 22 日に fig と組み合わせて画像



に、1995 (平成 7) 年 3 月 1 日に bq, blockquote と組み合わせて引用文に適用できるようになった。[HTML3-19950301]

1995 (平成 7) 年 9 月 21 日版 HTML 2.1E<sup>(187)</sup> DTD、1995 (平成 7) 年 11 月 22 日版 HTML 2.1E に caption, credit がある。[HTML21E19950921] [HTML21E19951122]

1995 (平成 7) 年 12 月 20 日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>は、将来拡張案として credit を示している。[HTML3LE19951220]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において credit を実装していた。

2008 (平成 20) 年 11 月 30 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の文書ソース注釈に、 figure 用に credit を使う構想が追加された。[HTMLr2484]

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

借用先 NITF(340)

→ address, figcaption

---

(187) HTML 2.1E HTML 2.1<sup>(118)</sup> の拡張案。[HTML21E19951122] 後に一部は HTML 2.x<sup>(122)</sup> に取り込まれ、残りは『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup> に発展した。

**cryptopts** 1996（平成8）年2月、S-HTTP<sup>(165)</sup>



の利用のため certs, cryptopts が提案された。  
[SHTML00] 証明書と暗号オプションを指定できる。

1999（平成11）年8月、RFC 2659として発行された。[RFC2659]

→ resource

**cs** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

C

**csaction** 平成時代中期頃、GoLive



CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

**csactiondict** 平成時代中期頃、GoLive



CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

2005（平成17）年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、csscriptdict, csactiondict, csobj などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]

**csactionitem** 平成時代中期頃、GoLive



CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

---

(188) GoLive CyberStudio Adobe GoLive Web サイト編集ソフトウェア。買収により Adobe 製品となった。1997（平成9）年に最初の版が発売された。2008（平成20）年に販売終了となった。



**csactions** 平成時代中期頃、GoLive CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

C

**csc** MathML 3.0 Content

**csch** MathML 3.0 Content



**csimport** 平成時代中期頃、GoLive CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]



**csobj** 平成時代中期頃、GoLive CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、**csscriptdict**, **csactiondict**, **csobj** などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]



**csscriptdict** 平成時代中期頃、GoLive CyberStudio<sup>(188)</sup>は、JavaScript コードを含む HTML 片を生成する際に、それらの再編集に必要な情報を独自の要素で記述していた。現在多くの Web ページに痕跡を残している。[SW:cs\*]

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、**csscriptdict**, **csactiondict**, **csobj** などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]

**csymbol** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**cufon** 2019（令和元）年時点の調査によると、1万以上のWebページがcufon, cufontextを使っていた。2008（平成20）年公開のライブラリーが使っていたものという。[ALMANAC2019:Markup]



**cufontext** 2019（令和元）年時点の調査によると、1万以上のWebページがcufon, cufontextを使っていた。2008（平成20）年公開のライブラリーが使っていたものという。[ALMANAC2019:Markup]



**curl** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**cursor** SVG 1.1

**data** 1995（平成7）年5月頃、Sun Microsystems Inc.はapplet, param, data仕様案を公表した。それまでappのHTML仕様への追加提案を準備していたが、SGML DTDで記述できないため改めたのだという。[AppletProposalTerry]



2009（平成21）年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]

2011（平成23）年10月29日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>のtimeは削除され、dataが追加された。<sup>(189)</sup> 現行仕様である。[HTMLR6783]

現行の要素である。

**HTML Standard** 適合 / Ordinary

→ m, money, nr, number

**datagrid** 2004（平成16）年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、後のdatagrid, datatreeに当たる構想が示されていた。これ以前から文書ソース注釈に構想があった。更に前には『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>に



(189) これをきっかけにW3C HTML WG<sup>(312)</sup>の議事は紛糾、以後WHATWG<sup>(414)</sup>『HTML Standard』<sup>(7)</sup>とW3C<sup>(185)</sup>『HTML 5.0』<sup>(191)</sup>は完全に分裂した。[SW:time]

も一時構想が示されていた。[WA1-20041208]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』に **datagrid** がある。また、**datatree** の構想が示されている。2004(平成16)年12月8日より後に追加されたものである。[WA1-20050901]

D 2009(平成21)年6月19日、WebKit<sup>(155)</sup>は **datagrid** の実装に着手したが、改善が必要で『HTML5』<sup>(191)</sup>とは異なるものになりそうだとした。[WK26545]

2009(平成21)年8月7日、『HTML5』の **datagrid** は再設計が必要として本文から文書ソース注釈に変更された。[HTMLr3555]

2010(平成22)年10月22日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>から **datagrid** は完全に削除された。[HTMLr5644]

**datalist** 2004(平成16)年6月30日、Ian Hickson<sup>(291)</sup>は WHATWG<sup>(414)</sup> メーリングリストへの投稿で **datalist** 案を示した。これと前後して、遅くても2004(平成16)年7月7日までに、『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>に **datalist** が追加された。現行仕様である。[Hixie20040630]

2008(平成20)年9月4日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に **datalist** が追加さ

---

(190) 『Web Forms 2.0』 HTML のフォームの新機能を定める仕様書。Web Forms 1.0 を HTML4(394)のフォーム機能とし、それを拡張する形を採る。『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>と共に HTML5<sup>(191)</sup>と呼ばれた。その後『Web Applications 1.0』改め『HTML5』に統合された。

(191) HTML5 HTML 5 HTML 5.0 (1) 21世紀初頭頃、XHTML1を俗にHTML5/HTML 5.0と言ったり、HTML5は存在せず XHTML1がそれに当たると言ったりすることがあった。(2)『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>と『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>を合わせて通称で HTML5 と言われた。(3) 2007(平成19)年5月、『Web Applications 1.0』が『HTML 5』と改称された。後に『HTML5』となった。(4)『HTML 5』で規定される HTML 構文が(XHTML5に対し) HTML5 と定義されていた。現在は単に HTML という。(5) WHATWG<sup>(414)</sup>との決裂後 W3C<sup>(185)</sup>も独自の『HTML5』を発行し続けた。独自の加除・編集が多数加えられ、WHATWG版と技術的に異なるものがW3C勧告<sup>(395)</sup>となった。区別のための便宜上『HTML 5.0』ともいう。(6) 2008(平成20)年頃からバズワード化し、Web関連の新機能の大半は「HTML5」と呼ばれた。[SW:HTML5] 本書では『HTML5』と題した仕様書の最終期に当たる2009(平成21)年12月時点での定義された要素に、著者<sup>(52)</sup>の利用が認められたものは「適合」、認められなかったものは「廃止」と示した。

れた。[HTMLr2150]

現行の要素である。

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

**datatemplate** 2007 (平成19) 年 9 月 19 日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>に `datatemplate`, `rule`, `nest` が追加され  
た。雛形機能を提供する。[HTMLr1019]



→ `template`

**datatree** 2004 (平成16) 年 9 月 23 日版時点の  
『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、後の `datagrid`,  
`datatree` に当たる構想が示されていた。これ以前から文  
書ソース注釈に構想があった。更に前には『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>に  
も一時構想が示されていた。[WA1-20041208]



2005 (平成17) 年 9 月 1 日版『Web Applications 1.0』に `datagrid`  
がある。また、`datatree` の構想が示されている。2004 (平成16) 年  
12 月 8 日より後に追加されたものである。[WA1-20050901]

**date** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装  
の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から  
GML で使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にあ  
る。[ISO8879]

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にあ  
る。[SGMLguid]

1992 (平成4) 年 6 月 11 日付ファイルの HTRQ<sup>(192)</sup> 案に `date`,  
`header`, `like` がある。`date`, `header` とも HTML のものとは異なる。  
[HTRQ]

1992 (平成4) 年 12 月 2 日付の Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup> の Web ペー

---

(192) HTRQ HTTP の要求条件記述形式として提案されていたもの。  
HTML の拡張とは意識されなかった可能性も高いし、SGML<sup>(78)</sup>のつもりだった  
かも明らかではないが、HTML と共に WWW 公式サイトの `MarkUp` ディレク  
トリーで公開されたものであり、参考までに示しておく。

D

ジに `date` 要素の構想がある。文書の作成、編集、失効の日時を表す。  
[FuturePlans]

1993(平成5)年12月6日、Roy T. Fielding<sup>(193)</sup>は、`owner`, `expires` を提案した。<sup>[MOMRoy1] [MOMRoy2]</sup> 1993(平成5)年12月6日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>は、『HTML+』<sup>(72)</sup>への追加意向を表明した。<sup>[MOMDave1]</sup> 1993(平成5)年12月6日、Dave Raggett は、`owner`, `date` に改めた上で DTD<sup>(194)</sup>追加案を示した。<sup>[MOMDave2]</sup> 現在の `meta` に当たる。

1995(平成7)年8月15日版 HTML 2.x<sup>(122)</sup>に、`date`, `time` がある。日付と時刻を表す。<sup>[HTML2x-00]</sup>

『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で書誌情報の記述に使われている。<sup>[SW:pg\*]</sup>

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`date`, `time` の構想が示されていた。

2004(平成16)年12月10日版『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>の文書ソース注釈に、将来構想として `date`, `time`, `number` がある。<sup>(195)</sup>整形表示に用いる想定だった。

平成18(2006)年2月24日時点の『Web Applications 1.0』文書ソース注釈内の作業予定に、`t` がある。<sup>(196)</sup> [SW:WA1]

→ `year`

**dc** 2009(平成21)年9月15日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の構文解析器に、将来の利用のためとして `dc`, `ds` が追加された。<sup>[HTMLr3859]</sup> 用途は規定されていなかった。`ds` は `dialog` との併用が想定されていた。<sup>[SW:ds]</sup> 2009(平成21)年9月29日、未規定要素の事前追加は不評だったとして、`dc`, `ds` は削除された。<sup>[HTMLr4022]</sup>

---

(193) Roy T. Fielding HTTP の開発の中心人物の1人。REST 体系様式の提唱者としても知られる。

(194) DTD document type definition 要素の定義などを SGML<sup>(78)</sup>のマーク付け宣言<sup>(18)</sup>として記述したもの。

(195) 2004(平成16)年7月15日版にはまだなかった。

(196) 平成18(2006)年2月17日時点ではまだ `date`, `time` だった。

**dd** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

D

1990(平成2)年12月7日付ファイルにあるのが現存最古の用例である。[SW:HTML1991]

2004(平成16)年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、**dl**, **dt**, **dd**の用法の明確化の規定が含まれている。[WA1-20041208]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(104)</sup>にある。[WA1-20050901]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n 2001(H13) Core Modules ▶ List Module 必須 XHTMLBasic 2000(H12)

XHTML-Print 2006(H18) XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)

XHTML List Module HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, hnf<sup>(237)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>

→ dialog

---

(197) DTBook DTB<sup>(198)</sup>の文章用 XML 応用。[Z39.86-2002] 当時の HTML DTD に多くの改変を加えた独自の DTD<sup>(194)</sup>を定めている。

(198) DTB Digital Talking Book。視覚障害者等のための読み上げ装置用の電子書籍形式の 1 つ。[Z39.86-2002]

**ddot** 1995（平成7）年3月5日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>で `term` が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`, `hat`, `tilde`, `t`, `bt` が追加された。`b` も使えるとされている。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

D [HTML 3.0](#) 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**declaration** 1998（平成10）年4月発表の `displets`<sup>(199)</sup> 機能案の実例として Z 記法用の SGML DTD の語彙が使われた。HTML と混在させて用いることができた。[DISPLETS1998]



**declare** MathML 3.0 Content, 4.0 Content Legacy

**decompress** 2011（平成23）年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>が HTML.next<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にある。[HTML.next]



**decorator** 2011（平成23）年11月19日、『Component Model』<sup>(183)</sup> 説明書に `decorator` が追加された。[CM:AddedExplainer]



**decpart** 1998（平成10）年4月発表の `displets`<sup>(199)</sup> 機能案の実例として Z 記法用の SGML DTD の語彙が使われた。HTML と混在させて用いることができた。[DISPLETS1998]



**default** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]



(199) `displets` HTML 拡張の枠組として提案されたもの。独自の要素とその挙動などを HTML 文書中に著者(52)が記述できるものだった。現在の Web Components(53)に当たる。

**default\_column** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**default\_css** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**default\_font** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**default\_heading\_font** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**default\_text\_combine** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



---

(200) 電子書籍交換フォーマット 日本政府の総務省委託事業により制作された平成 23 (2011) 年 3 月 31 日付『電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト【調査報告書】』が定める形式。本文データ形式は XHTML(201)を基にしたとされ、 html を文書要素(202)とする。当時の日本市場で使われていた電子書籍形式のうち XMDF とドットブック/TTX(25)に変換できる形式として設計された。実験実装もされたという。[交フォ報] その後 IEC 62448 : 2013 の附属書で ESP として規定された。

(201) XHTML Extensible HyperText Markup Language。 HTML を XML(5)構文で表したもの。 HTML4(394)に近い XHTML1 と、互換性のない XHTML2(184)に大別される。また、『HTML5』(191)仕様書に於ける XHTML1 相当のものを XHTML5 といった。20 世紀末頃には、これからは XML の時代であり、 HTML4 から XHTML1 へ、そして XHTML2 へと移行してゆくのだとの将来像が描かれていた。が、技術的にも政治的にも実現し得なかつた。2016 (平成28) 年、 XHTML という用語に特に必要性がないとして廃止された。[HTML:XMLXHTML] XML 構文の HTML という機能自体は廃止されていないが、利用される場面は限られている。

(202) 文書要素 document element 文書の最も外側の要素。歴史的にはともかく、現在の HTML では常に html である。[HTML]

D

**default\_text** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版  
**style** 電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に  
local\_setting やその子要素各種がある。[交換規]



**definition-src** SVG 1.1

**defs** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**degree** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**del** 1995 (平成 7) 年 2 月 22 日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>に、ins, del が追加された。[HTML3-19950301]



1997 (平成 9) 年 7 月 8 日、『HTML 4.0』に、ins,  
del が追加された。[HTML4-19970708:text]

2005 (平成 17) 年 4 月 15 日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、  
bdo, ins, del が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準  
/ Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Text Extension Modules • Edit Module

XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Legacy Edit Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BML<sup>(84)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>

→ @a, @d, @r, correct, edit, mark, removed

**delete** 2009 (平成 21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**desc** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**description** 1994 (平成 6) 年 4 月 25 日、Dan  
Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題し  
た実験ファイルの 1 つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]



2000 (平成 12) 年 10 月 20 日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追  
加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。[M12N20010410]

→ a

**details** 2006 (平成18) 年 7 月 6 日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>に **details** が追加された。構想はそれ以前  
から示されていた。現行仕様である。[HTMLr77]



現行の要素である。

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ summary

D

**determinant** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**device** 2009 (平成21) 年 12 月 11 日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup> に **device** が追加された。現在の  
navigator.getUserMedia メソッドに当たる。<sup>(203)</sup> [HTMLr4439]



2011 (平成23) 年 3 月 14 日、『HTML Standard』から **device** が削除され、**PeerConnection** インターフェイスが追加された。  
[HTMLr5945]

→ bb

**dfn** 1988 (昭和63) 年 5 月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に  
@code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var, @cite,  
@emph, @strong, @b, @i がある。[TEXINFO11]



1993 (平成5) 年 1 月 6 日、HTML に **code**, **samp**, **kbd**, **key**,  
**dfn**, **var**, **cite**, **em**, **tt**, **strong**, **b**, **i**, **u** が追加された。<sup>(113)</sup> GNU  
Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

(203) 『HTML5』<sup>(191)</sup>から版番号のない『HTML』に改められ、Living Standard<sup>(204)</sup>開発モデルに移行した HTML の最初の新機能として追加された。

(204) Living Standard 版番号で区別される「完成」した標準仕様書の出版を目指すのではなく、実装や市場の変化と協調しながら永続的に標準仕様書を改善していく開発モデル。WHATWG<sup>(414)</sup>が『HTML Standard』<sup>(7)</sup>で初めて採用した。類似例は皆無でもなかったが、伝統的な標準化団体の開発モデルと違うため反発も多かった。

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にあ  
る。[HTML+19931028]

1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にあ  
る。[HTML3-19941130]

1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTDにあ  
る。[HTML3-19950301]

D

2005（平成17）年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に  
abbr, dfn が追加された。現行仕様に近いが違いもある。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra HTML+ 1993 (H5)/11/8 ;  
1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

HTML3.2 1997 (H9) HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Inline Phrasal  
Module XHTML Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)



di 2005（平成17）年5月27日の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>WDで di が追加された。[XHTML2-20050527] 現在の div

に当たる。名前空間は紆余曲折を経て最終版では HTML  
名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。

XHTML2 2010 (H22) XHTML List Module



dialog 2006（平成18）年12月8日、HTML5<sup>(191)</sup>に dialog が追加された。対話を表す。[HTMLr417] 対話記述法を巡る長年の論争に終止符を打つかに思われたが、か  
えって活発になった。

2009（平成21）年9月15日、『HTML5』から dialog が削除され  
た。[HTMLr3859]

2011（平成23）年6月15日、Ian Hickson<sup>(291)</sup>はダイアログ機能の  
調査研究を開始した。[WHATWGWiki:Dialogs]

2011（平成23）年6月23日、Ian Hicksonはラフ案を『WHATWG Wiki』に記載した。[\[WHATWG Wiki:Dialogs\]](#) 現行 dialog の初出である。

2012（平成24）年4月10日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に dialog が追加された。現行仕様である。[\[HTMLR7050\]](#)

2012（平成24）年12月10日の Ian Hickson の IRC の発言によると、Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査で対話を表す dialog が少なからず見つかったが、『HTML5』からの削除後は減少しているという。[\[whatwg20121210\]](#)

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
→ dc, dd, ds, dt

**dialogue** 2009（平成21）年6月1日の  
『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [\[DTHTML6\]](#)



**dict\_item** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**diff** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**digital-read** 2018（平成30）年の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[\[HTMLasPL\]](#)



**digital-write** 2018（平成30）年の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[\[HTMLasPL\]](#)



**dir** 1992（平成4）年の Line Mode Browser<sup>(83)</sup>  
Version 1.2a<sup>(205)</sup>は、将来の利用のためとして、menu,  
dir を実装した。[\[LMHistory\]](#)



初期の Web ブラウザーには ul と menu, dir で挙動が違うものが  
<sup>(205)</sup> 1992（平成4）年2月12日より後、1992（平成4）年5月18日より前。

あったともいはが、いつしか表示上の区別もなくなり、使い分けがいまいちはっきりしなくなっていた。

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[\[HTMLr358\]](#)

2009(平成21)年7月31日、『HTML5』で `dir` の処理が規定された。[\[HTMLr3502\]](#)

HTML 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Mainstream

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1994(H6)/4/5 HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Transitional / Frameset

XHTML1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTMLm12n 2001(H13)

Legacy Module 非推奨 HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special

→ `bidi`

discard SVG Tiny 1.2, 2.0

dispatch 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は

XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

XHTML2 2010(H22) XForms Module

dispatchEvent 2009(平成21)年、『XHTML

2.0』<sup>(184)</sup>は『XML Events 2』<sup>(206)</sup>の XML Handlers を HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。イベントハンドラーを記述する。[\[SW:XHTML2\]](#)

XHTML2 2010(H22) XML Handlers Module

div 1995(平成7)年1月12日、Joe English は

ietf-html<sup>(147)</sup> メーリングリストで、`div1` 方式や `section` 方式と比較しつつ、HTML にはより柔軟な `div` 方式がよいと提案した。章節構造から出発しつつも、見出しを必須としないことで、`center` の用法もカバーできるものとい

(206)『XML Events 2』『XML Events』の改訂版。 XHTML2 WG によって開発された。[\[XEV20081223\]](#)『XML Events』の機能に XML Handlers や XML Scripting が追加されている。いずれも XHTML 2.0(184)の一部としても取り込まれている。



う。[HTMLScaleJoe]

1995(平成7)年2月9日、『HTML3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に

が追加された。章節、概要、付録の他、**banner**の意味にも使える。  
[HTML3-19950301]

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第14位が

だった。  
[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。  
[HTMLr358]

2006(平成18)年12月22日、『HTML5』はi, b, divを追加した。i, bは新たな意味で再定義された。現行仕様である。  
[HTMLr456]

現行の要素である。

HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9)

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Block Structural Module XHTML\_Basic 2000(H12) XHTML\_Print 2006(H18)

XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Structural Module

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JIS X 4052(244), LeXML(296), tdf(342), TTML(392), XBL 2.0(182), XMLspec(173), yhtml(347)

→di, fn, mediaelementwrapper

**div1** 1994(平成6)年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。  
[HTML+19940105] 現在のsectionに当たるが、開始タグと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。

1994(平成6)年8月1日時点では、Emacs/W3<sup>(106)</sup>はdiv1等を実装していた。  
[E/W3-2.1p46]

1995(平成7)年1月12日、Joe Englishはietf-html<sup>(147)</sup>メーリングリストで、div1方式やsection方式と比較しつつ、HTMLにはより柔軟なdiv方式がよいと提案した。章節構造から出発しつつも、見出しを必須としないことで、centerの用法もカバーでき



るものという。[HTMLScaleJoe]

1997(平成9)年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[WG8n1935]

HTML+ 1994(H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000(H12) Preparation  
→ divn

D

**div2** 1994(平成6)年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup>

DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。[HTML+19940105]現在のsectionに当たるが、開始タ



グと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。

1997(平成9)年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[WG8n1935]

HTML+ 1994(H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000(H12) Preparation

**div3** 1994(平成6)年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup>

DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。[HTML+19940105]現在のsectionに当たるが、開始タ  
グと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。



1997(平成9)年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表

(207) ISO-HTML ISO/IEC JTC 1/SC 34(208)が開発したHTMLの仕様。SGML<sup>(78)</sup>や関連仕様を担当しているSC 34は、普及が進むSGML応用の1つであるHTMLを規格化しようと計画した。当初案は同時期にW3C<sup>(185)</sup>で制定された『HTML4』<sup>(394)</sup>と違いがあり、審議を通過しなかった。そのため『HTML4』の機能を一部制限したものに再構成され、正式なISO/IEC国際標準として制定された。[ISOHTML2000] [ISOHTML2003]『HTML4』と非互換な制約は準備<sup>(360)</sup>と称して別文書で同時公開された。[ISOHTMLUG2000] [ISOHTMLUG2003]しかし『HTML4』にない有意義な情報はなく、著者<sup>(52)</sup>にもWebブラウザー事業者等にもほとんど参照されなかった。ただ一部の日本のWeb制作業者らには愛用された。[SW:ISO-HTML]本書は国際標準版に含まれるものを「標準」、準備に含まれるものを「Preparation」と示した。また、現存最古の1997(平成9)年3月27日版に含まれるかを示した。[ISOHTML19970327]

(208) ISO/IEC JTC 1/SC 34 SGML<sup>(78)</sup>および関連規格を担当するISO/IEC<sup>(418)</sup>の委員会。

す。[WG8n1935]

HTML+ 1994 (H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000 (H12) Preparation

**div4** 1994（平成6）年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。[HTML+19940105] 現在のsectionに当たるが、開始タグと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。



1997（平成9）年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[WG8n1935]

HTML+ 1994 (H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000 (H12) Preparation

**div5** 1994（平成6）年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。[HTML+19940105] 現在のsectionに当たるが、開始タグと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。



1997（平成9）年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[WG8n1935]

HTML+ 1994 (H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000 (H12) Preparation

**div6** 1994（平成6）年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。[HTML+19940105] 現在のsectionに当たるが、開始タグと終了タグは省略可能で、SGML構文解析器により補完される。



1997（平成9）年10月14日版『ISO-HTML』<sup>(207)</sup>にdiv1, div2, div3, div4, div5, div6がある。章節のうち見出しに続く部分を表す。[WG8n1935]

HTML+ 1994 (H6)/4/5 Core ISO-HTML 2000 (H12) Preparation

**divergence** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**divide** 2018 (平成30) 年の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]  
MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**divn** div1 等を総称して divn と書くことがある。  
このままの要素名ではない。



**dl** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実装の標準  
のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使  
われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にあ  
る。[ISO8879]

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にあ  
る。[SGMLguid]

1990 (平成2) 年 12 月 7 日付ファイルにあるのが現存最古の用例で  
ある。[SW:HTML1991]

1993 (平成5) 年 6 月 2 日、『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に dl を使っ  
た表機能が追加された。<sup>(209)</sup> [HTML+19930602:Dave]

2004 (平成16) 年 9 月 23 日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>  
に、 dl, dt, dd の用法の明確化の規定が含まれてい  
る。[WA1-20041208]

2005 (平成17) 年 4 月 11 日、『Web Applications 1.0』に ul, dl  
が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6

HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0

1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

(209) 1993 (平成5) 年 3 月 28 日以来、Dave Raggett<sup>(132)</sup>を中心に HTML の  
表機能の実現方法が検討されていた。当時の版は現存が確認されておらず詳細は  
不明。

XHTML\_m12n 2001 (H13) Core Modules → List Module 必須  
XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18) XHTML\_1.1 2001 (H13)  
XHTML2 2010 (H22) XHTML List Module HTML5 2009 (H21) 適合  
HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, hnf<sup>(237)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>

→ headers

**do** 2001 (平成13) 年 6 月 8 日、『XHTML Events Module』<sup>(76)</sup>に **do** が追加された。 **onevent** と共にイベントハンドラーを表す。 [XHTMLEv20010608]



D

**document** 1992 (平成4) 年 11 月 19 日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、文書の「body」の大部分を含める **document** 要素を新設するのがよいとした。別案として、要素名を **body** とし、対になる **heading** を追加することも提案した。 [DTDIssuesDan]



Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はそれに対する返信で、後者案に賛同した。 [DTDIssuesTim] このとき編集されたと思われる Web ページでは、後者案をもとに Header と Body と書いている。 <sup>(136)</sup> [FuturePlans]

→ header

**domain** 1992 (平成4) 年 4 月 16 日付ファイルの HTTP 応答仕様案にある。 <sup>(134)</sup> [HTTPEx1]



MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**domainofapplication** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**doneinput** 1992 (平成4) 年 11 月 13 日、Kevin Hoadley は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、**isindex** の改良として **input**, **doneinput** を提案した。 **doneinput** は提出ボタンを表す。 [ISINDEXDocs]



→ button

**dot** 1995(平成7)年3月5日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>で `term` が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`, `hat`, `tilde`, `t`, `bt` が追加された。`b` も使えるとされている。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

D 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。[DTHTML6]

HTML 3.0 1995(H7)/3/24; 1995(H7)/3/28

**down** 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。[DTHTML6]



**ds** 2009(平成21)年9月15日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の構文解析器に、将来の利用のためとして `dc`, `ds` が追加された。[HTMLr3859] 用途は規定されていなかった。`ds` は `dialog` との併用が想定されていた。[SW:ds] 2009(平成21)年9月29日、未規定要素の事前追加は不評だったとして、`dc`, `ds` は削除された。[HTMLr4022]



**dt** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990(平成2)年12月7日付ファイルにあるのが現存最古の用例である。[SW:HTML1991]

2004(平成16)年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>

に、`dl`, `dt`, `dd` の用法の明確化の規定が含まれている。  
[WA1-20041208]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』にある。<sup>(104)</sup>  
[WA1-20050901]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6  
HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict  
HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1  
HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n  
2001(H13) Core Modules ・ List Module 必須 XHTML Basic 2000(H12)  
XHTML-Print 2006(H18) XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
XHTML List Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML  
構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), hnf(237), JepaX(285), JIS X  
4052(244), LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172), tdf(342)  
→ dialog, legend

**dynamic** 1996(平成8)年6月21日、HTTP  
キャッシュの制御のため dynamic, template, args,  
variable が提案された。  
[HTTPDelta] [HTTPDeltaOld]



**e** 2021(令和3)年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup> にある。  
[HTMLLang]



**each** PostHTML<sup>(365)</sup> が HTML と称するものにある。  
[POSTHTML:EXP]



**edit** 平成9(1997)年3月付で発表された論文で、  
編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> [電子添削]  
→ @a, @d, @r, correct, del, ins, s



(210) ENML Evernote が利用しているマーク付け言語(186)。 XHTML 1.0(45)  
の一部を流用している。[ENMLDTD]

**editor** 平成 19 (2007) 年 1 月 23 日時点でかつて author, editor, isbn, emph, opt, pub が提案または利用された事例があったと記録されているが、詳細不明。[SW:pub]



2011 (平成23) 年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>が HTML.next<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にある。[HTML.next]

**editr** 平成 9 (1997) 年 3 月 21 日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S 式を記述する。



**el** MathML 3.0 Content

**element** 1996 (平成8) 年 11 月 16 日付の HTML Pro<sup>(431)</sup> の DTD<sup>(194)</sup>に、comment, entity, attrib, element がある。既存の comment, entity を流用し attrib, element を追加して SGML<sup>(78)</sup>の要素名等の記述に用いることとしたものである。element はその説明文書自体の記述に使われている。attrib, entity も同様に名前を記述すると推測されるが、comment の用法は定かではない。[HTMLPro]

2011 (平成23) 年 11 月 19 日、『Component Model』<sup>(183)</sup>仕様案説明書に element が追加された。カスタム要素<sup>(51)</sup>を定義するものだった。[CM:AddedExplainer]

→ \*-\* , tag

**ellipse** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**else** 2021 (令和3) 年 4 月 6 日の HTMLLang<sup>(128)</sup>に ある。[HTMLLang]



2021 (令和3) 年の html-lang<sup>(278)</sup>にある。[HTMLLang]

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]

---

(211) Emacs-w3 Red 平成 9 (1997) 年頃、Emacs/W3(106)を拡張して S 式の簡約 (reduction) 機能を実装したもの。[E/W3Red]

**elseif** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[\[POSTHTML:EXP\]](#)



**elsewhen** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[\[POSTHTML:EXP\]](#)



**em** 1992(平成4)年3月の L<sup>E</sup>T<sub>E</sub>X<sup>(232)</sup> 2.09 に \em, \ttt がある。[\[LATEX209\]](#)



1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5 に代わる新要素群の案を提示した。[\[DTDIssuesDan\]](#) 後に em, tt, cite などが追加され hp1 などは廃止された。

1992(平成4)年12月8日のDan Connollyのwww-talkへの投稿によると、Dan Connollyは GNU Texinfo<sup>(169)</sup>から HTML に em<sup>(171)</sup>, strong, code, file, cite 等を追加しようとしていた。[\[UseSGMLKbd\]](#)

1993(平成5)年1月6日、HTMLに code, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, u が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [\[HTML19930106:Dan\]](#) [\[SW:語句化内容\]](#)

1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に em がある。b, sub, tt などは独立した要素ではなく em の属性とされていた。1993(平成5)年6月2日版の『HTML+』DTD<sup>(212)</sup>公表時に、直近の議論を承けて 1 つの要素にまとめたと説明している。[\[HTML+19930602:Dave\]](#)

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』にある。[\[HTML+19931028\]](#)

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD にある。[\[HTML3-19950301\]](#)

---

(212) 現存は確認されていない。

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`em`, `strong`の明確化が必要な旨の注釈がある。[WA1-20041208]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra

HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTMLm12n 2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal Module XHTMLBasic 2000 (H12) XHTMLPrint 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Formatting

借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>, WML1<sup>(141)</sup>, XMLspec<sup>(173)</sup>

→ `emph`, `hi`, `htmllite`

**embed** 1993 (平成5) 年 3 月 2 日、 Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、 `img` への

対案として汎用化した `include` ないし `embed` の案を提示した。 [ProposedIMG:TBL]

1993(平成5)年6月2日、『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に `embed` が追加された。<sup>(213)</sup> [HTML+19930602:Dave] `figdata` として提案されていたものである。現存最古の1993(平成5)年7月13日版『HTML+』DTDで確認できる。内容に任意の8ビットデータを含められる。数式や単純な図を使う想定だった。 [HTML+19930713]

1994(平成6)年時点では、 Emacs/W3<sup>(106)</sup>は `embed` をある程度実装していた。 [E/W3-2.1p46]

1995(平成7)年頃、Netscape Navigator 2.0は、`embed` を実装した。NPAPI<sup>(214)</sup>プラグインやOLE対応アプリケーションの文書を

(213) 現存は確認されておらず、詳細不明。

(214) NPAPI Web ブラウザのプラグイン用の API。 Netscape Navigator<sup>(329)</sup>などが実装していた。 RealAudio, Shockwave Director, Flashなど多数のプラグインが `embed` と NPAPI を介して Web ブラウザ内に表示されて動作した。

埋め込み表示する。前後して Netscape Communications Corporation は、HTML 3.0<sup>(105)</sup>の新機能として `embed` を提案した。[\[NSHTML3Proposals\]](#) 1995（平成7）年9月19日、Netscape Communications Corporation は、www-html<sup>(215)</sup>に仕様案を投稿した。[\[EmbedProposal\]](#)『HTML+』の `embed` とは互換性がない。

1995（平成7）年9月21日版 HTML 2.1E<sup>(187)</sup> DTD に `embed`, `param` がある。[\[HTML21E19950921\]](#) 1995（平成7）年11月22日版 HTML 2.1E に `embed`, `param` がある。`img`, Netscape の `embed`, Sun Microsystems の `app`, `applet` を統一、拡張するものと銘打っていた。[\[HTML21E19951122\]](#) Netscape の `embed` とは互換性がない。

2005（平成17）年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [\[WA1-20050901\]](#)

2006（平成18）年11月1日、『Web Applications 1.0』に、`iframe`, `embed`, `object`, `param`, `map`, `area` が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr236\]](#) [\[HTMLr238\]](#) [\[HTMLr240\]](#)

現行の要素である。

HTML+ 1993 (H5)/7/13 HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML 構文解析器 / Special

→ `alias`, `embed.body`, `embeded`, `enbed`, `insert`, `noembed`, `sound`

**embed.body** 1995（平成7）年9月21日版 HTML 2.1E<sup>(187)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`embed.body` がある。[\[HTML21E19950921\]](#) 1995（平成7）年11月22日版 HTML 2.1E に `embed.body` がある。フォールバック内容のための要素とされるが、混合内容問題<sup>(404)</sup>回避のためのものである。[\[HTML21E19951122\]](#) 前後の版の `bodytext` に当たる。

→ `embed`, `figtext`




---

(215) www-html W3C<sup>(185)</sup>の公開メーリングリストの1つ。20世紀末頃、HTMLの標準化に関する情報交換などが行われた。[\[SW:www-html\]](#)



E

**embeded** 低品質の解説等で `embed` が `embeded` と紹介されることが稀にある。[SW:embeded]

**emoji** 平成 19 (2007) 年 6 月 13 日時点で `emoji` の利用例が確認されている。ガラケー用絵文字<sup>(216)</sup>の未対応環境用表示のためのライブラリー関係と思われるが、詳細不明。[SW:emoji]

**emph** 1988 (昭和63) 年 5 月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に `@code`, `@samp`, `@kbd`, `@key`, `@file`, `@dfn`, `@var`, `@cite`, `@emph`, `@strong`, `@b`, `@i` がある。[TEXINFO11]

2005 (平成17) 年の報告によると、当時 W3C<sup>(185)</sup> の Web サイトの XML Schema 関連ファイルで `em` を `emph` と誤ったものがあった。[EmphInSchema]

平成 19 (2007) 年 1 月 23 日時点では `author`, `editor`, `isbn`, `emph`, `opt`, `pub` が提案または利用された事例があったと記録されているが、詳細不明。[SW:pub]

**emptyset** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**enable\_key\_type** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交フォ報]



**enbed** 低品質な解説等で `embed` を `enbed` と紹介したものがたまにある。[SW:enbed]



(216) ガラケー(63)各社は独自の絵文字を実装していた。シフト JIS の空き領域等に割り当てられており、Web や電子メールなどで使えた。文字そのままないし文字参照(30)(機種によりシフト JIS または Unicode)で記述した。他社絵文字と互換性がなく、パソコン等でも表示できなかった。絵文字を使うときは端末ごとに異なる Web ページを用意するか、サーバーで相互変換したり、画像に置き換えたりしていた。その後ほとんどの絵文字は Unicode に追加され、現在ではパソコンとスマートフォンを含む世界中の端末でおおむね共通して表示できるようになっている。

**end-ign** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup>に関して「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、 start-ign, end-ign, ign がある。明確な説明がないが、 D-DTD/J1 対応ソフトウェアが無視するべき「HTML ビュア」向けの記述を表すように思われる。[G-DTD]



**end\_phohibit** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版  
**char** 電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に  
local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**entity** 1996 (平成 8) 年 3 月 4 日付の Mark Buckley<sup>(224)</sup>による『DTD for Internet Explorer 2.0 HTML』に entity がある。1996 (平成 8) 年 2 月 26 日版からの変更点に記載がなく、既に含まれていたと思われる。[IE2DTD] 1995 (平成 7) 年 12 月時点の HTML 2.0<sup>(149)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に基づくと説明されているが、 HTML 2.0 DTD に entity はないので、独自の追加分である。同時期の他社の DTD にも見られない。[SW:entity]



Web 上にもほとんど情報がなく、どのような機能があったのか、そもそも実装されていたのかもはっきりしない。Internet Explorer 3.0 の独自機能として紹介されることがあるが、Internet Explorer 3.0 版 DTD に該当部分が引き継がれたことによると思われる。[SW:entity]

1996 (平成 8) 年 11 月 16 日付の HTML Pro<sup>(431)</sup> の DTD に、 comment, entity, attrib, element がある。既存の comment, entity を流用し attrib, element を追加して SGML<sup>(78)</sup>の要素名等の記述に用いることとしたものである。element はその説明文書自体の記述に使われている。attrib, entity も同様に名前を記述すると推測されるが、comment の用法は定かではない。[HTMLPro]

1998 (平成 10) 年 4 月の WWW7<sup>(217)</sup>で HTML 拡張の枠組として  
(217) Seventh International World Wide Web Conference WWW7 1998  
(平成 10) 年 4 月に開催された国際会議。

E

displets<sup>(199)</sup>が提案された。`tag`, `attr`, `entity` を使って独自の要素、属性、実体を定義できる。HotJava<sup>(101)</sup>を基に実装実験されていた。[\[DISPLETS1998\]](#)

**entry** 2004（平成16）年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の文書ソース注釈に、`entry`, `post`, `article` の構想がある。[\[WA1-20040923\]](#) 

E **envelope** 2011（平成23）年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>がHTML.next<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にある。[\[HTML.next\]](#) 

**epilogue** 1994（平成6）年4月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`prologue`, `epilogue` がある。[\[HTML+-19940405\]](#) 現在の`header`, `footer`に近いが、`body`の最初と最後に1つずつ配置できる。

[HTML+-1994 \(H6\)/4/5 Core](#)

**eq** 2021（令和3）年4月6日のHTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[\[HTMLLang\]](#) 

[MathML 3.0 Content, 4.0 Content](#)

**equivalent** [MathML 3.0 Content, 4.0 Content](#)

**etymology** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交換フォーマット\]](#) 

**euler\_gamma** [MathML 3.0 Content, 4.0 Content](#)

**event** 1995（平成7）年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>に`event`がある。`insert`を初期化するため使う。[\[HTML3LE19951220\]](#) 1996（平成8）年1月24日版DTD<sup>(194)</sup>に`event`, `script`の定義がある。<sup>(218)</sup>詳細な説明はないが、イベントハンドラーに当たるもの  
(218) 1995（平成7）年12月21日版にはない。

だったと推測される。

1996(平成8)年1月24日版『HTML3 Scripting Model』<sup>(219)</sup>に **event** がある。 **insert** と組み合わせてイベントハンドラーを記述できる。[SCRIPT19960124]

1998(平成10)年10月1日のxHTML<sup>(75)</sup>仕様案に **event**, **action**, **noaction** がある。イベントハンドラーを記述できる。[ModBroadcast]

**event-source** 2004(平成16)年4月28日、  
Ian Hickson<sup>(291)</sup>はWebログ<sup>(220)</sup>で、**event-source**を  
提案した。[SSDE]



E

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に **event-source** がある。[WA1-20040923]

2008(平成20)年7月11日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の **event-source** は **eventsource** に改称された。[HTMLr1863]

**eventsource** 2008(平成20)年7月11日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>の **event-source** は **eventsource** に改  
称された。[HTMLr1863]



2009(平成21)年2月26日、『HTML5』の **eventsource** は削除され、**EventSource** インターフェイスが追加された。[HTMLr2870]

**example** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。  
[交換フォーマット]



**exists** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**exp** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(219) 『HTML3 Scripting Model』 HTML3世代の仕様書の1つ。後にHTML4(394)に発展した。

(220) Webログ Web log Weblog Web日記(221)の英語圏での呼称。Weblogと再解釈され省略されてブログと呼ばれるようになった。

(221) Web日記 Webページを使った日記の総称。初期に自然発生し、20世紀末頃には専用のWebアプリケーション(146)も作られ始めた。まもなくして商用Webサービスも出現し、ブログサービスへと発展した。



**expires** 1993（平成5）年12月6日、Roy T. Fielding<sup>(193)</sup>は、owner, expires を提案した。  
[MOMRoy1] [MOMRoy2] 1993（平成5）年12月6日、

Dave Raggett<sup>(132)</sup>は、『HTML+』<sup>(72)</sup>への追加意向を表明した。  
[MOMDave1] 1993（平成5）年12月6日、Dave Raggettは、owner, date に改めた上で DTD<sup>(194)</sup>追加案を示した。  
[MOMDave2] 現在の meta に当たる。

E

**exponentiale** MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**expression** 2018（平成30）年 の HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。  
[HTMLasPL]



**extends** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。  
[POSTHTML:EXTENDS]



**extension** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22)



**extent** 2024（令和6）年時点で MapML<sup>(309)</sup>に extent がある。仕様書例文では map-extent も混在している。  
[MAPML]



**external-body** 1994（平成6）年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。  
[ReliableLink]

→ a

**external\_char** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版  
電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に **external\_char** がある。外字を表す。[\[交フォ報\]](#)



**face** 2006 (平成18) 年の『XLIFF 1.2』の仕様書中の HTML と XLIFF<sup>(222)</sup> の対応関係の規定に、 **face**, **symbol** がある。RobotHelp<sup>(マダ)</sup> と記載がある。RoboHelp<sup>(223)</sup>が実装していたものかとも思われるが、詳細不明。[\[XLIFF12HTML\]](#)



**factorial** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**factorof** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**fallback** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける別名例にある。[\[POSTHTML:EXP\]](#)



**false** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**favorite** 2019 (令和元) 年時点で Apple Inc. の Web サイトで用いられていた。ページ内の JavaScript によって挿入され、利用されるものだった。[\[BuyAirPods\]](#)



**feature** 2024 (令和6) 年時点で MapML<sup>(309)</sup> にある。[\[MAPML\]](#)



**featurecaption** 2024 (令和6) 年時点で MapML<sup>(309)</sup> にある。[\[MAPML\]](#)



**feBlend** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**feColorMatrix** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**feComponentTransfer** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**feComposite** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

(222) XLIFF XML Localisation Interchange File Format。翻訳テキストの記述に使われる XML 応用。

(223) RoboHelp ソフトウェア説明書の編集ソフトウェアの 1つ。XLIFF(222)に対応している。

<u><b>feConvolveMatrix</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feDiffuseLighting</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feDisplacementMap</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feDistantLight</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feDropShadow</b></u>	SVG 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feFlood</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feFuncA</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feFuncB</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feFuncG</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feFuncR</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feGaussianBlur</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feImage</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feMerge</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feMergeNode</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feMorphology</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**fencedframe** 2021（令和3）年、Googleは  
fencedframeを提案すると共にChromium<sup>(85)</sup>に実装した。  
[fenced-frame]



→ iframe, portal

<u><b>feOffset</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>fePointLight</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feSpecularLighting</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器
<u><b>feSpotLight</b></u>	SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**fetch** 1996（平成8）年3月4日付のMark Buckley<sup>(224)</sup>による『DTD for Internet Explorer 2.0 HTML』にfetchがある。1996（平成8）年2月26日版からの変更点に記載がなく、既に含まれていたと思われる。[IE2DTD] 1995（平成7）年12月時点のHTML 2.0<sup>(149)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に基づくと説明



(224) Mark Buckley Microsoft Corporation 社員。Internet Explorer<sup>(281)</sup> の開発に従事した。[IE2DTD]

されているが、HTML 2.0 DTD に `fetch` はないので、独自の追加分である。同時期の他社の DTD にも見られない。<sup>[SW:fetch]</sup>

Web 上にもほとんど情報がなく、どのような機能があったのか、そもそも実装されていたのかもはっきりしない。<sup>[SW:fetch]</sup>

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。<sup>[POSTHTML:FETCH]</sup>

→ `get`

**feTile** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**feTurbulence** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**field** 2015(平成27)年3月20日に WHATWG<sup>(414)</sup>

に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup>  
[BMHTML6] [BMHTML6:GH]



F

**fieldset** 1996(平成8)年7月10日版 Cougar<sup>(226)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>に `fieldset` がある。<sup>[HTML4-19960710]</sup>



2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈に構想が追加された。<sup>[HTMLR358]</sup>

2008(平成20)年9月3日、『HTML5』に `fieldset` が追加された。<sup>[HTMLR2143]</sup>

現行の要素である。

**HTML4** 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset **ISO-HTML** 2000(H12) 標準 / Preparation **XHTML 1.0** 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

**XHTML\_m12n** 2001(H13) Forms Modules → Forms Module

**XHTML 1.1** 2001(H13) **HTML5** 2009(H21) 適合 **HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), WML(141)

→ `lgroup, tabbox`

(225) 『HTML6』<sup>(161)</sup>は、2015(平成27)年3月20日に Bobby Mozumder が提出した文書。<sup>[BMHTML6:GH]</sup> HTML5<sup>(191)</sup>を議論しているグループに何の脈絡もなくその次の版を称する独自の仕様案を提出して如何なる成果が得られると考えていたのか疑問ではある。冗談の類<sup>(161)</sup>ではなさそうだが、かといって提出後2015(平成27)年中の数度の更新を除くと、実装や標準化に向けて具体的な行動が取られてもいない。協力者は数人いたようだ。なお、『HTML6』を称する提案は他にもあった。

(226) Cougar HTML4<sup>(394)</sup>の開発コード名。『HTML 4.0』として仕様案が公開される前に DTD<sup>(194)</sup>案が公開されていた。



**fig** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[\[DCFGML3e\]](#)

1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[\[ISO8879\]](#)

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[\[SGMLguid\]](#)

F  
1993(平成5)年6月2日、『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に**fig**が追加された。Pei Y. Wei<sup>(227)</sup>の**figure**案をほぼ踏襲したものだった。[\[HTML+19930602:Dave\]](#) 現存最古の1993(平成5)年7月13日版『HTML+』DTDで確認できる。同じDTDのと同等の機能に加え、図題、クライアント側画像写像<sup>(306)</sup>などの追加機能が備わっている。と違って内容を持つ。[\[HTML+19930713\]](#)

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』に**fig**がある。,  
**image**もあるが文字相当で、**fig**は段落相当である。**caption**で図題を記述できる。[\[HTML+19931028\]](#)

NCSA Mosaic<sup>(120)</sup>は**fig**をとほぼ同じように実装していたという。いつからかは不明。

1994(平成6)年4月7日、HTML DTDに**fig**が追加された。現在の**figure**に当たると思われる。[\(229\)](#) [\[HTML19940407\]](#)

1995(平成7)年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>に、**fig**,**caption**が将来拡張案として示されている。**insert**と併用する。[\[HTML3LE19951220\]](#) 現在の**figure**,  
**figcaption**,**object**に当たる。

---

(227) Pei Y. Wei ViolaWWW<sup>(228)</sup>の開発者。CSSの初期の設計に貢献した1人でもある。

(228) ViolaWWW 初期のWebブラウザの1つ。

(229) しかしこのとき限りに終わり、以後のHTML DTDに出現しない。

平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、 `ompe.fig` がある。また、「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、 `fig` がある。明確な規定がないが、図表等を表すらしい。[G-DTD]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、 HTML 3.0<sup>(105)</sup> の `fig` を実装していた。  
[E/W3:Supported]

1997 (平成 9) 年 4 月の Lynx<sup>(335)</sup> 2.7.1 は、 HTML 3.0 の `fig` を実装していた。[Lynx2.7.1]

日本政府の特許庁の特許出願用 HTML ファイル仕様は、 `fig` と `img` を同義としている。  
[特許庁HTML] 平成 10 (1998) 年 10 月 28 日付で民間で作成された DTD に既にある。  
[特許庁DTD] HTML 出願制度開始当初からの仕様と思われる。

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

借用先 NITF<sup>(340)</sup>

→ !pdef, !phead, !ptail, bodytext, credit, overlay, t-pdef, t-phead, t-ptail

**figa** 1993 (平成 5) 年 5 月 28 日、 Pei Y. Wei<sup>(227)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup> への投稿で、 `img` より高機能な図機能 `figure`, `figcap`, `figdata`, `figa` を提案した。外部画像データの参照の他に `figdata` を使って TeX<sup>(231)</sup> による記述もできる。  
[KeepSimplePei]



1993 (平成 5) 年 7 月 13 日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup> に `figa` があ

(230) D-DTD/J1 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日付『分散形情報共有環境における文書記述用の基準文書型定義 (G-DTD)』の附属書 1 が定める文書型。「HTML に対して互換性を保ちながら、HTML に対して日本語出版物の電子化に必要な機能が追加」されたもので「HTML ビュアを用いて表示すること」が想定されているという。[G-DTD]

(231) TeX 広く使われている組版システムの 1 つ。また、その言語。強い表現能力と高品質な仕上がりには定評がある。とりわけ数式表現に優れている。現在では L<sup>a</sup>T<sub>E</sub>X<sup>(232)</sup> を通して利用されることが多い。

(232) L<sup>a</sup>T<sub>E</sub>X TeX<sup>(231)</sup> を使った文書処理システムの 1 つ。文書の構造とその表現方法をある程度分離して記述できるという点で SGML<sup>(78)</sup> と設計思想が似ている。理工系の論文記述などに広く用いられている。

る。[HTML+19930713] 現在の `area` に当たる。

HTML+ 1993 (H5)/7/13

**figcap** 1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。HTML に直接引き継がれたものではない。[\[ISO8879\]](#)



1993 (平成5) 年 5 月 28 日、Pei Y. Wei<sup>(227)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`img` より高機能な図機能 `figure`, `figcap`, `figdata`, `figa` を提案した。外部画像データの参照の他に `figdata` を使って TeX<sup>(231)</sup>による記述もできる。[\[KeepSimplePei\]](#)

→ `figcaption`

**figcaption** 2010 (平成22) 年 1 月 30 日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に `figcaption`, `summary` が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr4636\]](#)



現行の要素である。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `caption`, `credit`, `fig`, `figcap`, `legend`, `lh`

**figd** 1993 (平成5) 年 7 月 13 日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に `figd` がある。[\[HTML+19930713\]](#) 現在の `alt` 属性に当たる。



HTML+ 1993 (H5)/7/13

→ `alt`

**figdata** 1993 (平成5) 年 5 月 28 日、Pei Y. Wei<sup>(227)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`img` より高機能な図機能 `figure`, `figcap`, `figdata`, `figa` を提案した。外部画像データの参照の他に `figdata` を使って TeX<sup>(231)</sup>による記述もできる。[\[KeepSimplePei\]](#)



→ `embed`

**figt** 1993（平成5）年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に **figt** がある。[HTML+19930713] 画像上の位置を指定して文字列等を配置できる。



HTML+ 1993 (H5)/7/13

→ *overlay*

**figtext** 1995（平成7）年3月24日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、**bodytext**, **figtext** が追加された。混合内容問題<sup>(404)</sup>回避のためとされる。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において **bodytext**, **figtext** を実装していた。[E/W3:Parse]

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24

→ *embed.body*, *textflow*

**figure** 1993（平成5）年5月28日、Pei Y. Wei<sup>(227)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、**img**より高機能な図機能 **figure**, **figcap**, **figdata**, **figa** を提案した。外部画像データの参照の他に **figdata** を使って TeX<sup>(231)</sup>による記述もできる。[KeepSimplePei]



2006（平成18）年11月28日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に **figure** が追加された。現行仕様である。[HTMLr365]

現行の要素である。

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ **!pdef**, **!phead**, **!ptail**, **caption**, **credit**, **fig**, **t-pdef**, **t-phead**, **t-ptail**

**file** 1988（昭和63）年5月時点での GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に **@code**, **@samp**, **@kbd**, **@key**, **@file**, **@dfn**, **@var**, **@cite**, **@emph**, **@strong**, **@b**, **@i** がある。[TEXINFO11]



1992（平成4）年12月8日のDan Connolly<sup>(170)</sup>のwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿によると、Dan ConnollyはGNU TexinfoからHTMLに **em**<sup>(171)</sup>, **strong**, **code**, **file**, **cite** 等を追加しようとしている。

た。 [UseSGMLKbd]

**filename** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は  
XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



XHTML2 2010 (H22)

**fill:\*** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものが  
fill: や slot: から始まる任意の要素名を使う。このま  
まの要素名ではない。 [POSTHTML:COMPONENTS]



→ slot:\*

**filter** 1992（平成4）年 4月 16 日付ファイルの  
HTTP 応答仕様案にある。<sup>(134)</sup> [HTTPEx1]



SVG 1.1, 2.0

**fireplace** 2000（平成12）年 10 月 20 日、  
『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML  
Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。 [M12N20010410]



XHTML\_m12n 2001 (H13) An Example Abstract Module Definition → XHTML  
Skiing Module 例示

**fixed** 1992（平成4）年 11 月 24 日、 Tim  
Berners-Lee<sup>(82)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、 pre への  
別案として fixed を示した。その後 pre, fixed を別機  
能で共に追加する案も示した。 [ScreenModeTim]



WorldWideWeb<sup>(40)</sup>は、 pre, fixed を実装しかけていた。その他  
にも、 fixed の実装意向などがあった。 [SW:pre]

→ typewriter

**fixed\_line\_char** 平成 23（2011）年 3 月 31 日  
版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やそ  
の子要素各種がある。 [交フォ報]



**fixture** 2015（平成27）年3月20日にWHATWG<sup>(414)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup> [BMHTML6] [BMHTML6:GH]



**fixtures** 2015（平成27）年3月20日にWHATWG<sup>(414)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup> [BMHTML6] [BMHTML6:GH]



**flame** Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、**flame**を実装していた。  
イースターエッグのようなものだろう。[E/W3:Supported]



低品質の解説等で**flameset**, **flame**, **noflame**, **noflames**, **iflame**とするものや正しい綴りと混在するものが、日本語圏に若干数ある。[SW:flameset]

→ **frame**

**flameset** 低品質の解説等で**flameset**, **flame**, **noflame**, **noflames**, **iflame**とするものや正しい綴りと混在するものが、日本語圏に若干数ある。[SW:flameset]



→ **frameset**

**floor** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**fm-spot** 平成8（1996）年6月14日のD-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、**fn-spot**, **fn-range**, **fn-text**, **idx-spot**, **idx-range**がある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に**fm-spot**がある。[G-DTD]



→ **fn, spot**

**fn** 1985（昭和60）年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

F

1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。  
[SGMLguid]

1990（平成2）年12月19日付ファイルにfnがある。CERN SGMLguidからHTMLに変換したファイルで、脚注を表している。  
[SW:HTML1991]

1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19941130] 現存未確認の1994（平成6）年11月21日版に既に含まれていたとの記録がある。  
[ErrorHTML3Earl]

1995（平成7）年2月22日、『HTML 3.0』DTDからfnは削除され、noteに統合された。  
[HTML3-19950301]

1995（平成7）年3月21日、『HTML 3.0』DTDにfnが追加された。divから分離される形の追加だった。  
[HTML3-19950324]

1997（平成9）年4月のLynx<sup>(335)</sup>2.7.1は、fnを実装していた。  
[Lynx2.7.1]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析においてfnを実装していた。  
[E/W3:Parse]

WebTV<sup>(124)</sup>は、HTML 3.0のfnを実装していた。  
[WebTV:FN]

平成12（2000）年のJIS TR X 0010：2000<sup>(233)</sup>の特定DTD<sup>(234)</sup>に

(233) JIS TR X 0010:2000『日本語組版のDSSSLライブラリ』。DSSSL<sup>(269)</sup>を使って基礎的な日本語組版機能を実装したもので、「特定DTDルール群」として特定DTD<sup>(234)</sup>と称するHTMLのようなものに適用したスタイルシートが示されている。標準情報(TR)<sup>(235)</sup>として発行された。  
[JISTRX0010-2000]

(234) 特定DTD JIS TR X 0010の用語で、HTML 3.2<sup>(127)</sup>とだけ説明されている。DTD<sup>(194)</sup>が示されているわけでも、他のDTDや仕様書が引用されているわけでもない。平成10（1998）年の旧版JIS TR X 0010：1998の「特定DTD」はW3C<sup>(185)</sup>の『HTML 3.2』の原案と特徴と一致するが、最終版に残らなかったtextflowが含まれる。  
[JISTRX0010-1998] 平成12（2000）年の新版JIS TR X 0010：2000<sup>(233)</sup>の「特定DTD」はJIS TR X 0010：1998の「特定DTD」に独自の要素が加えられているが、特に説明はされていない。  
[JISTRX0010-2000]  
[SW:特定DTD]

(235) 標準情報(TR) JIS<sup>(236)</sup>の文書の一種。正式な規格とするには熟度が低いものに用いるとされる。

(236) JIS 日本産業規格 日本工業規格 Japanese Industrial Standards。日本の産業分野の国家規格。令和元（2019）年の法改正までは日本工業規格と呼ばれた。日本産業標準調査会（JISC、旧日本工業標準調査会）で審議され、制定される。

**fn, fn-contents** がある。 **fn** は脚注の参照番号、 **fn-contents** は脚注の内容と説明されている。<sup>[JISTRX0010-2000](234)</sup> 『HTML 3.0』の **fn** とは異なる。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

借用先 NITF(340)

→ **fm-spot, fn-range, fn-spot, fn-text, footnote, margin**

MathML 3.0 Content, 4.0 Content Legacy

**fn-contents** 平成 12 (2000) 年の JIS TR X 0010 : 2000<sup>(233)</sup> の特定 DTD<sup>(234)</sup> に **fn, fn-contents** がある。 **fn** は脚注の参照番号、 **fn-contents** は脚注の内容と説明されている。<sup>[JISTRX0010-2000](234)</sup> 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> の **fn** とは異なる。



**fn-range** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 **fn-spot, fn-range, fn-text, idx-spot, idx-range** がある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に **fm-spot** がある。<sup>[G-DTD]</sup>

→ **fn, range**



**fn-spot** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 **fn-spot, fn-range, fn-text, idx-spot, idx-range** がある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に **fm-spot** がある。<sup>[G-DTD]</sup>



→ **fn, spot**

**fn-text** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 **fn-spot, fn-range, fn-text, idx-spot, idx-range** がある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に **fm-spot** がある。<sup>[G-DTD]</sup>



→ fn

**font** 1994(平成6)年頃の Netscape Navigator 1 が **font**, **basefont** を実装した。1994(平成6)年10月14日時点で既に実装・公開済みだったと推測される。  
[SW:center] [NNExts]



1994(平成6)年12月8日の ietf-html<sup>(147)</sup>会合で **font** が議論された。Netscape が実装したものの他、Alex Hopmann が類似の提案を提出した。マーク付け<sup>(19)</sup>法とスタイルシート法で対立し議論はまとまらなかった。Alex Hopmann の提案は後に c となる。  
[ietf-html-94dec]

日本政府の特許庁の特許出願用 HTML ファイル仕様は、**font** を倍角の表現のため使っている。  
[特許庁HTML] 平成10(1998)年10月28日付で民間で作成された DTD<sup>(194)</sup>に既にある。  
[特許庁DTD] HTML 出願制度開始当初からの仕様と思われる。

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第16位が **font** だった。  
[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。  
[HTMLr358]

2007(平成19)年1月12日、『HTML5』は **font** を追加した。  
WYSIWYG エディター用として再定義された。  
[HTMLr466]

2008(平成20)年4月29日、『HTML5』は **font** を削除した。新定義が甚だ不評だったことによる。  
[HTMLr1511]

HTML 3.2 1997(H9) HTML4 1997(H9) Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001(H13)  
Legacy Module 非推奨 HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard HTML構文  
解析器 / Formatting

借用先 ENML<sup>(210)</sup>, hnf<sup>(237)</sup>, TateJPN<sup>(239)</sup>, TNF<sup>(398)</sup>

(237) hnf ハイパー日記システム<sup>(238)</sup>のマーク付け言語<sup>(186)</sup>。  
[HNF] 他の Web 日記<sup>(221)</sup>系マーク付け言語の設計にも影響を与えた。

(238) ハイパー日記システム 平成時代前半頃の日本でよく利用されていた Web 日記<sup>(221)</sup>システムの1つ。

(239) TateJPN Web ページで文章を縦書き表示するためのソフトウェアの1つ。  
[TateJPN:Help]

→ `big`, `small`

SVG 1.1, Tiny 1.2

**font-face** SVG 1.1, Tiny 1.2

**font-face-format** SVG 1.1

**font-face-name** SVG 1.1

**font-face-src** SVG 1.1, Tiny 1.2

**font-face-uri** SVG 1.1, Tiny 1.2

**fontbase** `basefont` を `fontbase` と書いた解説  
や誤って利用した事案の報告が若干数ある。[SW:fontbase]



**footer** 2004（平成16）年4月7日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>に `byline`, `footer`, `section` の構想がある。要素名のみで詳細不明。[WA1-20040407]



2004（平成16）年5月3日のOpera<sup>(409)</sup>とMozilla<sup>(177)</sup>がThe W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents<sup>(240)</sup>に提出したposition paperに `byline`, `footer`, `section`, `navigation` 等の構想が示されていた。[WACDFWS:OPERA]

2004（平成16）年6月2日版『Web Applications Markup Language 1.0』に `byline`, `footer`, `section`, `navigation` の構想がある。Webアプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に `navigation`, `header`, `footer`, `section`, `post`, `message`, `content`, `h` の構想がある。[WA1-20040602]

現行の要素である。

**HTML5** 2009(H21)適合 **HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `address`, `epilogue`, `prologue`, `sig`

---

(240) The W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents  
2004（平成16）年6月1日, 2004（平成16）年6月2日に開催されたW3C(185)の国際会議。議論の結果W3C案が可決されCDFWGが設立されることになった。Opera<sup>(409)</sup>とMozilla<sup>(177)</sup>が提出した、従来のWeb技術と互換性を保ちながらのHTMLの拡張案は否決され、W3Cの外でWHATWG<sup>(414)</sup>が設立されることになる。



**footnote** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、`footnote`, `margin`がある。[\[HTML+19931028\]](#)

脚注や余白に置く傍注を表す。ポップアップ窓が開くハイパーテキストボタンのような形も実装できるとされていた。

1994(平成6)年時点でEmacs/W3<sup>(106)</sup>が、`footnote`, `margin`を実装していた。[\[E/W3-2.1p46\]](#)

1995(平成7)年時点で、`html-helper-mode`<sup>(74)</sup>が実装していた。[\[HHMKeybindings\]](#)

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5

→ `fn`, `panel`

**for** 2021(令和3)年4月6日のHTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[\[HTMLLang\]](#)

PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにおける別名例にある。[\[POSTHTML:EXP\]](#)

**forall** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**foreignObject** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**form** 1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に、`form`, `input`がある。[\[HTML+19930713\]](#) 現行仕様に近いが、違いもある。

1993(平成5)年7月のWWW<sup>(140)</sup>で入力フォーム機能も議論された。その詳細は伝わらないが、`form`, `input`がほぼ現在の形で合意されたらしい。ViolaWWW<sup>(228)</sup>がこれを直ちに実装した。[\[SubmittingData\]](#)

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』に、`form`, `mh`, `input`, `textarea`, `select`, `option`がある。[\[HTML+19931028\]](#)

1993(平成5)年11月10日頃公開されたNCSA Mosaic 2.0は、`form`, `input`, `select`, `option`, `textarea`を実装していた。現行仕様である。これより前のprerelease版から実装されていた。`isindex`は`form`をエミュレートする形で再実装され



た。[MOSAIC20:Form]

1994（平成6）年4月7日、HTML DTDにform, input, select, option, textareaが追加された。<sup>[HTML19940407]</sup>

2005（平成17）年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005（平成17）年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第18, 19位がform, inputだった。  
[WAStats:P&E]

2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈に構想が追加された。<sup>[HTMLr358]</sup>

2008（平成20）年9月3日、『HTML5』にformが追加された。<sup>[HTMLr2142]</sup>

現行の要素である。

HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 2 Strict HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML 3.2 1997 (H9) HTML 2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Forms Modules • Basic Forms Module Forms Modules • Forms Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84)  
→ authform, message

**format** 1992（平成4）年4月16日付ファイルのHTTP応答仕様案にある。<sup>(134)</sup> [HTTPEx1]



**frame** 1995（平成7）年時点でIBM WebExplorer<sup>(99)</sup>は、animate, frameを実装していた。アドレスバー横のロゴ<sup>(98)</sup>を独自のアニメーションに設定するものだった。現行仕様とは異なる。<sup>[SW:animate]</sup>



1995（平成7）年頃、Netscape Navigator 2.0は、frameset,

**frame** を実装した。<sup>[FrameBasics]</sup> 1995（平成7）年9月18日、Netscape Communications Corporation は www-html<sup>(215)</sup>に仕様案を投稿した。<sup>[FramesProposal]</sup> 現行仕様である。

1996（平成8）年7月10日版 Cougar<sup>(226)</sup> DTD<sup>(194)</sup>の注釈に、フレームの構想がある。<sup>[HTML4-19960710]</sup>

1997（平成9）年3月31日版フレーム仕様<sup>(241)</sup>に **frameset**, **frame**, **iframe**, **noframes** がある。<sup>[FRAMES19970331]</sup>

1997（平成9）年4月の Lynx<sup>(335)</sup> 2.7.1 は、 **frameset**, **frame**, **noframes** を実装していた。フレームへのリンクを表示するとともに、 **noframes** をレンダリングする形だった。<sup>[Lynx2.7.1]</sup>

2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈で、廃止と明記された。<sup>[HTMLr358]</sup>

HTML4 1997 (H9) Frameset XHTML 1.0 2000 (H12) Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Frames Module HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML 構文解析器 / Special

借用先 BMI<sup>(84)</sup>

→ **flame**, **include**, **noframe**

**frameset** 1995（平成7）年頃、Netscape Navigator 2.0 は、 **frameset**, **frame** を実装した。<sup>[FrameBasics]</sup> 1995（平成7）年9月18日、Netscape Communications Corporation は www-html<sup>(215)</sup>に仕様案を投稿した。<sup>[FramesProposal]</sup> 現行仕様である。

1996（平成8）年7月10日版 Cougar<sup>(226)</sup> DTD<sup>(194)</sup>の注釈に、フレームの構想がある。<sup>[HTML4-19960710]</sup>

1997（平成9）年3月31日版フレーム仕様<sup>(241)</sup>に **frameset**, **frame**, **iframe**, **noframes** がある。<sup>[FRAMES19970331]</sup>

1997（平成9）年4月の Lynx<sup>(335)</sup> 2.7.1 は、 **frameset**, **frame**, **noframes** を実装していた。フレームへのリンクを表示するとともに、 **noframes** をレンダリングする形だった。<sup>[Lynx2.7.1]</sup>

---

(241) 後に HTML4<sup>(394)</sup>に発展した。

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

HTML4 1997(H9) Frameset XHTML 1.0 2000(H12) Frameset XHTML m12n 2001(H13) Frames Module HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard HTML 構文解析器 / Special

借用先 BML<sup>(84)</sup>

→ frameset, noframe

**ftploc** 1994(平成6)年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]

→ a

**funcname** 2018(平成30)年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]

g SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**g\*** gの後に整数または小数を書いて要素名とする。

実際に g\* を要素名とするものではない。

平成9(1997)年3月付で発表された論文で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> gの後に整数を指定すると校了済の版を表し、小数を指定すると未校了の変更を表す。[電子添削]

**g:plusone** 2011(平成23)年6月に提供開始されたGoogleの+1ボタン<sup>(242)</sup>は、g:plusoneを使っていました。[Google+1]当時は多くのWebページが使っていた。

**gauge** 2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にgaugeがある。[WA1-20041208]

2006(平成18)年2月17日(推測)と2006(平成18)年3月3日の間の『Web Applications 1.0』の改訂で、t, gauge, progressの定義が一部追加された。[SW:WA1]

(242) +1ボタン +1 button Googleが提供していたいいね機能。[Google+1] [InAW:+1]技術的には、GoogleがWebページ埋め込み用に提供していたJavaScript付きHTML片。



F

2006(平成18)年3月29日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の `gauge` は `meter` に改称された。現行仕様である。[\[HTMLr15\]](#)

**gcd** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**gender** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**geometry** 2024(令和6)年時点で MapML<sup>(309)</sup>にある。[\[MAPML\]](#)



**geq** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**get** 2023(令和5)年4月24日、HTMLLang<sup>(128)</sup>の fork の1つに追加された。[\[HTMLLangGet\]](#)



PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける `fetch` の別名例にある。[\[POSTHTML:MSO\]](#)

**givendef** 1998(平成10)年4月発表の `displets`<sup>(199)</sup>機能案の実例として Z 記法用の SGML DTD の語彙が使われた。HTML と混在させて用いることができた。[\[DISPLETS1998\]](#)



**label** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**glyph** SVG 1.1, Tiny 1.2

**glyphRef** SVG 1.1, HTML構文解析器

**go** 1994(平成6)年4月14日、HTML DTD に `go` が追加された。GNN<sup>(243)</sup>で使われているが何か不明と注釈されている。[\[HTML19940414\]](#) 間もなくして削除された。



(243) GNN Global Network Navigator。最初の商用 Web 出版サイトとされる。元 O'Reilly & Associates の運営、後に AOL との合弁 Songline Studios による運営となった。[\[CuttingEdge\]](#)

grad MathML 3.0 Content, 4.0 Content

graph 1997(平成9)年4月発表のdisplets<sup>(199)</sup>機能案の実例としてgraph, node, arcが使われた。グラフ(graph)を表す。[\[DISPLETS1997\]](#)



group 1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にgroupがある。[\[HTML+19930713\]](#)現在のsectionに当たる。



2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>はXForms<sup>(123)</sup>の要素がHTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名のHTML要素と互換性はない。

エチオピア暦2010年第2月23日(平成29(2017)年11月2日)、Daniel YacobはW3C<sup>(185)</sup>のEthiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>にਜ<sup>(160)</sup>(Zaima)の記述のための要素群を提案した。[\[ZaimaDM\]](#)  
[\[ZaimaPagesYacob\]](#)

G

HTML+ 1993(H5)/7/13 XHTML2 2010(H22) XForms Module

gt MathML 3.0 Content, 4.0 Content

h 1991(平成3)年10月29日、Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、h1等の見出しの要素だけを使う方式よりsectionとhを使う方が良いと考えていたなどと述べている。[\[HTML19911029\]](#)



h1等を総称してh, hn, hx, hy, h#, h?などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。

2001(平成13)年7月の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>案に、h1等のかわりにh, sectionがある。現在のh1, sectionに当たる。名前空間は絶余曲折がありながらも当初案と最終版ではHTML名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。[\[SW:XHTML2\]](#)

2004(平成16)年6月2日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>にbyline, footer, section, navigationの

構想がある。Web アプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に `navigation`, `header`, `footer`, `section`, `post`, `message`, `content`, `h` の構想がある。[\[WA1-20040602\]](#)

XHTML2<sup>(184)</sup>の `h` の『HTML5』<sup>(191)</sup>への追加はたびたび提案された。要素名が違えど `h1` がそれであり、新要素では互換性に劣ると却下されている。[\[SectionHeadingslan\]](#)

XHTML2 2010 (H22) XHTML Structural Module

**h#** `h1` 等を総称して `h`, `hn`, `hx`, `hy`, `h#`, `h?` などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**h0** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[\[ISO8879\]](#)

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)

1991 (平成3) 年 8 月 20 日付 Line Mode Browser<sup>(83)</sup> 0.11a ソースコードで、`h0`, `h1`, `h2`, `h3`, `h4`, `h5`, `h6` が実装されている。[\[LM011a\]](#)

1991 (平成3) 年 12 月 5 日付 Line Mode Browser 1.0alpha ソースコードで、`h1`, `h2`, `h3`, `h4`, `h5`, `h6`, `h7` が実装されている。[\[LM10a\]](#)

解説等で `h0`, `h7`, `h8`, `h9`, `h10` が紹介されることがある。これらのうちのいくつかは実利用例や実装事例もある。[\[SW:hn\]](#)

**h1** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[\[ISO8879\]](#)

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日 の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にあ  
る。[SGMLguid]

1990 (平成2) 年 12 月 7 日付 HTML ファイルに、 h1, h2, h3 が使  
われている。[SW:HTML1991]

1991 (平成3) 年 10 月 29 日、 Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup> は  
www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、 h1 等の見出しの要素だけを使う方式よ  
り section と h を使う方が良いと考えていたなどと述べてい  
る。[HTML19911029]

1992 (平成4) 年 1 月 9 日時点の HTML 仕様に、 h1, h2, h3, h4,  
h5, h6 がある。 Several levels (at least six) とあり、追加も想定さ  
れていたらしい。[WWW19920109]

2004 (平成16) 年 9 月 23 日版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> に  
section がある。 h1 と併用するが、 h2 等も用いることができる  
とされた。現行仕様である。[WA1-20040923]

XHTML2<sup>(184)</sup> の h の 『HTML5』<sup>(191)</sup>への追加はたびたび提案され  
た。要素名が違えど h1 がそれであり、新要素では互換性に劣ると却  
下されている。[SectionHeadingslan]

2005 (平成17) 年 4 月 2 日頃までの『Web Applications 1.0』の改訂  
で、 section, h1, h2, h3, h4, h5, h6 関連の規定が整理され、  
HTML5 時代の定義がほぼ成立した。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6

HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0

1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Block Phrasal  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Legacy Headings

Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Special

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JIS X 4052(244), NITF(340), XMLspec(173)

→ h#, h0, h7, h?, hn, htmllite, hx, hy, lh, panelttitle

**h10** 解説等で h0, h7, h8, h9, h10 が紹介されることがある。これらのうちのいくつかは実利用例や実装事例もある。[SW:hn]



2006(平成18)年9月20日の XHTML Deluxe 1.0<sup>(245)</sup>に、h7, h8, h9, h10 がある。[XHTMLDeluxe]

**h2** 1985(昭和60)年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月23日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990(平成2)年12月7日付 HTML ファイルに、h1, h2, h3 が使われている。[SW:HTML1991]

1992(平成4)年1月9日時点の HTML 仕様に、h1, h2, h3, h4, h5, h6 がある。Several levels (at least six) とあり、追加も想定されていたらしい。[WWW19920109]

2005(平成17)年4月2日頃までの『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の改訂で、section, h1, h2, h3, h4, h5, h6 関連の規定が整理され、HTML5<sup>(191)</sup>時代の定義がほぼ成立した。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Core Modules ▶ Text Module 必須 ▶ XHTML Block Phrasal Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Legacy Headings  
Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JIS X 4052(244), NITF(340),  
XMLspec(173)  
→ h0, h7

**h3** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準  
のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使  
われていたと思われる。[DCFGML3e] 

1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にあ  
る。[ISO8879]

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にあ  
る。[SGMLguid]

1990 (平成2) 年 12 月 7 日付 HTML ファイルに、 h1, h2, h3 が使  
われている。[SW:HTML1991]

1992 (平成4) 年 1 月 9 日時点の HTML 仕様に、 h1, h2, h3, h4,  
h5, h6 がある。 Several levels (at least six) とあり、追加も想定さ  
れていたらしい。[WWW19920109]

2005 (平成17) 年 4 月 2 日頃までの『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> の  
改訂で、 section, h1, h2, h3, h4, h5, h6 関連の規定が整理され、  
HTML5<sup>(191)</sup> 時代の定義がほぼ成立した。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6  
HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict  
HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0  
1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

(244) JIS X 4052 JIS X 4052:2000 『日本語文書の組版指定交換形式』。日本  
語用の組版指定を記述できるマーク付け言語<sup>(186)</sup>の仕様書。平成12 (2000) 年  
に JIS(236)として制定された。完全独自の構文と、 HTML と CSS の一部に独  
自機能を追加したものの 2 通りの構文を定めている。[JSX4052] 当時の HTML と  
CSS になかった機能は独自仕様となっているが、ルビだけは同時期に開発されて  
いた W3C<sup>(185)</sup>の HTML 仕様との擦り合わせがあった。そのため開発は遅延し、  
ルビ仕様は過剰に複雑化して実装者から敬遠された。[SW:ruby]

ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML\_1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Block Phrasal  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML\_2 2010 (H22) XHTML Legacy Headings  
Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Special

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JIS X 4052(244), NITF(340),  
XMLspec(173)

→ h0, h7

**h4** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。  
[DCFGML3e] 

1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にある。  
[ISO8879]

H 1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にある。  
[SGMLguid]

1992 (平成4) 年 1 月 9 日時点の HTML 仕様に、 h1, h2, h3, h4, h5, h6 がある。 Several levels (at least six) とあり、追加も想定されていたらしい。  
[WWW19920109]

2005 (平成17) 年 4 月 2 日頃までの『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> の改訂で、 section, h1, h2, h3, h4, h5, h6 関連の規定が整理され、 HTML5<sup>(191)</sup> 時代の定義がほぼ成立した。  
[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6  
HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML\_2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict  
HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML\_3.0  
1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML\_3.2 1997 (H9) HTML\_2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML\_1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Block Phrasal  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML\_2 2010 (H22) XHTML Legacy Headings  
Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Special

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), XMLspec(173)

→ h0, h7

**h5** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)

1992(平成4)年1月9日時点のHTML仕様に、h1, h2, h3, h4, h5, h6がある。Several levels(at least six)とあり、追加も想定されていたらしい。[\[WWW19920109\]](#)

2005(平成17)年4月2日頃までの『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の改訂で、**section**, h1, h2, h3, h4, h5, h6関連の規定が整理され、HTML5<sup>(191)</sup>時代の定義がほぼ成立した。[\[SW:WA1\]](#)

現行の要素である。

H

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001(H13) Core Modules ▶ Text Module 必須 ▶ XHTML Block Phrasal

Module XHTML\_Basic 2000(H12) XHTML\_Print 2006(H18)

XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Legacy Headings Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), XMLspec(173)

→ h0, h7

**h6** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)

1992(平成4)年1月9日時点のHTML仕様に、h1, h2, h3, h4,

h5, h6 がある。 Several levels (at least six) とあり、追加も想定されていたらしい。[\[WWW19920109\]](#)

2005(平成17)年4月2日頃までの『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の改訂で、 section, h1, h2, h3, h4, h5, h6 関連の規定が整理され、 HTML5<sup>(191)</sup>時代の定義がほぼ成立した。[\[SW:WA1\]](#)

2020(令和2)年時点の調査によると、 Web ページの 0.56% で h6 が、 0.005% で h7 が、 0.0015% (9000 件以上) で h8 が使われていたという。[\[ALMANAC2020:MARKUP\]](#)

現行の要素である。

HTML 1992 (H4)/1/9 ; 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6

HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0

1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;

2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Block Phrasal

Module XHTMLBasic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Legacy Headings

Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), XMLspec(173)

→ h0

**h7** 1991(平成3)年8月20日付 Line Mode   
Browser<sup>(83)</sup> 0.11a ソースコードで、 h0, h1, h2, h3, h4,  
h5, h6 が実装されている。[\[LM011a\]](#)

1991(平成3)年12月5日付 Line Mode Browser 1.0alpha ソースコードで、 h1, h2, h3, h4, h5, h6, h7 が実装されている。[\[LM10a\]](#)

1992(平成4)年1月9日時点の HTML 仕様に、 h1, h2, h3, h4, h5, h6 がある。 Several levels (at least six) とあり、追加も想定されていたらしい。[\[WWW19920109\]](#)

1994(平成6)年3月25日の libwww 2.15 は、後方互換性のためとして h7 を実装していた。[\[LWWWHistory\]](#)

Mosaic やその派生 (IBM WebExplorer<sup>(99)</sup> や初期の Internet Explorer<sup>(281)</sup> など) は、 h7 を実装していた。 Microsoft Corporation のドキュメントにも h7 に言及したものがあった。[SW:hn]

解説等で h0, h7, h8, h9, h10 が紹介されることがある。これらのうちのいくつかは実利用例や実装事例もある。[SW:hn]

2006 (平成18) 年 9 月 20 日の XHTML Deluxe 1.0<sup>(245)</sup> に、 h7, h8, h9, h10 がある。[XHTMLDeluxe]

平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup> に、 h7, h8, h9 がある。 T-Time<sup>(24)</sup> 由来という。[交フォ報]

2020 (令和 2 ) 年時点の調査によると、 Web ページの 0.56% で h6 が、 0.005% で h7 が、 0.0015% (9000 件以上) で h8 が使われていたという。[ALMANAC2020:MARKUP]

借用先 NITF<sup>(340)</sup>

**h8** 解説等で h0, h7, h8, h9, h10 が紹介されることがある。これらのうちのいくつかは実利用例や実装事例もある



(245) XHTML Deluxe 1.0 2006 (平成18) 年 9 月 20 日に Mirko Prugovecki がブログで個人用として規定したマーク付け言語<sup>(186)</sup>。 XHTML 1.0 Strict から不要な機能を削除し、 WML2<sup>(246)</sup> と i モード対応 HTML<sup>(34)</sup> の一部や独自の機能を追加している。

(246) WML2 フィーチャーフォン<sup>(64)</sup> 用マーク付け言語<sup>(186)</sup> の 1 つ。 WML1<sup>(141)</sup> の機能を XHTML Basic<sup>(247)</sup> と独自 XML 名前空間<sup>(168)</sup> の組み合わせに再編したもの。[WML2]

(247) XHTML Basic XHTML1 仕様の 1 つ。フィーチャーフォン<sup>(64)</sup> 等を想定し機能が削減されている。[XHTMLBasic20001219] [XHTMLBasic20080729] [XHTMLBasic20101123] 3 度 W3C 勧告<sup>(395)</sup> になった。技術的変更があるが、要素は変わっていない。本書では XHTML Basic に含まれるかを示した。なお、 2 度目の W3C 勧告である『XHTML Basic 1.1』は、 W3C<sup>(185)</sup> の標準化手続きの杜撰さを示す事例としても知られる。[SW:inputmode] 位置付けの曖昧な XHTML Basic は、あまり使われなかつたとみられる。『XHTML Mobile Profile』<sup>(248)</sup> の仕様書は『XHTML Basic』を引用するが、実際には似て非なるものを自ら規定している。[XHTMLMP12] au<sup>(249)</sup> のガラケー<sup>(63)</sup> は XHTML Basic と称する言語に対応していたが、 W3C のものとは明らかに異なる。[XHTMLBasicタグ]

(248) XHTML Mobile Profile 欧米市場向けフィーチャーフォン<sup>(64)</sup> 用の XHTML1 仕様。[XHTMLMP12]

(249) au KDDI が日本で展開する携帯電話事業。

る。[SW:hn]

2006(平成18)年9月20日のXHTML Deluxe 1.0<sup>(245)</sup>に、h7, h8, h9, h10がある。[XHTMLDeluxe]

平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、h7, h8, h9がある。T-Time<sup>(24)</sup>由来という。[交フォ報]

2020(令和2)年時点の調査によると、Webページの0.56%でh6が、0.005%でh7が、0.0015%(9000件以上)でh8が使われていたという。[ALMANAC2020:MARKUP]

借用先 NITF(340)

**h9** 解説等でh0, h7, h8, h9, h10が紹介されることがある。これらのうちのいくつかは実利用例や実装事例もある。[SW:hn]



H 2006(平成18)年9月20日のXHTML Deluxe 1.0<sup>(245)</sup>に、h7, h8, h9, h10がある。[XHTMLDeluxe]

平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、h7, h8, h9がある。T-Time<sup>(24)</sup>由来という。[交フォ報]

**h?** h1等を総称してh, hn, hx, hy, h#, h?などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**haleita** エチオピア暦2010年第2月23日(平成29(2017)年11月2日)、Daniel YacobはW3C<sup>(185)</sup>のEthiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>にh<sup>(160)</sup>(Zaima)の記述のための要素群を提案した。[ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]



**handler** 2005(平成17)年5月27日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>からscriptが削除され、handlerが追加された。[XHTML2-20050527] XHTML 2.0名前空間に属しており、後にはHTML名前空間<sup>(166)</sup>への移動が予告されていたが、実施前にXML Handlersに置き換えられる形で削除された。



SVG Tiny 1.2

**hanging\_char** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**hanging\_punctuation** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**hat** 1995 (平成 7) 年 3 月 5 日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>で term が廃止され、vec, bar, dot, ddot, hat, tilde, t, bt が追加された。b も使えるとされている。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において math と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**have** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language にある。[HTMLasPL]

**head** 1992 (平成 4) 年 12 月 3 日版 HTML DTD に head がある。[HTML19921203] head の初出と思われる。このときまで Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>は header と呼んでいた<sup>(250)</sup>が、改称理由は不明。[HTML19921203]



2005 (平成17) 年 9 月 1 日版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> にある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005 (平成17) 年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、当時の Web サイトのほとんどが html, head, body,

(250) 1993 (平成 5) 年 1 月 11 日付の Dan Connolly<sup>(170)</sup>の www-talk<sup>(135)</sup>への投稿は、CERN<sup>(81)</sup>が header を実装しているとして、head への修正を求めている。[HTMLTodoDan]

H

**title** のタグを使っていた。[WAStats:P&E]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream

HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001 (H13) Core Modules → Structure Module 必須 XHTMLBasic 2000 (H12)

XHTMLPrint 2006 (H18) XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)

XHTML Document Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), CMMML(116), DjVu XML(251), DTBook(197), JIS X 4052(244), NITF(340), OPML(253), ROE XML(254), SMIL(256), TTML(392), WML(141), XFrames(257), yhtml(347)

→ \*:\*, if, input, queryform, recall, resource

H

**header** 1992 (平成4) 年 4月 16 日付 ファイルの  
HTTP 応答仕様案に **header**, **body** がある。<sup>(134)</sup> HTML  
の **header**, **body** とは異なる。[HTTPEx1]



1992 (平成4) 年 6月 10 日付で CERN<sup>(81)</sup> の World Wide Web プロ  
ジェクト Web サイトで公開されていた HTML の改正案は、HTML  
文書を header section と body section に分離するとしていた。具  
体的な分離方法は記載がない。[HTML2CTB]

1992 (平成4) 年 6月 11 日付 ファイルの HTRQ<sup>(192)</sup> 案に **date**,

(251) DjVu XML DjVu(252) と併用しメタ情報等を記述する XML 文書。  
HTML の一部の要素に独自の要素や属性を加えたものとなっている。[DjVuXML-s]  
[djvuxml(1)]

(252) DjVu 画像形式の 1つ。スキャン画像に適しており、デジタルアーカイ  
ブ等でしばしば用いられている。平成時代中後期頃には、プラグインでブラウ  
ザー内に表示させるサイトも見られた。

(253) OPML 本来は文章の構成 (outline) を記述する XML 応用。フィード  
リーダーの URL 群の一括入出力用の事実上の標準として用いられた。

(254) ROE XML ROE(255)の XML(5)構文。

(255) ROE Rich Open multitrack media Exposition。媒体の track の関係  
を記述する言語。[ROE]

(256) SMIL Synchronized Multimedia Integration Language。媒体の表示  
と時間変化を記述する XML 応用の 1つ。[SMIL1]

(257) XFrames フレームを記述する XHTML2(184)世代の XML 応用。

`header, like` がある。`date, header` とも HTML のものとは異なる。[HTRQ]

1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、文書の「body」の大部分を含める`document`要素を新設するのがよいとした。別案として、要素名を`body`とし、対になる`heading`を追加することも提案した。[DTDIssuesDan]

Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はそれに対する返信で、後者案に賛同した。[DTDIssuesTim] このとき編集されたと思われるWebページでは、後者案をもとに`Header`と`Body`と書いている。<sup>(136)</sup> [FuturePlans]

1992(平成4)年12月3日版HTMLDTDに`head`がある。[HTML19921203]`head`の初出と思われる。このときまでTim Berners-Leeは`header`と呼んでいた<sup>(250)</sup>が、改称理由は不明。[HTML19921203]

2004(平成16)年6月2日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>に`byline, footer, section, navigation`の構想がある。Webアプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に`navigation, header, footer, section, post, message, content, h`の構想がある。[WA1-20040602]

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に`header`がある。現在の`hgroup`に当たる。[WA1-20041208]

2009(平成21)年4月30日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の`header`は`hgroup`に改称された。現行仕様である。[HTMLr3039]

2009(平成21)年4月30日、『HTML5』に`header`が追加された。現行仕様である。[HTMLr3040]

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `address, epilogue, prologue`

**headers** 1993(平成5)年1月6日版HTML DTD  
にある。<sup>[HTML19930106:DTD]</sup> **d1** のかわりに使ってRFC  
822メッセージのヘッダーを表す。<sup>[HTMLTodoDan]</sup> Tim  
Berners-Lee<sup>(82)</sup>の賛同は得られず、1993(平成5)年11月30日版  
HTML DTDには既にない。<sup>[HTML19931130] [SW:headers]</sup>

HTML 1993(H5)/1/6

**heading** 1992(平成4)年11月19日、Dan  
Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、文書の「  
body」の大部分を含める**document**要素を新設するのが  
よいとした。別案として、要素名を**body**とし、対になる**heading**  
を追加することも提案した。<sup>[DTDIssuesDan]</sup>

Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はそれに対する返信で、後者案に賛同した。<sup>[DTDIssuesTim]</sup>このとき編集されたと思われるWebページでは、  
後者案をもとにHeaderとBodyと書いている。<sup>(136) [FuturePlans]</sup>

→ header

**headword** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍  
交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義して  
いる。<sup>[交フォ報]</sup>

**help** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は  
XForms<sup>(123)</sup>の要素がHTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。

XHTML2 2010(H22)

**hgroup** 2009(平成21)年4月30日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>の**header**は**hgroup**に改称された。現行  
仕様である。<sup>[HTMLr3039]</sup>

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard適合 / HTML構文解析器 / Special



**hi** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で傍点記述に使われている。TEIからの借用である。[SW:pg\*]

→ em



**hidden** 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>  
と称する文書にある。<sup>(162)</sup>[DTHTML6]



**hide** 1994(平成6)年3月18日版『HTML+』<sup>(72)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>に hide がある。LaTeX<sup>(232)</sup>の \kill に当たる。<sup>(259)</sup>[HTML+19940318]



HTML+ 1994(H6)/4/5

**highlight** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける shiki の別名例にある。[POSTHTML:SHIKI]



**hint** 2009(平成21)年、『 XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010(H22)

**hkern** SVG 1.1, Tiny 1.2



**hn** h1 等を総称して h, hn, hx, hy, h#, h? などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hp** hp1 等を総称して hp, hpn, hpx と書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hp0** 1986(昭和61)年10月23日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

1992(平成4)年6月11日の Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>の

(258) 『Taiju Notebook』平成時代中期から更新が続けられている Web サイト。日本の古典文学等を HTML 化して公開している。[TAIJU]

(259) 内容によってタブ位置を設定するが、その内容自体は表示しない。

H

www-talk<sup>(135)</sup>への投稿によると、HTMLの仕様には hp0, hp1 がある。<sup>(260)</sup> [MSUHW3]

**hp1** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。<sup>[DCFGML3e]</sup>

1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。<sup>[ISO8879]</sup>

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。<sup>[SGMLguid]</sup>

H  
1990(平成2)年12月7日付のファイルにhp2がある。1990(平成2)年12月19日付のファイルにhp1がある。1990(平成2)年頃とみられるHTMLの仕様書に、hp1, hp2, hp3がある。<sup>[SW:HTML1991]</sup>

1991(平成3)年4月2日付、1991(平成3)年9月28日付の『WorldWideWeb』<sup>(40)</sup>ソースコードでhp1, hp2, hp3が実装されているが、不完全だったようだ。<sup>[SW:HTML1991]</sup>

1991(平成3)年10月29日時点のHTMLの仕様書に、highlightのためのHP1 etcへの言及がある。未使用だという。<sup>[HTML19911029]</sup>

1992(平成4)年1月9日時点のHTML仕様書に、highlightingのためのhp1, hp2等への言及がある。未使用だという。「等」とあるが、どこまで想定されていたかは不明。<sup>[WWW19920109]</sup>

1992(平成4)年6月11日のTim Berners-Lee<sup>(82)</sup>のwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿によると、HTMLの仕様にはhp0, hp1がある。<sup>(260)</sup> [MSUHW3]

1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talkへの投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5に代わる新要素群の案を提示した。<sup>[DTDIssuesDan]</sup>後にem, tt, citeなどが追加されhp1などは廃

---

(260) 現存する前後の時期の仕様書から推測して、仕様書中にhp0があるというのは誤りの可能性が高い。

止された。

HTML 1992 (H4)/1/9 HTML1 1993 (H5)/6 Obsolete  
→ hp, hpn, hpx

**hp2** 1985 (昭和60) 年 3 月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986 (昭和61) 年 10 月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にある。[ISO8879]

1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にある。[SGMLguid]

1990 (平成2) 年 12 月 7 日付のファイルに **hp2** がある。1990 (平成2) 年 12 月 19 日付のファイルに **hp1** がある。1990 (平成2) 年頃とみられる HTML の仕様書に、 **hp1**, **hp2**, **hp3** がある。[SW:HTML1991]

1991 (平成3) 年 4 月 2 日付、 1991 (平成3) 年 9 月 28 日付の『WorldWideWeb』<sup>(40)</sup> ソースコードで **hp1**, **hp2**, **hp3** が実装されているが、不完全だったようだ。[SW:HTML1991]

1991 (平成3) 年 10 月 29 日時点の HTML の仕様書に、 **highlight** のための HP1 etc への言及がある。未使用だという。[HTML19911029]

1992 (平成4) 年 1 月 9 日時点の HTML 仕様書に、 **highlighting** のための **hp1**, **hp2** 等への言及がある。未使用だという。「等」とあるが、どこまで想定されていたかは不明。[WWW19920109]

1992 (平成4) 年 11 月 19 日、 Dan Connolly<sup>(170)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup> への投稿で、 **hp1**, **hp2**, **hp3**, **hp4**, **hp5** に代わる新要素群の案を提示した。[DTDIssuesDan] 後に **em**, **tt**, **cite** などが追加され **hp1** などは廃止された。

HTML 1992 (H4)/1/9 HTML1 1993 (H5)/6 Obsolete

H

**hp3** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)



1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[\[ISO8879\]](#)

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)

1990(平成2)年12月7日付のファイルにhp2がある。1990(平成2)年12月19日付のファイルにhp1がある。1990(平成2)年頃とみられるHTMLの仕様書に、hp1, hp2, hp3がある。[\[SW:HTML1991\]](#)

H 1991(平成3)年4月2日付、1991(平成3)年9月28日付の『WorldWideWeb』<sup>(40)</sup>ソースコードでhp1, hp2, hp3が実装されているが、不完全だったようだ。[\[SW:HTML1991\]](#)

1992(平成4)年1月9日時点のHTML仕様書に、highlightingのためのhp1, hp2等への言及がある。未使用だという。「等」とあるが、どこまで想定されていたかは不明。[\[WWW19920109\]](#)

1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5に代わる新要素群の案を提示した。[\[DTDIssuesDan\]](#)後にem, tt, citeなどが追加されhp1などは廃止された。

[HTML](#) 1992(H4)/1/9 [HTML1](#) 1993(H5)/6 Obsolete

**hp4** 1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5に代わる新要素群の案を提示した。[\[DTDIssuesDan\]](#)後にem, tt, citeなどが追加されhp1などは廃止された。



**hp5** 1992 (平成4) 年 11 月 19 日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5 に代わる新要素群の案を提示した。[\[DTDIssuesDan\]](#) 後に em, tt, cite などが追加され hp1 などは廃止された。



**hpn** hp1 等を総称して hp, hpn, hpx と書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hpx** hp1 等を総称して hp, hpn, hpx と書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hr** 1993 (平成5) 年 7 月の WWWW<sup>(140)</sup>で、hr の追加が合意された。[\[WWWWNotes\]](#)



1993 (平成5) 年 11 月 30 日版 HTML DTD に hr がある。[\[HTML19931130\]](#)

H

2005 (平成17) 年 9 月 1 日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [\[WA1-20050901\]](#)

2006 (平成18) 年 10 月 26 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に hr が追加された。新たな意味で再定義された。現行仕様である。[\[HTMLr207\]](#)

現行の要素である。

HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9) HTML 2.X 1997 (H9)/1  
HTML 4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9); 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n 2001 (H13) Text Extension Modules • Presentation Module • XHTML Block Presentation Module XHTML-Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13)  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), tdf(342)  
→ separator

**hspec** 1995（平成7）年7月7日版 HTML3 表仕様<sup>(174)</sup>に hspec, vspec がある。こまの揃え位置を指定する。[\[HTMLTables19950707\]](#) 以後の版にはない。現在は CSS で記述できる。



**hta:application** 1999（平成11）年頃、Internet Explorer 5 は HTA<sup>(261)</sup>として hta:application を実装した。<sup>(262)</sup>標準的な HTML で記述できない動作オプションを指定するもので、通常の Web ページでは機能しない。[\[HTA:Overview\]](#)



**html** 1992（平成4）年6月6日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>に、HTML を SGML<sup>(78)</sup>と MIME を活用して再構成する具体案を投稿した。この提案にある現存最古の HTML DTD に、文書要素<sup>(202)</sup> html がある。html の初出と思われる。[\[HTML19920606\]](#)



1992（平成4）年11月19日、Dan Connolly は www-talk への投稿で、HTML DTD 起草にあたり文書全体の要素として html を新設したと説明している。[\[DTDIssuesDan\]](#)

Swing<sup>(263)</sup>は、文字列を HTML として解釈すべきことの指定に html タグ<sup>(20)</sup>を使う。内容は本来の body に近いようだ。[\[SWING:HowToHTML\]](#)

2005（平成17）年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup> [\[WA1-20050901\]](#)

2005（平成17）年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、当時の Web サイトのほとんどが html, head, body,

(261) HTML Applications HTA Internet Explorer<sup>(281)</sup>を使ったプラットフォーム。また、それによるアプリケーションプログラム。

(262) 要素名に : が入るが、同時期の Internet Explorer<sup>(281)</sup>で導入された他の機能のようなカスタムタグ<sup>(56)</sup>用 xmlns 属性の指定は求められていない。

(263) Swing Java の標準の GUI ライブラリーの1つ。表示形式等の指定を含む HTML 片をプログラム内で表示文字列として指定できる。

**title** のタグを使っていた。[WAStats:P&E]

2006(平成18)年9月28日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に **innerHTML** 設定器の規定が追加されたが、素片構文解析<sup>(264)</sup>時の根要素として **html** を使うと規定された。<sup>(265)</sup> [HTMLr133]

現行の要素である。

**HTML** 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6 **HTML1** 1993(H5)/6 Mainstream  
**HTML2.0** 1995(H7)/11 Level 1 / Strict **HTML+** 1993(H5)/7/13 **HTML3.0**  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 **HTML3.2** 1997(H9) **HTML2.x** 1997(H9)/1  
**HTML4** 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset **ISO-HTML** 2000(H12) 標準  
/ Preparation **XHTML1.0** 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset  
**XHTMLm12n** 2001(H13) Core Modules → Structure Module 必須  
**XHTMLBasic** 2000(H12) **XHTML-Print** 2006(H18) **XHTML1.1** 2001(H13)  
**XHTML2** 2010(H22) XHTML Document Module **HTML5** 2009(H21) 適合  
**HTMLStandard** 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ **html-connolly**, **htmllite**, **htmlplus**, **iso-html**,  
**mosaic-communications-bookmark-file-1**,  
**netscape-bookmark-file-1**, **ompe**, **pre-html**, **pubhtml**, **web-message**,  
**web-node**, **xhtml**

H

**html-connolly** 1994(平成6)年2月19日、



Dan Connolly<sup>(170)</sup>はHTMLとMIMEの統合方針を検討していたが、実験ファイルの1つ<sup>(266)</sup>の文書要素<sup>(202)</sup>が**html-connolly**で、その子要素が**html**となっている。<sup>(267)</sup> **html**より上位の要素が必要になったために、私的な実験用という程度の意味で名前を加えたものだろう。

**htmlLang** 2021(令和3)年4月6日の



**HTMLLang**<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]

(264) 素片構文解析 **fragment parsing** 文書全体ではなく、特定の要素を文脈として与えたときのHTML片の構文解析。

(265) 仕様書の定義上のもので、利用者や著者<sup>(52)</sup>は直接観測できない。

(266) 2023(令和5)年にDan Connolly<sup>(170)</sup>が公開した **develop.tar.gz** 内の **web/drafts/MIME-sgml/dirk.sgml** (1994(平成6)年2月19日付)。**web/drafts/dirk.html** (1995(平成7)年2月18日付)で説明されているProject Dirkと関係するのだろう。[HTML2RCS]

(267) 近い案はメーリングリストなどで表明されいてるが、このファイルやそれに関係する案が当時公開されたかは不明。

**htmlarea** 1998(平成10)年6月11日のInternet Explorer 5.0 Developer Preview Releaseは、**htmlarea**を実装した。現在の`contenteditable`属性に当たる。[\[SW:htmlarea\]](#)



しかし、その後の版ですぐに削除された。[\[SW:htmlarea\]](#)

1998(平成10)年11月3日付のMicrosoft Corporationの告知文に記述がある他、いくつかの解説サイト等の言及があるものの、情報はほとんど現存しない。[\[IE5BETA\]](#) [\[SW:htmlarea\]](#)

平成10(1998)年7月4日、Another HTML-lint<sup>(273)</sup>は**htmlarea**を紹介し、Internet Explorer 4.0の機能として実装した。[\[AHL:Notice\]](#)しかし、Internet Explorer 4.0での実装は確認できない。平成10(1998)年時点でMicrosoft CorporationのドキュメントがInternet Explorer 5.0用に更新されていたことに起因する誤認と思われる。[\[SW:htmlarea\]](#)

2004(平成16)年7月21日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>文書ソース注釈に、**htmlarea**, **xmarea**の構想があった。要素名のみで詳細不明。[\[WA1-20040721\]](#)

2005(平成17)年10月22日、HtmLayout<sup>(268)</sup>が**htmlarea**を実装した。Internet Explorer<sup>(281)</sup>のものとは無関係と思われる。[\[HtmLayout:log310\]](#)

→ **richtext**, **textarea**

**htmllite** 1997(平成9)年7月25日付のPaul PrescodによるDSSSL<sup>(269)</sup>解説の例示用言語であるa subset of HTML(HTMLの部分集合)<sup>(270)</sup>に、



(268) HtmLayout HtmLayout HTMLやCSSで利用者インターフェイスを記述する、ネイティブアプリケーション組込用レンダリングエンジン(179)の1つ。

(269) DSSSL SGML(78)用スタイル言語の1つ。ISO/IEC JTC 1/SC 18/WG 8(417)で開発されたISO/IEC国際標準ISO/IEC 10179で規定されている。HTML3の時代、HTMLでの利用が試行錯誤されていた。その後XML(5)用に大規模改変されたのがXSLである。

(270) この解説は1997(平成9)年3月初版、1997(平成9)年7月23日大改訂とあるが、初版時点から存在したかは不明。[\[IntroDSSSL\]](#)

**htmllite**, **h1**, **p**, **em**, **strong** がある。[IntroDSSSL]

1998(平成10)年2月3日版『Spice』<sup>(271)</sup>仕様書の例示用言語 a small subset of HTML(HTMLの小さな部分集合)に、**htmllite**, **h1**, **p**, **em**, **strong** がある。Paul Prescod の解説を踏襲したものだった。[IntroDSSSL] [SPICE]

→ html

**htmlplus** 1993(平成5)年7月13日版『HTML

+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に **htmlplus** がある。文書要素<sup>(202)</sup>に使われているが、特に説明はない。<sup>(272)</sup> [HTML+19930713]



1994(平成6)年時点で、Emacs/W3<sup>(106)</sup>は **htmlplus** を実装していた。[E/W3-2.1p46]

**HTML+** 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core

→ html

H

**hx** **h1** 等を総称して **h**, **hn**, **hx**, **hy**, **h#**, **h?** などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hy** **h1** 等を総称して **h**, **hn**, **hx**, **hy**, **h#**, **h?** などと書くことがある。このままの要素名ではないが、紛らわしい解説等も存在する。



**hype** 1994(平成6)年10月19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない10個のHTML拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。**wired**, **roach**, **kill\_sgml**, **pinhead**, **secret**, **hype**, **peek**, **poke**, **yogsothoth**と挙げ、最後に**blink**という落ちだった。[TopTenHTML]



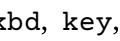
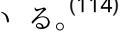
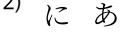
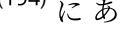
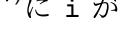
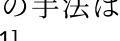
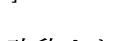
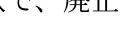
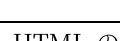
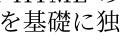
Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemayの提示した、**wired**, **roach**, (271) Spice CSSとJavaScriptを合体させたようなスタイル言語。1998(平成10)年2月3日付で Hewlett-Packard Company が W3C<sup>(185)</sup>に提出した。[SPICE] Dave Raggett<sup>(132)</sup>も関与していた。

(272) この版には **html** がない。

`kill_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth, blink` を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。<sup>[E/W3:Supported]</sup>

Netscape Navigator<sup>(329)</sup>は、 `hype` を実装していたという。<sup>[SW>NN4]</sup> 何らかの音が再生されたらしい。イースターエッグのようなものだろう。当時の解説サイト等に掲載されていることがあるが、ほとんど情報がない。<sup>[SW:hype]</sup>

Another HTML-lint<sup>(273)</sup>は、 Netscape Navigator モードのとき対応していた。<sup>[SW:hype]</sup>

**i** 1988（昭和63）年5月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に                         <img alt="QR code

2006(平成18)年12月22日、『HTML5』は *i*, *b*, *div* を追加した。*i*, *b* は新たな意味で再定義された。現行仕様である。<sup>[HTMLr456]</sup>

2012(平成24)年1月31日公開の Bootstrap<sup>(274)</sup>は、アイコン機能のため *i* を利用した。<sup>[BOOTSTRAP:TWEAKS]</sup> この用法はどの HTML 仕様とも整合せず濫用に当たるが、これ以後多くのアイコンや絵文字用のライブラリー等に模倣され、現在もかなり使われている。

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Extra  
HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5  
Core HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9)  
HTML 2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001(H13) Text Extension Modules → Presentation Module → XHTML Inline  
Presentation Module XHTML-Print 2006(H18) XHTML 1.1 2001(H13)  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Formatting  
借用先 BML<sup>(84)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, HDML<sup>(275)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, markup (Unity)<sup>(276)</sup>,  
WebVTT<sup>(277)</sup>, WML<sup>(141)</sup>

i1 1985(昭和60)年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準  のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。<sup>[DCFGML3e]</sup>

1986(昭和61)年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にあらわす。<sup>[SGMLguid]</sup>

1990(平成2)年12月19日付ファイルに i1 がある。CERN SGMLguid から HTML に変換したファイルで、索引付けのための

---

(274) Bootstrap Twitter 社の汎用 CSS ライブラリー。平成時代後期に世界的に人気を博した。

(275) HDML フィーチャーフォン<sup>(64)</sup>用マーク付け言語<sup>(186)</sup>の 1つ。<sup>[HDML]</sup> HTML 風の構文を持つ。後に WML<sup>(141)</sup>に発展した。

(276) markup (Unity) Unity では利用者インターフェイスに表示する文字列の記述に markup system と称する HTML 風のタグ<sup>(20)</sup>を使う。<sup>[Unity2:RichText]</sup>

(277) WebVTT 媒体要素<sup>(315)</sup>で利用可能な字幕記述形式。<sup>[WEBVTT]</sup> 当初は『HTML5』<sup>(191)</sup>で規定されていたが、後に独立した仕様書となった。字幕の文字列データには HTML のタグ<sup>(20)</sup>風の構文を使うが、構文やタグ名<sup>(21)</sup>は HTML と違いもある。HTML 風のタグも含め、構文は事実上の標準だった SRT から発展した。<sup>[SRTResearch]</sup>

ものだった。[SW:HTML1991]

1991(平成3)年4月2日付WorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードでは、**i1**が実装されているが、その行を無視するだけのものだった。[SW:HTML1991]

**ident** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**idx-range** 平成8(1996)年6月14日のD-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、fn-spot, fn-range, fn-text, idx-spot, idx-rangeがある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文にfm-spotがある。[G-DTD]

**idx-spot** 平成8(1996)年6月14日のD-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、fn-spot, fn-range, fn-text, idx-spot, idx-rangeがある。明確な規定がないが、脚注や索引に関連するものと注釈がある。また、「D-DTD/J1を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文にfm-spotがある。[G-DTD]

**if** 1993(平成5)年1月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、Jim Whitescarver案への返信として、フォーム機能案を示した。**input**はより現行のものに近づいた。**queryform**は**recall**, **if**などをを使った照会文の雛形を**head**内で記述する。[INPUTDan] XForms<sup>(123)</sup>の**model**に近い。

2021(令和3)年のhtml-lang<sup>(278)</sup>にある。[HtmlLang]

PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。[POSTHTML:EXP]

**iflame** 低品質の解説等でflameset, flame, noflame, noflames, iflameとするものや正しい綴りと混在するものが、日本語圏に若干数ある。[SW:flameset]

(278) html-lang 「HTMLはプログラミング言語だ」と謳ったJavaScriptライブラリー。[HtmlLang]

→ **iframe**

**iframe** 1997（平成9）年3月31日版フレーム仕様<sup>(241)</sup>に **frameset**, **frame**, **iframe**, **noframes** がある。[FRAMES19970331]



2005（平成17）年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2006（平成18）年11月1日、『Web Applications 1.0』に、**iframe**, **embed**, **object**, **param**, **map**, **area** が追加された。現行仕様である。[HTMLr236] [HTMLr238] [HTMLr240]

2008（平成20）年5月19日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に **iframe** の **seamless** 属性が追加された。**include** やその他の関係する提案を整理して **iframe** に **seamless** 属性や **sandbox** 属性と関連機能として追加されたものだった。<sup>[CSIProposallan]</sup> [HTMLr1637] [IframeSandbox]

現行の要素である。

**HTML4** 1997 (H9) Transitional / Frameset

**XHTML 1.0** 2000 (H12) Transitional / Frameset **XHTML m12n** 2001 (H13)

Iframe Module **HTML5** 2009 (H21) 適合 **HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84)

→ **advview**, **appview**, **browser**, **fencedframe**, **iflame**, **module**, **node**, **portal**, **text**, **webview**, **x-ms-webview**

**ign** 平成8（1996）年6月14日のD-DTD/J1<sup>(230)</sup>に関して「D-DTD/J1を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、**start-ign**, **end-ign**, **ign** がある。明確な説明がないが、D-DTD/J1 対応ソフトウェアが無視るべき「HTMLビュア」向けの記述を表すように思われる。[G-DTD]



**ilayer** 1997（平成9）年頃の Netscape Navigator 4.0 は、**ilayer** を実装した。要素の位置などを内容属性で指定できた。JavaScript からの操作対象にもなった



I  
K

た。[NSDHTML:Layers32]

**image** 1992(平成4)年6月24日<sup>(279)</sup>付のDan Connolly<sup>(170)</sup>のwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿のDTD<sup>(194)(280)</sup>に、**image**がある。[LinksRangeDan] 現行仕様とは異なる。

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に**image**がある。  
**img**と違って内容を持ち、**alt**属性に当たる。[HTML+19931028]

ほとんどのWebブラウザは**image**を**img**の同義とする。起源は不明だが、少なくともNCSA Mosaic<sup>(120)</sup>2.1以降、Netscape Navigator<sup>(329)</sup>1.1以降、Internet Explorer<sup>(281)</sup>1.0以降(4.0 Platform Previewを除くが4.0 Preview 2以降を含む)、Mozilla Suite<sup>(178)</sup>、Opera<sup>(409)</sup>、w3mなどが実装していたという。HTML5<sup>(191)</sup>以前のInternet Explorer、Opera、WebKit<sup>(155)</sup>ではHTML文書だけでなくXML文書やDOM操作でも**image**を**img**と読み替えられていた。また、**image**を使ったHTML文書も多数存在していた。[SW:image]

---

(279) **img**の初出よりも古い。

(280) 当時のDan Connolly<sup>(170)</sup>は、SGML<sup>(78)</sup>とMIMEを活用したHTMLの再構成を模索していた。このDTD<sup>(194)</sup>はHTMLをSGML DTDとして記述した2番目に古いのものだが、その後のHTML DTDと違って当時の実際のHTMLに忠実ではない。[SW:HTML2]

(281) Microsoft Internet Explorer Internet Explorer IE Microsoft社のWebブラウザ。長らくWindowsの標準Webブラウザだった他、Classic Mac OS版などもあった。実装は大きく異なるためそれぞれWinIE<sup>(282)</sup>、MacIE<sup>(68)</sup>などと通称される。

(282) WinIE Windows版Internet Explorer<sup>(281)</sup>の通称。初期版はSpyglass Mosaic<sup>(305)</sup>からの派生。その後MSHTML等のソフトウェア部品としてWindowsに組み込まれ、レンダリングエンジン<sup>(179)</sup>としてはTridentと呼ばれた。第1次ブラウザ戦争<sup>(283)</sup>の覇者だったが、その終戦後に多くの不具合と標準仕様への不適合を抱えたまま開発停止したため、長年にわたってWeb開発者らを苦しめ続けた。後に大規模改修によりEdgeとなった。

(283) 第1次ブラウザ戦争 Netscape Navigator<sup>(329)</sup>とInternet Explorer<sup>(281)</sup>を中心とするWebブラウザ市場の競争。自社独自の新技術を搭載した新バージョンが次々と投入され、市場と著者<sup>(52)</sup>間に大混乱を招きつつもWeb技術は著しく発展した。その結果、一時は圧倒的な利用数を誇ったNetscape NavigatorはWindowsと統合されたInternet Explorerに完全敗北し、その他の事業者もほとんど撤退した。MicrosoftもIE6をもって開発を事実上凍結し、停滞の時代が訪れた。

2015（平成27）年3月20日にWHATWG<sup>(414)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup> [BMHTML6] [BMHTML6:GH]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 HTML Standard HTML構文解析器 / Ordinary  
→ fig

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

MathML 3.0 Content, 4.0 Content

imaginary MathML 3.0 Content, 4.0 Content

imaginaryi MathML 3.0 Content, 4.0 Content

img 1993（平成5）年2月25日、Marc Andreessen<sup>(284)</sup>はは img を提案した。現行仕様である。<sup>[ProposedIMG:Marc]</sup>

1993（平成5）年3月14日公開のNCSA Mosaic for X 0.10（Beta version 0.10 of NCSA Mosaic for the X Window System）の0.9からの新機能の1つに img がある。<sup>[MOSAIC010:Released]</sup>

1993（平成5）年5月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>は『HTML+』<sup>(72)</sup>への img の追加を表明した。<sup>[HTMLDTD Dave]</sup> 現存最古の1993（平成5）年7月13日版『HTML+』DTD<sup>(194)</sup>に img がある。

1993（平成5）年7月1日版HTML DTDに img がある。<sup>[HTML12]</sup>

1993（平成5）年7月のWWWWWW<sup>(140)</sup>で、img の追加が合意された。<sup>[WWWWWWNotes]</sup>

2005（平成17）年4月17日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に img が追加された。現行仕様である。<sup>[SW:WA1]</sup>

2005（平成17）年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第6位が img だった。<sup>[WAStats:P&E]</sup>

現行の要素である。

HTML1 1993 (H5)/6 Extra HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9) HTML2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

(284) Marc Andreessen NCSA Mosaic<sup>(120)</sup>の開発者であり、Netscape Communications Corporationの創業者の1人。

I  
K

XHTML\_1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Image Module XHTML\_Basic 2000 (H12)  
XHTML\_Print 2006 (H18) XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)  
XHTML Image Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DjVu XML(251), DTBook(197), ENML(210), HDML(275),  
hnf(237), JepaX(285), LeXML(296), NITF(340), ROE XML(254), SMIL(256),  
TateJPN(239), tdf(342), TNF(398), WML1(141)

文献 [Dive5:How]

→ !img, alias, embed, fig, figa, figcap, figdata, figure, image,  
include, insert, noimg, object, param, picture, t-img



**imgcandidate** 2014 (平成26) 年 4 月 2 日、  
『HTML Standard』<sup>(7)</sup> の文書ソース注釈に picture,  
imgcandidate の構想が追加された。現在の picture,  
source (picture用) に当たる。[HTMLr8561]



**implementation** 2010 (平成22) 年 9 月 3 日、  
『XBL 2.0』<sup>(182)</sup> (HTML版) で implementation が定義さ  
れた。歴史的には『XBL 2.0』(XML<sup>(5)</sup>版)、 XBL 1.0 に遡  
る。[XBL2-20100903]

implies MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**import** 2020 (令和2) 年 の OOHTML<sup>(286)</sup>は、  
import を実装している。[OOHTML:Refactored]

2024 (令和6) 年頃にいくつか import の提案があ  
る。[HTML#10470] [WC#1059]

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:IMPORT]

→ include

in MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(285) JepaX 日本語の電子書籍の交換形式の 1 つ。独自の XML 応用だが、一部の HTML の要素を借用している。[JepaX]

(286) OOHTML JavaScript ライブライバーの 1 つ。標準の HTML と DOM を拡張するもので、オブジェクト指向の手法を取り入れているなどと謳っている。[OOHTML]

**inc** 遅くとも 2000(平成12)年までに、USENET メッセージ<sup>(422)</sup>を HTML に変換するための `sig`, `inc`, `inced`, `page` が提案されていた。<sup>[OOB]</sup>



**inced** 遅くとも 2000(平成12)年までに、USENET メッセージ<sup>(422)</sup>を HTML に変換するための `sig`, `inc`, `inced`, `page` が提案されていた。<sup>[OOB]</sup>



**include** 多くの言語に `include` や `import` のような機能があるが、HTML にもそれを求める提案は非常に多い。要素名を示さない提案や他の要素名の提案で同様のものまで含めればかなりの数になる。この種の提案には大きく 2 系統ある。



1つは本文 HTML と別種のものを埋め込む機能を提供するもので、紆余曲折の末に HTML4<sup>(394)</sup>で `object` に結実した。`img`, `applet` 等媒体ごとに要素を追加せずに済むのが利点とされた。しかしその要素の数が減るだけで、その他のすべてが複雑化するとわかり、HTML5<sup>(191)</sup>は用途別の要素を定める方針に転換した。が、それ以後もこの系統の提案は続いている。

もう 1 つは別の HTML を挿入する機能を提供するものである。サーバー側の雛形言語の類では NCSA HTTPd の SSI 以来、ほぼ必須の機能として実装されてきた。<sup>[SSI]</sup> Netscape Navigator 2.0 が実装したフレームは、機能性は異なるにせよ、同じような目的で使われ得るものだった。XML<sup>(5)</sup>に於いては取り込み機能が XInclude として標準化された。<sup>[XInclude1]</sup> Web ブラウザーでは実装されなかったが、サーバー側で XHTML<sup>(201)</sup>と組み合わせて用いられることはあった。<sup>[Webメンテ]</sup> <sup>[GenshiXML]</sup> とはいえこれらだけでは著者<sup>(52)</sup>の満足するところとならず、この系統の提案は現在まで繰り返されている。

1991(平成3)年 11月 27 日、NJIT<sup>(407)</sup>の Jim Whitescarver は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`include` の実装意向を示した。他の文

書の取り込みを表すものだった。[InteractiveHyper]

1993(平成5)年2月25日、MidasWWW<sup>(287)</sup>はへの対案としてincludeの実装意向を示した。[ProposedIMG:Tony]しかし実施された形跡は確認できない。

1993(平成5)年3月2日、Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>はwww-talkへの投稿で、への対案として汎用化したincludeないしembedの案を提示した。[ProposedIMG:TBL]

2003(平成15)年6月16日、HtmLayout<sup>(268)</sup>はincludeを実装した。他の文書の取り込みに用いる。[HtmLayout:tags]

2007(平成19)年4月23日、Jonas Sicking<sup>(288)</sup>はWHATWG<sup>(414)</sup>メーリングリストでincludeを提案した。[INCLUDEJonas]

2008(平成20)年5月19日、『HTML5』にiframeのseamless属性が追加された。includeやその他の関係する提案を整理してiframeにseamless属性やsandbox属性と関連機能として追加されたものだった。[CSIProposallan] [HTMLr1637] [IframeSandbox]

2010(平成22)年5月18日、WHATWGメーリングリストにvideo, audio等を統合してincludeとする案が投稿されたが、複雑化するのみとして却下されている。[INCLUDELinks]  
[INCLUDELinksHixie1] [INCLUDELinksHixie2]

2015(平成27)年9月27日以来、PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。[POSTHTML:INCLUDE1]

その後もたびたびincludeによるHTMLの取り込みが提案されている。[HTML#2791] [PBHTMLInclude] [SimplestIncludes]

2020(令和2)年時点の調査によると0.08%のWebページがincludeを使っていた。用途は明らかではない。[ALMANAC2020:MARKUP]

→ frame, import, node, text

**infinity** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(287) MidasWWW 初期のWebブラウザーの1つ。

(288) Jonas Sicking Mozilla(177)の有力開発者の1人。

**inflec** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交フオ報]



**info** 2001 (平成13) 年 時 点 の Microsoft Corporation の Web サイトで、`info`, `product`, `platform` が使われていた。[MSDHTML:CondComments] 用途は不明だが、社内の文書管理データベース上の情報が露出したものだろうか。[SW:info]



**inherited** 2010 (平成22) 年 9 月 3 日、『XBL 2.0』<sup>(182)</sup> (HTML版) で `inherited` が定義された。歴史的には『XBL 2.0』(XML<sup>(5)</sup>版) `inherited`, XBL 1.0 `children` に遡る。[XBL2-20100903]



**inlineinput** Netscape Navigator 4.0 の頃 `inlineinput`, `inlineinputthick`, `inlineinputdotted` が実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが詳細不明。[SW:inlineinput]



**inlineinputdotted** Netscape Navigator 4.0 の頃 `inlineinput`, `inlineinputthick`, `inlineinputdotted` が実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが詳細不明。[SW:inlineinput]



**inlineinputthick** Netscape Navigator 4.0 の頃 `inlineinput`, `inlineinputthick`, `inlineinputdotted` が実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが詳細不明。[SW:inlineinput]



**input** 1992 (平成4) 年 11 月 13 日、Kevin Hoadley は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`isindex` の改良として `input`, `doneinput` を提案した。`doneinput` は



提出ボタンを表す。[ISINDEXDocs]

1992(平成4)年11月27日、NJT<sup>(407)</sup>のJim Whitescarverはwww-talkへの投稿で、`input`の実装意向を示した。検索語を入力させるものだった。[InteractiveHyper]

1993(平成5)年1月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talkへの投稿で、Jim Whitescarver案への返信として、フォーム機能案を示した。`input`はより現行のものに近づいた。`queryform`は`recall`, `if`などを使った照会文の雛形を`head`内で記述する。[INPUTDan] XForms<sup>(123)</sup>の`model`に近い。

1993(平成5)年1月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>はwww-talkへの投稿で、Dan Connolly案への返信として、フォームコントロールの要件を整理し、`input`, `select`, `choice`の案を提示した。`choice`は現在の`option`に当たる。[QueryFormsInput:Dave]

I  
K

1993(平成5)年6月2日、『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に、`input`, `select`が追加された。(289)[HTML+19930602:Dave]

1993(平成5)年7月13日版『HTML+』DTDに、`form`, `input`がある。[HTML+19930713] 現行仕様に近いが、違いもある。

1993(平成5)年7月のWWW<sup>(140)</sup>で入力フォーム機能も議論された。その詳細は伝わらないが、`form`, `input`がほぼ現在の形で合意されたらしい。ViolaWWW<sup>(228)</sup>がこれを直ちに実装した。[SubmittingData]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』に、`form`, `mh`, `input`, `textarea`, `select`, `option`がある。[HTML+19931028]

1993(平成5)年11月10日頃公開されたNCSA Mosaic 2.0は、`form`, `input`, `select`, `option`, `textarea`を実装していた。現行仕様である。これより前のprerelease版から実装されていた。`isindex`は`form`をエミュレートする形で再実装され

---

(289) 当時の版は現存せず、`choice`なのか`option`なのか、`form`はあったのかは不明。

た。[MOSAIC20:Form]

1994（平成6）年4月7日、HTML DTDに `form`, `input`, `select`, `option`, `textarea` が追加された。<sup>[HTML19940407]</sup>

2003（平成15）年時点では `HtmLayout`<sup>(268)</sup> は、`input`, `widget` を実装していた。アプリケーション依存の入力コントロールの配置用で、`input` は行内要素、`widget` はブロック水準要素として機能した。<sup>[HtmLayoutML]</sup>

2005（平成17）年12月の Google 検索<sup>(66)</sup> のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第 18, 19 位が `form`, `input` だった。<sup>[WAStats:P&E]</sup>

2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に構想が追加された。<sup>[HTMLr358]</sup>

2008（平成20）年9月3日、『HTML5』に `input` が追加された。<sup>[HTMLr2144]</sup>

2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup> で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。

現行の要素である。

[HTML 2.0](#) 1995 (H7)/11 Level 2 Strict [HTML+](#) 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ;  
 1994 (H6)/4/5 Core [HTML 3.0](#) 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
[HTML 3.2](#) 1997 (H9) [HTML 2.x](#) 1997 (H9)/1  
[HTML4](#) 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset [ISO-HTML](#) 1997 (H9) ;  
 2000 (H12) 標準 / Preparation  
[XHTML 1.0](#) 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset [XHTML\\_m12n](#)  
 2001 (H13) Forms Modules • Basic Forms Module Forms Modules • Forms  
 Module [XHTML\\_Basic](#) 2000 (H12) [XHTML\\_Print](#) 2006 (H18)  
[XHTML 1.1](#) 2001 (H13) [XHTML2](#) 2010 (H22) XForms Module  
[HTML5](#) 2009 (H21) 適合 [HTML Standard](#) 適合 / HTML構文解析器 / Special  
 借用先 BML<sup>(84)</sup>, WML<sup>(141)</sup>  
 → `state`, `std-switch`, `var`

**ins** 1995（平成7）年2月22日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> に、`ins`, `del` が追加された。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

1997（平成9）年7月8日、『HTML 4.0』に、`ins`,



**del** が追加された。[HTML4-19970708:text]

2005(平成17)年4月15日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、  
**bdo, ins, del** が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準  
/ Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001(H13) Text Extension Modules • Edit Module

XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Legacy Edit Module

HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BML(84), ENML(210)

→ @a, @d, @r, added, correct, edit, mark

**insert** 1995(平成7)年12月1日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、  
**insert, param, alias** がある。1995(平成7)年12月  
20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』に、**insert, param, alias** がある。**img**, Microsoft の **dynsrc** 属性, Netscape  
の **embed**, Sun Microsystems の **app, applet** を統一、拡張するものと銘打っていた。[HTML3LE19951220]

1996(平成8)年2月26日版<sup>(90)</sup>では **insert** は **object** に改称され、**alias** は **object, param** に統合されたが、編集が不完全で  
**alias** も一部残っている。[HTML3LE19960226]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が  
HTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名のHTML要素と互換性はない。

XHTML2 2010(H22) XForms Module

→ **bodytext, caption, event, fig, resource**

**instance** 2004(平成16)年7月21日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup> 文書ソース注釈  
に、**state, instance** 等の構想がある。XML文書を生成するためのものだった。[WA1-20040721] XForms<sup>(123)</sup>の **instance**

に近い。

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。

XHTML2 2010(H22)

int MathML 3.0 Content, 4.0 Content

integers MathML 3.0 Content

intent 2011(平成23)年8月4日、James Hawkins<sup>(290)</sup>は、『Chromium Blog』で intent を提案した。[\[ConnectingWebIntents\]](#)



その後 Ian Hickson<sup>(291)</sup>が改善案を示したり、Mozilla<sup>(177)</sup>や W3C<sup>(185)</sup>を巻き込んだりしつつ、仕様案と実装の開発が進められた。しかし、実装実験が失敗に終わったとして破棄された。現在の registerProtocolHandler を含み、Web Share にも近いが、より壮大な構想だった。[\[SW:WI\]](#)

intersect MathML 3.0 Content, 4.0 Content

interval MathML 3.0 Content, 4.0 Content

inv 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。[\[TTX230\]](#)

→ rev, reverse



inverse MathML 3.0 Content, 4.0 Content

(290) James Hawkins Google 社員。Chromium<sup>(85)</sup>の開発に従事した。

(291) Ian Hickson Hixie HTML5<sup>(191)</sup>の父。Netscape, Mozilla<sup>(177)</sup>, Opera<sup>(409)</sup>で QA<sup>(292)</sup>に従事。『CSS Test Suite』,『Acid Tests』などの開発を主導し、Tantek Çelik<sup>(67)</sup>らと共に Web 標準のテスト手法の基礎を整えた。また、『CSS 2.1』,『Selectors』,『XBL 2.0』<sup>(182)</sup>などの Web 標準の開発を主導。WHATWG<sup>(414)</sup>を設立して『HTML5』を開発した。Google に移籍し HTML5 開発を主務としたが、Web 標準の開発にフルタイムで従事したのは W3C 職員を除けば初めてのことだったという。<sup>(293)</sup>

(292) QA Quality Assurance (品質保証)。Web ブラウザー事業者では Web 標準の開発と標準への適合性の改善の業務やその担当者を指す。

(293) 多くの Web 技術の仕様は他の業務との兼任や、私的な時間で開発されているとみられる。近年は Web ブラウザー事業者の個別の機能開発の担当者が仕様と実装の開発を一体的に進めるケースが増えているように思われる。



**is** 1996(平成8)年3月8日付W3C<sup>(185)</sup>文書で **is** が提案されていた。現在の **legend** に近いが、ラベルと内容を区切るものだった。[\[FORMS19960308\]](#)



**isbn** 2006(平成18)年4月21日 microformats<sup>(69)</sup>コミュニティで ISBN のマーク付け<sup>(19)</sup>の方法が検討された際にいくつかの候補の1つとして **isbn** が提示されたことがある。[\[ISBNMarkup\]](#)

平成19(2007)年1月23日時点では **author**, **editor**, **isbn**, **emph**, **opt**, **pub** が提案または利用された事例があったと記録されているが、詳細不明。[\[SW:pub\]](#)



**isindex** 1991(平成3)年4月2日付 WorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードでは、**isindex** が実装されているが、不具合で動作しなかったと思われる。1991(平成3)年9月28日付のソースコードでは修正されている。1991(平成3)年頃と推測されるHTMLの仕様書で追加されたもので、1990(平成2)年頃と推測されるその前の版にはまだ無かった。[\[SW:HTML1991\]](#)

1992(平成4)年11月13日、Kevin Hoadleyはwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、**isindex**の改良として **input**, **doneinput**を提案した。**doneinput**は提出ボタンを表す。[\[ISINDEXDocs\]](#)

1993(平成5)年11月10日頃公開されたNCSA Mosaic 2.0は、**form**, **input**, **select**, **option**, **textarea**を実装していた。現行仕様である。これより前のprerelease版から実装されていた。**isindex**は**form**をエミュレートする形で再実装された。[\[MOSAIC20:Form\]](#)

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[\[HTMLr358\]](#)

**HTML** 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

**HTML1** 1993(H5)/6 Mainstream **HTML2.0** 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0  
1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9) HTML 2.x 1997 (H9)/1  
HTML 4 1997 (H9) Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9)  
XHTML 1.0 2000 (H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001 (H13)  
Legacy Module 非推奨 HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard Ordinary  
文献 [HTMLWiki:isindex]



**iso-html** 1997 (平成9) 年 10 月 14 日 版  
ISO-HTML<sup>(207)</sup>に **iso-html** がある。文書要素<sup>(202)</sup>として  
使われた。**html** はなかった。<sup>[WG8n1935]</sup> 1997 (平成9) 年  
3月27日版 DTD<sup>(194)</sup>でも同様だった。<sup>[ISOHTML19970327]</sup>

ISO-HTML 1997 (H9)



**item** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版『HTML+』<sup>(72)</sup> の  
本文と DTD<sup>(194)</sup>に、 **math**, **box**, **over** がある。本文に  
**array**, **item** がある。例文に **rd** がある。本文で **sub**,  
**sup** が **math** 内でも使えるとされている。<sup>[HTML+19931028]</sup>

1994 (平成6) 年 1 月 5 日 版『HTML+』DTD に、 **math**, **over**,  
**box**, **root**, **array**, **item** がある。<sup>[HTML+19940105]</sup>

I  
K

2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup> の要素が  
HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
XHTML2 2010 (H22)



**itemref** 2009 (平成21) 年 10 月 2 日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>に **itemref** が追加された。<sup>[HTMLr4066]</sup> これ  
はマイクロデータ機能の利用可能性 (usability) の研究結  
果を踏まえた改訂の一部であり、このような形の機能追加は HTML  
史上初のことだった。研究過程の 2009 (平成21) 年 9 月 25 日付のメモ  
が初出。<sup>[MDNOTES]</sup>

2009 (平成21) 年 10 月 22 日、『HTML5』の **itemref** は  
**itemref** 属性に改められた。<sup>[HTMLr4273]</sup>

→ **ref**

**itemset** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22)

**itext** 2009（平成21）年1月5日、**itext** が提案された。それ以前に **text** として提案されていた。  
[TimedDivsHTML] 現在の **track** に当たる。



**jdiv** 2019（令和元）年時点の調査によると4万以上のWebページが **jdiv** を使っていた。Jivo chat 製品が使っていたものという。  
[ALMANAC2019:Markup]



**jean** Netscape Navigator 4.0 の頃 **jean**, **charles** が実装されていた。イースターエッグのようなものだろう。  
[SW:NN4]



**justification** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に **local\_setting** やその子要素各種がある。  
[交フォ報]



**kbd** 1988（昭和63）年5月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に  
**@code**, **@samp**, **@kbd**, **@key**, **@file**, **@dfn**, **@var**, **@cite**,  
**@emph**, **@strong**, **@b**, **@i** がある。  
[TEXINFO11]



1993（平成5）年1月6日、HTMLに **code**, **samp**, **kbd**, **key**, **dfn**, **var**, **cite**, **em**, **tt**, **strong**, **b**, **i**, **u** が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup>  
[HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993（平成5）年10月28日版 『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。  
[HTML+19931028]

1995（平成7）年3月1日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19950301]

2005(平成17)年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`code`, `var`, `samp`, `kbd`, `sup`, `sub`が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Extra  
HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9)  
HTML2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal  
Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTMLPrint 2006(H18)  
XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / Ordinary  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)

**key** 1988(昭和63)年5月時点で GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に  
`@code`, `@samp`, `@kbd`, `@key`, `@file`, `@dfn`, `@var`, `@cite`,  
`@emph`, `@strong`, `@b`, `@i`がある。[TEXINFO11]



1993(平成5)年1月6日、HTMLに`code`, `samp`, `kbd`, `key`,  
`dfn`, `var`, `cite`, `em`, `tt`, `strong`, `b`, `i`, `u`が追加された。<sup>(113)</sup> GNU  
Texinfoに着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup>  
[HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1994(平成6)年5月17日、HTML DTDは、`key`は広く対応されていないとして任意選択に格下げした。<sup>[HTML19940517]</sup>その後削除された。現在の`kbd`の入れ子に当たる。

平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交換フォーマット]

HTML 1993(H5)/1/6

**keygen** 1996(平成8)年頃のNetscape Navigator  
3.0は、`keygen`を実装した。1996(平成8)年6月29日付  
ドキュメントで説明されている。<sup>[NSKeyGen]</sup>その後いくつか  
の他のWebブラウザも実装したが、Internet Explorer<sup>(281)</sup>は実



装しなかった。

2005(平成17)年頃、Safari, Opera<sup>(409)</sup>, Gecko<sup>(176)</sup>が実装していた。Geckoの構文解析器は特別な属性付きの `select` に読み替えていた。この頃 Ian Hickson<sup>(291)</sup>は、『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>には追加せず、将来の仕様に追加する意向を示した。[\[SW:keygen\]](#)

2009(平成21)年4月7日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に `keygen` が追加された。[\[HTMLR2960\]](#)

2015(平成27)年、Chrome<sup>(86)</sup>は `keygen` の廃止の意向を表明し、Gecko もそれに賛同した。設計と相互運用性に課題が多いことが廃止の理由とされた。2015(平成27)年8月28日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>は `keygen` を非推奨とした。[\[HTML:DeprecateKeygen\]](#) 未実装の Microsoft を含め過半の主要 Web ブラウザーが支持しなくなったことによる。反発も多かったが意向は覆らなかつた。[\[SW:keygen\]](#)

2017(平成29)年1月14日、『HTML Standard』は `keygen` を廃止した。[\[HTML:RemoveKeygen\]](#) 前後して各 Web ブラウザーもこれに従った。今は構文解析器や DOM に痕跡を留めるのみである。[\[SW:keygen\]](#)

[HTML5](#) 2009(H21)適合 [HTML Standard](#) HTML構文解析器 / Special

**keywords** 1992(平成4)年6月10日付で CERN<sup>(81)</sup>の World Wide Web プロジェクト Web サイトで公開されていた HTML の改正案に `keywords` がある。[\[HTML2CTB\]](#)



**key\_input\_region** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



## key\_input\_region\_ 平成 23 (2011) 年 3 月 prompt 31 日版電子書籍交換



フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。  
[交フオ報]

**kill\_sgml** 1994 (平成 6) 年 10 月 19 日、 Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、 Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup> にない 10 個の HTML 拡張を列举したという風刺記事を投稿した。 `wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth` と挙げ、最後に `blink` という落ちだった。 [TopTenHTML]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、 Laura Lemay の提示した、 `wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`, `blink` を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。 [E/W3:Supported]

**l** 1993 (平成 5) 年 10 月 28 日版 『HTML+』<sup>(72)</sup>に、  
`br`, `l` がある。[HTML+19931028] `l` は内容を行とする。



2001 (平成 13) 年 7 月の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>案に `l` がある。名前空間は紆余曲折がありながらも当初案と最終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。 XHTML 2.0 名前空間の時代の一時期は `line` だった。いずれにせよ、現在の `br` に当たるが、内容を行とする。 [SW:XHTML2]

**HTML+** 1993 (H5)/11/8 **XHTML2** 2010 (H22) XHTML Text Module

**label** 1996 (平成 8) 年 3 月 8 日付の W3C<sup>(185)</sup> 文書で、 `label` が提案されていた。[FORMS19960308]



1996 (平成 8) 年 7 月 10 日版 Cougar<sup>(226)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、 `label` がある。[HTML4-19960710]

2002 (平成 14) 年 8 月 5 日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に `nl`, `name` が追加された。[XHTML2-20020805] 2002 (平成 14) 年 12 月 18 日、『XHTML

2.0』の `name` は `label` に改称された。[\[XHTML2-20021218\]](#) 追加当初は XHTML 2.0 名前空間だったが、紆余曲折を経て `nl`, `label` とも HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。しかし最終版に至る前に削除された。`nl` は現在の `menu` に当たる。`name` や `label` はそのラベルで、現在の `label` とは異なる。

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈に構想が追加された。[\[HTMLr358\]](#)

2008(平成20)年9月3日、『HTML5』に `label` が追加された。[\[HTMLr2146\]](#)

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。

現行の要素である。

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Forms Modules • Basic Forms Module Forms Modules • Forms Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18) XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BML<sup>(84)</sup>

→ 1h

**lambda** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**lang** 1994 (平成6) 年 11 月 30 日 版  
『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。[\[HTML3-19941130\]](#)



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `lang` を実装していた。[\[E/W3:Parse\]](#)

また、当時の文書で稀に見られる。[\[SW:lang\]](#) [\[E/W3:Parse\]](#)

1995(平成7)年3月1日版 『HTML 3.0』 DTD にある。[\[HTML3-19950301\]](#)

1995(平成7)年8月15日版 HTML 2.x<sup>(122)</sup>に `lang` がある。[\[HTML2x-00\]](#) 後の版では `span` に統合された。<sup>(294)</sup>

---

(294) 直接の関係はないが、後に WebVTT<sup>(277)</sup>が言語指定のため `lang` を追加した。

平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交換フォーマット]

HTML 3.0 1995(H7)/3/24; 1995(H7)/3/28

借用先 NITF(340)

laplacian MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**last-modified** 1994(平成6)年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]

→ a

**layer** 1997(平成9)年頃のNetscape Navigator 4.0は、layerを実装した。要素の位置や背景などを内容属性で指定できる。JavaScriptからの操作対象にもなる。

当時は一部のWebサイトで利用されていたが、勢力を急拡大させていたInternet Explorer<sup>(281)</sup>が対応しなかったため、普及は限定的だった。

KHTML<sup>(295)</sup>やWebKit<sup>(155)</sup>は、構文解析や利用者エージェントスタイルシート<sup>(117)</sup>でlayerに部分対応していた。『HTML5』<sup>(191)</sup>の利用者エージェントスタイルシートにもあった。

2009(平成21)年2月11日、『HTML5』の利用者エージェントスタイルシートからlayerが削除された。[HTMLr2781]

2024(令和6)年時点ではMapML<sup>(309)</sup>にlayerがある。仕様書例文ではlayer-も混在している。[MAPML]

→ nolayer

**layer-** 2024(令和6)年時点でMapML<sup>(309)</sup>にlayerがある。仕様書例文ではlayer-も混在している。[MAPML]

(295) KHTML KDEプロジェクトのレンダリングエンジン(179)。WebKit(155)が派生した。



L



**1cm** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**1d** 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**left** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]



1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにあ  
る。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

平成時代前半頃、`center` から類推される `left`, `right` はない、  
と解説されることがたまにあった。[SW:left]

実際に `left` が使われた事例もいくつか知られている。表示上の効果はなかったはずだが、元々何の指定もなくても左寄せで表示されるのである。[SW:left]

HTML 3.0 1995(H7)/3/24

**legend** 1997(平成9)年7月8日、『HTML 4.0』に  
`legend` が追加された。[HTML4-19970708:text]



2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に構想が追加された。[HTMLr358]

2006(平成18)年11月26日、『HTML5』は `legend` を定義した。  
現行仕様である。[HTMLr363]

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML m12n 2001(H13) Forms Modules • Forms Module

XHTML 1.1 2001(H13) HTML5 2009(H21) 適合

HTML Standard 適合 / Ordinary

借用先 BMI<sup>(84)</sup>

→ `dt`, `figcaption`, `is`, `summary`

**1eq** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**let** 2021（令和3）年4月6日のHTMLLang<sup>(128)</sup>にある。  
[HTMLLang]



**letterspacing** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>にlocal\_settingやその子要素各種がある。  
[交フォ報]



**lgroup** 1996（平成8）年3月8日付のW3C<sup>(185)</sup>文書でlgroupが提案されていた。現在のfieldsetに当たる。  
[FORMS19960308]



**lh** 1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にlhがある。  
[HTML3-19941130]



1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTDにlhがある。  
[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析においてlhを実装していた。  
[E/W3:Parse]

**HTML 3.0** 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

L

借用先 NITF(340)

→ figcaption, h1, label, name

**li** 1985（昭和60）年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。  
[DCFGML3e]



1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。  
[ISO8879]

1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。  
[SGMLguid]

1990（平成2）年12月4日付ファイルにol, liがあるのが現存最古の用例である。また、1990（平成2）年12月7日付ファイルにulがあるのが現存最古の用例で、olと混在しているが、翌年以後olは使われなくなる。  
[SW:HTML1991]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に  
ある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6  
HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict  
HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1  
HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001(H13) Core Modules ▶ List Module 必須 XHTMLBasic 2000(H12)  
XHTML-Print 2006(H18) XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
XHTML List Module HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML  
構文解析器 / Special  
借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, hnf<sup>(237)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X  
4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>, XMLspec<sup>(173)</sup>

**lie** 2018 年 (平成30) の  HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup> にある。[HTMLasPL]

**lift** 2000(平成12)年10月20日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。[M12N20010410]  


XHTMLm12n 2001(H13) An Example Abstract Module Definition ▶ XHTML  
Skiing Module 例示

**like** 1992(平成4)年6月11日付ファイルの HTRQ<sup>(192)</sup>案に date, header, like がある。 date, header とも HTML のものとは異なる。[HTRQ]  


**limespot** 2020(令和2)年時点の調査によると 0.49% の Web ページが limespot を使っていた。 LimeSpot<sup>(297)</sup>が使っていると推測されている。[ALMANAC2020:MARKUP]  


(296) LeXML LEXicographical eXtensible Markup Language。日本で作られた辞典用の XML 応用の 1つ。独自の XML 応用だが、一部の HTML の要素を借用している。[LeXML]

(297) LimeSpot 電子商取引における製品の推薦や購買行動の分析等を通じた販売促進サービスを提供している。

**limit** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**limittext** WebTV<sup>(124)</sup> 0.9 や 1.2 は、  
limittext を実装していた。幅を指定して文字列を表示  
する。WebTV 2.1 は実装していなかった。[SW:limittext]



**line** 2001(平成13)年7月の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>案に  
1がある。名前空間は糺余曲折がありながらも当初案と最  
終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。 XHTML 2.0  
名前空間の時代の一時期は line だった。いずれにせよ、現在の br  
に当たるが、内容を行とする。[SW:XHTML2]

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0



**linearGradient** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**linepitch** 平成 23(2011)年3月31日版電子書  
籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素  
各種がある。[交換フォーマット]



**link** 1990(平成2)年頃と推測される現存最古の  
HTML の仕様書に、 link がある。現行仕様と近いが、  
想定された用法は十分明らかではない。[SW:HTML1991]



1992(平成4)年4月16日付ファイルの HTTP 応答仕様案に、  
link がある。<sup>(134)</sup>現行仕様とはやや異なるが、当時の HTML のもの  
とは同じである。[HTTPEx1]

1992(平成4)年12月2日付の Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>のウェブペー  
ジに、現在の link 要素の構想が記されている。[FuturePlans]

1993(平成5)年1月6日版 HTML DTD にあ  
る。[HTML19930106:Dan]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に  
ある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調  
査によると、要素の利用数第17位が link だった。[WAStats:P&E]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Mainstream  
HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ;  
1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML 3.2 1997 (H9) HTML 2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n  
2001 (H13) Link Module XHTML Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML 2 2010 (H22) XHTML Metainformation  
Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Special  
借用先 BML(84), DTBook(197), JIS X 4052(244), ROE XML(254), VoiceXML  
1.0(348)

→ `a, anchor, child, parent, preread`

list MathML 3.0 Content, 4.0 Content

listbox Open UI<sup>(175)</sup> が selectmenu,  
selected-value, marker, listbox を提案していた。  
2020 (令和2) 年頃 Chromium<sup>(85)</sup> で実装実験され  
た。 [ChromeStatus:CustomSelect] [OUISelectmenu]



L 2023 (令和5) 年 9 月 27 日、Open UI は WHATWG<sup>(414)</sup> に  
selectlist と関連機能を提案した。WHATWG での議論で  
select の再利用が決まり、selectedoption のみ追加すること  
になった。 [HTML#9799] [OUISelectlist2]

listener 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
『XML Events 2』<sup>(206)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup> で利用  
できるとした。 [SW:XHTML2]



XHTML2 2010 (H22) XML Events Module

SVG Tiny 1.2

listing 1990 (平成2) 年 12 月 7 日付のファイルに  
listing があり、現存最古の用例である。 [SW:HTML1991]  
1991 (平成3) 年 3 月 5 日、Line Mode Browser<sup>(83)</sup> が  
listing を xmp と同等なものとして実装した。 [LMHistory]



2009(平成21)年7月31日、『HTML5』<sup>(191)</sup>で *listing* の処理が規定された。[HTMLr3502]

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Obsolete HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Deprecated

HTML 3.2 1997(H9) Deprecated HTML 2.x 1997(H9)/1

HTML5 2009(H21)廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special

→ pre

**lit** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、

pre, lit がある。どちらも空白や改行を保持して表示するが、可変幅フォントを使うのが lit、固定幅フォントを使うのが pre と分けられていた。[HTML+19931028]



1994(平成6)年時点では Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、lit を実装していた。

pre と同等とみなしていた。[E/W3-2.1p46]

HTML+ 1993(H5)/11/8

**livegeez** 1999(平成11)年1月版『The

LiveGe'ez Remote Processing Protocol』<sup>(298)</sup>に

livegeez がある。[LIVEGEEZ] エチオピア暦1993年第1月



5日(平成12(2000)年9月15日)時点で Zobel<sup>(300)</sup>が The LiveGe'ez Remote Processing Protocol の一部として実装していた。[ZobelPub]  
文字コード選択メニューなどの、サーバーの処理等のための HTML 片に展開される。

→ livegeezmenu, sera

**livegeezmenu** エチオピア暦1993年第1月5日

(平成12(2000)年9月15日)時点で Zobel<sup>(300)</sup>が

livegeezmenu を実装していた。[ZobelPub] 文字コード選



(298) The LiveGe'ez Remote Processing Protocol エチオピア文字(299)の文字コード変換や、数字や日時の変換などを行う Web サーバーの API。query 引数で与えた URL で指定した HTML を処理して応答として返す。[LIVEGEEZ]

(299) ゲエズ文字 エチオピア文字 エチオピアなどで使われる文字体系。ゲエズ語をはじめ、この地域の諸語の表記に用いられる。

(300) Zobel The LiveGe'ez Remote Processing Protocol<sup>(298)</sup>によりエチオピア文字(299)の文字コード変換などを行うソフトウェア。[ZobelPub] エチオピア向けのいくつかの Web サーバーで実用に供されていたという。

択メニューに展開される。『The LiveGe'ez Remote Processing Protocol』<sup>(298)</sup>では `livegeez` と属性によるとされている。[LIVEGEEZ]  
→ sera

#### ln MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**load** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



#### XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**loader** 2019 (令和元) 年時点で Apple Inc. の Web サイトで用いられていた。ページ内の JavaScript によって挿入され、利用されるものだった。[BuyAirPods]



**lobby** 2000 (平成12) 年 10 月 20 日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。



#### XHTML m12n 2001 (H13) An Example Abstract Module Definition → XHTML Skiing Module 例示

**local\_setting** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版 電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `local_setting` やその子要素各種がある。[交フォ報]



→ `default_column`, `default_css`, `default_font`, `default_heading_font`, `default_text_combine`, `default_text_style`, `end_phobhibit_char`, `fixed_line_char`, `hanging_char`, `hanging_punctuation`, `justification`, `letterspacing`, `linepitch`, `margin`, `page_progression_direction`, `prohibit_rule`, `proprietary`, `running_head`, `title_bar`, `top_prohibit_char`, `window`, `writing_mode`

**location** 2011 (平成23) 年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>が HTML.next<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にある。[HTML.next]



2014 (平成26) 年から、`location` で著者<sup>(52)</sup>の所在地を表すとの提案があり、提案者が実装して利用している。[Location:Initial] [Location6]

[SW:location]

**lodge** 2000（平成12）年10月20日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。[M12N20010410]



XHTML m12n 2001 (H13) An Example Abstract Module Definition • XHTML Skiing Module 例示

**log** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**logbase** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**loop** 2018 (平成30) 年 HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**lowlimit** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**lt** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**m** 2005（平成17）年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に **m** が追加された。現在の **mark** に当たる。[SW:WA1]



2008（平成20）年2月18日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は **m** を **mark** に改称した。現行仕様である。[HTMLr1232]

2021（令和3）年1月21日、物理量を表す **m** が提案された。**data** が既にあるとして却下された。[HTML#6319]

**maction** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**madebywz** 平成8（1996）年頃、WZ EDITOR<sup>(301)</sup>のHTML編集機能である「体裁モード」が **madebywz** を実装していた。平成8（1996）年6月16日のWZ 2.00Dは、それまでの <MadeByWZ> を <!--MadeByWZ--> に変更した。[WZ2FIXED] その後の HTMLEX は、更に **meta** 利用のものに変更した。これらは体裁モードの使用の有無を識別するものだった。[WZ3HTML]



(301) WZ EDITOR 平成時代初期から日本で使われている Windows 用テキストエディターの1つ。

『WZ EDITOR』の最初の発売は平成7（1995）年で、体裁モードが当初からもののかは不明だが、`madebywz` が最新版として提供された期間は高々1年程度になる。<sup>(302)</sup>

これらが含まれるHTML文書は、現在も稀に見られる。`<MadeByWZ>` の実利用例が未だに残っているのは、その現役期間の短さを鑑みれば驚くべきことである。[SW:MadeByWZ]

**main** 2012（平成24）年12月17日、W3C<sup>(185)</sup>は、 `main`要素案を公開した。Steve Faulkner<sup>(303)</sup>が`maincontent`として提案していたものである。[MAIN20121217]

2013（平成25）年1月31日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に`main`が追加された。現行仕様である。[HTMLr7680]

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ content

M

**maincontent** 2012（平成24）年9月9日、Steve Faulkner<sup>(303)</sup>は、`maincontent`仕様案を公開した。[MAINCONTENT] Steve Faulknerはこれ以前からメリングリスト等で提案していた。他の人からも類似の提案があった。他の要素名の提案に`main`,`content`などがあり、後に`maincontent`は`main`に改称された。[MAINCONTENT]

**malign** MathML 3.0 Presentation

**maligngroup** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**malignmark** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation, HTML構文解析器

**malignscope** MathML 3.0 Presentation

---

(302) 無論、古い版をそのまま使い続けた人もいただろう。

(303) Steve Faulkner 『HTML 5.0』(191)の編集者の1人。

**map** 1994(平成6)年10月のWWW'94<sup>(103)</sup>で、Spyglass, Inc.<sup>(304)</sup>のJames L. Seidmanは、クライアント側画像写像<sup>(306)</sup>の仕様案を発表した。`map`, `area`がある。[CSIM] 現行仕様である。



1995(平成7)年頃のNetscape Navigator 2.0は、クライアント側画像写像を実装した。[NSHTML3]

1996(平成8)年8月、Spyglassの論文とほぼ同じものがRFC 1980として発行された。[RFC1980]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2006(平成18)年11月1日、『Web Applications 1.0』に、`iframe`, `embed`, `object`, `param`, `map`, `area`が追加された。現行仕様である。[HTMLr236] [HTMLr238] [HTMLr240]

2017(平成29)年10月4日付文書で、W3C<sup>(185)</sup>Maps for HTML Community Group<sup>(308)</sup>は、`map`を地図表示に流用することを提案している。[M4HMapProposal] 後の`mapml-viewer`に当たる。

現行の要素である。

HTML 3.2 1997(H9) HTML4 1997 Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997(H9); 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001(H13) Client-side Image Map Module XHTML 1.1 2001(H13)  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary  
借用先 BML(84), DjVu XML(251), ENML(210)

M

---

(304) Spyglass, Inc. Spyglass Mosaic<sup>(305)</sup>を開発、販売していた企業。

(305) Spyglass Mosaic NCSA Mosaic<sup>(120)</sup>から派生した商用製品。Spyglass, Inc.<sup>(304)</sup>が開発、販売していた。多くの企業による派生版 Mosaic の基となったことで知られ、特に Microsoft による Internet Explorer 1.0 が有名。

(306) クライアント側画像写像 client-side image maps 画像写像<sup>(307)</sup>のリンク先実 URL 決定までを Web ブラウザー内で完結できるもの。当初はサーバーに座標を送信するサーバー側画像写像のみが利用できた。

(307) 画像写像 image maps 画像の座標を選択することで、座標に応じて異なる URL がリンク先として選ばれる機能。メニューや地図のような画像と共に使われる。

(308) Maps for HTML Community Group HTMLへの地図表示機能の追加を目指すグループ。

<b>map-body</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-caption</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> にある。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-extent</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に extent がある。仕様書例文では map-extent も混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-head</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-input</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-link</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-meta</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	
<b>map-title</b>	2024（令和6）年時点で MapML <sup>(309)</sup> に HTML と同名の要素がある。仕様書例文では map- が付くものも混在している。 <a href="#">[MAPML]</a>	

(309) MapML 地図表示に必要な情報を記述するマーク付け言語(186)。W3C(185)の Maps for HTML Community Group<sup>(308)</sup>が開発している。2015(平成27)年頃の当初案では独自の XML 応用だったが、現在は HTML への統合を目指しており、公式実装は HTML 名前空間(166)のカスタム要素(51)を活用している。

**mapml** 2024（令和6）年時点で MapML<sup>(309)</sup> に mapml がある。仕様書例文では mapml- も混在している。[\[MAPML\]](#)



**mapml-** 2024（令和6）年時点で MapML<sup>(309)</sup> に mapml がある。仕様書例文では mapml- も混在している。[\[MAPML\]](#)



**mapml-viewer** 2024（令和6）年時点で MapML<sup>(309)</sup> にある。[\[MAPML\]](#)  
→ map



**margin** 1993（平成5）年 10 月 28 日 版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、 footnote, margin がある。[\[HTML+19931028\]](#) 脚注や余白に置く傍注を表す。ポップアップ窓が開くハイパーテキストボタンのような形も実装できるとされていた。



1994（平成6）年時点で Emacs/W3<sup>(106)</sup> が、 footnote, margin を実装していた。[\[E/W3-2.1p46\]](#)

1995（平成7）年時点で、 html-helper-mode<sup>(74)</sup> が実装していた。[\[HHMKeybindings\]](#)

M

平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[\[交フオ報\]](#)

**HTML+** 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5

→ fn, panel

**mark** 1995（平成7）年2月9日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> に mark が追加された。[\[HTML3-19950301\]](#) 『HTML+』<sup>(72)</sup> の changed からの改称だが、変更箇所に限りなく注釈の適用対象など汎用的に使える。



1995（平成7）年3月13日、SGML Open<sup>(366)</sup> からの助言により『HTML 3.0』DTD から mark が削除された。1995（平成7）年3月

21 日、『HTML 3.0』DTD に `range`, `spot` が追加された。[HTML3-19950324] 『HTML 3.0』本文によると、`range` は検索結果や注釈の対象などの範囲を表し、`spot` はその端点を表す。

2008(平成20)年2月18日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は `m` を `mark` に改称した。現行仕様である。[HTMLr1232]

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / Ordinary  
→ `del`, `ins`, `rev`, `reverse`

**markdown** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するもの  
にある。[POSTHTML:INCLUDEMD] [POSTHTML:MARKDOWNIT]  
[POSTHTML:MD]



**marker** エチオピア暦 2010 年第 2 月 23 日  
(平成 29(2017)年 11 月 2 日)、Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup>の  
Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に `.marker`<sup>(160)</sup> (Zaima)  
の記述のための要素群を提案した。[ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]



M Open UI<sup>(175)</sup> が `selectmenu`, `selected-value`, `marker`,  
`listbox` を提案していた。2020(令和2)年頃 Chromium<sup>(85)</sup>で実装  
実験された。[ChromeStatus:CustomSelect] [OUISelectmenu]

SVG 1.1, 2.0

**marque** 質問や低品質な解説等で `marquee` が  
`marque` と書かれることがしばしばある。[SW:marque]



**marquee** 1996(平成8)年頃の Internet Explorer  
2.0 は、`marquee` を実装した。



Netscape Navigator<sup>(329)</sup>独自拡張の代表 `blink` と  
Internet Explorer<sup>(281)</sup>独自拡張の代表 `marquee` は、しばしばセットで紹介された。両ブラウザに対応させる苦肉の策として、両方のタグで囲んで何らかの視覚的变化が発生すればいいとの使われ方もままで行われた。

『HTML 3.2』<sup>(127)</sup>では、`blink`, `marquee` のどちらも標準化しないという政治的取引があった。[HTMLBG] [Raggett4:2]

その後多くの Web ブラウザーが実装した。2002(平成14)年、`Gecko`<sup>(176)</sup>が実装した。<sup>(310)</sup>

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

2009(平成21)年5月26日、『HTML5』に`marquee`の実装の規定が追加された。[HTMLr3133] [HTMLr3141]

HTML5 2009(H21)廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special  
→ `blinquee`, `marque`

**mask** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>に、`mask`がある。[交フオ報]  
SVG 1.1, 2.0



**math** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、`math`, `box`, `over` がある。本文に`array`, `item` がある。例文に`rd` がある。本文で`sub`, `sup` が`math` 内でも使えるとされている。[HTML+19931028]



1994(平成6)年1月5日版『HTML+』DTD に、`math`, `over`, `box`, `root`, `array`, `item` がある。[HTML+19940105]

1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD にある。[HTML3-19941130]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTD にある。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において`math`と数式用各

(310) `Gecko`(176)が対応すると決めたときだけでなく、Web サービス等が対応すると発表したときなど、何らかの製品が`marquee`への対応追加を発表するたびに多くの反発があった。移動文字を不快に感じる人は多かったし、当時の Web 標準から外れることへの抵抗もあった。`marquee`は不評だった Internet Explorer<sup>(281)</sup>や Microsoft の象徴であり、それに屈するようにも感じられた。しかしそうした反対意見を無視できるほど、`marquee`はよく用いられ、必要とされる機能だった。[SW:marquee]

要素を実装していた。

2008(平成20)年4月5日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は、HTML文書中の **svg**, **math** の開始タグとその続きを SVG<sup>(400)</sup>や MathML<sup>(311)</sup>の名前空間と解釈することとした。現行仕様である。なお、その時点で既存のHTML文書で何らかの理由で **svg**, **math** の開始タグを含むものが一定数存在していたことが設計に影響を与えている。[\[HTMLr1400\]](#) [\[HTMLr1401\]](#) [\[HTMLr1404\]](#) [\[SVGInHTMLian\]](#)

**HTML+** 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 **HTML 3.0** 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28  
**HTML Standard** HTML構文解析器 / Ordinary

→ **above**, **atop**, **b**, **bar**, **below**, **bt**, **choose**, **ddot**, **dot**, **hat**, **left**, **of**, **right**, **sqrt**, **t**, **tilde**, **vec**

MathML 3.0, 4.0 Core

**matrix** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**matrixrow** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**max** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**maybe** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[\[HTMLasPL\]](#)



M

**md** PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。[\[POSTHTML:MD\]](#) [\[POSTHTML:MARKDOWNIT\]](#)



**mean** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**meaning** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



---

(311) MathML Mathematical Markup Language。数式用のマーク付け言語<sup>(186)</sup>。HTML3の数式機能として開発が始まったが、方針を転換して独立したXML応用となった。その後HTML5<sup>(191)</sup>によってHTML文書で使えるようになった。本書では『MathML 3.0』,『MathML 4.0』,『MathML Core』にあるかを示した。[\[MathML3\]](#) [\[MathMLCore\]](#) [\[MathML\]](#)更に、構文解析器で特別な挙動が定められたものには「HTML構文解析器」と示した。[\[HTML\]](#)

**measure** 1995(平成7)年8月15日版HTML  
2.x<sup>(122)</sup>に**measure**がある。単位を指定した値を表す。[\[HTML2x-00\]](#)



**medgam** エチオピア暦2010年第2月23日  
(平成29(2017)年11月2日)、Daniel YacobはW3C<sup>(185)</sup>の  
Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に**ዘማ**<sup>(160)</sup>(Zaima)  
の記述のための要素群を提案した。[\[ZaimaDM\]](#) [\[ZaimaPagesYacob\]](#)



**media** 2013(平成25)年1月7日にW3C HTML  
WG<sup>(312)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。[\(313\)](#) [\[OGHTML6\]](#)



**mediaelement** 2016(平成28)年7月21日、  
**wrapper** MediaElement.js<sup>(314)</sup>は、



**mediaelementwrapper**を使い始めた。内部的に使われた。要素名は設定で変更できた。[\[ME:3xCORE\]](#)

2020(令和2)年時点の調査によると、0.49%のWebページが  
**mediaelementwrapper**を使っていた。[\[ALMANAC2020:MARKUP\]](#)

2021(令和3)年7月16日、MediaElement.jsは

M

---

(312) W3C HTML WG (1) W3C<sup>(185)</sup>の下部組織の1つ。HTML4<sup>(394)</sup>, XHTML1, XHTML2<sup>(184)</sup>, XML Events, HLinkなどを開発した。2007(平成19)年3月の改組でW3C XHTML2 WGに引き継がれた。(2) W3Cの下部組織の1つ。2007(平成19)年3月に発足した。初期はWHATWG<sup>(414)</sup>の仕様案を採択して『HTML5』<sup>(191)</sup>を共同開発したが、後に独自路線へ進み『HTML 5.0』<sup>(191)</sup>などを開発した。

(313)『HTML6』<sup>(161)</sup>は、2013(平成25)年1月7日にOscar Godsonが提出した文書。2012(平成24)年1月31日から開発されていた。[\[OGHTML6\]](#) HTML5<sup>(191)</sup>を議論しているグループに何の脈絡もなく、まったく方向性の違う独自の仕様書をその次の版だと称して提出して如何なる成果が得られると考えていたのか疑問ではある。冗談の類<sup>(161)</sup>ではなくさうだが、かといって提出後2014(平成26)年の最後の更新まで数度の更新を除くと、実装や標準化に向けて具体的な行動が取られていない。協力者は数人いたようだ。なお、『HTML6』を称する提案は他にもあった。

(314) MediaElement.js 媒体要素<sup>(315)</sup>を利用するJavaScriptライブラリーの1つ。当初はFlashで媒体プレイヤーを実装していた。

(315) 媒体要素 media element video と audio。[\[HTML\]](#)

mediaelementwrapper を div に変更した。[ME:ChangeFake]

median MathML 3.0 Content, 4.0 Content

mediatype 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>

は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010(H22)

enclose MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

menu 1992(平成4)年のLine Mode Browser<sup>(83)</sup>

Version 1.2a<sup>(205)</sup>は、将来の利用のためとして、menu, dirを実装した。[LMHistory]



初期のWebブラウザにはulとmenu, dirで挙動が違うものがあったともいうが、いつしか表示上の区別もなくなり、使い分けがいまいちはっきりしなくなっていた。

2004(平成16)年4月7日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>の文書ソース注釈に、menu, menuitemを使ったメニューの構想がある。本文にもメニューの構想があるが、要素名は明記されていない。[WA1-20040407]

M  
2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、menu, menulabel, menubarがある。メニューを表す。<sup>(316)</sup> [WA1-20040923]

2011(平成23)年8月3日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>のcommandはmenuitemに改称された。これを含むmenu機能は実装者の意向をもとに大幅に改められた。[HTMLr7602]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Mainstream

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1994(H6)/4/5 HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.X 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Transitional / Frameset

XHTML1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTMLm12n 2001(H13)

Legacy Module 非推奨 HTML5 2009(H21)適合

---

(316) XUI<sup>(180)</sup>のものに由来するが違いが多い。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

→ `label, name, nl`

**menubar** 1996(平成8)年3月8日付のW3C<sup>(185)</sup>文書で `menubar` が提案されていた。`select` を使ってメニューバーを表す。[FORMS19960308]



2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`menu`, `menulabel`, `menubar` がある。メニューを表す。<sup>(316)</sup> [WA1-20040923]

**menuitem** 2004(平成16)年4月7日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>の文書ソース注釈に、`menu`, `menuitem` を使ったメニューの構想がある。



本文にもメニューの構想があるが、要素名は明記されていない。[WA1-20040407]

2011(平成23)年、Gecko<sup>(176)</sup>は `command` の実装を開発していたが、`menuitem` と改称することを決め、仕様書にも変更を提案した。[W3C13608] [Moz676236] 要素名は XUL<sup>(180)</sup>によったものと考えられる。

2011(平成23)年8月3日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の `command` は `menuitem` に改称された。これを含む `menu` 機能は実装者の意向をもとに大幅に改められた。[HTMLr7602]

M

**menulabel** 2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、`menu`, `menulabel`, `menubar` がある。メニューを表す。<sup>(316)</sup> [WA1-20040923]



**merror** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**message** 1994(平成6)年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`message` がある。`form` においてサーバーからの警告や誤りや情報を表す。[HTML+19940]



2004(平成16)年6月2日版『Web Applications Markup

Language 1.0』<sup>(145)</sup>に **byline**, **footer**, **section**, **navigation** の構想がある。Web アプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に **navigation**, **header**, **footer**, **section**, **post**, **message**, **content**, **h** の構想がある。[WA1-20040602]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

2015(平成27)年3月20日に WHATWG<sup>(414)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup> [BMHTML6] [BMHTML6:GH]

HTML+ 1994(H6)/4/5 Core XHTML2 2010(H22) XForms Module

**meta** 1994(平成6)年1月5日、『HTML+』<sup>(72)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>に **meta** が追加された。<sup>[HTML+19940105]</sup>  
[InitHeaderDave]



2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第7位が **meta** だった。[WAStats:P&E]

現行の要素である。

M

HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1  
HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001(H13) Metainformation Module XHTML\_Basic 2000(H12)

XHTML-Print 2006(H18) XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
XHTML Metainformation Module HTML5 2009(H21) 適合

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), CMML(116), DTBook(197), NITF(340), ROE XML(254),  
SMIL(256), SRGS(317), SSML(346), VoiceXML 1.0(348), WML(141)

→ **date**, **expires**, **madebywz**, **noindex**, **owner**, **resource**, **x-meta**

**metadata** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

---

(317) SRGS Speech Recognition Grammar Specification。音声認識用の文法記述方式の1つ。XML(5)と独自形式の2つの構文がある。[SRGS]

**meter** 2006(平成18)年3月29日、『HTML5』<sup>(191)</sup>のgaugeはmeterに改称された。現行仕様である。  
[HTMLr15]



現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard適合 / Ordinary

**mfenced** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mfrac** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mfraction** MathML 3.0 Presentation

**mglyph** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation, HTML構文解析器

**mh** 1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に mh がある。  
[HTML+19930713] 現在の mailto:



URL の subject 引数に当たる。

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』に、form, mh, input, textarea, select, option がある。  
[HTML+19931028]

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8

**mi** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core, HTML構文解析器

**milestone** Open eBook<sup>(326)</sup>仕様書が著者<sup>(52)</sup>による拡張の例文で使っていた。  
[OEBPS1]



**min** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**minus** 2018(平成30)年

HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。  
[HTMLasPL]

MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**missing-glyph** SVG 1.1, Tiny 1.2

**ixin** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。  
[POSTHTML:MIXIN]



**labeledtr** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mlg** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>に mlg がある。割注を表す。[\[交フォ報\]](#)



**mlongdiv** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mm:beginlock** 平成時代の半ば頃の時点で、  
『Adobe Dreamweaver』<sup>(318)</sup>が実装していた。



2005 (平成17) 年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、 mm:beginlock, mm:endlock などは多くの Web ページで使われていた。[\[WAStats:Editors\]](#)

**mm:endlock** 平成時代の半ば頃の時点で、  
『Adobe Dreamweaver』<sup>(318)</sup>が実装していた。



2005 (平成17) 年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、 mm:beginlock, mm:endlock などは多くの Web ページで使われていた。[\[WAStats:Editors\]](#)

**mm:treecolumn** 平成時代の半ば頃の時点で、  
『Adobe Dreamweaver』<sup>(318)</sup>が実装していた。



M

2008 (平成20) 年の『Adobe Dreamweaver CS4』は、  
mm:treecontrol, mm:treecolumn, mm:treenode を実装していた。ツリーコントロールを表す。[\[DWCS4拡張\]](#)

**mm:treecontrol** 平成時代の半ば頃の時点で、  
『Adobe Dreamweaver』<sup>(318)</sup>が実装していた。



2008 (平成20) 年の『Adobe Dreamweaver CS4』は、  
mm:treecontrol, mm:treecolumn, mm:treenode を実装していた。ツリーコントロールを表す。[\[DWCS4拡張\]](#)

(318) Macromedia Dreamweaver Adobe Dreamweaver Web サイト製作ソフトウェアの 1 つ。1997 (平成 9) 年 12 月に最初の版が発売された。買収により 2007 (平成19) 年 6 月 22 日発売の Adobe Dreamweaver CS3 以後 Adobe 製品となった。

**mm:treenode** 平成時代の半ば頃の時点で、『Adobe Dreamweaver』<sup>(318)</sup>が実装していた。



2008（平成20）年の『Adobe Dreamweaver CS4』は、**mm:treecontrol**, **mm:treecolumn**, **mm:treenode** を実装していた。ツリーコントロールを表す。[DWCS4拡張]

**mmultiscripts** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mn** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core, HTML構文解析器

**mo** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core, HTML構文解析器

**mod** 2021（令和3）年4月6日のHTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]



**mode** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**model** 2009（平成21）年、『 XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



2009（平成21）年10月30日、WHATWG<sup>(414)</sup>のメーリングリストに **model** の提案があった。3次元表示のものという。しかし要求が不明瞭で却下された。[ModelBrian] [Modellan]

2015（平成27）年3月20日にWHATWGに送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。<sup>(225)</sup> [BMHTML6] [BMHTML6:GH]

2021（令和3）年8月29日、Appleは **model** を提案した。WebKit<sup>(155)</sup>で実験実装している。[WKModelExplainer]

**XHTML2** 2010 (H22) XForms Module

→ **if**, **input**, **queryform**, **recall**

**modref** 平成9（1997）年9月24日の論文によると、Forsdonnet<sup>(181)</sup>にある。仕様と検証の形式的記述に使う。[Forsdonnet1] [Forsdonnet2]



**module** 平成9(1997)年9月24日の論文によると、Forsdonnet<sup>(181)</sup>にある。仕様と検証の形式的記述に使う。[\[Forsdonnet1\]](#) [\[Forsdonnet2\]](#) 

2006(平成18)年10月30日、Douglas Crockford<sup>(319)</sup>は**module**を提案した。現在の**iframe**と**postMessage**メソッドに当たる。[\[ModuleTag\]](#)

2014(平成26)年、モジュールスクリプト<sup>(320)</sup>の記述のため**module**が提案された。現在の**script**(**type=module**)に当たる。[\[ModuleTagDave\]](#)

PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。同名の他の提案とは異なる。[\[POSTHTML:MODULES\]](#)

**modulo** 2018 (平成30) 年 の HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[\[HTMLasPL\]](#) 

**moment** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**momentabout** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**money** 1995(平成7)年8月15日のHTML 2.x<sup>(122)</sup>に**money**がある。金額を表す。[\[HTML2x-00\]](#) 現在の**data**に当たる。

**mosaic-communications-** 1994(平成6)年のMosaic  
**bookmark-file-1**

Netscape 0.9<sup>(126)</sup>のNetscape Bookmark<sup>(330)</sup>形式ファイルの文書型宣言<sup>(332)</sup>でMosaic-Communications-Bookmark-file-1が文書型名<sup>(322)</sup>として使われていた。[\[SW:Netscape Bookmark\]](#) 

(319) Douglas Crockford JSONの開発で知られる。

(320) モジュールスクリプト module script 古典スクリプト<sup>(321)</sup>に対して、JavaScriptモジュール。

(321) 古典スクリプト classic script モジュールスクリプト<sup>(320)</sup>に対して、従来のJavaScriptプログラムコード。

(322) 文書型名 document type name 文書型宣言<sup>(332)</sup>の<!DOCTYPEの後に書く名前。文書要素<sup>(202)</sup>の要素名と同じことになっている。

→ `html, netscape-bookmark-file-1`

**mover** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mpadded** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mpath** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**mphantom** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mprescripts** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mquote** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されて



いた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。[SW>NN4]

**mroot** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mrow** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**ms** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core, HTML構文解析器

**mscarries** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mscarry** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**msgroup** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**msline** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mso** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける `outlook`, `not-outlook` の別名例に `mso`, `not-mso` がある。[POSTHTML:MSO]



**mspace** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**msqrt** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**msrow** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mstack** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**mstyle** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**msub** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**msubsup** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**msup** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mtable** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**mtd** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

M

**mtext** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core, HTML構文解析器

**mtr** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**multicol** 1996 (平成8) 年頃の Netscape Navigator 3.0 は、**multicol** を実装した。[\[NN3Welcome\]](#)



1997 (平成9) 年7月28日の JustView<sup>(323)</sup> 2.0 は、段組や縦書きに対応した。[\[一太郎8補助\]](#) **multicol** を実装したもので、縦書きは独自の仕様だった。<sup>(325)</sup> [\[SW:vert\]](#)

その後、他のいくつかの Web ブラウザも何らかの形で実装した。いくつかのウェブサイトで使われたが、Internet Explorer<sup>(281)</sup> は実装しなかったので普及しなかった。現在は CSS で記述できる。[\[SW:multicol\]](#)

2009 (平成21) 年2月11日、『HTML5』<sup>(191)</sup> の利用者エージェントスタイルシート<sup>(117)</sup> から **multicol** が削除された。[\[HTMLr2778\]](#) 今は DOM 関連の規定に痕跡が残る。

**HTML Standard** Ordinary

→ **multicolumn, tate**

M

**multicolumn** 日本で出版された HTML 3.2<sup>(127)</sup> の解説書で、Netscape Navigator 3 が **multicolumn** を実装していると書いたものがあったという。例文では **multicol** になっていたという。書名は不明。平成16(2004)年時点での情報だが、出版は HTML 3.2 と Netscape Navigator 3 の時代であろう。[\[SW:multiparam\]](#)



**multiply** 2018 (平成30) 年の

HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup> にある。[\[HTMLasPL\]](#)



**munder** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

**munderover** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation Core

(323) JustView ジャストシステム社の Web ブラウザ。一太郎<sup>(324)</sup>などと共に配布された。JustView 2.0 は平成9(1997)年7月28日発売の一太郎 8 に同梱されていた。

(324) 一太郎 20世紀の日本でよく使われたワープロソフトウェアの1つ。

(325) Web ブラウザで初めての縦書き表示への対応だった。

**myhead** Open eBook<sup>(326)</sup>仕様書が著者<sup>(52)</sup>による拡張の例文で使っていた。[OEBPS1]



**mytag** 1997(平成9)年4月発表の displets<sup>(199)</sup>機能案の実例として mytag が使われた。[DISPLETS1997]



**n** 2021(令和3)年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]



**name** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で人名に使われている。  
[SW:pg\*]



2002(平成14)年8月5日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に n1, name が追加された。[XHTML2-20020805] 2002(平成14)年12月18日、『XHTML 2.0』の name は label に改称された。[XHTML2-20021218] 追加当初は XHTML 2.0 名前空間だったが、紆余曲折を経て n1, label とも HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。しかし最終版に至る前に削除された。n1 は現在の menu に当たる。name や label はそのラベルで、現在の label とは異なる。

2005(平成17)年9月1日の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で構想が示されていた。<sup>(104)</sup>属性により人名、船名などを表すものだった。[WA1-20050901]

→ au, author, lh, person

**nameloc** 1994(平成6)年4月7日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は HTML の標準化<sup>(327)</sup>に向けた論点整理で、候補案の1つに HyTime を活用し url, nameloc を使ったハイパーリンクの記述法を挙げた。[TowardClosure]



1994(平成6)年4月25日、Dan Connolly の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。

(326) Open eBook 電子書籍形式の1つ。 XHTML<sup>(201)</sup>と CSS を拡張して使っていた。後に EPUB に発展した。

(327) 紆余曲折の末に『HTML 2.0』<sup>(149)</sup>となるもの。

る。[ReliableLink]

→ a

### naturalnumbers MathML 3.0 Content

**nav** 2005(平成17)年4月18日かそれ以前の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の改訂で、navigationはnavに改称された。現行仕様である。[SW:WA1]



現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

**navigation** 2004(平成16)年5月3日のOpera<sup>(409)</sup>とMozilla<sup>(177)</sup>がThe W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents<sup>(240)</sup>に提出したposition paperにbyline, footer, section, navigation等の構想が示されていた。[WACDFWS:OPERA]

2004(平成16)年6月2日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>にbyline, footer, section, navigationの構想がある。Webアプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈にnavigation, header, footer, section, post, message, content, hの構想がある。[WA1-20040602]

N

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、navigationがある。[WA1-20041208]

2005(平成17)年4月18日かそれ以前の『Web Applications 1.0』の改訂で、navigationはnavに改称された。現行仕様である。[SW:WA1]

**ncsa-annotation-format-1** 1994(平成6)年頃のNCSA Mosaic<sup>(120)</sup>のpersonal annotation<sup>(328)</sup>の保存ファイルの先頭で、開始



(328) personal annotation Mosaicの機能の1つで、Webページに注釈(16)を付与できる。注釈は専用ディレクトリーのPAN-1.html, PAN-2.htmlなどのファイルに保存される。

タグが使われていた。[SW:PAN]

**neighbor** 1994(平成6)年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]



→ a

**neq** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**nest** 2007(平成19)年9月19日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に datatemplate, rule, nest が追加された。離形機能を提供する。[HTMLr1019]



**netscape-bookmark-** 1994(平成6)年頃の  
**file-1** Netscape Navigator<sup>(329)</sup>以来、Netscape Bookmark<sup>(330)</sup>形式ファイルの文書型宣言<sup>(332)</sup>で NETSCAPE-Bookmark-file-1 が文書型名<sup>(322)</sup>として使わ



---

(329) Netscape Navigator Netscape 社の Web ブラウザ。1995(平成7)年頃世界中で広く用いられ、普及期の WWW でまず最初に入手すべきソフトウェアだった。有料でパッケージ販売されたが、利用期限のある無償版もインターネットで配布され続け、実質無料だった。略して単に Netscape とも、開発コード名から Mozilla<sup>(177)</sup>とも呼ばれた。版によっても異なるが、狭義には Web ブラウザ機能のみ、広義には MUA 等の他のインターネットクライアント機能を含む。

(330) Netscape Bookmark Netscape Navigator<sup>(329)</sup>はブックマークを HTML 風ファイルで管理していた。[MSDN:NetscapeBookmark] 他の Web ブラウザもこれに対応し、ブックマークの交換の事実上の標準のデータ形式となっている。公式ドキュメントは存在しなかったと思われる。Firefox<sup>(331)</sup>のヘルプは MSDN を参照している。[FxHelp:ImportBookmark] SGML<sup>(78)</sup>風だが公式な DTD<sup>(194)</sup>はない。SGML であれば文書型名<sup>(322)</sup>が文書要素<sup>(202)</sup>の要素名となるが、実際のブックマークファイルでは文書要素のタグ<sup>(20)</sup>は省略されている。一般には HTML ファイルと認識され拡張子も .html が使われる。

(331) Firefox Mozilla<sup>(177)</sup>プロジェクトによる Web ブラウザの1つ。

(332) 文書型宣言 document type declaration SGML<sup>(78)</sup>では <!DOCTYPE から始まるマーク付け宣言<sup>(18)</sup>を文書型宣言といい、DTD<sup>(194)</sup>などを記述する。HTML では DOCTYPE スイッチ<sup>(333)</sup>に流用された歴史的経緯で、現在では <!DOCTYPE HTML> とだけ書く。

(333) DOCTYPEスイッチ DOCTYPE switch 文書型宣言<sup>(332)</sup>で CSS 等の動作モードを切り替える機構。CSS の初期案や不具合等に由来し事実上の標準となっていた Internet Explorer<sup>(281)</sup>の挙動と当時の正式な CSS 仕様との不整合の調整のため 21世紀初頭に成立し、後に WHATWG<sup>(414)</sup>により標準化された。

N

れている。[SW:Netscape Bookmark]

→ [html, mosaic-communications-bookmark-file-1](#)

**nextid** 1991(平成3)年1月24日付の文書が最古の用例である。[SW:HTML1991]



1991(平成3)年4月2日付『WorldWideWeb』<sup>(40)</sup> ソースコードでは、**nextid** が実装されている。[SW:HTML1991]

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 HTML3.0 1995(H7)/3/24 ;

1995(H7)/3/28 HTML2.x 1997(H9)/1 HTML5 2009(H21)廃止

HTML Standard Ordinary

**nl** 2002(平成14)年8月5日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に

nl, name が追加された。[XHTML2-20020805] 2002(平成14)



年12月18日、『XHTML 2.0』の name は label に改称

された。[XHTML2-20021218] 追加当初は XHTML 2.0 名前空間だった

が、紆余曲折を経て nl, label とも HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。

しかし最終版に至る前に削除された。nl は現在の menu に当たる。name や label はそのラベルで、現在の label とは異なる。

XHTML2 2010(H22)

N

**no-wai** 2018 (平成30) 年 の

HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**noaction** 1998(平成10)年10月1日の

xHTML<sup>(75)</sup>仕様案に event, action, noaction がある。

イベントハンドラーを記述できる。[ModBroadcast]



**nobr** 1995(平成7)年頃の Netscape Navigator 1

は、nobr, wbr を実装した。[NNExts] 1994(平成6)年10月



14日時点既に実装・公開済みだったと推測される。

HTML3.0 1995(H7)/3/28 言及のみ HTML Standard HTML構文解析器 /

Formatting

借用先 LeXML<sup>(296)</sup>

→ wrap

**nocase** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に case, nocase がある。条件分岐を表す。[\[交フオ報\]](#)



→ t-case, t-nocase

**node** 1991 (平成 3) 年 4 月 2 日付の WorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードに、 node の構想が書かれていた。部分節点 (subnode)<sup>(334)</sup>の埋め込みに使うものだったとされるが、詳しい仕様は未決定だった。1990 (平成 2) 年頃と推測される現存最古の HTML の仕様書に既に node があるが、属性が示されるだけで説明はまだない。[\[SW:HTML1991\]](#)



1997 (平成 9) 年 4 月発表の displets<sup>(199)</sup>機能案の実例として graph, node, arc が使われた。グラフ (graph) を表す。[\[DISPLETS1997\]](#)

→ iframe, include

**noembed** 1995 (平成 7) 年頃の Netscape Navigator 2.0 が embed を実装したが、同じ頃 (詳細不明)、 noembed も実装した。[\[SW:noembed\]](#)



2006 (平成 18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[\[HTMLr358\]](#)

N

現在の『HTML Standard』<sup>(7)</sup>でも noembed は表示されないと定められ、構文解析器にも特別な挙動が残る。[\[HTML\]](#)

HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special  
→ noscript

**noevent** 1998 (平成 10) 年 10 月 1 日の xHTML<sup>(75)</sup>仕様案 DTD<sup>(194)</sup>に要素名 noevent があるが、要素宣言や規定はない。[\[ModBroadcast\]](#)



---

(334) ここでいう節点 (node) とは Web ページのこと。

**noflame** 低品質の解説等で `flameset`, `flame`, `noflame`, `noframes`, `iflame` とするものや正しい綴りと混在するものが、日本語圏に若干数ある。[SW:flameset]



→ `noframe`

**noframes** 低品質の解説等で `flameset`, `flame`, `noflame`, `noframes`, `iflame` とするものや正しい綴りと混在するものが、日本語圏に若干数ある。[SW:flameset]



→ `noframes`

**noframe** 1995（平成7）年頃のNetscape Navigator 2.0が実装した `frameset` や `frame`と共に `noframes` が定義されたが、そのデモの中には `noframe` としたものがあった。[NN2:Frames]



その影響か解説類や実際の文書で `noframe` が非常によく見られた。[SW:noframe]

→ `noflame`

**noframes** 1995（平成7）年頃のNetscape Navigator 2.0は `frameset`, `frame` を実装したが、それと共に `noframes` が定義された。Netscape Communications CorporationはHTML 3.0<sup>(105)</sup>への追加を提案していたという。[FrameBasics]



1996（平成8）年7月10日版 Cougar<sup>(226)</sup> DTD<sup>(194)</sup>の注釈に、フレームの構想がある。[HTML4-19960710]

1997（平成9）年3月31日版フレーム仕様<sup>(241)</sup>に `frameset`, `frame`, `iframe`, `noframes` がある。[FRAMES19970331]

1997（平成9）年4月のLynx<sup>(335)</sup> 2.7.1は、`frameset`, `frame`, `noframes` を実装していた。フレームへのリンクを表示するとともに、`noframes` をレンダリングする形だった。[Lynx2.7.1]

(335) Lynx Web ブラウザの1つ。いわゆるテキストブラウザの代表として有名で、Unix系環境でよく使われていた。1992（平成4）年頃に Gopher クライアントとして開発され、1993（平成5）年に WWW に対応した。

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

HTML4 1997(H9) Transitional / Frameset

XHTML 1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001(H13)

Frames Module HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84)

→ noframes, noframe, noscript

**nohotjava** 1996(平成8)年9月13日付

HotJava<sup>(101)</sup>用HTMLDTDにnohotjavaがある。情報がほとんどなく用法は不明。[HJDTD]



→ app, applet

**noimg** かつて解説か何かでnoimgを見かけたとする

平成16(2004)年4月18日時点の不確実情報がある。それとは無関係だろうが、noimgがあれば仮定や願望を述べたものなどはいくつかある。[SW:noimg]



→ img

**noindex** いくつかの検索エンジンがnoindexを

実装している。指定範囲を索引付け対象外と指定するものである。<sup>(336)</sup>



2006(平成18)年には既に対応製品が確認されている。[DataparkSearch:Comments]

初出はそれよりずっと遡ると推測される。大手ではYandex<sup>(432)</sup>が対応している。[Yandex:NOINDEX:EN]

[Yandex:NOINDEX:RU]

N

2020(令和2)年の調査によると、0.89%のWebページにnoindexが含まれるという。[ALMANAC2020:MARKUP]

東欧ではよく使われていると推測される。

→ meta

(336) なお、「noindex tag」「noindex タグ」と書いている解説等のほとんどは<meta name=robots content=noindex>のことを探している。SEO業界には今もタグ(20)と要素と属性と属性値の違いがわからない人が多いようだ。[SW:noindex]

**nolayer** 1997(平成9)年頃 Netscape Navigator 4.0 が nolayer を実装した。layer 未対応の Web ブラウザー用のフォールバック内容とされた。  
[NSDHTML:Layers32]



**noloc** Windows XP 付属の HTML ファイル中で **noloc** が使われていた。Microsoft 社内での翻訳管理用と推測されている。だとすると現在の **translate** 属性に当たる。[SW:noloc]



**none** MathML 3.0 Presentation, 4.0 Presentation

**nop** 1997(平成9)年3月27日版 ISO-HTML<sup>(207)</sup> DTD<sup>(194)</sup>や1997(平成9)年10月14日版 ISO-HTMLにnopがある。実用目的ではなく、DTDで内容モデル<sup>(88)</sup>の拡張用のオプションを定義する際に、既定値として該当要素を表す。<sup>(337)</sup> [WG8n1935]

ISO-HTML 1997 (H9)

**norm** 平成 9 (1997) 年 3 月 21 日の Emacs-w3  
Red<sup>(211)</sup>が実装している。S 式を記述する。



N

**noscript** 1996（平成8）年頃のNetscape Navigator 3.0は、**noscript**を実装した。[JSGUIDE]

2005 年 9 月 1 日 版  
『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup>  
[WA1-20050901]

2006(平成18)年11月26日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は noscript を定義した。現行仕様である。[\[HTMLR361\]](#)

現行の要素である。

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

(337) SGML(78)の構文上の制約を回避するための技法（バッドノウハウ）で、実用上の意味は皆無。

XHTML\_m12n 2001 (H13) Scripting Module XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML\_1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84)

→ noembed, noframes, script

**nosmartquotes** WebTV<sup>(124)</sup> は 当 初  
nosmartquotes を実装していた。WebTV 1.2 が実装し  
ていたが、WebTV 2.1 は実装していなかった。  
WebTV の文字列の表示では通常いわゆる smart quotes<sup>(338)</sup> が有効  
になるが、この要素の内容ではそれが抑制される。[SW:nosmartquotes]

→ q

**not** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**not-mso** PostHTML<sup>(365)</sup> が HTML と称するもの  
における outlook, not-outlook の別名例に mso,  
not-mso がある。[POSTHTML:MSO]

**not-outlook** PostHTML<sup>(365)</sup> が HTML と称す  
るものにある。[POSTHTML:MSO]

→ mso, not-mso

**notanumber** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**notation** エチオピア暦 2010 年 第 2 月 23 日  
(平成 29 (2017) 年 11 月 2 日)、Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup> の  
Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup> に  (Zaima)  
の記述のための要素群を提案した。[ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]

N

(338) smart quotes ASCII 文字(339)には引用符は左右を兼ねた " と ' しかな  
い。文脈から自動的に左右を判別して表示し分けるのが smart quotes 機能であ  
る。現在は表示機能としてより、ワープロ等の入力時の補助機能として実装され  
ることの方が多い。

(339) ASCII 文字 ASCII character 元は米国の文字コード規格 ASCII の文字  
のこと。現在は U+0000 から U+007F の文字を指すことが多い。[INFRA]  
[SW:参照処理モデル]



**notationgroup** エチオピア暦2010年第2月23日（平成29（2017）年11月2日）、Daniel Yacobは



W3C<sup>(185)</sup>のEthiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に  
Zaima<sup>(160)</sup>（Zaima）の記述のための要素群を提案した。<sup>[ZaimaDM]</sup>  
<sup>[ZaimaPagesYacob]</sup>

**note** 1985（昭和60）年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。<sup>[DCFGML3e]</sup>



1986（昭和61）年10月23日のISO 8879：1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。<sup>[ISO8879]</sup>

1986（昭和61）年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。<sup>[SGMLguid]</sup>

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にnoteがある。注意事項を示す。<sup>[HTML+19931028]</sup>現在のasideに近い。

1994（平成6）年時点で、Emacs/W3<sup>(106)</sup>がnoteを実装していた。<sup>[E/W3-2.1p46]</sup>

1995（平成7）年時点で、html-helper-mode<sup>(74)</sup>が実装していた。<sup>[HHMKeybindings]</sup>

N 1997（平成9）年4月のLynx<sup>(335)</sup>2.7.1は、noteを実装していた。<sup>[Lynx2.7.1]</sup>

WebTV<sup>(124)</sup>が実装していた。<sup>[WebTV:NOTE]</sup>  
『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で使われている。HTML3のものとは異なるようにも思われるが、用法は似ている。<sup>[SW:pg\*]</sup>

2004（平成16）年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈に、sidebarないしnoteの構想がある。<sup>[WA1-20040923]</sup>

HTML+ 1993(H5)/11/8; 1994(H6)/4/5 HTML 3.0 1995(H7)/3/24; 1995(H7)/3/28  
借用先 NITF<sup>(340)</sup>

(340) NITF News Industry Text Format。ニュース記述のためのXML応用の1つ。独自のXML応用だが、一部のHTMLの要素を借用している。<sup>[NITFDTD]</sup>

→ `fn, ompe.note, warning`

MathML 3.0 Content

**notin** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**notprsubset** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**notsubset** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**nr** 2003（平成15）年1月31日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>

は検討課題として **nr** を示した。数値を表す。[XHTML2-20030131:text] 当時は XHTML 2.0 名前空間だった。しかし正式に追加されることなく削除された。現在の `data` に当たる。

→ `number`



**nscp\_close** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。<sup>[SW:NN4]</sup>



**nscp\_open** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。<sup>[SW:NN4]</sup>



**nscp\_reblock** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。<sup>[SW:NN4]</sup>



**nsdt** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されていた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。<sup>[SW:NN4]</sup>



**number** 2004（平成16）年12月10日版『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>の文書ソース注釈に、将来構想として `date, time, number` がある。<sup>(195)</sup>整形表示に用いる想定だった。[WF2-20041210]



→ `data, nr`

N

**nyt\_copyright** 2005（平成17）年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、nyt\_copyrightが『New York Times』Webサイトで使われていた。[WAStats:Editors] 現在では使われていないようだが、転載した掲示板などで当時の用法をみることができる。



→ small

**object** 1995（平成7）年12月1日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、**insert**, **param**, **alias**がある。1995（平成7）年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』に、**insert**, **param**, **alias**がある。**img**, Microsoftの**dynsrc**属性, Netscapeの**embed**, Sun Microsystemsの**app**, **applet**を統一、拡張するものと銘打っていた。[HTML3LE19951220]



1996（平成8）年2月26日版<sup>(90)</sup>では**insert**は**object**に改称され、**alias**は**object**, **param**に統合されたが、編集が不完全で**alias**も一部残っている。[HTML3LE19960226]

N 1996（平成8）年頃、Internet Explorer 3.0が**object**を実装した。ActiveXコントロール<sup>(341)</sup>を埋め込むことができた。これ以後、Internet Explorer<sup>(281)</sup>用の**object**とNetscape Navigator<sup>(329)</sup>用の**embed**を組み合わせてプラグインを利用する方法が一般的となって広く使われた。

2005（平成17）年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソ

(341) ActiveXコントロール ActiveX control Webページに埋め込んで実行できるWindowsのプログラムの一種。技術的にはOCXとほぼ同義。Internet Explorer 3.0以来実装されていた。Netscape Navigator<sup>(329)</sup>用のNPAPI<sup>(214)</sup>プラグインとInternet Explorer<sup>(281)</sup>用のActiveXコントロールが同時提供される場合も多かったが、業務システム等でWindowsとInternet Explorer専用のActiveXコントロールを利用したWebサービスも多く存在した。特に大韓民国では政府システムを筆頭に非常に広く用いられ、Internet ExplorerなしにWebを利用するには困難といわれていた。ActiveXというとActiveXコントロールを指すことが多いが、厳密にはActiveX技術群のうちの1つである。

ス注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2006（平成18）年11月1日、『Web Applications 1.0』に、**iframe**, **embed**, **object**, **param**, **map**, **area** が追加された。現行仕様である。<sup>[HTMLr236] [HTMLr238] [HTMLr240]</sup>

現行の要素である。

**HTML4** 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

**XHTML 1.0** 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Object Module XHTML\_Basic 2000 (H12)

**XHTML-Print** 2006 (H18) XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Object Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML<sup>(84)</sup>, DjVu XML<sup>(251)</sup>, VoiceXML 1.0<sup>(348)</sup>

→ \*, caption, fig, include, sound, text

**of** 1995（平成7）年3月6日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>から radix, radicand が削除され、 of, sqrt が追加された。<sup>[HTML3-19950324]</sup>



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において math と数式用各要素を実装していた。

**HTML 3.0** 1995 (H7)/3/24

**offset** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、 offset がある。表示位置をオフセットさせると説明されている。<sup>[交フオ報]</sup>



**ol** 1985（昭和60）年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。<sup>[DCFGML3e]</sup>



1986（昭和61）年10月23日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。<sup>[ISO8879]</sup>

1986（昭和61）年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。<sup>[SGMLguid]</sup>

1990（平成2）年12月4日付ファイルに ol, li があるのが現存最

古の用例である。また、1990(平成2)年12月7日付ファイルに `ul` があるのが現存最古の用例で、`ol` と混在しているが、翌年以後 `ol` は使われなくなる。[\[SW:HTML1991\]](#)

1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、もう仕様書で説明がされていないし、MidasWWW<sup>(287)</sup>でも実装されていない `ol` は DTD<sup>(194)</sup>から削除するべきかと尋ねた。[\[DTDIssuesDan\]](#) 1992(平成4)年1月9日時点のHTML仕様では現在未使用とだけ言及があるが[\[WWW19920109\]](#)、その後消されてしまっていたのだろうか。

Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>は返信で、有用そななら復活させてもいいと答えた。Line Mode Browser<sup>(83)</sup>では `ol` は `ul` と同様にレンダリングされていたようで、この実装方法が良いとしている。[\[DTDIssuesTim\]](#) `ul` と違う `ol` の意味を理解しつつも、積極的に必要とは感じていなかつたようだ。

2005(平成17)年4月10日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に `ol` が追加された。現行仕様である。[\[SW:WA1\]](#)

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 言及のみ ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;

2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Core Modules • List Module 必須 XHTMLBasic 2000(H12)

XHTML-Print 2006(H18) XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)

XHTML List Module HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML 構文解析器 / Special

借用先 BML<sup>(84)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, hnf<sup>(237)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>,

LeXML<sup>(296)</sup>, NITF<sup>(340)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>, XMLspec<sup>(173)</sup>

(342) tdf Tomsoft Diary System<sup>(343)</sup>のマーク付け言語<sup>(186)</sup>。[\[TDS書き方\]](#)

(343) Tomsoft Diary System 平成時代前半の日本で使われていた Web 日記<sup>(221)</sup>システムの1つ。

**olark** 2020（令和2）年時点の調査によると、  
0.07% の Web ページが olark を使っていた。  
Olark<sup>(344)</sup> に関係しているといわれている。  
[ALMANAC2020:MARKUP]



**ompe** 平成 8（1996）年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 ompe がある。明確な規定がないが、 html の代わりに文書要素<sup>(202)</sup>として利用する。[G-DTD]



**ompe.abstract** 平成 8（1996）年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 ompe.abstract, ompe.note, ompe.table がある。明確な規定がないが、図表等を表すらしい。[G-DTD]



→ abstract

**ompe.fig** 平成 8（1996）年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 ompe.fig がある。また、「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、 fig がある。明確な規定がないが、図表等を表すらしい。[G-DTD]



**ompe.note** 平成 8（1996）年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 ompe.abstract, ompe.note, ompe.table がある。明確な規定がないが、図表等を表すらしい。[G-DTD]



→ note

**ompe.style** 平成 8（1996）年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に、 ompe.style がある。明確な規定がないが、書字方向や段組などと思われる属性がある。[G-DTD]



→ style

(344) Olark 顧客対応のためのチャットやチャットボットを Web サイト組み込み用に提供する営利サービスの 1 つ。

**ompe.table** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、**ompe.abstract**, **ompe.note**, **ompe.table** がある。明確な規定がないが、図表等を表すらしい。[G-DTD]



→ **table**

**onevent** 2000 (平成12) 年 8 月 28 日、『XHTML Events』<sup>(76)</sup>に **onevent**, **action**, **stopevent** が追加された。イベントハンドラーを表す。[XHTMLEv20000828]  
WML1<sup>(141)</sup>の **onevent** と関係するかもしれないが、互換性はない。



→ **do**

**online** 1993 (平成5) 年 11 月 8 日版  
『HTML+』<sup>(72)</sup>に、**online**, **printed** が あ  
る。[HTML+19931108] 現在の CSS でいう '@media  
**screen**', '@media print' での表示可否切り替えに当たる。



HTML+ 1993 (H5)/11/8

**opt** 平成 19 (2007) 年 1 月 23 日時点でかつて **author**, **editor**, **isbn**, **emph**, **opt**, **pub** が提案または利  
用された事例があったと記録されているが、詳細不明。  
[SW:pub]



o

**optgroup** 1997 (平成9) 年 11 月 7 日、『HTML 4.0』に **optgroup** が追加された。  
[HTML4-19971107:forms]



2006 (平成18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に構想が追加された。  
[HTMLr358]

2008 (平成20) 年 9 月 4 日、『HTML5』に **optgroup** が追加され  
た。  
[HTMLr2151]

現行の要素である。

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準  
/ Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset  
XHTML\_m12n 2001 (H13) Forms Modules • Forms Module  
XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
借用先 BML(84), WML1(141)

**option** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版

『HTML+』<sup>(72)</sup>に、 form, mh, input, textarea,  
select, option がある。[HTML+19931028]



1993 (平成5) 年 11 月 10 日頃公開された NCSA Mosaic 2.0 は、  
form, input, select, option, textarea を実装していた。現行仕様である。これより前の prerelease 版から実装されていた。  
isindex は form をエミュレートする形で再実装された。  
[MOSAIC20:Form]

1994 (平成6) 年 4 月 7 日、 HTML DTD に form, input,  
select, option, textarea が追加された。[HTML19940407]

2006 (平成18) 年 11 月 23 日、 『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に構想が追加された。[HTMLr358]

2008 (平成20) 年 9 月 4 日、 『HTML5』 に option が追加された。  
[HTMLr2152]

現行の要素である。

HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 2 Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5

Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)

HTML 2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001 (H13) Forms Modules • Basic Forms Module Forms Modules • Forms  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)

XHTML 1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Ordinary

借用先 BML(84), WML1(141)

→ choice

**or** 平成 9 (1997) 年 3 月 21 日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>

が実装している。S 式を記述する。

MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**or-bits** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**otherwise** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]

MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**outerproduct** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**outlook** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:MSO]

→ mso, not-mso

**output** 2003 (平成15) 年 12 月 4 日、『XForms Basic』<sup>(345)</sup>に output が追加された。現行仕様である。[WF2-20031204]

2008 (平成20) 年 9 月 4 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に output が追加された。[HTMLR2154]

2009 (平成21) 年、『 XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。

現行の要素である。

**XHTML2** 2010 (H22) XForms Module **HTML5** 2009 (H21) 適合  
**HTML Standard** 適合 / Ordinary

→ var

**over** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日版『HTML+』<sup>(72)</sup>の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、math, box, over がある。本文に array, item がある。例文に rd がある。本文で sub, sup が math 内でも使えるとされている。[HTML+19931028]

1994 (平成6) 年 1 月 5 日版『HTML+』DTD に、math, over, box, root, array, item がある。[HTML+19940105]

(345) 『XForms Basic』 XForms(123)にあって HTML にない機能を HTML に追加する仕様案。[WF2-20031204] 後に『Web Forms 2.0』(190)に発展した。

1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTDにあ  
る。[HTML3-19941130]

1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTDにあ  
る。[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24

**overlay** 1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に `overlay` がある。[HTML3-19941130]



1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTDに `overlay` がある。[HTML3-19950301] `fig` と組み合わせて画像の上に画像を重ねられる。

1995（平成7）年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>は、`overlay` を将来拡張案として示している。[HTML3LE19951220]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `overlay` を実装していた。[E/W3:Parse]

2019（令和元）年時点 Apple Inc. の Web サイトで用いられていた。ページ内の JavaScript によって挿入され、利用されるものだった。[BuyAirPods]

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

→ `figt`

**owner** 1993（平成5）年12月6日、Roy T. Fielding<sup>(193)</sup>は、`owner`, `expires` を提案した。[MOMRoy1] [MOMRoy2] 1993（平成5）年12月6日、



Dave Raggett<sup>(132)</sup>は、『HTML+』<sup>(72)</sup>への追加意向を表明した。[MOMDave1] 1993（平成5）年12月6日、Dave Raggettは、`owner`, `date` に改めた上で DTD<sup>(194)</sup>追加案を示した。[MOMDave2] 現在の `meta` に当たる。



**p** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[\[DCFGML3e\]](#)

1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[\[ISO8879\]](#)

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[\[SGMLguid\]](#)

1990(平成2)年8月20日頃に作られたと思われるHTML例文にa(`href`属性), p, titleがある。[\[SW:HTML1991\]](#)

1990(平成2)年12月7日付のHTMLファイルでpが使われている。[\[SW:HTML1991\]](#)

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、pの明確化の規定が含まれていた。[\[WA1-20041208\]](#)

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第12位がpだった。[\[WASStats:P&E\]](#)

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Block Structural

Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18)

XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Structural Module

HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DjVu XML(251), DNML(406), DTBook(197), ENML(210), hnf(237), JepaX(285), JIS X 4052(244), LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172), SSML(346), tdf(342), TTML(392), WML(141), yhtml(347)

---

(346) SSML Speech Synthesis Markup Language。音声合成のための情報を記述するXML応用の1つ。[\[SSML\]](#)

(347) yhtml 平成19(2007)年に開発されたXML応用。話者の人称代名詞や感情をマーク付け<sup>(19)</sup>できる。[\[YHTML\]](#)「○HTML」型の名前の言語や製品は多いが、ラテン文字26字のうちYだけ未使用だったとの掲示板の話題がきっかけで開発が始まった。

→ `htmllite`

**pack** 2009（平成21）年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**page** 遅くとも2000（平成12）年までに、USENETメッセージ<sup>(422)</sup>をHTMLに変換するための`sig`, `inc`, `incd`, `page`が提案されていた。<sup>[OOB]</sup>



2009（平成21）年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]

平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。<sup>[交フォ報]</sup>

→ `!pb`, `t-pb`

**pages** 2009（平成21）年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**page\_break** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、`page_break`がある。改頁を表す。<sup>[交フォ報]</sup>



→ `!pb`, `t-pb`

**page\_image** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。<sup>[交フォ報]</sup>



**page\_progression\_direction** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に`local_setting`やその子要素各種がある。<sup>[交フォ報]</sup>



**panel** 1993（平成5）年5月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、文章や画像を表



P  
I  
Q

示するポップアップ窓の要望に対して、雑誌のイラスト、背景説明、広告のような浮動パネル機能を検討していたと応えている。[\[HTMLDTD Dave\]](#)

1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`panel`がある。通常の文章の流れとは別に配置される浮動パネル(floating panel)と説明されている。[\[HTML+19930713\]](#) 後に`footnote`, `margin`によって置き換えられた。

2012(平成24)年12月10日時点では、`panel`の用例が見られた。その用途は不明瞭。[\[whatwg20121210\]](#)

2015(平成27)年頃、パネルを表す`panelset`, `panel`, `panelttitle`が提案された。ここでいうパネルとはタブ<sup>(156)</sup>, アコーディオン等の利用者インターフェイス概念を抽象化したものという。[\[CommonPanel\]](#)

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8

→ `section`, `switch`, `tabbox`



**panelset** 2015(平成27)年頃、パネルを表す`panelset`, `panel`, `panelttitle`が提案された。ここでいうパネルとはタブ<sup>(156)</sup>, アコーディオン等の利用者インターフェイス概念を抽象化したものという。[\[CommonPanel\]](#)

→ `section`, `switch`, `tabbox`



**panelttitle** 2015(平成27)年頃、パネルを表す`panelset`, `panel`, `panelttitle`が提案された。ここでいうパネルとはタブ<sup>(156)</sup>, アコーディオン等の利用者インターフェイス概念を抽象化したものという。[\[CommonPanel\]](#)

→ `h1`



**param** 1995(平成7)年5月頃、Sun Microsystems Inc. は`applet`, `param`, `data`仕様案を公表した。それまで`app`のHTML仕様への追加提案を準備していたが、SGML DTDで記述できないため改めたのだとい

う。[AppletProposalTerry]

1995(平成7)年9月21日版HTML2.1E<sup>(187)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にembed, paramがある。[HTML21E19950921] 1995(平成7)年11月22日版HTML2.1Eにembed, paramがある。img, Netscapeのembed, Sun Microsystemsのapp, appletを統一、拡張するものと銘打っていた。[HTML21E19951122] Netscapeのembedとは互換性がない。

1995(平成7)年頃、Java1.0βのHotJava<sup>(101)</sup>は、applet, paramを実装した。[SW:applet]

1995(平成7)年12月1日版『HTML3 Linking and Embedding Model』<sup>(89)</sup>DTDに、insert, param, aliasがある。1995(平成7)年12月20日版『HTML3 Linking and Embedding Model』に、insert, param, aliasがある。img, Microsoftのdynsrc属性, Netscapeのembed, Sun Microsystemsのapp, appletを統一、拡張するものと銘打っていた。[HTML3LE19951220]

1996(平成8)年2月26日版<sup>(90)</sup>ではinsertはobjectに改称され、aliasはobject, paramに統合されたが、編集が不完全でaliasも一部残っている。[HTML3LE19960226]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup>[WA1-20050901]

2006(平成18)年11月1日、『Web Applications 1.0』に、iframe, embed, object, param, map, areaが追加された。現行仕様である。[HTMLr236] [HTMLr238] [HTMLr240]

2018(平成30)年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]

HTML3.2 1997(H9) HTML4 1997 Strict / Transitional / Frameset

ISO-HTML 1997(H9); 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Core Modules • Applet Module 非推奨 • XHTML Param Element Module Object Module • XHTML Param Element Module

XHTMLBasic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18) XHTML1.1 2001(H13)

XHTML2 2010(H22) XHTML Object Module HTML5 2009(H21) 適合

P  
I  
Q



**parent** 民国 84 (1995) 年 (平成 7 年) 頃中華民国の研究者らが開発した Web を利用した教育システムが `parent`, `child`, `preread` を実装していた。1995 (平成 7) 年 12 月の WWW4<sup>(109)</sup>で発表された。[\[EduEnv\]](#) 関係する文書を指定する。現在の `link` に当たる。



**parsererror** Chrome<sup>(86)</sup>で整形式でない XML 文書を読み込むと、`parsererror` が挿入される。内容は人間向けのエラーメッセージ。Gecko<sup>(176)</sup>でも `parsererror` が挿入されるが、専用の名前空間に属する。[\[SW:parseerror\]](#)



**part** 1996 (平成 8) 年頃、ResNova 社の NovaTerm<sup>(349)</sup>は、`template`, `part` を実装した。WindowScript<sup>(350)</sup>によって利用者インターフェイスの窓を記述するものだった。現在の `template`, `slot` と発想は近いが互換性はない。[\[ResNovaTemplates\]](#)

**partialdiff** MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**path** 2009 (平成 21) 年 6 月 1 日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [\[DTHTML6\]](#)

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**pattern** SVG 1.1, 2.0

P  
—  
Q

(348) VoiceXML 1.0 音声認識、音声合成等を含む対話を記述する XML 応用。[\[VXML1\]](#)

(349) NovaTerm ResNova 社の情報システムクライアントソフトウェア。ResNova 社のシステムは 1992 (平成 4) 年にインターネットに、その後 HTTP などに対応した。パソコン通信のような情報システムだったらしい。[\[ResNovaTemplates\]](#)

(350) WindowScript NovaTerm<sup>(349)</sup>が対応していた言語。HTML と組み合わせて利用者インターフェイスの窓とその挙動を記述するものだった。[\[ResNovaTemplates\]](#)

**pbody** 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**pdef** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、pdef, phead, ptailがある。挿絵を表す。[交フォ報]



**peek** 1994(平成6)年10月19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>はUSENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない10個のHTML拡張を例挙したという風刺記事を投稿した。wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothothと挙げ、最後にblinkという落ちだった。[TopTenHTML]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemayの提示した、wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth, blinkを実装していた。イースターエッグのようなものだろう。[E/W3:Supported]

**person** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。[HTML+19931028]



1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。[HTML3-19950301]

P  
—  
Q

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析においてau, personを実装していた。[E/W3:Parse]

**HTML+** 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 **HTML 3.0** 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28  
借用先 NITF(340)

→ name

**pg** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup> の説明で pg\* を指して使われる。このままの要素名ではない。<sup>[SW:pg\*]</sup>



**pg\*** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup> で pg001, pg002 として頁番号を表す。このままの要素名ではない。<sup>[SW:pg\*]</sup>  
→ !pb, pg, t-pb



**phead** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、 pdef, phead, ptail がある。挿絵を表す。<sup>[交FF報]</sup>



**pi** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**picture** 1986 (昭和61) 年 10 月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。HTML に直接引き継がれたものではない。<sup>[SGMLguid]</sup>



FrontPage Server Extensions<sup>(351)</sup>が写真アルバム機能のため picture を使っていた。2007 (平成19) 年時点でも用例が若干残っていた。現在の picture と互換性はない。<sup>[whatwg20071225]</sup>

2008 (平成20) 年 11 月 9 日、HtmLayout<sup>(268)</sup>は picture を実装した。img と同等だがブロック水準要素として機能する。現在の picture と互換性はない。<sup>[HtmLayout:log]</sup>

2012 (平成24) 年 2 月 21 日、Scott Jehl は、 picture, source (picture用) の polyfill<sup>(353)</sup>を公開した。後に W3C HTML WG<sup>(312)</sup>の仕様案として採択された。類似の提案はこのしばらく前まで遡る。<sup>[RICG:AllIn]</sup>

2014 (平成26) 年 4 月 2 日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の文書ソース注釈に picture, imgcandidate の構想が追加された。現在の

(351) FrontPage Server Extensions Microsoft FrontPage<sup>(352)</sup>と併用するサーバー用ソフトウェア。Apache や IIS で利用できた。HTML だけで完結しないFrontPage の機能を実装していた。

(352) Microsoft FrontPage 20 世紀末頃に使われた Web ページ編集ソフトウェアの 1 つ。

(353) polyfill 未実装の新機能を JavaScript 等で再現したもの。

**picture, source** (**picture**用) に当たる。[HTMLr8561]

2014 (平成26) 年 6 月 17 日、『HTML Standard』に **picture, source** (**picture**用) が追加された。現行仕様である。[HTMLr8680]

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / Ordinary

**piece** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**piecewise** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**pile** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**pin** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**pin-mode** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**pinhead** 1994 (平成6) 年 10 月 19 日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない 10 個の HTML 拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。**wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth** と挙げ、最後に **blink** という落ちだった。[TopTenHTML]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemay の提示した、**wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth, blink** を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。[E/W3:Supported]

P  
I  
Q

**plaintext** 1991 (平成3) 年 2 月 11 日、Line Mode Browser<sup>(83)</sup> は **plaintext** を実装した。<sup>(354)</sup>



(354) 当時の HTTP (現在でいう HTTP/0.9) には MIME 型の指定がなかった。

## [LMHistory]

1991(平成3)年4月2日付WorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードは、`plaintext`を実装している。廃止予定との注釈<sup>(355)</sup>があり、その代替と思われる`restoffile`も実装されている。[\[SW:HTML1991\]](#)

2007(平成19)年12月21日、`HtmLayout`<sup>(268)</sup>は`plaintext`を実装した。`textarea`と同等だがブロック水準要素として機能する。[\[HtmLayout:log320\]](#)

2009(平成21)年7月31日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に`plaintext`の処理の規定が追加された。[\[HTMLR3502\]](#)この他に構文解析器やDOM関係の規定が現在も残る。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Obsolete

HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Deprecated

HTML3.2 1997(H9) Deprecated HTML2.X 1997(H9)/1

HTML5 2009(H21)廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special



**platform** 2001(平成13)年時点のMicrosoft CorporationのWebサイトで、`info`, `product`, `platform`が使われていた。[\[MSDHTML:CondComments\]](#)用途は不明だが、社内の文書管理データベース上の情報が露出したものだろうか。[\[SW:info\]](#)



**plus** MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**poke** 1994(平成6)年10月19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>はUSENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない10個のHTML拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`と挙げ、最後に`blink`という落ちだった。[\[TopTenHTML\]](#)

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemayの提示した、`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`,

---

(355) 廃止の意向が明示された最古の要素である。しかし現在もWebブラウザは実装を継続している。

**blink** を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。  
[E/W3:Supported]

**polygon** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**polyline** 2009 (平成21) 年 6 月 1 日 の  
『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]  
SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0



**popup** 2010 (平成22) 年 時点で HtmLayout<sup>(268)</sup>は、  
popup を実装していた。ツールチップ等のポップアップ表示  
に用いる。[HtmLayout:tags]



2011 (平成23) 年 2 月 21 日、Microsoft Edge<sup>(356)</sup> は  
WHATWG<sup>(414)</sup>に popup を提案した。[HTML#6349] 後の popover 属性に当たる。

**portal** 2018 (平成30) 年、Google は portal を  
提案すると共に Chromium<sup>(85)</sup> に実装した。後の  
fencedframe に当たる。[portals]



→ iframe

**pos** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup>に、  
pos がある。[G-DTD] 明確な規定がないが、文書中の位置を  
表すものと思われる。



→ spot

**post** 2004 (平成16) 年 6 月 2 日 版 『Web  
Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup> に byline,  
footer, section, navigation の構想がある。 Web ア



P  
I  
Q

(356) Microsoft Edge Microsoft の Web ブラウザの 1つ。Internet Explorer<sup>(281)</sup>の後継として EdgeHTML<sup>(357)</sup>ベースで登場した。その後レンダリングエンジン<sup>(179)</sup>を Blink<sup>(358)</sup>に変更した。Windows の標準 Web ブラウザーとなっている。

(357) EdgeHTML Microsoft Edge<sup>(356)</sup>の初期のレンダリングエンジン<sup>(179)</sup>。Trident が大規模改修されたものだった。

(358) Blink Chrome<sup>(86)</sup>のレンダリングエンジン<sup>(179)</sup>。Chromium<sup>(85)</sup>, Edge などでも使われている。WebKit<sup>(155)</sup>から分離独立した。

プリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に `navigation`, `header`, `footer`, `section`, `post`, `message`, `content`, `h` の構想がある。  
[WA1-20040602]

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>の文書ソース注釈に、`entry`, `post`, `article` の構想がある。  
[WA1-20040923]

**power** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**pre** 1992(平成4)年11月21日に公開された ScreenMode w3 interface, manual page (man) 閲覧サーバー, HTML 編集用 Microsoft Word マクロは、  
`pre` を実装した。`pre` は Al Lleurck が開発したものだという。  
[ScreenModeJim]



1992(平成4)年11月24日、Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`pre`への別案として `fixed` を示した。その後 `pre`, `fixed` を別機能で共に追加する案も示した。  
[ScreenModeTim]

WorldWideWeb<sup>(40)</sup>は、`pre`, `fixed` を実装しかけていた。その他にも、`fixed` の実装意向などがあった。  
[SW:pre]

1992(平成4)年11月30日、HTML の仕様書と DTD<sup>(194)</sup>に、`typewriter` が追加された。  
[HTML19921130] [HTML19921130:Complete]  
`pre` 案をもとに nroff<sup>(359)</sup>のドキュメントを参考に要素名を決めたという。  
[HTML19921130]

1992(平成4)年12月4日、HTML の仕様書と DTD の `typewriter` は、`pre` に改称された。  
[HTML19921204:Dan]

1992(平成4)年12月2日付の Tim Berners-Lee のウェブページに新要素の構想がある。現在の `pre` に当たる。  
[FuturePlans]

---

(359) `nroff` Unix 系システムで使われる命令の1つ。また、その表示制御言語。文字列データに書式付け命令が混在する一種のマーク付け言語<sup>(186)</sup>である。`man` で利用されている。

1992(平成4)年12月11日のlibwww Version 1.1は、`pre`を実装した。  
[LWWWHistory]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、`pre`, `lit`がある。どちらも空白や改行を保持して表示するが、可変幅フォントを使うのが`lit`、固定幅フォントを使うのが`pre`と分けられていた。[HTML+19931028]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Mainstream  
HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ;  
1994(H6)/4/5 Core HTML3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28  
HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1  
HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001(H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Block Phrasal  
Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18)  
XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Structural Module  
HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), ENML(210), hnf(237), JepaX(285), NITF(340), TateJPN(239),  
tdf(342), WML(141), XMLspec(173)  
→ `blockcode`, `listing`, `sp`, `tbl`, `td`, `th`, `tr`, `tt`, `xmp`

**pre-html** 1997(平成9)年12月16日版  
ISO-HTML<sup>(207)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`pre-html`がある。準備<sup>(360)</sup>の際の文書要素<sup>(202)</sup>である。



2000(平成12)年のISO-HTMLの正式版規格にはないが、同時発行の『User's Guide』(利用者の手引き)にはある。[ISOHTMLUG2003]

P  
I  
Q

---

(360) 準備 `preparation` ISO-HTML(207)には通常の文書型(正式な規格で定めるもの。)と準備用の文書型(利用者の手引きで定めるもの。)の2つがある。準備のDTD(194)には`div1`, `div2`等の構造(タグ(20)はすべて省略可能。)があり、`h1`, `h2`等の用法が規制される。準備用文書型で適正な利用を確認してから正式版の文書型で公開する、という文書作成過程が想定されている。

平成 14 (2002) 年 2 月 16 日 版 HTML DTD +//  
IDN satoshii.org//DTD HTML for isweb//  
JA<sup>(361)</sup> の文書要素が pre-html である。[ISWEBDTD]

ISO-HTML 2000 (H12) Preparation  
→ html

**predicate** 1998 (平成10) 年 4 月 発表 の  
displets<sup>(199)</sup> 機能案の実例として Z 記法用の SGML DTD  
の語彙が使われた。 HTML と混在させて用いることができ  
た。 [DISPLETS1998]



**prefetch** SVG Tiny 1.2

**preread** 民国 84 (1995) 年 (平成 7 年) 頃 中華民国の  
研究者らが開発した Web を利用した教育システムが  
parent, child, preread を実装していた。 1995  
(平成 7) 年 12 月の WWW4<sup>(109)</sup> で発表された。 [EduEnv] 関係する文書  
を指定する。現在の link に当たる。



**preventDefault** 2009 (平成21) 年、  
『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は 『XML Events 2』<sup>(206)</sup> の XML  
Handlers を HTML 名前空間<sup>(166)</sup> で利用できるとした。  
イベントハンドラーを記述する。 [SW:XHTML2]



XHTML2 2010 (H22) XML Handlers Module

**primes** MathML 3.0 Content

**printed** 1993 (平成 5) 年 11 月 8 日 版  
『HTML+』<sup>(72)</sup> に、 online, printed が あ  
る。 [HTML+19931108] 現在の CSS でいう '@media  
screen', '@media print' での表示可否切り替えに当たる。



(361) 終了タグ </html> の後に広告用 HTML 片を自動挿入する isweb<sup>(362)</sup> へ  
の対処として開発された DTD<sup>(194)</sup>。 pre-html はタグ<sup>(20)</sup>の省略された文書要  
素<sup>(202)</sup>として機能する。

(362) isweb 平成時代中期の日本の貸 Web サーバーサービスの 1 つ。イン  
フォシーク社が無償提供しており、多くの利用者がいた。買収により楽天傘下と  
なった後、サービス終了した。

**printf** 2018 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**product** 2001 (平成13) 年 時 点 の Microsoft Corporation の Web サイトで、 info, product, platform が使われていた。[MSDHTML:CondComments] 用途は不明だが、社内の文書管理データベース上の情報が露出したものだろうか。[SW:info]



2004 (平成16) 年 7 月 21 日 版 『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>の文書ソース注釈に、 product の構想があった。 購入可能な製品を表す。[WA1-20040721]

MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**progress** 2004 (平成16) 年 9 月 23 日 版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、後の progress に当たる構想がある。[WA1-20041208]



2006 (平成18) 年 2 月 17 日(推測) と 2006 (平成18) 年 3 月 3 日の間の『Web Applications 1.0』の改訂で、 t, gauge, progress の定義が一部追加された。[SW:WA1]

2006 (平成18) 年 3 月 29 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に progress が追加された。現行仕様である。[HTMLr15]

現行の要素である。

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary

P  
I  
Q

**prohibit\_rule** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日 版 電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フォ報]



**prologue** 1994 (平成 6) 年 4 月 5 日 版 『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、 prologue, epilogue があ



る。[HTML+19940405] 現在の `header`, `footer` に近いが、`body` の最初と最後に 1 つずつ配置できる。

[HTML+](#) 1994 (H6)/4/5 Core

**pronunciation** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フオ報\]](#)



**properties** 2024 (令和 6) 年時点で MapML<sup>(309)</sup> にある。[\[MAPML\]](#)



**proprietary** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `local_setting` やその子要素各種がある。[\[交フオ報\]](#)



**prsubset** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**psp** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フオ報\]](#)



**ptail** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、 `pdef`, `phead`, `ptail` がある。挿絵を表す。[\[交フオ報\]](#)



**pub** 平成 19 (2007) 年 1 月 23 日時点でかつて `author`, `editor`, `isbn`, `emph`, `opt`, `pub` が提案または利用された事例があったと記録されているが、詳細不明。[\[SW:pub\]](#)



**pubhtml** Kolekti<sup>(363)</sup> は HTML 名前空間<sup>(166)</sup> の `pubhtml` を文書要素<sup>(202)</sup> とする DTD<sup>(194)</sup> を使っていた。Subversion の履歴によると、 2008 (平成20) 年 7 月 17 日に追加された。[\[KolektiPub\]](#)



(363) Kolekti 技術文書出版システムの 1 つ。

→ html

**public:attach** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**public:component** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**public:defaults** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**public:event** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**public:method** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**public:property** 1999（平成11）年頃の Internet Explorer 5 は、HTC<sup>(364)</sup>を実装した。[MSDN:HTC] [NoteHTC]



**publisher** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で書誌情報の記述に使われている。  
[SW:pg\*]



P  
I  
Q

---

(364) HTML Components HTC Internet Explorer 5 が実装した機能の1つ。カスタムタグ(56)に対してイベントハンドラー等を記述できた。現在の Web Components(53)に当たる。HTC は HTML と別のファイルで、`script`以外は通常の HTML とかけ離れた形式だが、公式ドキュメントで HTC は HTML ファイルだと案内されている。なお、カスタムタグと違って `xmlns` 属性の指定は求められていない。1998（平成10）年10月23日付で W3C(185)に提出された仕様書では `xmlns` が指定されているが、実装されている要素がすべて規定されているわけではない。[NoteHTC]

**push** PostHTML<sup>(365)</sup> が HTML と称するものにある。  
[POSTHTML:COMPONENTS]



**q** 1985(昭和60)年3月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。  
[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月23日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。  
[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。  
[SGMLguid]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup> にある。  
[HTML+19931028]

1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> にある。  
[HTML3-19941130]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTD にある。  
[HTML3-19950301]

1995(平成7)年8月15日版 HTML 2.x<sup>(122)</sup> に q がある。現行仕様である。  
[HTML2x-00]

q は前後に引用符を表示する仕様だが、Internet Explorer 4.0 は q を有効な要素として認識するにも関わらず、引用符を表示しなかった。それを前提に作られた文書は引用符をテキストとして含めており、他の Web ブラウザーでは二重に引用符が表示された。逆に本来仕様や他の Web ブラウザー前提の文書は Internet Explorer<sup>(281)</sup> でまったく引用符が表示されなかった。このため敬遠されそこまで普及したわけでもないが、Internet Explorer がなくなった今も当時作られた文書に爪痕が残る。  
[SW:q]

(365) PostHTML プラグインと称する JavaScript コードの組み合わせによって HTML を生成するソフトウェア。本書では公式に提供されているプラグインも含めて指す。平成時代末期頃に開発が始まり、令和時代に入った現在も開発が続いている。入力にはプラグインの動作を指定する独自の要素や属性も含まれるが、単に HTML と呼ばれている。

この混乱やその他の理由のため `q` の設計は失敗だったと考えられている。『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は新たな `quote` で置き換えようとしたが、開発が迷走してますます混乱を拡大させた。『HTML5』<sup>(191)</sup>は `q` の利用は必須ではないとわざわざ明記している。[SW:q]

2004(平成16)年9月23日版時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>で `q` の引用符問題の解決が必要な旨の注釈が含まれていた。[WA1-20041208]

2005(平成17)年4月14日、『Web Applications 1.0』に、`span`, `q`, `cite`, `br` が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

2008(平成20)年4月12日、『HTML5』は、`q` に著者<sup>(52)</sup>が引用符を明記するよう規定した。現行仕様と異なる。[HTMLr1434]

2008(平成20)年11月30日、『HTML5』は、`q` に著者が引用符を記述してはならないと規定した。現行仕様である。[HTMLr2486]

現行の要素である。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML 2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n  
2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Inline Phrasal  
Module XHTML Basic 2000 (H12) XHTML Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), NITF(340)  
→ nosmartquotes

**queryform** 1993(平成5)年1月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、Jim Whitescarver案への返信として、フォーム機能案を示した。`input`はより現行のものに近づいた。`queryform`は`recall`, `if`などを使った照会文の雛形を`head`内で記述する。[INPUTDan]  
XForms<sup>(123)</sup>の`model`に近い。

P  
I  
Q

**quote** ViolaWWW<sup>(228)</sup> は quote も実装している。  
た。 [SW:quote]



1993(平成5)年5月10日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>の投稿で、blockquote は使われているのかと質問した。8文字超の要素名を扱えない SGML 構文解析器<sup>(133)</sup>のため quote に改称するかとの提案だった。[USEBQ]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に、quote, blockquote がある。いずれも現在のblockquoteに当たるが、blockquote は後方互換性のためとされた。[HTML+19931028]

2001(平成13)年7月の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>案に quote がある。その後名前空間は糺余曲折があり、更には q に改称された。現在の q に当たるが、引用符は著者<sup>(52)</sup>が明記する。[SW:XHTML2]

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5

**quotient** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**r1** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で短歌の句に使われている。  
[SW:pg\*]



→ c1, c2, c3, c4, c5, r2, r3, r4, r5

**r2** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で短歌の句に使われている。  
[SW:pg\*]



→ c1, c2, c3, c4, c5, r1, r3, r4, r5

**r3** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で短歌の句に使われている。  
[SW:pg\*]



→ c1, c2, c3, c4, c5, r1, r2, r4, r5

**r4** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で短歌の句に使われている。  
[SW:pg\*]



→ c1, c2, c3, c4, c5, r1, r2, r3, r5

**r5** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で短歌の句に使われている。  
[SW:pg\*]



→ c1, c2, c3, c4, c5, r1, r2, r3, r4

**radialGradient** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**radicand** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]



1995(平成7)年2月9日、『HTML 3.0』DTDにtermが追加された。明記されていないが radix, radicand も追加されたと思われる。[HTML3-19950301]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。[HTML3-19950301]

1995(平成7)年3月6日、『HTML 3.0』DTDから radix, radicand が削除され、of, sqrt が追加された。[HTML3-19950324]

**radix** 1994(平成6)年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。[HTML3-19941130]



1995(平成7)年2月9日、『HTML 3.0』DTDにtermが追加された。明記されていないが radix, radicand も追加されたと思われる。[HTML3-19950301]

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにある。[HTML3-19950301]

1995(平成7)年3月6日、『HTML 3.0』DTDから radix, radicand が削除され、of, sqrt が追加された。[HTML3-19950324]

**range** 1995(平成7)年3月13日、SGML Open<sup>(366)</sup>からの助言により『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>から mark が削除された。1995(平成7)年3月21日、『HTML 3.0』DTDに range, spot が追加された。[HTML3-19950324]  
『HTML 3.0』本文によると、range は検索結果や注釈の対象などの範囲を表し、spot はその端点を表す。



R

(366) SGML Open SGML(78)技術の推進のため 1993(平成5)年に設立された業界団体。1998(平成10)年、改組により OASIS<sup>(367)</sup>となった。

(367) OASIS XML 応用などの標準化団体。DocBook<sup>(129)</sup>, RELAX NG, OpenDocument などの OASIS 標準がある。

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において、`range`, `spot` を実装していた。[E/W3:Parse]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 XHTML2 2010(H22) XForms Module  
→ `fn-range`

rationals MathML 3.0 Content

raw PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]



rb 1998(平成10)年12月21日、初めて W3C<sup>(185)</sup>から公開された HTML ルビ仕様に、`rb`がある。現在の `ruby` のうち、`rt`以外の部分に当たる。[RUBY19981221]



『HTML5』<sup>(191)</sup>に `rb` は追加されなかった。Internet Explorer<sup>(281)</sup>が実装していなかったことが理由として大きいと思われる。Internet Explorer が実装しなかったことや W3C の当初仕様案でも `rb` の開始タグと終了タグが省略可能とされていたこともあり、`rb` タグ<sup>(20)</sup>は書かれないことが多かった。一方、XHTML 1.1<sup>(368)</sup>ルビ仕様に従い `rb` が使われた文書也非常に多い。未だに `rb` が使われることもある。[SW:ruby]

2015(平成27)年9月10日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の構文解析器に `rb`, `rtc` が追加された。各 Web ブラウザーの実装差の混乱を收拾す

R

(368) XHTML 1.1 XHTML1 仕様の1つ。『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>のモジュールを組み合わせ、従来の厳密 DTD に近いものを再構成しているが、違いも多い。[XHTML11-20010531] [XHTML11-20101123] [KINDER] 2度 W3C 勧告<sup>(395)</sup>になった。技術的変更があるが、要素は変わっていない。本書では『XHTML 1.1』に含まれるかを示した。『HTML5』<sup>(191)</sup>以前は長らく最新版の HTML 仕様だったが、異説もあった。<sup>(369)</sup>

(369) HTML と XML<sup>(5)</sup>の互換性の問題や W3C<sup>(185)</sup>の Web サイトの不明瞭な構成などから、『HTML4』<sup>(394)</sup>を最新版とする説、『XHTML 1.0』<sup>(45)</sup>を最新版とする説もあった。単なる「最新」のラベル付けの問題にとどまらず、どの版を使うべきか著者<sup>(52)</sup>らの間で困惑もあった。[SW:XHTML1.0] ところが W3C は混乱を拡大する方向に進み、関係者の支持を失っていった。[KINDER]

るために新たに合意された挙動だった。著者<sup>(52)</sup>の利用は認められていない。  
[HTML:RbRtc]

XHTML\_m12n 2001 (H13) Ruby XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)  
Ruby Module HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Ordinary

借用先 ITS 1.0(370), JepaX(285), JIS X 4052(244), LeXML(296)

文献 [ルビ付き] [ルビ開発]

→ rbc

**rbc** 1999（平成11）年9月24日版 HTML ルビ仕様で、rbc, rtc が追加された。<sup>[RUBY19990924]</sup> rbc は現在の ruby のうち rt 以外の部分に、rtc は現在の rt に当たるが、記述方法も実装への要求も追加の経緯もより複雑で互換性はない。



rbc, rtc を実装したのは XHTML ルビサポート<sup>(371)</sup>くらいで、利用した文書もわずかに作られた程度と思われる。<sup>[SW:ruby]</sup>

XHTML\_m12n 2001 (H13) Ruby XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)  
Ruby Module

借用先 ITS 1.0(370), JIS X 4052(244)

→ rb

**rd** 1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、math, box, over がある。本文に array, item がある。例文に rd がある。本文で sub, sup が math 内でも使えるとされている。<sup>[HTML+19931028]</sup>



**real** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**reals** MathML 3.0 Content

(370) ITS 1.0 Internationalization Tag Set (ITS) Version 1.0。<sup>[ITS1]</sup> XML 文書の翻訳に関する機能の語彙。

(371) XHTML ルビサポート Mozilla Suite(178)/Firefox(331)用拡張機能<sup>(372)</sup>の1つ。これらのWebブラウザが標準で対応していなかったHTMLのルビを整形表示させられた。当時の日本人Mozilla(177)利用者には人気の拡張機能だった。とはいっても全体からみれば少数に過ぎなかった。

(372) 拡張機能 ブラウザ拡張 browser extension extension Web ブラウザに標準で搭載されない機能を追加するソフトウェア。仕様は Web ブラウザごとに異なるが、HTML を独自の機能を加えつつ利用するものが多い。

**rebuild** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**recalculate** 2009 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**recall** 1993（平成5）年 1月 19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、Jim Whitescarver 案への返信として、フォーム機能案を示した。input はより現行のものに近づいた。queryform は recall, if などを使った照会文の雛形を head 内で記述する。<sup>[INPUTDan]</sup> XForms<sup>(123)</sup>の model に近い。



**reco** 2011（平成23）年 12月 6日の W3C<sup>(185)</sup>の HTML Speech Incubator Group<sup>(373)</sup>報告に reco がある。音声認識の入力を求めるためのものだった。2011（平成23）年 2月 28日の Microsoft からの提案に由来する。<sup>[SpeechAPI]</sup> [SpeechXGReport]



→ tts

**record** 2009（平成21）年 6月 1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**rect** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**red** 平成 9（1997）年 3月 21日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



(373) HTML Speech Incubator Group HTML に対する音声認識・音声合成機能の提案をまとめたグループ。Microsoft, Google などが参加していた。技術的には 21世紀初頭に XML 応用として開発されていたものを表面的に HTML5<sup>(191)</sup>へ移植しようとした色合いが濃い。

**redoc** 2015 (平成27) 年以来 Redoc<sup>(374)</sup>が **redoc** を実装している。生成された内容の挿入位置を指定する。[\[REDOC\]](#)



**ref** 2009 (平成21) 年 5 月 14 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈に **ref** の構想が追加された。後の **itemref** に当たる。[\[HTMLr3100\]](#)



平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、**ref** がある。辞書における他の項目の参照を表す。[\[交フォ報\]](#)

**refresh** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



**XHTML2** 2010 (H22) XForms Module

**reghead** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**reln** MathML 3.0 Content, 4.0 Content Legacy

**rem** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**removed** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日版『HTML+』<sup>(72)</sup>に **removed** がある。[\[HTML+19931028\]](#) 現在の **del** に当たる。



**HTML+** 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5

→ changed

**removeEventListener** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は『XML Events 2』<sup>(206)</sup> の XML Handlers を HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。イベントハンドラーを記述する。[\[SW:XHTML2\]](#)



**XHTML2** 2010 (H22) XML Handlers Module

(374) Redoc API ドキュメント Web ページ生成用の JavaScript ライブライバーの 1 つ。

**render** 1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版  
『HTML+』<sup>(72)</sup>に **render** がある。[HTML+19931028] 非標準  
の要素の表示スタイルを指定する。



1994 (平成6) 年時点で Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、 **render** を実装していた。  
[E/W3-2.1p46]

1995 (平成7) 年 2 月 1 日時点で入力機能を実装していた編集ソフト  
ウェアがある。[HHMKeybindings]

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5

→ \*, style

**repeat** 2004 (平成16) 年 2 月 5 日、『Web Forms  
2.0』<sup>(190)</sup>に **repeat** が追加された。反復雛形機能の一部を構  
成する。[WF2-20040205]



2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup> の要素が  
HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換  
性はない。

XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**reset** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
XForms<sup>(123)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**resort** 2000 (平成12) 年 10 月 20 日、『XHTML  
m12n』<sup>(92)</sup> に例示として追加された XHTML Skiing  
Module<sup>(375)</sup>にある。[M12N20010410]



XHTML m12n 2001 (H13) An Example Abstract Module Definition → XHTML  
Skiing Module 例示

**resource** 1995 (平成7) 年 11 月 20 日付の W3C  
職員 Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup> と Dave Raggett<sup>(132)</sup>の提案に  
**resource** がある。 **head** の **meta** がその文書を説明する  
のと同様にして他の資源の説明を HTTP ヘッダーの形で記述するも



のだった。後に RDF<sup>(70)</sup>に発展したものと思われる。[HTMLRES]

1996(平成8)年1月8日付のW3C職員Rohit Khareの提案にresourceがある。リンク先への安全なアクセスに必要なセキュリティ関係の情報をHTTPヘッダーの形で記述するものだった。記述方法も時期も所属組織も、1995(平成7)年11月20日の提案と関係していそうだが、直接の引用関係ではない。[SEA]

2014(平成26)年2月24日、W3C<sup>(185)</sup>の運営する掲示板にresourceの提案が投稿された。JavaScriptから利用するファイルの入出力のためのものだったが、賛同は集まらなかった。[ResArchive]Tim Berners-Leeらの案とは無関係。

→ about, cryptopts, insert

**restoffile** 1991(平成3)年4月2日付のWorldWideWeb<sup>(40)</sup>ソースコードは、restoffileを実装していた。以後を平文(plain text)モードまたはRTFモードに切り替える。[SW:restoffile]



→ plaintext

**return** 2018(平成30)年HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**returnable** 2007(平成19)年に公開されたJavaScriptライブラリーReturnableがreturnableを使っていた。[RETURNABLE]



**rev** 1994(平成6)年1月11日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にrevがある。検索結果の一致部分を反転表示させる。[HTML+19940111]



HTML+ 1994(H6)/4/5

→ inv, mark, reverse

R

**revalidate** 2009 (平成21) 年、  
『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**reverse** 1998 (平成10) 年 4 月 発表の displets<sup>(199)</sup>  
機能案の実例として reverse が使われた。文字列の前景色と背景色を反転させる。<sup>[DISPLETS1998]</sup>



→ inv, mark, rev

**richtext** 2007 (平成19) 年 12 月 15 日、  
HtmLayout<sup>(268)</sup>は richtext を実装した。 textarea, [HtmLayout:log320]  
htmlarea に代わるものだという。



**right** 1994 (平成6) 年 11 月 30 日 版  
『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。<sup>[HTML3-19941130]</sup>



1995 (平成7) 年 3 月 1 日版 『HTML 3.0』 DTD にある。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において math と数式用各要素を実装していた。

平成時代前半頃、 center から類推される left, right はない、  
と解説されることがたまにあった。<sup>[SW:right]</sup>

実際に right が使われた事例もいくつか知られているが、表示上の効果はなかったはずで、何を考えて使われたものか謎である。<sup>[SW:right]</sup>

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24

**roach** 1994 (平成6) 年 10 月 19 日、 Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、 Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない 10 個の HTML 拡張を列举したという風刺記事を投稿した。 wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth と挙げ、最後に blink という落ちだっ



た。[TopTenHTML]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemay の提示した、`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`, `blink` を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。  
[E/W3:Supported]

**room** 2000（平成12）年10月20日、『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>に例示として追加された XHTML Skiing Module<sup>(375)</sup>にある。  
[M12N20010410]



[XHTML m12n 2001 \(H13\) An Example Abstract Module Definition](#) • XHTML Skiing Module 例示

**root** 1994（平成6）年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`math`, `over`, `box`, `root`, `array`, `item` がある。  
[HTML+19940105]



1994（平成6）年11月30日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD にある。  
[HTML3-19941130]

1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』DTD にある。  
[HTML3-19950301]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

[HTML+ 1994 \(H6\)/4/5](#) [HTML 3.0 1995 \(H7\)/3/24](#) ; 1995 (H7)/3/28  
MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**row** 1995（平成7）年3月13日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>の `arow` が `row` に変更されたとみられる。  
[HTML3-19950324]



[HTML 3.0 1995 \(H7\)/3/24](#) ; 1995 (H7)/3/28

R

---

(375) XHTML Skiing Module 『XHTML m12n』<sup>(92)</sup>仕様書本文中に例示されたモジュール。実用は想定されておらず、抽象モジュール定義のみでスキーマ実装はない。

**rp** 1998（平成10）年11月15日のInternet Explorer<sup>(281)</sup>5.0 Beta 2はruby, rt, rpを実装した。長らくrubyを実装する唯一の主要Webブラウザーだった。現行仕様である。[\[SW:ruby\]](#)



1998（平成10）年12月21日、初めてW3C<sup>(185)</sup>から公開されたHTMLルビ仕様に、ruby, rt, rpがある。[\[RUBY19981221\]](#)

2008（平成20）年6月26日、『HTML5』<sup>(191)</sup>にruby, rt, rpが追加された。現行仕様の中核部分である。[\[HTMLr1704\]](#)

現行の要素である。

XHTML\_m12n 2001(H13) Ruby XHTML\_1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
Ruby Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary

**rsp** 2015（平成27）年3月20日にWHATWG<sup>(414)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する提案にある。[\(225\)](#)  
[\[BMHTML6\]](#) [\[BMHTML6:GH\]](#)



**rt** 1998（平成10）年11月15日のInternet Explorer<sup>(281)</sup>5.0 Beta 2はruby, rt, rpを実装した。長らくrubyを実装する唯一の主要Webブラウザーだった。現行仕様である。[\[SW:ruby\]](#)



1998（平成10）年12月21日、初めてW3C<sup>(185)</sup>から公開されたHTMLルビ仕様に、ruby, rt, rpがある。[\[RUBY19981221\]](#)

2008（平成20）年6月26日、『HTML5』<sup>(191)</sup>にruby, rt, rpが追加された。現行仕様の中核部分である。[\[HTMLr1704\]](#)

R

2012（平成24）年8月20日、『HTML5』のruby, rtの仕様が拡充された。[\[HTMLr724\]](#) 現行仕様である。Internet Explorerの実装により近いものとなった。

現行の要素である。

XHTML\_m12n 2001(H13) Ruby XHTML\_1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
Ruby Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary

借用先 ITS 1.0(370), JepaX(285), JIS X 4052(244), LeXML(296), WebVTT(277)  
→ **rb**, **rbc**, **rtc**, **yomi**

**rtc** 1999(平成11)年9月24日版HTMLルビ仕様で、**rbc**, **rtc**が追加された。<sup>[RUBY19990924]</sup> **rbc**は現在の**ruby**のうち**rt**以外の部分に、**rtc**は現在の**rt**に当たるが、記述方法も実装への要求も追加の経緯もより複雑で互換性はない。



**rbc**, **rtc**を実装したのはXHTMLルビサポート<sup>(371)</sup>くらいで、利用した文書もわずかに作られた程度と思われる。<sup>[SW:ruby]</sup>

2015(平成27)年9月10日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の構文解析器に**rb**, **rtc**が追加された。各Webブラウザーの実装差の混乱を收拾するために新たに合意された挙動だった。著者<sup>(52)</sup>の利用は認められていない。<sup>[HTML:RbRtc]</sup>

XHTML\_m12n 2001(H13) Ruby XHTML\_1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
Ruby Module HTML Standard HTML構文解析器 / Ordinary

借用先 ITS 1.0(370), JIS X 4052(244)

**ruby** 1996(平成8)年頃 Martin J. Dürst<sup>(376)</sup>はルビの記述法をいくつか提案した<sup>(377)</sup>が、その中には**ruby**を使うものもあった。現行仕様とは異なる。<sup>[RubyMartin]</sup>



宇宙暦28(1996)年9月1日(平成8年)、Webページで**ruby**を提案したものがあった。<sup>[HTML提言]</sup> ルビの提案として早い部類であるが、標準化団体や実装者に直接宛てたものではなかった。現行仕様とは異なる。

1998(平成10)年11月15日のInternet Explorer<sup>(281)</sup>5.0 Beta 2は**ruby**, **rt**, **rp**を実装した。長らく**ruby**を実装する唯一の主要Webブラウザーだった。現行仕様である。<sup>[SW:ruby]</sup>

1998(平成10)年12月21日、初めてW3C<sup>(185)</sup>から公開された

(376) Martin J. Dürst HTML 2.x(122)の著者(52)の1人。W3C職員として国際化部門を担当した。

(377) 候補案から選んでいたのは**ruby**属性をいくつかの要素に追加する案だった。<sup>[SW:ruby属性]</sup>

HTML ルビ仕様に、`ruby`, `rt`, `rp` がある。[RUBY19981221]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2008(平成20)年6月26日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に`ruby`, `rt`, `rp` が追加された。現行仕様の中核部分である。[HTMLr1704]

2012(平成24)年8月20日、『HTML5』の`ruby`, `rt` の仕様が拡充された。[HTMLr724] 現行仕様である。Internet Explorer の実装により近いものとなった。

現行の要素である。

XHTMLm12n 2001(H13) Ruby XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary

借用先 ITS 1.0<sup>(370)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, WebVTT<sup>(277)</sup>

→ !, !rb, rb, rbc, rtc, t-/rb, t-r, t-rb

**rule** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3  
Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。

2007(平成19)年9月19日、『HTML5』<sup>(191)</sup>に  
`datatemplate`, `rule`, `nest` が追加された。雛形機能を提供する。  
[HTMLr1019]

**rulerref** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3  
Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。

**rules** 2009(平成21)年の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は、  
ITS 1.0<sup>(370)</sup>から`rules`を利用できるとしていた。ただし  
詳細未決となっていた。『XHTML 2.0』が利用できるとした  
他仕様の要素はすべて HTML 名前空間<sup>(166)</sup>に取り込む形となっ  
ているので、`rules`も同様の構想だった可能性がある。ただし、  
『ITS 1.0』はそのような利用を認めていない。[ITS1]

XHTML2 2010(H22)



**running\_head** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。[交フオ報]



**s** 1993 (平成 5) 年 10 月 28 日版 『HTML+』<sup>(72)</sup> にある。[HTML+19931028]



1995 (平成 7) 年 3 月 1 日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> にある。[HTML3-19950301]

平成 9 (1997) 年 3 月付で発表された論文で、編集履歴の記述方法として提案されていた。<sup>(65)</sup> 標準の s とは異なる。[電子添削]

2006 (平成 18) 年 11 月 23 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> 文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

2021 (令和 3) 年 4 月 6 日の HTMLLang<sup>(128)</sup> にある。[HTMLLang]

現行の要素である。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML 3.2 1997 (H9) 言及のみ HTML4 1997 (H9) Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000 (H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001 (H13)  
Legacy Module 非推奨 HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Formatting

借用先 ENML<sup>(210)</sup>

→ @a, @d, @r, correct, edit, strike

**samp** 1988 (昭和 63) 年 5 月時点での GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に @code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var, @cite, @emph, @strong, @b, @i がある。[TEXINFO11]



1993 (平成 5) 年 1 月 6 日、HTML に code, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, u が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993 (平成 5) 年 10 月 28 日版 『HTML+』<sup>(72)</sup> にある。[HTML+19931028]

1995 (平成 7) 年 3 月 1 日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> にあ

R

る。[HTML3-19950301]

2005(平成17)年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、code, var, samp, kbd, sup, subが追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra  
HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)  
HTML2.X 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001 (H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Inline Phrasal  
Module XHTMLBasic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTMLStandard 適合 / Ordinary  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210)



**sarcasm** 2008(平成20)年6月6日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>の構文解析器に、終了タグ sarcasm で  
Take a deep breath(深呼吸)する旨の規定が追加され  
た。[HTMLr1731] イースターエッグのようなものだろう。現行仕様である。<sup>(378)</sup>

タグ<sup>(20)</sup>風文字列 </sarcasm> は英語圏の Web 系技術者のメール本文などでしばしば皮肉の終わりを表すため慣習的に使われていた。実際に HTML に sarcasm やそれに類する感情の要素を追加する要望もあったが、2008(平成20)年4月に class 属性が妥当として却下されていた。[SARCASMian]

HTMLStandard HTML構文解析器 / Ordinary



**savedas** 1991(平成3)年10月29日時点の HTML  
仕様の概要に、base address(既定番地) tagへの言及があるが、構想だけで未使用とされていた。1990(平成2)年頃とみられる仕様案にも同様の記述が既にあった。[HTML19911029]

(378) もちろん著者(52)や利用者に直接観測され得る挙動ではないが、仕様に従い何らかの処理をする実装もある。

1992(平成4)年1月9日の電子メール所収のHTML仕様書にbase address機能が掲げられているが、形式未定とされていた。[\[WWW19920109\]](#)

1992(平成4)年12月2日付のTim Berners-Lee<sup>(82)</sup>のWebページにsavedasの構想がある。現在のbaseに当たるが、メールなどの相対URLの解決のためと説明されていた。[\[FuturePlans\]](#)要素名と合わせてInternet Explorer<sup>(281)</sup>の<!-- saved from url -->構文を思い起こさせる。[\[SW:SavedFrom\]](#)

[HTML](#) 1992(H4)/1/9 言及のみ

**scalarproduct** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**scene** 2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と  
<sup>(162)</sup>[DTHTML6]称する文書にある。



2019(令和元)年6月のW3C Workshop on Web Games<sup>(379)</sup>のposition statementの1つに**scene**の提案があった。3D表示のためのものだった。[\[3DScene:PDF\]](#) [\[3DScene:TXT\]](#)

**schemadef** 1998(平成10)年4月発表のdisplets<sup>(199)</sup>機能案の実例としてZ記法用のSGML DTDの語彙が使われた。HTMLと混在させて用いることができた。[\[DISPLETS1998\]](#)



**scope** PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。[\[POSTHTML:EXP\]](#)



**script** 1996(平成8)年頃のNetscape Navigator 2.0は、**script**を実装した。現行仕様である。[\[NN2JS\]](#)



2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。[\(104\)](#) [WA1-20050901]

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調  
(379) W3C Workshop on Web Games 2019(令和元)年6月にW3C<sup>(185)</sup>が開催した国際会議。

S

査によると、要素の利用数第 13 位が **script** だった。[WAStats:P&E]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>で『XML Events 2』<sup>(206)</sup>の **script** が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で使えるとされた。<sup>(380)</sup> [SW:XHTML2]

現行の要素である。

HTML 3.2 1997 (H9) HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n

2001 (H13) Scripting Module XHTML\_Print 2006 (H18)

XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XML Scripting Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), ODF(381), SVG(400), VoiceXML 1.0(348), XBL 2.0(182)

→ **event, handler, module, noscript, server, template, xml**

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0, HTML構文解析器

**sdev** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**search** 2023(令和5)年3月24日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に **search** が追加された。2020(令和2)年8月12日に提案されたものだった。現行仕様である。[HTML:AddSearch] 

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

**search\_link\_item** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交FF報] 

**search\_link\_title** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交FF報] 

**search\_page** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義



(380) 『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>はその前段階で **script** を **handler** に改称していた。それが『XML Events 2』<sup>(206)</sup>が新たに規定した **script** を参照する形に置き換えられた。結局、仕様書が複雑になっただけだった。

(381) Open Document Format ODF ワープロ、表計算等の XML 応用の 1 つ。OpenOffice.org などが対応している。[OD11]

している。[交フォ報]

**search\_page\_title** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[交フォ報]



**sec** MathML 3.0 Content

**sech** MathML 3.0 Content

**secno** 平成 8 (1996) 年 6 月 14 日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup> に関して「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、 **secno** がある。明確な説明がないが、見出し中の章節番号に当たる部分を表している。[G-DTD]

→ \$

**secret** 1994 (平成 6) 年 10 月 19 日、 Laura Lemay<sup>(125)</sup> は USENET<sup>(421)</sup> に、 Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup> にない 10 個の HTML 拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。 **wired**, **roach**, **kill\_sgml**, **pinhead**, **secret**, **hype**, **peek**, **poke**, **yogsothoth** と挙げ、最後に **blink** という落ちだった。[TopTenHTML]

Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、 Laura Lemay の提示した、 **wired**, **roach**, **kill\_sgml**, **pinhead**, **secret**, **hype**, **peek**, **poke**, **yogsothoth**, **blink** を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。[E/W3:Supported]

2009 (平成 21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup> で利用できるとした。

XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**section** 1991 (平成 3) 年 10 月 29 日、 Tim Berners-Lee<sup>(82)</sup> は www-talk<sup>(135)</sup> への投稿で、 **h1** 等の見出しの要素だけを使う方式より **section** と **h** を使う方式が良いと考えていたなどと述べている。[HTML19911029]



S

1992(平成4)年6月6日付のDan Connolly<sup>(170)</sup>のwww-talkへの投稿のDTD<sup>(194)(382)</sup>に、**section**がある。この時点ではまだ**body**がなく、最外**section**が現在の**body**のように使われる。[\[HTML19920606\]](#)しかしこの翌月のDTDでは**section**は使われなくなり、**body**が導入されることになる。

1995(平成7)年1月12日、Joe Englishはietf-html<sup>(147)</sup>メーリングリストで、**div1**方式や**section**方式と比較しつつ、HTMLにはより柔軟な**div**方式がよいと提案した。章節構造から出発しつつも、見出しを必須としないことで、**center**の用法もカバーできるものという。[\[HTMLScaleJoe\]](#)

2001(平成13)年7月の『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>案に、**h1**等のかわりに**h**,**section**がある。現在の**h1**,**section**に当たる。名前空間は糸余曲折がありながらも当初案と最終版ではHTML名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。[\[SW:XHTML2\]](#)

2004(平成16)年4月7日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup>に**byline**,**footer**,**section**の構想がある。要素名のみで詳細不明。[\[WA1-20040407\]](#)

2004(平成16)年5月3日のOpera<sup>(409)</sup>とMozilla<sup>(177)</sup>がThe W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents<sup>(240)</sup>に提出したposition paperに**byline**,**footer**,**section**,**navigation**等の構想が示されていた。[\[WACDFWS:OPERA\]](#)

2004(平成16)年6月2日版『Web Applications Markup Language 1.0』に**byline**,**footer**,**section**,**navigation**の構想がある。Webアプリケーション<sup>(146)</sup>に出現する構造を表す。文書ソース注釈に**navigation**,**header**,**footer**,**section**,**post**,**message**,**content**,**h**の構想がある。[\[WA1-20040602\]](#)

---

(382) 当時のDan Connolly<sup>(170)</sup>は、SGML<sup>(78)</sup>とMIMEを活用したHTMLの再構成を模索していた。このDTD<sup>(194)</sup>はHTMLをSGML DTDとして記述した最古のものだが、その後のHTML DTDと違って当時の実際のHTMLに忠実ではない。[\[SW:HTML2\]](#)

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に **section** がある。 **h1** と併用するが、 **h2** 等も用いることができるとした。現行仕様である。[WA1-20040923]

2005(平成17)年4月2日頃までの『Web Applications 1.0』の改訂で、 **section**, **h1**, **h2**, **h3**, **h4**, **h5**, **h6** 関連の規定が整理され、 HTML5<sup>(191)</sup>時代の定義がほぼ成立した。[SW:WA1]

平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に **section** がある。区切りを示すとされ、属性を使って目次や表紙を表すことができる。 XHTML2<sup>(184)</sup>や HTML5 の同名の要素とは異なる。  
[交フォ報]

現行の要素である。

XHTML2 2010(H22) XHTML Structural Module HTML5 2009(H21) 適合  
HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

→ **card**, **cardset**, **div2**, **div3**, **div4**, **div5**, **div6**, **group**, **panel**, **panelset**, **switch**, **tabbox**

**sel** 平成9(1997)年3月21日の Emacs-w3 Red<sup>(211)</sup>が実装している。S式を記述する。



**select** 1993(平成5)年1月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>は www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、Dan Connolly<sup>(170)</sup>案への返信として、フォームコントロールの要件を整理し、 **input**, **select**, **choice** の案を提示した。 **choice** は現在の **option** に当たる。[QueryFormsInput:Dave]



1993(平成5)年6月2日、『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、 **input**, **select** が追加された。[HTML+19930602:Dave]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』に、 **form**, **mh**, **input**, **textarea**, **select**, **option** がある。[HTML+19931028]

S

1993(平成5)年11月10日頃公開された NCSA Mosaic 2.0 は、 **form**, **input**, **select**, **option**, **textarea** を実装していた。現行仕様である。これより前の prerelease 版から実装されていた。

`isindex` は `form` をエミュレートする形で再実装された。  
[MOSAIC20:Form]

1994（平成6）年4月7日、HTML DTDに `form`, `input`,  
`select`, `option`, `textarea` が追加された。  
[HTML19940407]

2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈に構想が追加された。  
[HTMLr358]

2008（平成20）年9月4日、『HTML5』に `select` が追加された。  
[HTMLr2148]

2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML 要素と互換性はない。

現行の要素である。

HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 2 Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)  
HTML 2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Forms Modules • Basic Forms Module Forms Modules • Forms  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XForms Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), WML(141)

→ `keygen`, `listbox`, `menubar`, `selectedoption`, `selectlist`

**select1** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
XForms<sup>(123)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**selected-value** Open UI<sup>(175)</sup> が  
selectmenu, `selected-value`, `marker`, `listbox` を提  
案していた。2020（令和2）年頃 Chromium<sup>(85)</sup>で実装実  
験された。  
[ChromeStatus:CustomSelect] [OUISelectmenu]



**selectedcontent** 2024（令和6）年11月4日、`selectedoption`は`selectedcontent`に改称された。[\[OUI:SelectNaming\]](#)



**selectedoption** 2023（令和5）年9月27日、Open UI<sup>(175)</sup>はWHATWG<sup>(414)</sup>に`selectlist`と関連機能を提案した。WHATWGでの議論で`select`の再利用が決まり、`selectedoption`のみ追加することになった。[\[HTML#9799\]](#) [\[OUISelectlist2\]](#)



2024（令和6）年11月4日、`selectedoption`は`selectedcontent`に改称された。[\[OUI:SelectNaming\]](#)

→ `listbox`

**selectlist** 2023（令和5）年8月4日、Open UI<sup>(175)</sup>は`selectmenu`を`selectlist`に改称した。Chromium<sup>(85)</sup>で実装実験された。[\[OUI#773\]](#) [\[OUISelectlist1\]](#)



2023（令和5）年9月27日、Open UIはWHATWG<sup>(414)</sup>に`selectlist`と関連機能を提案した。WHATWGでの議論で`select`の再利用が決まり、`selectedoption`のみ追加することになった。[\[HTML#9799\]](#) [\[OUISelectlist2\]](#)

→ `listbox`

**selectmenu** Open UI<sup>(175)</sup>が`selectmenu`,  
`selected-value`,`marker`,`listbox`を提案していた。2020（令和2）年頃Chromium<sup>(85)</sup>で実装実験された。[\[ChromeStatus:CustomSelect\]](#) [\[OUISelectmenu\]](#)



2023（令和5）年8月4日、Open UIは`selectmenu`を`selectlist`に改称した。Chromiumで実装実験された。[\[OUI#773\]](#) [\[OUISelectlist1\]](#)

S

**selector** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**semantics** MathML 3.0 Content, 4.0 Core

**send** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



**XHTML2** 2010 (H22) XForms Module

**sep** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**separator** 2004 (平成16) 年 7 月 22 日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> の hr は separator に改称された。[XHTML2-20040722] 名前空間は紆余曲折を経て最終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。



**XHTML2** 2010 (H22) XHTML Structural Module

**sera** 平成 7 (1995) 年頃<sup>(383)</sup>から、SERA<sup>(386)</sup>によるエチオピア文字<sup>(299)</sup>表記のため sera が使われた。Mule<sup>(384)</sup>が実装し、Emacs/W3<sup>(106)</sup>やインターネットメールで利用できる。その他にいくつか変換ソフトウェアもあった。[SERFAQ] 平成 9 (1997) 年 6 月の論文で紹介されている。[EthiopicEmacs] [SW:SERA]



→ livegeez, livegeezmenu

**sereyu** エチオピア暦 2010 年 第 2 月 23 日 (平成 29 (2017) 年 11 月 2 日)、Daniel Yacob は W3C<sup>(185)</sup>の Ethiopic Text Layout Task Force<sup>(159)</sup>に **ዘማ**<sup>(160)</sup> (Zaima)



(383) 平成 6 (1994) 年から Mule<sup>(384)</sup>と Emacs/W3<sup>(106)</sup>で SERA<sup>(386)</sup>の実装が進められたというが、HTML の sera 要素への明確な言及が確認されているのは平成 7 (1995) 年からで、それ以前にあったかは不明。

(384) Mule GNU Emacs の多言語拡張。電総研<sup>(385)</sup>で開発され、世界各地の文字を表示、編集できる。当初は GNU Emacs 19 を改変した単体のソフトウェアだった。XEmacs や GNU Emacs 20 では標準機能となった。Emacs 上で動作する Web ブラウザーの Emacs/W3<sup>(106)</sup>や emacs-w3m は Mule では多言語表示が可能となっている。

(385) 電子技術総合研究所 電総研 ETL 日本政府の通商産業省の研究所。平成 13 (2001) 年の改組により、現在は産業技術総合研究所 (産総研, AIST)。

(386) SERA System for Ethiopic Representaion in ASCII。当時そのまでの情報交換が難しかったエチオピア文字<sup>(299)</sup>を ASCII 文字<sup>(339)</sup>に転写する手法。1993 (平成 5) 年から開発され、1995 (平成 7) 年、1997 (平成 9) 年に改正されている。[SERFAQ] [EthiopicEmacs] [SERA95Updates] [SERA97Changes] [SW:SERA]

の記述のための要素群を提案した。[ZaimaDM] [ZaimaPagesYacob]

**series** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で書誌情報の記述に使われている。[SW:pg\*]

→ work



**server** Netscape Communications Corporation のサーバーは **server** を実装していた。サーバー上で実行される JavaScript プログラムを記述するものだった。

Netscape Navigator<sup>(329)</sup>も構文解析器でこれに対応しており、その内容を表示しなかった。[SW:server]

→ script

**set** 2021(令和3)年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

MathML 3.0 Content, 4.0 Content



**setdiff** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**setfocus** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

XHTML2 2010(H22) XForms Module



**setindex** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

XHTML2 2010(H22) XForms Module



**setvalue** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。

XHTML2 2010(H22) XForms Module



S

**shadow** WebTV<sup>(124)</sup> 1.2 までは `shadow` を実装していた。影を表示する。現在の CSS 'text-shadow' に当たる。[SW:shadow]



2011(平成23)年11月19日、『Component Model』<sup>(183)</sup>仕様案説明書に `shadow` が追加された。[CM:AddedExplainer]

2011(平成23)年12月7日、『Shadow DOM』に `shadow` が追加された。[WC:AddedShadow]

→ `template`

**share** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**shiki** PostHTML<sup>(365)</sup> が HTML と称するものにある。[POSTHTML:SHIKI]



→ `highlight`

**sidebar** 1994(平成6)年の USENET<sup>(421)</sup> の投稿で、雑誌の sidebar に相当する `sidebar` があれば有用かもと指摘したものがある。[NSHTMLChris]



WebTV<sup>(124)</sup>は `sidebar` を実装していた。サイドバーとして画面左側に表示するものだった。[SW:sidebar]

2004(平成16)年9月23日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈に、 `sidebar` ないし `note` の構想がある。[WA1-20040923]

2004(平成16)年12月8日版時点の『Web Applications 1.0』で `sidebar` が定義されていた。[WA1-20041208]

2005(平成17)年4月4日、『Web Applications 1.0』の `sidebar` は `aside` に改称された。現行仕様である。[SW:WA1]

S

**sig** 遅くとも 2000(平成12)年までに、USENET メッセージ<sup>(422)</sup>を HTML に変換するための `sig`, `inc`, `inced`, `page` が提案されていた。[OOB]



→ `address`, `footer`

**sin** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

## **sinh** MathML 3.0 Content

**slable** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**slot** 2015 (平成27) 年 8 月、『Shadow DOM』の content は削除され slot が追加された。[\[W3C28561\]](#)



2016 (平成28) 年 4 月 20 日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に slot が追加された。現行仕様である。[\[DOMSlot\]](#)

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / Ordinary

→ part, template

**slot:\*** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものが fill: や slot: から始まる任意の要素名を使う。このままの要素名ではない。[\[POSTHTML:COMPONENTS\]](#)



→ fill:\*

**small** 1995 (平成7) 年 3 月 1 日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。[\[HTML3-19950301\]](#)



2005 (平成17) 年 4 月 12 日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に small が追加された。意味が異なる同名の旧来要素を再利用した新要素である。現行仕様である。[\[SW:WA1\]](#)

現行の要素である。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9)

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset

XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Text Extension Modules → Presentation Module → XHTML Inline Presentational Module XHTML\_Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13)

S

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Formatting

借用先 BML(84), ENML(210), LeXML(296), tdf(342), WML1(141)

→ big, comment, font, nyt\_copyright

**sn** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で歌番号に使われている。  
[SW:pg\*]



**solidColor** SVG Tiny 1.2

**sound** 1995(平成7)年10月頃 Mosaic が実装した。  
[SW:sound]



HTML TADS<sup>(387)</sup>に **sound** がある。Mosaic のものとは無関係と思われる。[HTMLTADS:SM]

Gecko<sup>(176)</sup>は、HTML5 構文解析器<sup>(389)</sup>となる以前は構文解析のみ対応していた。[SW:sound]

→ `audio`, `bgsound`, `embed`, `object`

**source** 2007(平成19)年3月23日、  
『HTML5』<sup>(191)</sup>は `audio`, `source` を追加した。<sup>(110)</sup>現行仕様である。  
[HTMLr687] [HTMLr689]



2012(平成24)年2月21日、Scott Jehl は、`picture`, `source` (`picture`用) の polyfill<sup>(353)</sup>を公開した。後に W3C HTML WG<sup>(312)</sup>の仕様案として採択された。類似の提案はこのしばらく前まで遡る。[RICG:AllIn]

2014(平成26)年6月17日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に `picture`, `source` (`picture`用) が追加された。現行仕様である。[HTMLr8680]

現行の要素である。

**HTML5** 2009(H21)適合 **HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `imgcandidate`

(387) HTML TADS TADS<sup>(388)</sup>の API で指定できる HTML 風の文字列片。標準の HTML を拡張したものと説明されている。

(388) TADS Text Adventure Development System。平成時代前半頃開発、利用されていたゲームエンジン群。

(389) HTML5構文解析器 **HTML5 parser** 『HTML5』<sup>(191)</sup>の規定に従った構文解析器。『HTML5』の構文解析器は Internet Explorer<sup>(281)</sup>をはじめとするそれ以前の主要な Web ブラウザの挙動を解析して規定されたものだったが、当時は実装ごとの違いも多かった。主要な Web ブラウザは『HTML5』の規定に従い構文解析器を全面改修したため、従来の構文解析器と区別して HTML5 構文解析器という。現在ではすべてが HTML5 構文解析器である（ただし『HTML5』以後の仕様変更を含む）。

**sp** 1993(平成5)年5月19日、Dave Raggett<sup>(132)</sup>はwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、`pre`外のnon-breakable spaceの要望を受け付けている。[HTMLDTD Dave]



1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に`sp`があり、unbreakable spaceと説明されている。[HTML+19930713] 文字に相当すると思われる。

1993(平成5)年7月のWWWWWW<sup>(140)</sup>で、文字参照<sup>(30)</sup>`&nbsp;`の追加が合意された。[WWWWWWNotes]これを承けて`sp`は削除されたとみられる。

1994(平成6)年時点ではEmacs/W3<sup>(106)</sup>は、`sp`を実装していた。`SPACE`に置換される。[E/W3-2.1p46]

HTML+ 1993(H5)/7/13

→ spacer

**spaceless** PostHTML<sup>(365)</sup>がHTMLと称するものにある。既存の雛形言語複数からの借用である。<sup>(390)</sup>[POSTHTML:SPACELESS]



**spacer** 1996(平成8)年頃のNetscape Navigator 3.0は、`spacer`を実装した。[NN3Welcome]



いくつかのウェブサイトで使われたが、Internet Explorer<sup>(281)</sup>は実装しなかったので普及しなかった。[SW:spacer]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

2009(平成21)年10月21日、『HTML5』の構文解析器から`spacer`が削除された。[HTMLr4265] 現在はDOM関連の規定に痕跡が残る。

HTML5 2009(H21)廃止 HTML Standard Ordinary  
→`br`,`sp`

S

---

(390) 借用元の雛形言語はHTMLではないし、SGML<sup>(78)</sup>系の構文でもない。

**span** 1995(平成7)年9月25日、HTML 2.1<sup>(118)</sup>に  
spanが追加された。旧版のbidi(bdo相当を除く。)と  
langを統合したものだった。[\[HTML21\]](#)



1996(平成8)年1月23日、『HTML and Style Sheets』<sup>(151)</sup>はc  
をspanに改称した。[\[HTMLStyle01\]](#)

2005(平成17)年4月14日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、  
span, q, cite, brが追加された。現行仕様である。[\[SW:WA1\]](#)

現行の要素である。

HTML2.x 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997(H9); 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001(H13) Core Modules • Text Module 必須 • XHTML Inline Structural  
Module XHTMLBasic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18)  
XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
借用先 BML<sup>(84)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, ITS 1.0<sup>(370)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X  
4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, Schematron<sup>(391)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>, TTML<sup>(392)</sup>, Widgets

**speech** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>は、漫画記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**spell** Netscape Navigator 4.0はspellを実装していた。編集時の綴り検査結果の表示に使われたのではないかと推測されているが、詳細不明。[\[SW:spell\]](#)



**spellout** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



**split** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換  
フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)



(391) Schematron ISO/IEC 19757-3。 XML(5)用スキーマ言語の1つ。

(392) TTML Timed Text Markup Language。 timed text 編集ソフトウェア  
の交換用の XML 応用。[\[TTML1\]](#)

平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマットは、漫画記述関係の要素を定義している。[交フォ報]

**splitter** 2010 (平成22) 年 8 月 7 日、  
HtmLayout<sup>(268)</sup> は **splitter** を実装した。フレームの境界を表す。[HtmLayout:log]



**spot** 1995 (平成 7) 年 3 月 13 日、 SGML Open<sup>(366)</sup> からの助言により『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> から **mark** が削除された。1995 (平成 7) 年 3 月 21 日、『HTML 3.0』DTD に **range**, **spot** が追加された。[HTML3-19950324] 『HTML 3.0』本文によると、 **range** は検索結果や注釈の対象などの範囲を表し、 **spot** はその端点を表す。

Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において、 **range**, **spot** を実装していた。[E/W3:Parse]

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

→ fm-spot, fn-spot, pos

**sqrt** 1995 (平成 7) 年 3 月 6 日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> から **radix**, **radicand** が削除され、 **of**, **sqrt** が追加された。[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において **math** と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**ss** 2020 (令和 2) 年時点の調査によると、 0.11% の Web ページが **ss** を使っていた。ProStores<sup>(393)</sup> が使っていたものという。[ALMANAC2020:MARKUP]



(393) ProStores eBay が運営していた電子商取引サービスの 1 つ。Kurant StoreSense と称していたが、2005 (平成 17) 年に買収によりこの名称となる。2015 (平成 27) 年にサービス終了した。

**stack** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。  
[POSTHTML:COMPONENTS]



**standby** 2003(平成15)年5月6日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に standby が追加された。[XHTML2-20030506] 名前空間は絶余曲折を経て最終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。HTML4<sup>(394)</sup>の standby 属性に相当する。

XHTML2 2010 (H22) XHTML Object Module

**start-ign** 平成8(1996)年6月14日の D-DTD/J1<sup>(230)</sup>に関して「D-DTD/J1 を用い、さらに幾つかのタグを追加」した例文に、 start-ign, end-ign, ign がある。明確な説明がないが、D-DTD/J1 対応ソフトウェアが無視すべき「HTML ビュア」向けの記述を表すように思われる。[G-DTD]

**state** 1994(平成6)年1月5日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に state がある。[HTML+19940105] 現在の <input type=hidden> に当たる。

2004(平成16)年7月21日版『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup> 文書ソース注釈に、 state, instance 等の構想がある。XML 文書を生成するためのものだった。[WA1-20040721] XForms<sup>(123)</sup>の instance に近い。

→ input

(394) HTML4 Cougar(226),『HTML 4.0』,『HTML 4.01』の総称。『HTML 4.0』は2度、『HTML 4.01』は1度W3C勧告<sup>(395)</sup>となった。[HTML4-19971218] [HTML4-19980424] [HTML4-19991224] その他にいくつか原案等が公表された。版による細かな違いの区別の必要がないときに単に HTML4 といわれることが多い。要素の有無については3つのW3C勧告で違いがない。平成時代中期頃、長く標準のHTML仕様として世界中で利用された。HTML4の3つのW3C勧告には Strict(厳密), Transitional(移行用), Frameset(フレーム集合)の3種類のDTD<sup>(194)</sup>があり、本書ではそのいずれに含まれるかも示した。

(395) W3C勧告 W3C Recommendation W3C<sup>(185)</sup>の文書の一種。所定の標準化手続きをすべて通過し承認されたもの。

**status** 2013（平成25）年1月7日にW3C HTML WG<sup>(312)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(313)</sup> [OGHTML6]



**std-switch** 2019（令和元）年頃、Googleがstd-switchを提案していた<sup>(396)</sup>。現在のinput要素のswitch属性に当たる。[std-switch]



**std-toast** 2019（令和元）年頃、Googleはstd-toastを提案していた。<sup>(396)</sup> toast<sup>(397)</sup>を表す。[std-toast]



→ toast, toasts

**stop** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**stopevent** 2000（平成12）年8月28日、『XHTML Events』<sup>(76)</sup>にonevent, action, stopeventが追加された。イベントハンドラーを表す。[XHTMLEv20000828] WML1<sup>(141)</sup>のoneventと関係するかもしれないが、互換性はない。



**stopPropagation** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は『XML Events 2』<sup>(206)</sup>のXML HandlersをHTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。イベントハンドラーを記述する。[SW:XHTML2]



**XHTML2** 2010(H22) XML Handlers Module

**strike** 1994（平成6）年5月17日、HTML DTDにstrikeが追加された。[HTML19940517]



2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。[HTMLr358]

**HTML 2.0** 1995(H7)/11 言及のみ **HTML 3.2** 1997(H9)

(396) std-は同時にGoogleが提案していた標準ライブラリー機構を通じて提供されることを表している。

(397) toast 利用者インターフェイスの構成要素の1つ。画面隅等に利用者に対して短めの通知文などを表示できる。

HTML4 1997 (H9) Transitional / Frameset

XHTML1.0 2000 (H12) Transitional / Frameset XHTML1.0 2001 (H13)

Legacy Module 非推奨 HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文  
解析器 / Formatting

借用先 ENML(210), hnf(237), JIS X 4052(244), tdf(342), TNF(398)

→ s

**strong** 1988 (昭和63) 年 5 月 時 点 で GNU Texinfo<sup>(169)</sup> に @code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var, @cite, @emph, @strong, @b, @i が あ  
る。[TEXINFO11]



1992 (平成4) 年 12 月 8 日の Dan Connolly<sup>(170)</sup> の www-talk<sup>(135)</sup> への投稿によると、Dan Connolly は GNU Texinfo から HTML に em<sup>(171)</sup>, strong, code, file, cite 等を追加しようとしていた。[UseSGMLKbd]

1993 (平成5) 年 1 月 6 日、HTML に code, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, u が追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版 『HTML+』<sup>(72)</sup> に あ  
る。[HTML+19931028]

1995 (平成7) 年 3 月 1 日 版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup> に あ  
る。[HTML3-19950301]

2004 (平成16) 年 9 月 23 日 版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> に、em,  
strong の明確化が必要な旨の注釈がある。[WA1-20041208]

2005 (平成17) 年 4 月 12 日、『Web Applications 1.0』に strong  
が追加された。現行仕様である。[SW:WA1]

S

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra

HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)

(398) TNF Tokimi Novel Format。威沙(399)のマーク付け言語(186)。縦書き  
の日本語小説が想定されており、HTML風の構文を持つ。[TNF]

(399) 威沙 書籍作成ソフトウェアの1つ。

HTML2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n  
2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal  
Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML\_Print 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 /  
Formatting

借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), hnf(237), JIS X 4052(244),  
ReSpec(172), tdf(342), WML1(141)

→ htmllite

**style** 1995 (平成7) 年 3月 1日版 『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>

DTD<sup>(194)</sup>に、 **style** がある。注釈によると 1995 (平成7) 年 2月 9日よりも前に追加された。<sup>[HTML3-19950301]</sup>



1996 (平成8) 年頃の Internet Explorer 3.0 は、 **style** と CSS を実装した。

2005 (平成17) 年 9月 1日版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> にある。<sup>(104)</sup> <sup>[WA1-20050901]</sup>

現行の要素である。

HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Style Sheet Module XHTML\_Print 2006 (H18)

XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Style Sheet Module

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), DTBook(197), JIS X 4052(244), SVG(400), XBL 2.0(182)

→ ompe.style, render

SVG 1.1, 2.0

**sub** 1993 (平成5) 年 10月 28日版 『HTML+』<sup>(72)</sup> の

本文と DTD<sup>(194)</sup>に、 **math, box, over** がある。本文に

**array, item** がある。例文に **rd** がある。本文で **sub**,

**sup** が **math** 内でも使えるとされている。<sup>[HTML+19931028]</sup>



S

1993 (平成5) 年 10月 28日版 『HTML+』にある。<sup>[HTML+19931028]</sup>

1995 (平成7) 年 9月 25日、 HTML 2.1<sup>(118)</sup> に、 **sub, sup** が追加された。現行仕様である。<sup>[HTML21]</sup>

2005(平成17)年4月13日、「Web Applications 1.0」<sup>(157)</sup>に、`code`, `var`, `samp`, `kbd`, `sup`, `sub`が追加された。現行仕様である。[\[SW:WA1\]](#)

現行の要素である。

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28  
HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1  
HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準  
/ Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset  
XHTML\_m12n 2001(H13) Text Extension Modules • Presentation Module  
• XHTML Inline Presentational Module XHTML\_Print 2006(H18)  
XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285), JIS X 4052(244),  
LeXML(296), NITF(340), XMLspec(173)

→ em

**subdoc** Netscape Navigator 4.0 の頃に実装されて  
いた。Netscape 社のドキュメントに出現するが、詳細不明。[\[SW>NN4\]](#)



**subhead** 平成23(2011)年3月31日版電子書籍交  
換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義して  
いる。[\[交フォ報\]](#)



平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマットは、漫画記  
述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)

**subheadword** 平成23(2011)年3月31日版電子  
書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義  
している。[\[交フォ報\]](#)



平成23(2011)年3月31日版電子書籍交換フォーマットは、漫画記  
述関係の要素を定義している。[\[交フォ報\]](#)

**submission** 2009 (平成21) 年、  
『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空  
間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010(H22)

**submit** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



2013（平成25）年1月7日にW3C HTML WG<sup>(312)</sup>に送付された『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書にある。<sup>(313)</sup> [OGHTML6]

XHTML2 2010 (H22) XForms Module

**subset** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**sum** 2021（令和3）年4月6日の HTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]



MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**summary** 2003（平成15）年5月6日、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>に **summary** が追加された。[XHTML2-20030506] 名前空間は紆余曲折を経て最終版では HTML 名前空間<sup>(166)</sup>となっていた。HTML4<sup>(394)</sup>の **summary** 属性に相当する。



2010（平成22）年1月30日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に **figcaption, summary** が追加された。現行仕様である。[HTMLr4636]

現行の要素である。

XHTML2 2010 (H22) XHTML Tables Module HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

→ **details, legend**

**sup** 1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>の本文と DTD<sup>(194)</sup>に、**math, box, over** がある。本文に **array, item** がある。例文に **rd** がある。本文で **sub, sup** が **math** 内でも使えるとされている。[HTML+19931028]



1993（平成5）年10月28日版『HTML+』にある。[HTML+19931028]

1995（平成7）年9月25日、HTML 2.1<sup>(118)</sup>に、**sub, sup** が追加された。現行仕様である。[HTML21]

2005（平成17）年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、**code, var, samp, kbd, sup, sub** が追加された。現行仕様であ

S

る。[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
HTML 3.2 1997 (H9) HTML 2.x 1997 (H9)/1  
HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset  
XHTML\_m12n 2001 (H13) Text Extension Modules → Presentation Module  
→ XHTML Inline Presentational Module XHTML-Print 2006 (H18)  
XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
借用先 BML(84), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285), JIS X 4052(244),  
LeXML(296), NITF(340), XMLspec(173)



**super** 2009 (平成21) 年 6 月 1 日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と  
称する文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**svg** 2008 (平成20) 年 4 月 5 日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は、  
HTML 文書中の **svg**, **math** の開始タグとその続きを  
SVG<sup>(400)</sup>や MathML<sup>(311)</sup>の名前空間と解釈することとした。現行仕様である。なお、その時点で既存の HTML 文書で何らかの理由で **svg**, **math** の開始タグを含むものが一定数存在していたことが設計に影響を与えている。[HTMLr1400] [HTMLr1401] [HTMLr1404]  
[SVGIInHTMLian]

HTML Standard HTML構文解析器 / Ordinary  
SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0



**switch** 2004 (平成16) 年 9 月 23 日版 『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に **switch** がある。互いに排他的な章節をグループ化するもので、**section** を使うことができ、同時に 1 つだけ表示される。[WA1-20040923]

S

2006 (平成18) 年 11 月 14 日、『Web Applications 1.0』から

(400) SVG Scalable Vector Graphics。ベクトル画像を記述できる XML 応用。現在では Web ブラウザに標準搭載され HTML 要素などと混在させられる。本書では『SVG 1.0』,『SVG 1.1』,『SVG Tiny 1.2』,『SVG 2.0』にあるかを示した。[SVG1] [SVG11] [SVGT12] [SVG2] 更に、構文解析器で特別な挙動が定められたものには「HTML 構文解析器」と示した。[HTML]

**tabbox, switch** が削除された。[HTMLr289]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名の HTML要素と互換性はない。

PostHTML<sup>(365)</sup>が HTMLと称するものにある。[POSTHTML:EXP]

XHTML2 2010(H22) XForms Module

→ card, cardset, panel, panelset, tab

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**symbol** 2006(平成18)年の『XLIFF 1.2』の仕様書中の HTMLと XLIFF<sup>(222)</sup>の対応関係の規定に、**face**,  
**symbol** がある。RobotHelpと記載がある。



RoboHelp<sup>(223)</sup>が実装していたものかとも思われるが、詳細不明。  
[XLIFF12HTML]

SVG 1.1, 2.0

**t** 1995(平成7)年3月5日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>で **term** が廃止され、**vec**, **bar**, **dot**, **ddot**,  
**hat**, **tilde**, **t**, **bt** が追加された。**b**も使えるとされている。  
[HTML3-19950324]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において **math** と数式用各要素を実装していた。

平成18(2006)年2月24日時点の『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>文書ソース注釈内の作業予定に、**t**がある。<sup>(196)</sup> [SW:WA1]

2006(平成18)年2月17日(推測)と2006(平成18)年3月3日の間の『Web Applications 1.0』の改訂で、**t**, **gauge**, **progress** の定義が一部追加された。<sup>[SW:WA1]</sup>

2006(平成18)年10月26日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は **t**を定義した。  
[HTMLr210]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』の**t**は**time**に改称された。  
[HTMLr359]

S

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』のxはtに改称された。  
[HTMLr360]

2006(平成18)年12月22日、『HTML5』はtを削除した。  
[HTMLr456]

HTML3.0 1995(H7)/3/24; 1995(H7)/3/28

→ date

**t-/rb** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。現在のruby等に当たる。  
[TTX230]

→ !, !rb, t-r, t-rb



**t-action** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]

→ !action



**t-case** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]

→ case, nocase, t-nocase



**t-cb** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。改段を表す。  
[TTX230]

→ column\_break



**t-code** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]



**t-em** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]



**t-hide** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]



**t-img** 平成12(2000)年頃、T-Time<sup>(24)</sup>が実装していた。  
[TTX230]

→ !img, img



**t-left** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



**t-move** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



**t-nocase** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



→ case, nocase, t-case

**t-pb** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。改頁を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ !pb, page, page\_break, pg\*

**t-pdef** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。挿絵を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ !pdef, !phead, !ptail, fig, figure, t-phead, t-ptail



**t-ptail** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。挿絵を表す。<sup>[TTX230]</sup>



→ !pdef, !phead, !ptail, fig, figure, t-pdef, t-phead

**t-r** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。現在の ruby 等に当たる。<sup>[TTX230]</sup>



→ !, !rb, t-/rb, t-rb

**t-rb** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。現在の ruby 等に当たる。<sup>[TTX230]</sup>



→ !, !rb, t-/rb, t-r

**t-right** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



**t-tab** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



**t-time** 平成 12 (2000) 年頃、 T-Time<sup>(24)</sup> が実装していた。<sup>[TTX230]</sup>



**tab** 1986 (昭和61) 年 10 月 27 日 の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にある。 HTML に直接引き継がれたものではない。<sup>[SGMLguid]</sup>



1993 (平成 5) 年 10 月 28 日版『HTML+』<sup>(72)</sup> に **tab** がある。タブ位置を指定する。<sup>[HTML+19931028]</sup>

1997 (平成 9) 年 4 月の Lynx<sup>(335)</sup> 2.7.1 は、 **tab** を実装していた。<sup>[Lynx2.7.1]</sup>

Emacs/W3<sup>(106)</sup> は、少なくとも構文解析において **tab** を実装していた。<sup>[E/W3:Parse]</sup>

2009 (平成21) 年 6 月 1 日の『HTML6』<sup>(161)</sup> と称する文書にある。<sup>(162) [DTHTML6]</sup>

2016 (平成28) 年や 2019 (令和元) 年に、タブ<sup>(156)</sup>を表すものとして **tab** が提案されたことがある。<sup>[HTML#1809] [NativeTab]</sup>

HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28  
→ **card**, **cardset**, **switch**, **table**, **tbl**

**tabbox** 2004 (平成16) 年 9 月 23 日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup> に **tabbox** がある。関連する章節をグループ化するもので、 **section** や **fieldset** を使うことができ、タブ<sup>(156)</sup>群として表示できる。<sup>[WA1-20040923]</sup>



2006 (平成18) 年 11 月 14 日、『Web Applications 1.0』から

tabbox, switch が削除された。[HTMLr289]

→ card, cardset, panel, panelset

**table** 1993(平成5)年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup> 

に table, caption, tr, th, td がある。[HTML+19931028]

2005(平成17)年9月1日版  
『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>で、構想が示されていた。<sup>(104)</sup>  
[WA1-20050901]

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第9, 10, 11位が table, td, tr だった。  
[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。  
[HTMLr277] [HTMLr278] [HTMLr280] [HTMLr282] [HTMLr287] [HTMLr288]

現行の要素である。

HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ;  
1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9)

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n  
2001(H13) Table Modules ▶ Basic Tables Module Table Modules ▶ Tables  
Module XHTML Basic 2000(H12) XHTML-Print 2006(H18)

XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Tables Module

HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285), JIS X  
4052(244), LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172), tdf(342), WML1(141)

→ ompe.table, tab, tbl, tt

**tag** 1997(平成9)年4月のWWW6<sup>(107)</sup>で  
displets<sup>(199)</sup>が提案された。tag, attrを使って独自の要素や属性を定義できる。HotJava<sup>(101)</sup>を基に実装実験されていた。  
[DISPLETS1997] 

→ \*, element, entity

**tan** MathML 3.0 Content

**tanh** MathML 3.0 Content

T

**target** 平成9(1997)年9月24日の論文によると、Forsdonnet<sup>(181)</sup>にある。仕様と検証の形式的記述に使う。[\[Forsdonnet1\]](#) [\[Forsdonnet2\]](#)



**tate** 平成13(2001)年時点でのたてがき君<sup>(401)</sup>がtateを使っていた。[\[たてがき君\]](#)



→ [multicol](#)

**tb** 1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にtbがある。vertical break of 1/2 line spacingと説明されている。[\[HTML+19930713\]](#)



1993(平成5)年7月のWWWWWW<sup>(140)</sup>で、tbは不要と判断された。[\[WWWWWWNotesDave\]](#)

[HTML+](#) 1993(H5)/7/13

**tbl** 1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986E.1<sup>(79)</sup>にある。HTMLに直接引き継がれたものではない。[\[ISO8879\]](#)



1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup>DTD<sup>(194)</sup>に、tbl, tt, th, td, trがある。tblは現在のtable, ttは現在のcaptionに相当する。[\[HTML+19930713\]](#)

Webブラウザーが対応するまでの対処と称して『HTML+』表(tbl, tt, th, td, tr)をpreに変換するソフトウェアが公開されている。公開日は不明だが、現在の配布Webサーバー上では1995(平成7)年4月24日付となっている。[\[H+T04\]](#)

[HTML+](#) 1993(H5)/7/13

→ [tab](#)

**tbody** 1995(平成7)年7月7日版HTML3表仕様<sup>(174)</sup>にthead, tbody, tfootがある。CALS表モデ



(401) たてがき君 Webページで縦書き表示するためのJavaScriptライブラリーの1つ。平成12(2000)年開発開始。

ル<sup>(402)</sup>を参考にしたという。[HTMLTables19950707] [RFC1942]

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[HTMLr277] [HTMLr278] [HTMLr280] [HTMLr282] [HTMLr287] [HTMLr288]

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001(H13) Table Modules・Tables Module XHTML 1.1 2001(H13) XHTML 2 2010(H22) XHTML Tables Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), ReSpec(172)

**tbreak** SVG Tiny 1.2

**td** 1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、tbl, tt, th, td, tr がある。tblは現在のtable, ttは現在のcaptionに相当する。[HTML+19930713]

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』にtable, caption, tr, th, td がある。[HTML+19931028]

Web ブラウザーが対応するまでの対処と称して『HTML+』表(tbl, tt, th, td, tr)をpreに変換するソフトウェアが公開されている。公開日は不明だが、現在の配布 Web サーバー上では 1995(平成7)年4月24日付となっている。[H+T04]

2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、要素の利用数第9, 10, 11位がtable, td, trだった。[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけ  
(402) CALS表モデル CALS table model CALS(403)の表の記述方式。[CALSTable1995] thead等や一部の属性がHTMLに影響を与えた。その他は違いが多い。

(403) CALS 米軍の調達等に関するプロジェクトに由来するが、時代とともに対象が拡大、変化している。HTMLの草創期には Computer aided Acquisition and Logistic Support や Continuous Acquisition and Life-cycle Support の略とされていた。マニュアル等の記述のためのSGML応用が開発された。

て、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr277\]](#)  
[\[HTMLr278\]](#) [\[HTMLr280\]](#) [\[HTMLr282\]](#) [\[HTMLr287\]](#) [\[HTMLr288\]](#)

現行の要素である。

[HTML+](#) 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core [HTML 3.0](#)

1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 [HTML 3.2](#) 1997 (H9)

[HTML4](#) 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset [ISO-HTML](#) 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation

[XHTML 1.0](#) 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset [XHTML m12n](#)

2001 (H13) Table Modules → Basic Tables Module Table Modules → Tables  
Module [XHTML Basic](#) 2000 (H12) [XHTML-Print](#) 2006 (H18)

[XHTML 1.1](#) 2001 (H13) [XHTML2](#) 2010 (H22) XHTML Tables Module

[HTML5](#) 2009 (H21) 適合 [HTML Standard](#) 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML<sup>(84)</sup>, DocBook<sup>(129)</sup>, DTBook<sup>(197)</sup>, ENML<sup>(210)</sup>, JepaX<sup>(285)</sup>, JIS X  
4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, ReSpec<sup>(172)</sup>, tdf<sup>(342)</sup>, WML<sup>(141)</sup>

**teaser** 2011 (平成23) 年頃、W3C HTML WG<sup>(312)</sup>

が<sup>3</sup> [HTML.next](#)<sup>(108)</sup>と称して集めた雑多な提案の中にあ  
る。[\[HTML.next\]](#)



**template** 1996 (平成8) 年頃、ResNova 社 の

NovaTerm<sup>(349)</sup>は、[template](#), [part](#) を実装した。

WindowScript<sup>(350)</sup>によって利用者インターフェイスの窓  
を記述するものだった。現在の[template](#), [slot](#)と発想は近いが互  
換性はない。[\[ResNovaTemplates\]](#)

1996 (平成8) 年 6 月 21 日、HTTP キャッシュの制御のため  
[dynamic](#), [template](#), [args](#), [variable](#) が提案された。[\[HTTPDelta\]](#)  
[\[HTTPDeltaOld\]](#)

2010 (平成22) 年 9 月 3 日、『XBL 2.0』<sup>(182)</sup> (HTML版) で  
[template](#) が定義された。[\[XBL2-20100903\]](#) 歴史的には『XBL 2.0』  
(XML<sup>(5)</sup>版)[template](#),『XBL 1.0』[content](#) に遡る。

2011 (平成23) 年 9 月 13 日、『Component Model』<sup>(183)</sup> に  
[template](#) が追加された。[\[CM:Template\]](#)

2012 (平成24) 年 1 月 20 日、『HTML Templates』仕様書が作成さ  
れ、[template](#) が定義された。[\[WC:TemplateElement\]](#)

2013(平成25)年6月28日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に `template` が追加された。『HTML Templates』の成果を取り込んだものである。現行仕様である。[HTMLr7000]

現行の要素である。

HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `datatemplate`, `script`, `shadow`

`tendsto` MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**term** 1995(平成7)年2月9日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に `term` が追加された。明記されていないが `radix`, `radicand` も追加されたと思われる。[HTML3-19950301]



1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』DTDにあら。

1995(平成7)年3月5日、『HTML 3.0』DTDで `term` が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`, `hat`, `tilde`, `t`, `bt` が追加された。`b` も使えるとされている。[HTML3-19950324]

**text** 1995(平成7)年3月28日の『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> 本文に `text` がある。しかし DTD<sup>(194)</sup>にはない。数式中の文章を表す。[HTML3-19950328] 現在の MathML<sup>(311)</sup> `mtext` に当たる。



1995(平成7)年7月3日、Benjamin C. W. Sittler は www-style<sup>(150)</sup> メーリングリストに `text` を提案した。対して Alex Hopmann はかねてからの `c` を提案した。`text` と `c` で議論となり、最終的に `c` が選ばれた。[FontsAlex] [FontsBenjamin]

1997(平成9)年3月2日、Project Xanadu の Andrew Pam は `text` を提案した。平文や HTML 文書の一部または全部を埋め込むものだった。[FineTrans00]

2009(平成21)年時点では HtmLayout<sup>(268)</sup> は、`text` を実装してい

た。文字入力欄を表す。[HtmLayout:log]

2009(平成21)年1月5日、`itext`が提案された。それ以前に`text`として提案されていた。[TimedDivsHTML]現在の`track`に当たる。

HTML 3.0 1995(H7)/3/28

→ `iframe`, `include`, `object`

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

`textArea` SVG Tiny 1.2

**textarea** 1993(平成5)年10月28日版『HTML

+』<sup>(72)</sup>に、`form`, `mh`, `input`, `textarea`, `select`, `option`がある。[HTML+19931028]



1993(平成5)年11月10日頃公開されたNCSA Mosaic 2.0は、`form`, `input`, `select`, `option`, `textarea`を実装していた。現行仕様である。これより前のprerelease版から実装されていた。`isindex`は`form`をエミュレートする形で再実装された。[MOSAIC20:Form]

1994(平成6)年4月7日、HTML DTDに`form`, `input`, `select`, `option`, `textarea`が追加された。[HTML19940407]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈に構想が追加された。[HTMLr358]

2008(平成20)年9月4日、『HTML5』に`textarea`が追加された。[HTMLr2153]

2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>はXForms<sup>(123)</sup>の要素がHTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。同名のHTML要素と互換性はない。

現行の要素である。

T HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 2 Strict HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5  
Core HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9)  
HTML 2.X 1997(H9)/1 HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation  
XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Forms Modules ・ Basic Forms Module Forms  
Modules ・ Forms Module XHTML\_Basic 2000 (H12)  
XHTML-Print 2006 (H18) XHTML\_1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22)  
XForms Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文  
解析器 / Special  
借用先 BML(84)

→ `htmlarea, plaintext, richtext, xmlarea`

**textflow** 1996 (平成8) 年 5月6日版 『HTML  
3.2』<sup>(127)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、 **textflow** が あ  
る。[HTML32-19960506] 混合内容問題<sup>(404)</sup>回避のためのもの  
である。『HTML 3.2』のその後の原案や Cougar<sup>(226)</sup>にも引き継がれ  
たが、『HTML 3.2』の最終版や『HTML 4.0』は採用しなかつ  
た。  
[SW:textflow]



Internet Explorer<sup>(281)</sup>用 DTD として公開されたものが  
**textflow** を含んだ時期の『HTML 3.2』DTD から派生したものだっ  
たため、 **textflow** を含んでいた。おそらくこれが原因で、  
**textflow** が Internet Explorer の独自の要素と紹介されることが  
あった。しかし、 Internet Explorer 自体が **textflow** を実装した  
ことはなかったと思われる。  
[SW:textflow]

→ `bodytext, figtext`

**textPath** SVG 1.1, 2.0, HTML構文解析器

**tfoot** 1995 (平成7) 年 7月7日版 HTML3 表仕  
様<sup>(174)</sup>に **thead**, **tbody**, **tfoot** がある。CALS 表モデ  
ル<sup>(402)</sup>を参考にしたという。  
[HTMLTables19950707] [RFC1942]



2006 (平成18) 年 11月10日から 2006 (平成18) 年 11月21日にかけ  
て、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。  
[HTMLR277] [HTMLR278] [HTMLR280] [HTMLR282] [HTMLR287] [HTMLR288]

---

(404) 混合内容問題 SGML<sup>(78)</sup>では特定の要素（群）の後に文字データや要素  
が任意個続く構造を扱い難い。そのままの内容モデル<sup>(88)</sup>を記述すると、初めの  
要素の前に整形のための空白を挿入できなくなる。空白が後続の文字データの一部  
分とみなされるためである。この問題を回避するため **body**, **bodytext**,  
**figtext**, **embed**.**body**, **textflow** といったダミーの要素が作られた。

現行の要素である。

HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Table Modules • Tables Module XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Tables Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), ReSpec(172)

**th** 1993 (平成5) 年 7月 13日 版 『HTML+』<sup>(72)</sup>   
DTD<sup>(194)</sup>に、tbl, tt, th, td, tr がある。tblは現在のtable, ttは現在のcaptionに相当する。<sup>[HTML+19930713]</sup> 

1993 (平成5) 年 10月 28日 版『HTML+』にtable, caption, tr, th, td がある。<sup>[HTML+19931028]</sup>

Web ブラウザーが対応するまでの対処と称して『HTML+』表 (tbl, tt, th, td, tr) をpreに変換するソフトウェアが公開されている。公開日は不明だが、現在の配布 Web サーバー上では 1995 (平成7) 年 4月 24日付となっている。<sup>[H+T04]</sup>

2006 (平成18) 年 11月 10日から 2006 (平成18) 年 11月 21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。<sup>[HTMLr277]</sup> [HTMLr278] [HTMLr280] [HTMLr282] [HTMLr287] [HTMLr288]

現行の要素である。

HTML+ 1993 (H5)/7/13 ; 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5 Core HTML 3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML 3.2 1997 (H9) HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997 (H9) ; 2000 (H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML\_m12n 2001 (H13) Table Modules • Basic Tables Module Table Modules • Tables Module XHTML\_Basic 2000 (H12) XHTML-Print 2006 (H18) XHTML 1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Tables Module HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285), JIS X 4052(244), LeXML(296), ReSpec(172), tdf(342)

**thead** 1995 (平成7) 年 7月 7日 版 HTML3 表仕様<sup>(174)</sup>にthead, tbody, tfoot がある。CALS表モデル<sup>(402)</sup>を参考にしたという。<sup>[HTMLTables19950707]</sup> <sup>[RFC1942]</sup> 

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。[\[HTMLr277\]](#) [\[HTMLr278\]](#) [\[HTMLr280\]](#) [\[HTMLr282\]](#) [\[HTMLr287\]](#) [\[HTMLr288\]](#)

現行の要素である。

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 2000(H12) 標準 / Preparation XHTML 1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTML m12n 2001(H13) Table Modules • Tables Module XHTML 1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22) XHTML Tables Module HTML5 2009(H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special 借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), NITF(340), ReSpec(172)

**thead\*** thead の後に整数を書いて要素名とする。  
実際に thead\* を要素名とするものではない。

2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文書は、thead1, thead2, thead3, tside1, tside2, tside3などと使えるとしている。<sup>(405)</sup> [DTHTML6]

**thing** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]

**tilde** 1995 (平成7) 年 3 月 5 日、  
『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>で term が廃止され、vec,  
bar, dot, ddot, hat, tilde, t, bt が追加された。b も  
使えるとされている。[HTML3-19950324]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において math と数式用各要素を実装していた。

HTML 3.0 1995(H7)/3/24; 1995(H7)/3/28

(405) 『HTML6』<sup>(161)</sup>は、Dmitry Turinにより2007(平成19)年から2009(平成21)年に開発されていた文書。[DTHTML6] HTML5<sup>(191)</sup>を議論しているグループに、まったく方向性の違う独自の仕様書を次の版だと称して提出して、如何なる成果が得られると考えていたのか疑問ではあるが、関連する各メーリングリストに頻繁にメールで意見を提出しているから、冗談の類<sup>(161)</sup>ではなく提案者にとっては重要なことだったのだろう。他にSQL5, Unicode7, Computer 2.0といったものが提案されている。[SW:DTHTML6] なお『HTML6』を称する提案は他にもあった。



**title** 2024（令和6）年時点で MapML<sup>(309)</sup>にあ  
る。[MAPML]



**tiltle** 平成16（2004）年3月13日時点で、  
**title**を**tiltle**と誤ったHTML文書や解説がしばし  
ば見られた。日本語圏を含む非英語圏で報告があ  
る。[SW:tiltle]



**time** 1995（平成7）年8月15日版 HTML 2.x<sup>(122)</sup>  
に、**date**, **time**がある。日付と時刻を表す。[HTML2x-00]



2004（平成16）年9月23日版  
『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、**date**, **time**の構想が示されてい  
た。[WA1-20041208]

2004（平成16）年12月10日版『Web Forms 2.0』<sup>(190)</sup>の文書ソース  
注釈に、将来構想として**date**, **time**, **number**がある。<sup>(195)</sup>整形表示  
に用いる想定だった。[WF2-20041210]

平成18（2006）年2月24日時点の『Web Applications 1.0』文書  
ソース注釈内の作業予定に、**t**がある。<sup>(196)</sup> [SW:WA1]

2006（平成18）年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>の**t**は**time**に改称  
された。[HTMLr359]

2011（平成23）年10月29日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>の**time**は削  
除され、**data**が追加された。<sup>(189)</sup>現行仕様である。[HTMLr6783]

2011（平成23）年11月18日、『HTML Standard』に**time**が追加  
された。現行仕様である。旧**time**とは違いも多い。[HTMLr6827]

現行の要素である。

HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / Ordinary  
→ abbr, year

**times** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**title** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986(昭和61)年10月23日のISO 8879:1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。[SGMLguid]

1990(平成2)年8月20日頃に作られたと思われるHTML例文にa(`href`属性), p, titleがある。[SW:HTML1991]

1990(平成2)年12月7日付のHTMLファイルでtitleが使われている。[SW:HTML1991]

2005(平成17)年9月1日版『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>にある。<sup>(104)</sup> [WA1-20050901]

2005(平成17)年12月のGoogle検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、当時のWebサイトのほとんどがhtml, head, body, titleのタグを使っていた。[WAStats:P&E]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6

HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict

HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML3.0

1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML3.2 1997(H9) HTML2.x 1997(H9)/1

HTML4 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset ISO-HTML 1997(H9) ; 2000(H12) 標準 / Preparation

XHTML1.0 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n

2001(H13) Core Modules • Structure Module 必須 XHTMLBasic 2000(H12)

XHTML-Print 2006(H18) XHTML1.1 2001(H13) XHTML2 2010(H22)

XHTML Document Module HTML5 2009(H21) 適合 HTMLStandard 適合 / HTML構文解析器 / Special

借用先 BML(84), CMML(116), DjVu XML(251), DNML(406), DTBook(197), NITF(340), ROE XML(254), SVG(400), TNF(398)

→ title

SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

T

---

(406) DNML Digital Novel Markup Language。ノベルゲーム記述用の言語の一つ。HTML風の構文を持つ。[DNML]

**title\_bar** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `local_setting` やその子要素各種がある。[交FF報]



**toast** 2019 (令和元) 年時点の調査によると `toast`, `toasts` が使われた Web ページが一定数あった。[ALMANAC2019:Markup]



→ std-toast

**toasts** 2019 (令和元) 年時点の調査によると `toast`, `toasts` が使われた Web ページが一定数あった。[ALMANAC2019:Markup]



→ std-toast

**toggle** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010 (H22)

**top\_prohibit\_**  
**char** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `local_setting` やその子要素各種がある。[交FF報]



**tr** 1993 (平成5) 年 7 月 13 日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、`tbl`, `tt`, `th`, `td`, `tr` がある。`tbl` は現在の `table`, `tt` は現在の `caption` に相当する。[HTML+19930713]



1993 (平成5) 年 10 月 28 日版『HTML+』に `table`, `caption`, `tr`, `th`, `td` がある。[HTML+19931028]

Web ブラウザが対応するまでの対処と称して『HTML+』表 (`tbl`, `tt`, `th`, `td`, `tr`) を `pre` に変換するソフトウェアが公開されている。公開日は不明だが、現在の配布 Web サーバー上では 1995 (平成7) 年 4 月 24 日付となっている。[H+T04]

2005 (平成17) 年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調

査によると、要素の利用数第 9, 10, 11 位が `table`, `td`, `tr` だった。  
[WAStats:P&E]

2006(平成18)年11月10日から2006(平成18)年11月21日にかけて、『HTML5』<sup>(191)</sup>に表が追加された。現行仕様である。  
[HTMLr277] [HTMLr278] [HTMLr280] [HTMLr282] [HTMLr287] [HTMLr288]

現行の要素である。

**HTML+** 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core **HTML 3.0**  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 **HTML 3.2** 1997(H9)

**HTML4** 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset **ISO-HTML** 1997(H9) ;  
2000(H12) 標準 / Preparation

**XHTML 1.0** 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset **XHTML m12n**  
2001(H13) Table Modules → Basic Tables Module Table Modules → Tables  
Module **XHTML Basic** 2000(H12) **XHTML Print** 2006(H18)

**XHTML 1.1** 2001(H13) **XHTML2** 2010(H22) XHTML Tables Module

**HTML5** 2009(H21) 適合 **HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special  
借用先 BML(84), DocBook(129), DTBook(197), ENML(210), JepaX(285), JIS X  
4052(244), LeXML(296), OOXML, ReSpec(172), tdf(342), WML1(141)

**track** 2010(平成22)年5月3日、『HTML5』<sup>(191)</sup>  
に `track` が追加された。現行仕様である。  
[HTMLr5067]



現行の要素である。

**HTML Standard** 適合 / HTML構文解析器 / Special  
→ `itext`, `text`

**transpose** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**tref** SVG 1.1

**trigger** 2009(平成21)年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>は  
XForms<sup>(123)</sup>の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup>で利用できると  
した。



**XHTML2** 2010(H22) XForms Module

**true** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**tside\*** `tside` の後に整数を書いて要素名とする。  
実際に `tside*` を要素名とするものではない。



2009(平成21)年6月1日の『HTML6』<sup>(161)</sup>と称する文  
書は、`thead1`, `thead2`, `thead3`, `tside1`, `tside2`, `tside3` など

T

と使えるとしている。<sup>(405)</sup> [DTHTML6]

**tspan** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**tt** 1992(平成4)年3月の<sup>(232)</sup> L<sup>E</sup>T<sub>E</sub>X 2.09に\em,  
\ttがある。<sup>[LATEX209]</sup>



1992(平成4)年11月19日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>は  
www-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、hp1, hp2, hp3, hp4, hp5に代わる新要素群の案を提示した。<sup>[DTDIssuesDan]</sup>後にem, tt, citeなどが追加されhp1などは廃止された。

1993(平成5)年1月6日、HTMLにcode, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, uが追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup>  
[HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993(平成5)年7月13日版『HTML+』<sup>(72)</sup> DTD<sup>(194)</sup>に、tbl, tt, th, td, trがある。tblは現在のtable, ttは現在のcaptionに相当する。<sup>[HTML+19930713]</sup>

1993(平成5)年10月28日版『HTML+』にある。<sup>[HTML+19931028]</sup>

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTDにある。<sup>[HTML3-19950301]</sup>

Webブラウザが対応するまでの対処と称して『HTML+』表(tbl, tt, th, td, tr)をpreに変換するソフトウェアが公開されている。公開日は不明だが、現在の配布Webサーバー上では1995(平成7)年4月24日付となっている。<sup>[H+T04]</sup>

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。<sup>[HTMLr358]</sup>

**HTML** 1993(H5)/1/6 **HTML1** 1993(H5)/6 Extra

**HTML2.0** 1995(H7)/11 Level 1 / Strict **HTML+** 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core **HTML3.0** 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28

**HTML3.2** 1997(H9) **HTML2.x** 1997(H9)/1

**HTML4** 1997(H9) Strict / Transitional / Frameset **ISO-HTML** 2000(H12) 標準 / Preparation **XHTML1.0** 2000(H12) Strict / Transitional / Frameset

XHTML\_m12n 2001 (H13) Text Extension Modules → Presentation Module  
→ XHTML Inline Presentational Module XHTML\_Print 2006 (H18)  
XHTML\_1.1 2001 (H13) HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文  
解析器 / Formatting  
借用先 BML(84), ENML(210)

**tts** 2011 (平成23) 年 12 月 6 日の W3C<sup>(185)</sup> HTML Speech Incubator Group<sup>(373)</sup> 報告に **tts** がある。  
**audio** と同様のものであるが、音声合成した音声を表すものだった。2011 (平成23) 年 2 月 28 日の Microsoft からの提案に由来する。[SpeechAPI] [SpeechXGReport]

平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に、  
**tts** がある。発音の区切りを表す。[交フォ報]

→ reco

**typewriter** 1992 (平成4) 年 11 月 30 日、  
HTML の仕様書と DTD<sup>(194)</sup>に、**typewriter** が追加された。  
[HTML19921130] [HTML19921130:Complete] **pre** 案をもとに nroff<sup>(359)</sup> のドキュメントを参考に要素名を決めたという。  
[HTML19921130]

1992 (平成4) 年 12 月 4 日、HTML の仕様書と DTD の  
**typewriter** は、**pre** に改称された。[HTML19921204:Dan]

→ fixed

**u** 1993 (平成5) 年 1 月 6 日、HTML に **code**, **samp**,  
**kbd**, **key**, **dfn**, **var**, **cite**, **em**, **tt**, **strong**, **b**, **i**, **u** が追加された。  
<sup>(113)</sup> GNU Texinfo<sup>(169)</sup>に着想を得たものと説明されている。  
[HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993 (平成5) 年 10 月 28 日 版 『HTML+』<sup>(72)</sup> にある。  
[HTML+19931028]

1994 (平成6) 年 5 月 17 日、HTML DTD は、**u** はハイパーリンクの下線と衝突するため広く対応されていないとして任意選択に格下げした。  
[HTML19940517]

T

1995(平成7)年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup> DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19950301]

2006(平成18)年11月23日、『HTML5』<sup>(191)</sup>文書ソース注釈で、廃止と明記された。  
[HTMLr358]

2011(平成23)年4月13日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に u が追加された。新たな意味で再定義された。  
[HTMLr6004]

現行の要素である。

HTML 1993(H5)/1/6 HTML1 1993(H5)/6 Extra  
HTML 2.0 1995(H7)/11 言及のみ HTML+ 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5  
Core HTML 3.0 1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9)  
HTML4 1997(H9) Transitional / Frameset  
XHTML 1.0 2000(H12) Transitional / Frameset XHTML m12n 2001(H13)  
Legacy Module 非推奨 HTML5 2009(H21) 廃止 HTML Standard 適合 /  
HTML構文解析器 / Formatting  
借用先 ENML<sup>(210)</sup>, JIS X 4052<sup>(244)</sup>, LeXML<sup>(296)</sup>, WebVTT<sup>(277)</sup>, WML1<sup>(141)</sup>

**ul** 1985(昭和60)年3月のIBMのGML<sup>(77)</sup>実装の標準 QRコード  
のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前からGMLで使 QRコード  
われていたと思われる。  
[DCFGML3e]

1986(昭和61)年10月23日のISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup>にある。  
[ISO8879]

1986(昭和61)年10月27日のCERN SGMLguid<sup>(80)</sup>にある。  
[SGMLguid]

1990(平成2)年12月4日付ファイルに ol, li があるのが現存最古の用例である。また、1990(平成2)年12月7日付ファイルに ul があるのが現存最古の用例で、ol と混在しているが、翌年以後 ol は使われなくなる。  
[SW:HTML1991]

2005(平成17)年4月11日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に ul, ol が追加された。現行仕様である。  
[SW:WA1]

現行の要素である。

HTML 1992(H4)/1/9 ; 1992(H4)/7/15 ; 1993(H5)/1/6  
HTML1 1993(H5)/6 Mainstream HTML 2.0 1995(H7)/11 Level 1 / Strict  
HTML+ 1993(H5)/7/13 ; 1993(H5)/11/8 ; 1994(H6)/4/5 Core HTML 3.0  
1995(H7)/3/24 ; 1995(H7)/3/28 HTML 3.2 1997(H9) HTML 2.x 1997(H9)/1

**HTML4** 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset **ISO-HTML** 1997 (H9) ;  
2000 (H12) 標準 / Preparation

**XHTML 1.0** 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset **XHTML\_m12n**  
2001 (H13) Core Modules → List Module 必須 **XHTML Basic** 2000 (H12)

**XHTML-Print** 2006 (H18) **XHTML 1.1** 2001 (H13) **XHTML2** 2010 (H22)

XHTML List Module **HTML5** 2009 (H21) 適合 **HTML Standard** 適合 / HTML  
構文解析器 / Special

借用先 BML(84), ENML(210), hnf(237), JepaX(285), JIS X 4052(244),  
LeXML(296), NITF(340), ReSpec(172), tdf(342), XMLspec(173)

→ dir, menu

**union** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**unknown** Internet Explorer<sup>(281)</sup> は CSS の選択  
子<sup>(36)</sup> 中の要素名が既知の HTML 要素でないとき  
UNKNOWN に読み替えて保持していた。HTML ファイルを



保存すると、UNKNOWN になった状態の CSS が出力された。  
[SW:unknown]

→ \*, /\*

**up** 2009 (平成21) 年 6 月 1 日の『HTML6』<sup>(161)</sup> と称す  
る文書にある。<sup>(162)</sup> [DTHTML6]



**upgrade** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup> にある。[HTMLasPL]



**uplimit** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**upload** 2009 (平成21) 年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup> は  
XForms<sup>(123)</sup> の要素が HTML 名前空間<sup>(166)</sup> で利用できると  
した。



**XHTML2** 2010 (H22) XForms Module

**url** 1994 (平成6) 年 4 月 7 日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>  
は HTML の標準化<sup>(327)</sup> に向けた論点整理で、候補案の 1  
つに HyTime を活用し url, nameloc を使ったハイパー  
リンクの記述法を挙げた。[TowardClosure]



→ a

**urlloc** 1994（平成6）年4月25日、Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの1つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]



→ a

**use** SVG 1.1, Tiny 1.2, 2.0

**v** 2021（令和3）年4月6日のHTMLLang<sup>(128)</sup>にある。[HTMLLang]



**val** 2021（令和3）年のhtml-lang<sup>(278)</sup>にある。[HtmlLang]



**validator** 2019（令和元）年時点でApple Inc.のWebサイトで用いられていた。ページ内のJavaScriptによって挿入され、利用されるものだった。[BuyAirPods]



**value** 2009（平成21）年、『XHTML 2.0』<sup>(184)</sup>はXForms<sup>(123)</sup>の要素がHTML名前空間<sup>(166)</sup>で利用できるとした。



XHTML2 2010(H22)

**var** 1988（昭和63）年5月時点でGNU Texinfo<sup>(169)</sup>に@code, @samp, @kbd, @key, @file, @dfn, @var, @cite, @emph, @strong, @b, @iがある。[TEXINFO11]



1992（平成4）年11月27日、NJIT<sup>(407)</sup>のJim Whitescarverはwww-talk<sup>(135)</sup>への投稿で、varの実装意向を示した。キャッシュ制御のため可変部分を示すものだった。[InteractiveHyper]

1993（平成5）年1月6日、HTMLにcode, samp, kbd, key, dfn, var, cite, em, tt, strong, b, i, uが追加された。<sup>(113)</sup> GNU Texinfoに着想を得たものと説明されている。<sup>(114)</sup> [HTML19930106:Dan] [SW:語句化内容]

1993（平成5）年10月28日版『HTML+』<sup>(72)</sup>にある。  
[HTML+19931028]

1995（平成7）年3月1日版『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>DTD<sup>(194)</sup>にある。  
[HTML3-19950301]

2005（平成17）年4月13日、『Web Applications 1.0』<sup>(157)</sup>に、  
`code`, `var`, `samp`, `kbd`, `sup`, `sub`が追加された。現行仕様である。  
[SW:WA1]

2018（平成30）年のHTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。  
[HTMLasPL]

現行の要素である。

HTML 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Extra  
HTML2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Strict HTML+ 1993 (H5)/11/8 ; 1994 (H6)/4/5  
Core HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28 HTML3.2 1997 (H9)  
HTML2.x 1997 (H9)/1 HTML4 1997 (H9) Strict / Transitional / Frameset  
ISO-HTML 2000 (H12) 標準 / Preparation  
XHTML1.0 2000 (H12) Strict / Transitional / Frameset XHTMLm12n  
2001 (H13) Core Modules → Text Module 必須 → XHTML Inline Phrasal  
Module XHTMLBasic 2000 (H12) XHTMLPrint 2006 (H18)  
XHTML1.1 2001 (H13) XHTML2 2010 (H22) XHTML Text Module  
HTML5 2009 (H21) 適合 HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Ordinary  
借用先 BML(84), ENML(210), XMLspec(173)  
→ `input`, `output`, `variable`

**variable** 1996（平成8）年6月21日、HTTP  
キャッシュの制御のため `dynamic`, `template`, `args`,  
`variable`が提案された。  
[HTTPDelta] [HTTPDeltaOld]



→ `var`

**variance** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**variant** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交  
換フォーマット<sup>(200)</sup>は、辞書記述関係の要素を定義してい  
る。  
[交フォ報]



**vec** 1995（平成7）年3月5日、『HTML 3.0』<sup>(105)</sup>  
DTD<sup>(194)</sup>で `term`が廃止され、`vec`, `bar`, `dot`, `ddot`,



`hat`, `tilde`, `t`, `bt` が追加された。 `b` も使えるとされている。  
[HTML3-19950324]

Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、少なくとも構文解析において `math` と数式用各要素を実装していた。

HTML3.0 1995 (H7)/3/24 ; 1995 (H7)/3/28

**vector** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**vectorproduct** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

**verbatim** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにおける別名例にある。  
[POSTHTML:EXP]



**video** 1995 (平成7) 年頃、 Vosaic<sup>(408)</sup>は、 `audio`, `video` を実装した。 1995 (平成7) 年 12 月 13 日の WWW4<sup>(109)</sup>で発表された。 [VOSAIC] 現行仕様とは異なる。



2007 (平成19) 年 2 月 28 日、 Opera<sup>(409)</sup>は社内の実験実装に基づき `video` 仕様案を WHATWG<sup>(414)</sup>に提案した。 [VideoProposal]

---

(408) Vosaic NCSA Mosaic<sup>(120)</sup>に動画や音声の再生機能を追加した Web ブラウザー。 [VOSAIC]

(409) Opera Opera Software<sup>(410)</sup> の Web ブラウザー。 Internet Explorer<sup>(281)</sup>と Mozilla<sup>(177)</sup>の勢力が圧倒的だった時代に、 第3の Web ブラウザーとして存在感を示した。レンダリングエンジン<sup>(179)</sup>は Presto<sup>(411)</sup>だったが、後に WebKit<sup>(155)</sup>に移行した。 Opera と Presto はデスクトップブラウザー<sup>(412)</sup>として使われた他に組み込み分野で採用事例が多く、ガラケー<sup>(63)</sup>のフルブラウザ<sup>(413)</sup>や任天堂ゲーム機の Web ブラウザーが有名だった。

(410) Opera Software Opera<sup>(409)</sup>を開発していた企業。 Web 標準化に貢献した技術者らが多く在籍していた。

(411) Presto Opera<sup>(409)</sup>のレンダリングエンジン<sup>(179)</sup>。

(412) デスクトップブラウザー desktop browser フィーチャーフォン<sup>(64)</sup>やスマートフォンの Web ブラウザーとの対比で、 PC 用の伝統的な Web ブラウザーのこと。

(413) フルブラウザ ガラケー<sup>(63)</sup>の Web ブラウザーの種別の1つ。ガラケー用の Web サイトに特化した標準の Web ブラウザーに対し、一般的な Web サイトの閲覧に対応した Web ブラウザー。 NTT ドコモがフルブラウザ、 au<sup>(249)</sup>が PC サイトビューアーなどと称していた。

(414) WHATWG HTML を含む Web 技術の標準化団体の1つ。 2004 (平成16) 年設立。秘密主義で官僚的な W3C<sup>(185)</sup>の標準化手続きの反省から、技術的な議論はすべて公開とされ、 HTML5<sup>(191)</sup>時代には形式的な手続きも排除されていた。現在は主要 Web ブラウザー事業者らを中心に法的手続きや合意形成手順が整備されている。

2007(平成19)年3月9日、『HTML5』<sup>(191)</sup>は `video` を追加した。  
現行仕様である。[HTMLr674]

2007(平成19)年3月21日、Appleは `video`, `audio` の仕様案を  
WHATWGに提案した。[AppleTimed]

現行の要素である。

HTML5 2009(H21)適合 HTML Standard 適合 / Ordinary  
借用先 LeXML(296)

→ `include`

`SVG` Tiny 1.2

`view` `SVG` 1.1, 2.0

`vkern` `SVG` 1.1

**vspec** 1995(平成7)年7月7日版 HTML3 表仕  
様<sup>(174)</sup>に `hspec`, `vspec` がある。こまの揃え位置を指定す  
る。[HTMLTables19950707] 以後の版にはない。現在は CSS  
で記述できる。



**w3br** 1994(平成6)年時点の Emacs/W3<sup>(106)</sup>が `br`  
の実装のため `x`, `w3br` の開始タグのような文字列を使って  
いた。内部処理の便宜のための専用のタグ<sup>(20)</sup>と思われる  
が、与えられた HTML 文書にこれらのタグが含まれても同じように  
動作しそうに見える。[E/W3-2.1p46]



**warning** 1996(平成8)年9月3日付の Jon  
Bosak<sup>(415)</sup>の DSSSL<sup>(269)</sup>による HTML スタイルシート例  
文解説に、要素の追加例として `warning` があ



(415) Jon Bosak Sun Microsystems 社員で、W3C SGML ERB<sup>(416)</sup>(議長)、  
ISO/IEC JTC 1/SC 18/WG 8<sup>(417)</sup>などに参加した。

(416) W3C SGML ERB SGML Editorial Review Board。 XML<sup>(5)</sup>を開発した  
W3C<sup>(185)</sup>の下部組織。

(417) ISO/IEC JTC 1/SC 18/WG 8 SGML<sup>(78)</sup>および関連規格を担当する ISO/  
IEC<sup>(418)</sup>の委員会。後に ISO/IEC JTC 1/WG 4 を経て ISO/IEC JTC 1/SC 34<sup>(208)</sup>  
に発展した。

(418) ISO/IEC 標準化団体の ISO と IEC は、情報系の分野で ISO/IEC JTC 1  
として一体化して活動している。

る。[BosakHTML]

→ aside, note

**wbr** 1995（平成7）年頃の Netscape Navigator 1 は、 `nobr`, `wbr` を実装した。<sup>[NNExts]</sup> 1994（平成6）年10月14日 時点で既に実装・公開済みだったと推測される。

2010（平成22）年4月2日、『HTML Standard』<sup>(7)</sup>に `wbr` が追加された。処理の規定はこれ以前から存在したが、初めて著者<sup>(52)</sup>の利用が適合することになった。<sup>[HTML4956]</sup>

現行の要素である。

HTML 3.0 1995 (H7)/3/28 言及のみ HTML Standard 適合 / HTML構文解析器 / Special

→ wrap

**web-message** 1994（平成6）年4月25日付の Dan Connolly<sup>(170)</sup>が HTML と MIME の統合方針を検討していたメモ<sup>(419)</sup>の例文で、`web-message` が `html` に相当する文書要素<sup>(202)</sup>として使われている。<sup>[NOTES11]</sup> 

→ web-node

**web-node** 1992（平成4）年6月24日の Dan Connolly<sup>(170)</sup>の `www-talk`<sup>(135)</sup>への投稿の DTD<sup>(194)</sup>に、`web-node` がある。<sup>[LinksRangeDan]</sup> `html` に相当する文書要素<sup>(202)</sup>として使う。<sup>(420)(334)</sup> 

→ web-message

**webview** 2012（平成24）年8月2日、Google は `browser` を `webview` と改称することを提案し、Mozilla<sup>(177)</sup>も同意した。その後 Chrome アプリ<sup>(87)</sup>の実装 

(419) 2023(令和5)年に Dan Connolly<sup>(170)</sup>が公開した `develop.tar.gz` 内の `web/drafts/notes.txt` (1994(平成6)年4月26日付)。<sup>[HTML2RCS]</sup>

(420) 当時の HTML には文書要素<sup>(202)</sup>に当たるもののがなく、DTD<sup>(194)</sup>にのみ出現する形式的なものだった。HTML 以前の SGML<sup>(78)</sup>文書型で、`html` のように文書要素名をマーク付け言語<sup>(186)</sup>の名前とする方式は、必ずしも一般的とはいえない。

は `webview` に改められ、一般に利用可能となった。[Moz738172]

2016（平成28）年時点で Electron<sup>(144)</sup> は `webview`, `browserplugin` を実装していた。内部的にのみ使われる想定と思われる `browserplugin` が Chromium<sup>(85)</sup> の `webview` にほぼ相当し、`webview` はそれを使って実装されていた。[Electron:WV.js]

→ `appview`, `iframe`

**when** 2021（令和3）年4月6日の `HTMLLang`<sup>(128)</sup> にある。[HTMLLang]



`PostHTML`<sup>(365)</sup> が HTML と称するものにある。[POSTHTML:EXP]

**widget** 2003（平成15）年時点で `HtmLayout`<sup>(268)</sup> は、`input`, `widget` を実装していた。アプリケーション依存の入力コントロールの配置用で、`input` は行内要素、`widget` はブロック水準要素として機能した。[HtmLayoutML]



**window** 平成23（2011）年3月31日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に `local_setting` やその子要素各種がある。[交フォ報]



**wired** 1994（平成6）年10月19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup> は USENET<sup>(421)</sup> に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup> にない10個のHTML拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth` と挙げ、最後に `blink` という落ちだった。[TopTenHTML]



`Emacs/W3`<sup>(106)</sup> は、Laura Lemay の提示した、`wired`, `roach`, `kill_sgml`, `pinhead`, `secret`, `hype`, `peek`, `poke`, `yogsothoth`, (421) USENET 20世紀に広く使われていた掲示板システム。UUCP や NNTP を使い、ニュースグループと呼ばれる会議室に投稿された USENET メッセージ(422)を転送する。(422) USENETメッセージ USENET(421)で使われていたメッセージ形式。RFC 822 メッセージに独自の追加と制限を加えたもの。

**blink** を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。  
[E/W3:Supported]

**work** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup> で書名に使われている。  
[SW:pg\*]



→ cite, series

**wrap** HTML TADS<sup>(387)</sup> に wrap がある。行折返しの  
方法を指定する。  
[HTMLTADS:WW]



→ nobr, wbr

**writing\_mode** 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日版電子書籍交換フォーマット<sup>(200)</sup>に local\_setting やその子要素各種がある。  
[交フォ報]



**x** 1994 (平成 6) 年時点の Emacs/W3<sup>(106)</sup> が br の実装のため x, w3br の開始タグのような文字列を使っていた。内部処理の便宜のための専用のタグ<sup>(20)</sup>と思われるが、与えられた HTML 文書にこれらのタグが含まれても同じように動作しそうに見える。  
[E/W3-2.1p46]



2006 (平成18) 年 10 月 26 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> の i は x に改称された。  
[HTMLR208]

2006 (平成18) 年 11 月 23 日、『HTML5』の x は t に改称された。  
[HTMLR360]

**x-\*** 2011 (平成23) 年 11 月 19 日、『Component Model』<sup>(183)</sup> の仕様案説明書にカスタム要素<sup>(51)</sup>の要素名について追加された。 x-<sup>(423)</sup> から始まることとされていた。  
[CM:AddedExplainer]



2012 (平成24) 年 5 月 17 日、『Custom DOM Elements』<sup>(424)</sup> は、

(423) RFC 822 メッセージのヘッダーや MIME 型など、非標準の名称を x- から始める慣習があった。  
[RFC6648] [SW:x-]

(424) 『Custom DOM Elements』 Web Components(53)の仕様書の 1 つ。後に『Custom Elements』に改称された。

カスタム DOM 要素<sup>(425)</sup>の要素名は `x-` から始まるものと定めた。<sup>(426)</sup> [WC:Polished]

2013(平成25)年1月17日、『Custom Elements』は、カスタム要素の要素名を`-`を含むものと緩和した。[WC:NameDef]

→ \*-\*

### **x-claris-remotesave** Claris Home

Page<sup>(427)</sup>が実装していた。編集時の状態を記録するものと思われるが、詳しい情報は見当たらない。かつては多くの Web サイトで利用されており、現在も多く残る。[SW:x-claris-\*]



### **x-claris-tagview** Claris Home Page<sup>(427)</sup>

が実装していた。編集時の状態を記録するものと思われるが、詳しい情報は見当たらない。かつては多くの Web サイトで利用されており、現在も多く残る。[SW:x-claris-\*]



2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、`x-claris-window`, `x-claris-tagview`, `x-sas-window`などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]

### **x-claris-window** Claris Home Page<sup>(427)</sup>

が実装していた。編集時の状態を記録するものと思われるが、詳しい情報は見当たらない。かつては多くの Web サイトで利用されており、現在も多く残る。[SW:x-claris-\*]



2005(平成17)年12月の Google 検索<sup>(66)</sup>のデータベースを使った調査によると、`x-claris-window`, `x-claris-tagview`, `x-sas-window`などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]

---

(425) カスタムDOM要素 custom DOM element 後のカスタム要素(51)。

(426) カスタム DOM 要素(425)自体はこれ以前から定義されていたが、カスタム要素名の条件は未規定だった。

(427) Claris Home Page 平成時代の前半頃に使われていた HTML 編集ソフトウェアの1つ。

**x-meta** 平成 15（2003）年 1 月 6 日時点で、**x-meta** がしばしば使われていた。**meta** を無効化するため **x-** を挿入したものと推測されている。[SW:x-meta]



**x-ms-webview** Windows 8.1 の **WebView** は **x-ms-webview** を実装した。入れ子の **WebView**<sup>(428)</sup>を表す。[MSDN:xmswebview] [NEWWEBVIEW81]



→ **iframe**

**x-sas-remotesave** Claris Home Page<sup>(427)</sup> が実装していた。編集時の状態を記録するものと思われるが、詳しい情報は見当たらない。かつては多くの Web サイトで利用されており、現在も多く残る。[SW:x-claris-\*]



**x-sas-window** 2005（平成17）年 12 月の Google 検索<sup>(66)</sup> のデータベースを使った調査によると、**x-claris-window**, **x-claris-tagview**, **x-sas-window** などは多くの Web ページで使われていた。[WAStats:Editors]



**xml** 1997（平成9）年 3 月 9 日、 Microsoft Corporation は **xml** を提案した。HTML 文書中に XML 文書を埋め込む。[XMLsubmit]



1998（平成10）年頃の Internet Explore 5 は、 **xml** を実装した。W3C<sup>(185)</sup> Hypertext Coordination Group<sup>(429)</sup>の合意に基づくものという。[MSDN:XMLDI] 一般には Internet Explorer<sup>(281)</sup>の独自拡張と理解された。広く普及はしなかったものの、一部の Web アプリケーション<sup>(146)</sup>などが使っていた。

1998（平成10）年 2 月 11 日から 1998（平成10）年 2 月 12 日に開催さ

(428) **WebView** EdgeHTML(357)のアプリケーション組み込み用 Web ブラウザ機能。

(429) **Hypertext Coordination Group** HTML および関連規格の調整を担当していた W3C(185)の下部組織。

れた W3C Hypertext Coordination Group の会議で、xml の追加が決定した。<sup>(430)</sup> HTML 文書中に XML 文書を埋め込んだり、外部参照したりできる。[XHReport]

→ \*, script

**xmlarea** 2004（平成16）年 7月 21 日版 『Web Applications Markup Language 1.0』<sup>(145)</sup> 文書ソース注釈に、htmlarea, xmlarea の構想があった。要素名のみで詳細不明。[WA1-20040721]



→ textarea

**xmlreader** 2007（平成19）年 時点で Microsoft Corporation の Web サイトで xmlreader が使われていた。用途は不明。[KB272246]



**xmp** 1985（昭和60）年 3月の IBM の GML<sup>(77)</sup> 実装の標準のタグ<sup>(20)</sup>の一覧にある。それより遙かに前から GML で使われていたと思われる。[DCFGML3e]



1986（昭和61）年 10月 23 日の ISO 8879 : 1986 E.1<sup>(79)</sup> にある。[ISO8879]

1986（昭和61）年 10月 27 日の CERN SGMLguid<sup>(80)</sup> にある。[SGMLguid]

1990（平成2）年 12月 7日付ファイルにあるのが現存最古の用例である。[SW:HTML1991]

2009（平成21）年 7月 31 日、『HTML5』<sup>(191)</sup> は xmp の処理を規定した。[HTMLR3502]

HTML 1992 (H4)/7/15 ; 1993 (H5)/1/6 HTML1 1993 (H5)/6 Obsolete  
HTML 2.0 1995 (H7)/11 Level 1 / Deprecated  
HTML 3.2 1997 (H9) Deprecated HTML 2.x 1997 (H9)/1  
HTML5 2009 (H21) 廃止 HTML Standard HTML構文解析器 / Special  
→ listing, pre

**xor** MathML 3.0 Content, 4.0 Content

---

(430) しかし実際に追加された仕様書が公表されることはなかった。

**xor-bits** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**xref** 1994 (平成6) 年 4月 25日、 Dan Connolly<sup>(170)</sup>の『Reliable Link Demonstration』と題した実験ファイルの 1つ<sup>(112)</sup>で使われている。[ReliableLink]



→ a

**xtml** 『HTML Pro』<sup>(431)</sup>の DTD<sup>(194)</sup> +//Silmaril//DTD HTML Pro v0r10 19961116//EN に xtml がある。その説明『The HTML Professional DTD』<sup>(431)</sup>によるところ、独自の追加である。データベース上で 0 個以上の HTML 文書を 1 つにするため文書要素<sup>(202)</sup>として使う。[HTMLPro]



→ html

**ya-really** 2018 (平成30) 年 の  
HTML-as-programming-language<sup>(95)</sup>にある。[HTMLasPL]



**yatag** 2020 (令和2) 年 時点の調査によると、0.20% の Web ページが yatag を使っていた。Яндекс<sup>(432)</sup>のものという。[ALMANAC2020:MARKUP]



**year** 『Taiju Notebook』<sup>(258)</sup>で本文記述に使われている。[SW:pg\*]



→ date, time

**yield** PostHTML<sup>(365)</sup>が HTML と称するものにある。[POSTHTML:COMPONENTS]



(431) The HTML Professional DTD HTML Pro 当時流布していた各種の HTML DTD を収集した DTD<sup>(194)</sup>集と、それらを統合してすべての HTML の拡張をカバーした HTML DTD。[HTMLPro]

(432) Яндекс Yandex ロシア連邦を中心とする旧ソ連諸国等でよく利用される Web 検索エンジンサービス。

**ymaps** 2019（令和元）年時点の調査によると 1 万以上の Web ページが ymaps を使っていた。  
[ALMANAC2019:Markup]



**yogsothoth** 1994（平成6）年 10月 19日、Laura Lemay<sup>(125)</sup>は USENET<sup>(421)</sup>に、Mosaic Netscape 0.9<sup>(126)</sup>にない 10 個の HTML 拡張を列挙したという風刺記事を投稿した。wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth と挙げ、最後に blink という落ちだった。  
[TopTenHTML]



Emacs/W3<sup>(106)</sup>は、Laura Lemay の提示した、wired, roach, kill\_sgml, pinhead, secret, hype, peek, poke, yogsothoth, blink を実装していた。イースターエッグのようなものだろう。  
[E/W3:Supported]

**yomi** 平成 12（2000）年の JIS TR X 0010 : 2000<sup>(233)</sup> の特定 DTD<sup>(234)</sup>に yomi がある。  
[JISTRX0010-2000] 現在の rt に当たる。



**zeroboard** 제로보드<sup>(433)</sup> (Zeroboard) は、利用者インターフェイスの一部の非表示化のため <Zeroboard> と出力して後続のタグ<sup>(20)</sup>を無効化していたという。  
[SW:zeroboard]



(433) 제로보드 Zeroboard 21 世紀初頭に大韓民国でよく使われていた掲示板 Web アプリケーション(146)。



## 参考文献

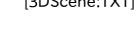
[3DScene:PDF] *New HTML Element to Display a 3D Scene*, ANDO Yasushi, 8 January Reiwa 3 (令和3(2021)年1月8日), <<https://www.w3.org/2018/12/games-workshop/slides/30-3d-element.pdf>>.



[3DScene:TXT] ANDO Yasushi, 8 January Reiwa 3 (令和3(2021)年1月8日), <<https://www.w3.org/2018/12/games-workshop/papers/new-html-3D-element.txt>>.



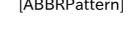
[ABBRPattern] *abbr design pattern - Microformats Wiki*, 18 July 2020 (令和2年7月18日), <<http://microformats.org/wiki/abbr-design-pattern>>.



[AboutJWZMoz] *about:jwz and about:mozilla*, Jamie Zawinski, 2011 (平成23年), <<https://www.jwz.org/doc/about-jwz.html>>.



[AHL] 『Another HTML-lint』, k16@chiba.email.ne.jp, 平成23(2011)年11月28日, <<http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmllint/index.html>>。



[AHL:Notice] 『Another HTML-lint : Notice』, k16, 平成23(2011)年11月28日, <<http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmllint/notice.html>>。



[ALMANAC2019:Markup] *Markup | 2019 | The Web Almanac by HTTP Archive*, Brian Kardell, 12 December 2022 (令和4年12月12日), <<https://almanac.httparchive.org/en/2019/markup>>.



[ALMANAC2020:MARKUP] *Markup | 2020 | The Web Almanac by HTTP Archive*, Jens Oliver Meiert, Catalin Rosu, Ian Devlin, 1 November 2020 (令和2年11月1日), <<https://almanac.httparchive.org/en/2020/markup>>.



[AppleTimed] *Apple Proposal for Timed Media Elements*, Maciej Stachowiak, 21 March 2007 (平成19年3月21日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2007-March/052659.html>>.



[AppletProposalTerry] *Java Applet element proposal*, Terry Allen, 2 June 1995 (平成7年6月2日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/HTML-WG/html-wg-95q2.messages/1119.html>>.



[ALMANAC2019:Markup]



[ALMANAC2020:MARKUP]



[AppleTimed]



[AppletProposalTerry]

[AUTHFORM] *User Agent Authentication Form Elements*, Agranat Systems, Inc., Microsoft Corporation, 3 February 1999 (平成 11 年 2 月 3 日), <<https://www.w3.org/TR/1999/NOTE-authentform-19990203>>.



[AUTHFORM]

[BASE起源] 『HTML の `base` 要素の起源に迫ってみた』, わかば, 平成 25 (2013) 年 3 月 26 日, <<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%20%E3%81%AE%20base%20%E8%A6%81%E7%B4%A0%E3%81%AE%E8%B5%B7%E6%BA%90%E3%81%AB%E8%BF%AB%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%81%9F>>。



[BASE起源]

[BMHTML6] *HTML6 proposal for single-page apps without Javascript*, Bobby Mozumder, 20 March 2015 (平成 27 年 3 月 20 日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/public-whatwg-archive/2015Mar/0071.html>>.



[BMHTML6]

[BMHTML6:GH] *mozumder/HTML6*, mozumder, <<https://github.com/mozumder/HTML6>>. 平成 27 (2015) 年 3 月 24 日閲覧。



[BMHTML6 :GH]

[BML] ARIB STD-B24 5.2 版,『デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格』,社団法人電波産業会,平成 20 (2008) 年 6 月 6 日, <[https://web.archive.org/web/20090711025708/http://www.arib.or.jp/english/html/overview/doc/2-STD-B24v5\\_2-2p3-1.pdf](https://web.archive.org/web/20090711025708/http://www.arib.or.jp/english/html/overview/doc/2-STD-B24v5_2-2p3-1.pdf)>。



[BML]

[BOOTSTRAP:TWEAKS] *tweaks abound, updated prettyfied styles, new sidenav component started...*, mdo, 5 January 2012 (平成 24 年 1 月 5 日), <<https://github.com/twbs/bootstrap/commit/fb9401b355366452d310d39f51224999da4daa82>>.



[BOOTSTRAP :TWEAKS]

[BosakHTML] *NOTES ON THE SAMPLE DSSSL HTML STYLESHEET*, Jon Bosak, 3 September 1996 (平成 8 年 9 月 3 日), <[http://www.ibiblio.org/pub/sun-info/standards/dsssl/stylesheets/html3\\_2.obsolete/NOTES](http://www.ibiblio.org/pub/sun-info/standards/dsssl/stylesheets/html3_2.obsolete/NOTES)>.



[BosakHTML]



[BQORIGIN]



[BosakHTML]



[Browser APIProposal]

[BrowserAPIProposal] *Browser API proposal*, Mounir Lamouri, 17 March 2012 (平成 24 年 3 月 17 日), <<https://groups.google.com/g/mozilla.dev.webapi/c/LFuVuUvqT6Q/m/s9cFkFLhSKMJ>>.

[BuyAirPods] *Buy AirPods with Wireless Charging Case - Apple*, Apple Inc., 20 March 2019 (平成 31 年 3 月 20 日), <<https://web.archive.org/web/20190320131004/https://www.apple.com/shop/product/MRXJ2/airpods-with-wireless-charging-case>>.

[CALSTable1995] *OASIS Web Site: TM 9502:1995 - CALS Table Model DTD*, OASIS, 19 October 1995 (平成 7 年 10 月 19 日), <<https://www.oasis-open.org/specs/a502.htm>>.

[CanvasTagHixie] *Re: Canvas tag*, Ian Hickson, 16 August 2004 (平成 16 年 8 月 16 日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2004-August/043992.html>>.

[CEA2014Ae] *Erratum*, CEA Technology & Standards Department, 28 August 2008 (平成 20 年 8 月 28 日), <[https://web.archive.org/web/20081209093217/http://www.ce.org/Standards/CEA-2014-A\\_Errata\\_TextOnly.pdf](https://web.archive.org/web/20081209093217/http://www.ce.org/Standards/CEA-2014-A_Errata_TextOnly.pdf)>.

[Ch40965759] *Implement support for <adview> tag [40965759] - Chromium*, 20 May 2020 (令和 2 年 5 月 20 日), <<https://issues.chromium.org/issues/40965759>>.

[Ch41101890] *Upstream <appview> [41101890] - Chromium*, 28 May 2015 (平成 27 年 5 月 28 日), <<https://issues.chromium.org/issues/41101890>>.

[CharFormatAlex] *Character Formatting Proposal*, Alex Hopmann, 4 November 1996 (平成 8 年 11 月 4 日), <<https://web.archive.org/web/19961104033303/http://ugly.resnova.com/htmlcharacterformatting.html>>.

[ChromeStatus:CustomSelect] *Customizable <select> Element - Chrome Platform Status*, <<https://chromestatus.com/feature/5737365999976448>>. 令和 6 (2024) 年 9 月 28 日閲覧。

[CHTML] *Compact HTML for Small Information Appliances*, Tomihisa Kamada, 9 February Heisei 10 (平成 10 (1998) 年 2 月 9 日), <<https://www.w3.org/TR/1998/NOTE-compactHTML-19980209/>>.



[BuyAirPods]

[CALSTable1995] *OASIS Web Site: TM 9502:1995 - CALS Table Model DTD*, OASIS, 19 October 1995 (平成 7 年 10 月 19 日), <<https://www.oasis-open.org/specs/a502.htm>>.



[CEA2014Ae]

[Ch40965759] *Implement support for <adview> tag [40965759] - Chromium*, 20 May 2020 (令和 2 年 5 月 20 日), <<https://issues.chromium.org/issues/40965759>>.

[Ch41101890] *Upstream <appview> [41101890] - Chromium*, 28 May 2015 (平成 27 年 5 月 28 日), <<https://issues.chromium.org/issues/41101890>>.

[CharFormatAlex] *Character Formatting Proposal*, Alex Hopmann, 4 November 1996 (平成 8 年 11 月 4 日), <<https://web.archive.org/web/19961104033303/http://ugly.resnova.com/htmlcharacterformatting.html>>.

[ChromeStatus:CustomSelect] *Customizable <select> Element - Chrome Platform Status*, <<https://chromestatus.com/feature/5737365999976448>>. 令和 6 (2024) 年 9 月 28 日閲覧。

[CHTML] *Compact HTML for Small Information Appliances*, Tomihisa Kamada, 9 February Heisei 10 (平成 10 (1998) 年 2 月 9 日), <<https://www.w3.org/TR/1998/NOTE-compactHTML-19980209/>>.



[Ch40965759]



[CharFormatAlex]



[ChromeStatus :CustomSelect]



[CHML]

[CM:AddedExplainer] *Added explainer, needs cleanup and lots of work.*, dglazkov, 19 November 2011 (平成 23 年 11 月 19 日), <<https://github.com/dglazkov/component-model/commit/bf45ddcfa4b574ab94dc4b8e18843e322816d5a5>>.



[CM:Added Explainer]

[CM:Template] *<template> stub, initial CSS text, more minor tweaking*, Roland Steiner, 13 September 2011 (平成 23 年 9 月 13 日), <<https://github.com/dglazkov/component-model/commit/eb7b2211d5785c8be7bd19f942a67a1991447b41>>.



[CM:Template]

[CMContentRendering] *<content> element" and "Rendering stubs, some minor touch-up.*, Roland Steiner, 13 September 2011 (平成 23 年 9 月 13 日), <<https://github.com/dglazkov/component-model/commit/186208205004ba32b84e10595363c831eda517a7>>.



[CMContent Rendering]

[CMMML] *Specification of the Continuous Media Markup Language (CMMML), Version 1.0*, Silvia Pfeiffer, Conrad D. Parker, 8 June 2003 (平成 15 年 6 月 8 日), <<https://web.archive.org/web/20030912224907/http://www.annodex.net/TR/cmml.html>>.



[CMMML]

[ColorTextAlex] *Re: color text?*, Alex Hopmann, 2 May 1995 (平成 7 年 5 月 2 日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/HTML-WG/html-wg-95q2.messages/0508.html>>.



[ColorTextAlex]

[Comment5:Hixie] *<comment> element in HTML5 Spec?*, Ian Hickson, 19 July 2011 (平成 23 年 7 月 19 日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2011-July/032568.html>>.



[Comment5 :Hixie]

[Comment5:Richard] *<comment> element in HTML5 Spec?*, Richard Summers, 13 December 2010 (平成 22 年 12 月 13 日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2010-December/029459.html>>.



[Comment5 :Richard]

[CommonPanel] *Panels and Panel Sets Extension*, Brian Kardell, Léonie Watson, Chaals McCathie Neville, Steve Faulkner, 22 September 2016 (平成 28 年 9 月 22 日), <<https://bkardell.github.io/common-panel/index.src.html>>.



[CommonPanel]



[ConnectingWeb Intents]

[ConnectingWebIntents] *Chromium Blog: Connecting Web Apps with Web Intents*, James Hawkins, 4 August 2011 (平成 23 年 8 月 4 日), <<https://blog.chromium.org/2011/08/connecting-web-apps-with-web-intents.html>>.



[CSIM]



[CSIProposallan]



[CuttingEdge]



[DataparkSearch :Comments]



[DatesSolved]



[DCFGML3e]

[CSIM] *An HTML Extension to Support Client-Side Image Maps*, James L. Seidman, October 1994 (平成6年10月), <<https://web.archive.org/web/20010110183000/http://www.ncsa.uiuc.edu/SDG/IT94/Proceedings/DDay/seidman/seidman.html>>.

[CSIProposallan] *Client-side includes proposal*, Ian Hickson, 18 August 2008 (平成20年8月18日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2008-August/058065.html>>.

[CuttingEdge] *The Cutting Edge: AOL and GNN Partner to Build Launch Pad*, Chris Lapham, 1 July 1995 (平成7年7月1日), <<https://johndecember.com/cmc/mag/1995/jul/cutting.html>>.

[DataparkSearch:Comments] “Comments,” in *DataparkSearch Engine 4.54: Reference manual*, Maxim Zakharov, 18 July 2015 (平成27年7月18日), <<http://www.dataparksearch.org/dpsearch-htmlparser-comments.en.html>>.

[DatesSolved] *Human vs. ISO8601 dates problem solved*, Tantek Çelik, 26 January 2005 (平成17年1月26日), <<http://tantek.com/log/2005/01.html>>.

[DCFGML3e] *Document Composition Facility Generalized Markup Language Implementation Guide (Third Edition)*, International Business Machines Corporation, March 1985 (昭和60年3月), <[http://bitsavers.trailing-edge.com/pdf/ibm/370/DCF/SH35-0050-2\\_Document\\_Composition\\_Facility\\_Generalized\\_Markup\\_Language\\_Implementation\\_Guide\\_Rel\\_3\\_Mar85.pdf](http://bitsavers.trailing-edge.com/pdf/ibm/370/DCF/SH35-0050-2_Document_Composition_Facility_Generalized_Markup_Language_Implementation_Guide_Rel_3_Mar85.pdf)>.

[DescLinkRes] *Describing and Linking Web Resources*, Scott Berkun, Eric Brown, Murray Maloney, Rory Stark, Liam Quin, R. V. Guha, 13 November 1996 (平成8年11月13日), <<https://www.w3.org/Architecture/NOTE-link.html>>.

[DISPLETS1997] *Extending HTML in a principled way with displets*, Fabio Vitali, Chao-Min Chiu, Michael Bieber, 19 February 1997 (平成9年2月19日), <<http://www.cs.unibo.it/~fabio/bio/Working/Displets/PAPER155.html>>.



[DescLinkRes]



[DISPLETS1997]

[DISPLETS1998] *An extensible rendering engine for XML and HTML*, Paolo Ciancarini, Alfredo Rizzi, Fabio Vitali, April 1998 (平成10年4月), <<https://web.archive.org/web/20160301090350/http://www7.scu.edu.au/1926/com1926.htm>>.



[DISPLETS1998]

[Dive5:How] “How Did We Get Here?,” in *Dive Into HTML5*, Mark Pilgrim, 2011 (平成23年), <<https://diveinto.html5doctor.com/past.html>>.



[Dive5:How]

[DjVuXML-s] *DjVuLibre / Djvulibre-git / [b0ff6f] /share/djvu/pubtext/DjVuXML-s.dtd*, 11 March 2002 (平成14年3月11日), <<https://sourceforge.net/p/djvu/djvulibre-git/ci/master/tree/share/djvu/pubtext/DjVuXML-s.dtd>>.



[DjVuXML-s]

[DNML] 『長岡志保愛好会～DNML～』, 花梨, 平成12(2000)年9月21日, <<http://hp.vector.co.jp/authors/VA015183/dnml/>>。



[DNML]

[DOCBOOK1] *DocBook DTD*, HaL Computer Systems, Inc., O'Reilly & Associates, Inc., 12 November 1992 (平成4年11月12日), <<https://tools.oasis-open.org/version-control/browse/wsvn/docbook/sgml/1.0/docbk10.zip>>.



[DOCBOOK1]

[DOMSlot] *Add a new <slot> element for shadow trees*, annevk, 20 April 2016 (平成28年4月20日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/3c157377135d05fbdd74f8c69199b47408bc6a9a>>.



[DOMSlot]

[DTDIssuesDan] *HTML DTD issues*, Dan Connolly, 19 November 1992 (平成4年11月19日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0068.html>>.



[DTDIssuesDan]



[DTHTML6]



[DTDIssuesTim]



[DTDIssuesDan]

[DTHTML6] *HTML6*, Dmitry Turin, 1 June 2009 (平成21年6月1日), <<https://web.archive.org/web/20120909033609/http://html60.euro.ru/>>.



[DTHTML6]



[DWCS4拡張]

[DWCS4拡張] 『Adobe® Dreamweaver® CS4 拡張ガイド』, Adobe Systems Incorporated, 西暦2008年(平成20年), <[https://help.adobe.com/archive/ja\\_JP/dreamweaver/cs4/dreamweaver\\_cs4\\_extending.pdf](https://help.adobe.com/archive/ja_JP/dreamweaver/cs4/dreamweaver_cs4_extending.pdf)>。

[dwd] *manakai/data-web-defs: Definitions, the manakai project*, <<https://github.com/manakai/data-web-defs>>. 令和6(2024)年11月4日閲覧。

[E/W3-2.1p46] *Emacs/W3 2.1p46*, 1 August 1994(平成6年8月1日), <<http://www.nic.funet.fi/index/WWW/emacs/html-mode/w3-2.1p46.tar.gz>>.

[E/W3:Parse] *w3/w3-parse.el at master · emacs-mirror/w3 · GitHub*, <<https://github.com/emacs-mirror/w3/blob/master/w3-parse.el>>. 令和6(2024)年8月16日閲覧。

[E/W3:Supported] *Emacs-w3 User's Manual - Supported Markup Languages*, 9 September 1999(平成11年9月9日), <[https://web.archive.org/web/19990909053120/http://www.informatik.uni-hamburg.de/RZ/software/emacs/w3/w3\\_2.html](https://web.archive.org/web/19990909053120/http://www.informatik.uni-hamburg.de/RZ/software/emacs/w3/w3_2.html)>.

[E/W3Red] 『Emacs-w3 Red Home Page』, Yasuaki Takebe, 平成9(1997)年, <<https://web.archive.org/web/20010415142400/http://nicosia.is.s.u-tokyo.ac.jp/members/takebe/emacs-w3-jp.html>>。

[EARLYHTML] *Early History of HTML - 1990 to 1992*, Sean B. Palmer, 24 March 2004(平成16年3月24日), <<http://infomesh.net/html/history/early/>>.

[EduEnv] *Toward A New Educational Environment*, Ming-Chih Lai, Bih-Horng Chen, Shyan-Ming Yuan, 9 November Minguo 84(平成7(1995)年11月9日), <<https://www.w3.org/Conferences/WWW4/Papers/238/>>.

[Electron:WV.js] *electron/lib/renderer/web-view/web-view.js at 6fd44fc45c42ea5cd6ac17303fb11be5db3d10dd · electron/electron · GitHub*, 8 November 2016(平成28年11月8日), <<https://github.com/electron/electron/blob/6fd44fc45c42ea5cd6ac17303fb11be5db3d10dd/lib/renderer/web-view/web-view.js>>.



[E/W3-2.1p46]



[E/W3:Parse]



[E/W3:Supported]



[E/W3Red]



[EARLYHTML]



[EduEnv]



[Electron:WV.js]

[ElementsFeedback] *Elements feedback*, Ian Hickson, 27 September 2012 (平成24年9月27日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2012-September/037461.html>>.



[Elements Feedback]

[EmbedProposal] *A proposal for addition to HTML 3.0: EMBED*, Alex Edelstein, 19 September 1995(平成7年9月19日), <<https://web.archive.org/web/19970728154211/http://www.eit.com/goodies/lists/www.lists/www-html.1995q3/0602.html>>.



[EmbedProposal]

[EmphInSchema] *xhtml:emph in hasFactAndProperty schema*, Lucian Holland, 16 May 2005 (平成17年5月16日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/xmlschema-dev/2005May/0050.html>>.



[EmphInSchema]

[ENMLDTD] *evernote-sdk-ios/evernote-sdk-ios/internal/DTDs/enml.dtd at master · Evernote/evernote-sdk-ios · GitHub*, 5 July 2013 (平成25年7月5日), <<https://github.com/Evernote/evernote-sdk-ios/blob/master/evernote-sdk-ios/internal/DTDs/enml.dtd>>.



[ENMLDTD]

[ErrorHTML3Earl] *Error(?) in HTML 3 DTD*, Earl Hood, 29 November 1994 (平成6年11月29日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-html/1994Nov/0088.html>>.

[EthiopicEmacs] *Adding Ethiopic Features To Emacs*, Naoto Takahashi, Daniel Jacob, 平成9(1997)年6月, <<ftp://ftp.geez.org/pub/mule/mule.ps.gz>>.



[Ethiopic Emacs]

[FBML] *FBML 1.1*, Charlie Cheever, 14 August 2007 (平成19年8月14日), <<https://developers.facebook.com/blog/post/28>>.

[fenced-frame] *GitHub - WICG/fenced-frame: Proposal for a strong boundary between a page and its embedded content*, 5 September 2024 (令和6年9月5日), <<https://github.com/WICG/fenced-frame>>.



[fenced-frame]

[FineTrans00] *Fine-Grained Transclusion in the Hypertext Markup Language*, Andrew Pam, 2 March 1997 (平成9年3月2日), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-pam-html-fine-trans-00>>.



[FineTrans00]



[fenced-frame]



[FBML]



[FontsAlex]

[FontsAlex] *Re: fwd:Fonts*, Alex Hopmann, 5 July 1995 (平成7年7月5日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-style/1995Jul/0011.html>>.



[FontsBenjamin]



[FORMS  
19960308]



[Forsdonnet1]



[Forsdonnet2]



[FrameBasics]

[FontsBenjamin] *fwd:Fonts*, Benjamin C. W. Sittler, 3 July 1995 (平成7年7月3日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-style/1995Jul/0003.html>>.

[FORMS19960308] *Design Issues for HTML Forms*, W3C, 8 March 1996 (平成8年3月8日), <<https://www.w3.org/TR/WD-forms-960308.html>>.

[Forsdonnet1] 『等式論理系における制約解消による証明記述の枠組み』, 濑尾明志, 中川中, 平成9(1997)年9月24日, <[https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=132008&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=8](https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=132008&item_no=1&page_id=13&block_id=8)>。

[Forsdonnet2] 『等式論理系における制約解消による証明支援環境構築の試み』, 井上直, 石黒正揮, 中川中, 平成9(1997)年9月24日, <[https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&page\\_id=13&block\\_id=8&item\\_id=132007&item\\_no=1](https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=8&item_id=132007&item_no=1)>。

[FrameBasics] *Frame Basics*, Netscape Communications Corporation, 13 June 1997 (平成9年6月13日), <[http://web.archive.org/web/1997061322244/http://www82.netscape.com/assist/net\\_sites/frame\\_syntax.html](http://web.archive.org/web/1997061322244/http://www82.netscape.com/assist/net_sites/frame_syntax.html)>.

[FRAMES19970331] *Implementing HTML Frames*, W3C, 31 March 1997 (平成9年3月31日), <<https://www.w3.org/TR/WD-frames-970331>>.

[FramesProposal] *A proposal for addition to HTML 3.0: Frames*, Alex Edelstein, 18 September 1995 (平成7年9月18日), <<https://web.archive.org/web/19970728153627/http://www.eit.com/goodies/lists/www.lists/www-html.1995q3/0588.html>>.

[FurtherWMChanges] *The WHATWG Blog — Further working mode changes*, Anne van Kesteren, 11 December 2017 (平成29年12月11日), <<https://blog.whatwg.org/working-mode-changes>>.



[FRAMES  
19970331]



[FramesProposal]



[Further  
WMChanges]

[FuturePlans] *Future plans for HTML*, Tim Berners-Lee, 2 December 1992 (平成4年12月2日), <<https://www.w3.org/History/19921103-hypertext/hypertext/WWW/MarkUp/Future.html>>.



[FuturePlans]

[FxHelp:ImportBookmark] 『HTML ファイルからブックマークをインポートする | Firefox ヘルプ』, 西暦2019年10月5日(令和元年10月5日), <<https://support.mozilla.org/ja/kb/import-bookmarks-html-file>>.



[FxHelp:Import Bookmark]

[G-DTD] 『分散形情報共有環境における文書記述用の基準文書型定義 (G-DTD)』, 平成8(1996)年6月14日, <[http://www.y-adagio.com/public/jttc/g-dtd/ver9607/g-dtd\\_9607.txt](http://www.y-adagio.com/public/jttc/g-dtd/ver9607/g-dtd_9607.txt)>.



[G-DTD]

[GenshiXML] *Documentation/xml-templates.html – Genshi*, 14 December 2015 (平成27年12月14日), <<https://genshi.edgewall.org/wiki/Documentation/xml-templates.html>>.



[GenshiXML]

[Getleft] *Getleft download | SourceForge.net*, <<https://sourceforge.net/projects/getleftdown/>>. 令和6(2024)年10月22日閲覧。



[Getleft]

[Google+1] 『Google』, 西暦2011年6月3日(平成23年6月3日), <<https://web.archive.org/web/20110603153735/http://www.google.com/intl/ja/webmasters/+1/button/>>.



[Google+1]

[H+T04] *html+tables v0.4*, Brooks Cutter, 25 April 1995(平成7年4月25日), <<http://www.math.utah.edu/~beebe/support/html+tables/html+tables>>.

[HDML] *Handheld Device Markup Language Specification*, Unwired Planet, Alcatel Alsthom Recherche, AT&T, GEMPLUS, Mitsubishi Electric Corporation, Sun Microsystems Corporation, 9 May 1997(平成9年5月9日), <<https://www.w3.org/TR/NOTE-Submission-HDML-spec.html>>.



[HDML]

[HHMKeybindings] *Keybindings for html-helper-mode version 1.34*, Nelson Minar, 1 February 1995(平成7年2月1日), <<http://www.fifi.org/doc/html-helper-mode/keybindings.html>>.



[HHMKeybindings]



[H+T04]

[Hixie20040630] *Re: several messages*, Ian Hickson, 30 June 2004(平成16年6月30日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2004-June/043072.html>>.



[Hixie20040630]



[HJDTD]

[HJDTD] *HotJava modifications*, Steve Byrne, 13 September 1996 (平成8年9月13日), <<https://raw.githubusercontent.com/magicus/jdk/34bb3c164b3c10f1f258eedbf84ee9c36d7d8f7d/src/java.desktop/share/data/dtdbuilder/html32.dtd>>.



[HNF]

[HNF] 『hnf の記述方法』, 平成12(2000)年6月8日, <<https://web.archive.org/web/20000608165935/http://www.h14m.org/docs/hnf-j.html>>。



[HTA:Overview]

[HTA:Overview] *HTML Applications Overview*, Microsoft Corporation, 19 October 2000 (平成12年10月19日), <<https://web.archive.org/web/20001019042807/http://msdn.microsoft.com/workshop/author/hta/overview/htaoverview.asp>>.



[HTML]

[HTML] *HTML Standard*, WHATWG, <<https://html.spec.whatwg.org/>>. 令和6(2024)年10月13日閲覧。



[HTML#10470]

[HTML#10470] *Import HTML · Issue #10470 · whatwg/html · GitHub*, 10 July 2024 (令和6年7月10日), <<https://github.com/whatwg/html/issues/10470>>.



[HTML#1809]

[HTML#1809] *[Proposal] New tags <tabsection>, <tablist>, <tab>, <tabpanel> · Issue #1809 · whatwg/html · GitHub*, 22 September 2016 (平成28年9月22日), <<https://github.com/whatwg/html/issues/1809>>.



[HTML]

[HTML#2791] *Client side include feature for HTML · Issue #2791 · whatwg/html · GitHub*, 27 June 2017 (平成29年6月27日), <<https://github.com/whatwg/html/issues/2791>>.



[HTML#6319]

[HTML#6319] *Proposal: new element for measurements <m> · Issue #6319 · whatwg/html · GitHub*, <<https://github.com/whatwg/html/issues/6319>>. 令和6(2024)年11月26日閲覧。



[HTML#6349]

[HTML#6349] *New feature proposal: <popup> element · Issue #6349 · whatwg/html · GitHub*, <<https://github.com/whatwg/html/issues/6349>>. 令和6(2024)年9月8日閲覧。



[HTML#9799]

[HTML#9799] *Customizable `<select>` element · Issue #9799 · whatwg/html · GitHub*, 27 September 2023 (令和5年9月27日), <<https://github.com/whatwg/html/issues/9799>>.



[HTML#2791]



[HTML#6319]



[HTML#6349]



[HTML#9799]

[HTML+19930602:Dave] *HTML + DTD in ftp://info.cern.ch/pub/www/dev/htmlplus.dtd*, Dave Raggett, 2 June 1993 (平成5年6月2日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q2/0430.html>>.



[HTML+19930602:Dave]

[HTML+19930713] *DTD for HTML+*, 13 July 1993 (平成5年7月13日), <<https://www.w3.org/MarkUp/HTMLPlus/htmlplusdtd.txt>>.



[HTML+19930713]

[HTML+19931028] *HTML + (Hypertext markup format)*, Dave Raggett, 28 October 1993 (平成5年10月28日), <<https://suika.suikawiki.org/www/2005/pre-id/draft-raggett-www-html-00.txt>>.



[HTML+19931028]

[HTML+19931108] *HTML + (Hypertext markup format)*, 8 November 1993 (平成5年11月8日), <[https://www.w3.org/MarkUp/HTMLPlus/htmlplus\\_1.html](https://www.w3.org/MarkUp/HTMLPlus/htmlplus_1.html)>.

[HTML+19940105] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language Plus for use with the World Wide Web application (HTML + DTD)*, Dave Raggett, 5 January 1994 (平成6年1月5日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/www-talk-1994q1.messages/68.html>>.

[HTML+19940111] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language Plus for use with the World Wide Web application (HTML + DTD)*, Dave Raggett, 11 January 1994 (平成6年1月11日).

[HTML+19940318] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language Plus for use with the World Wide Web application (HTML + DTD)*, Dave Raggett, 18 March 1994 (平成6年3月18日).

[HTML+19940405] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language Plus for use with the World Wide Web application (HTML + DTD)*, Dave Raggett, 1 December 1994 (平成6年12月1日), <[http://www.w3.org/MarkUp/HTMLPlus/htmlplus\\_paper/htmlplus.dtd](http://www.w3.org/MarkUp/HTMLPlus/htmlplus_paper/htmlplus.dtd)>.

[HTML.next] *HTML/next - W3C Wiki*, 15 April 2015 (平成27年4月15日), <<https://www.w3.org/wiki/HTML/next>>.



[HTML.next]

[HTML11] *Hypertext Markup Language (HTML)*, Tim Berners-Lee, Daniel Connolly, June 1993 (平成5年6月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-iiir-html-00>>.



[HTML11]



[HTML11]



[HTML11]



[HTML12]

[HTML12] *Hypertext Markup Language (HTML)*, Tim Berners-Lee, Daniel Connolly, June 1993 (平成5年6月), <<https://www.w3.org/MarkUp/draft-ietf-iiir-html-01.txt>>.



[HTML19911029]

[HTML19911029] *Re: status. Re: X11 BROWSER for WWW*, Tim Berners-Lee, 29 October 1991 (平成3年10月29日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1991SepOct/0003.html>>.

[HTML19920606] *MIME as a hypertext architecture*, Dan Connolly, 6 June 1992 (平成4年6月6日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992MayJun/0020.html>>.

[HTML19920715] *document type declaration subset for HyperText Markup Language as defined by the World Wide Web project*, connolly@convex.com, 15 July 1992 (平成4年7月15日), <<https://suika.suikawiki.org/gate/2007/schema/schema/ff406c9d41cce016537453bfdb37f570/cache.html>>.

[HTML19921130] *An HTML specification and Implementors' Guide*, Dan Connolly, 30 November 1992 (平成4年11月30日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0123.html>>.

[HTML19921130:Complete] *HTML Guide: A Complete MarkUp Set*, Dan Connolly, 30 November 1992 (平成4年11月30日), <<https://www.w3.org/History/19921103-hypertext/hypertext/WWW/MarkUp/Connolly/complete.html>>.

[HTML19921203] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 3 December 1992 (平成4年12月3日), <<https://suika.suikawiki.org/gate/2007/schema/schema/0c635118f8e63a549e57c5cd27195774/cache.html>>.

[HTML19921204:Dan] *The spec evolves...*, Dan Connolly, 4 December 1992 (平成4年12月4日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0155.html>>.

[HTML19930106:Dan] *new HTML spec, sample implementation*, Dan Connolly, 6 January 1993 (平成5年1月6日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/www-talk-1993q1.messages/10.html>>.



[HTML19921203]

[HTML19921204:Dan]

[HTML19930106:DTD] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 6 January 1993 (平成5年1月6日), <<https://suika.suikawiki.org/gate/2007/schema/schema/50b15a81253bdb391bdf84e918923e16/cache.html>>.



[HTML19930106:DTD]

[HTML199303] *Hypertext Markup Language*, Tim Berners-Lee, March 1993 (平成5年3月), <<https://suika.suikawiki.org/www/2005/pre-id/html-spec-199303.pdf>>.



[HTML199303]

[HTML19931130] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, 30 November 1993 (平成5年11月30日), <<https://suika.suikawiki.org/gate/2007/schema/schema/2784f7c50d919cdce81d433f73ec336e/cache.html>>.



[HTML19931130]

[HTML19940407] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 7 April 1994 (平成6年4月7日).



[HTML19940407]

[HTML19940409] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 9 April 1994 (平成6年4月9日).



[HTML19940409]

[HTML19940414] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 14 April 1994 (平成6年4月14日).



[HTML19940414]

[HTML19940517] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language as used by the World Wide Web application (HTML DTD)*, connolly, 17 May 1994 (平成6年5月17日).

[HTML21] *Internationalization of the Hypertext Markup Language*, Franois Yergeau, Gavin Thomas Nicol, Glenn Adams, 25 September 1995 (平成7年9月25日), <<https://data-tracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-i18n-01>>.



[HTML21]

[HTML21E19950921] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language, version 2.1E (HTML DTD)*, Daniel W. Connolly, Francois Yergeau, 25 September 1995 (平成7年9月25日).



[HTML21E19950921]

[HTML21E19951122] *Compound Documents in HTML*, Paul Burchard, Dave Raggett, 22 November 1995(平成7年11月22日), <<https://data-tracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-cda-00>>.



[HTML21E19951122]

[HTML2CTB] *HTML2 -- /MarkUp*, CTB, 10 June 1992 (平成4年6月10日), <<https://www.w3.org/History/19921103-hypertext/hypertext/WWW/MarkUp/HTML2.html>>.



[HTML2RCS] *HTML 2 RCS files*, Dan Connolly, 21 December 2023 (令和5年12月21日), <<https://archive.org/details/html-1992-rcs>>.



[HTML2RCS]



[HTML2x-00]

[HTML2x-00] *Internationalization of the Hypertext Markup Language*, Franois Yergeau, Gavin Thomas Nicol, Glenn Adams, 15 August 1995 (平成7年8月15日), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-i18n-00>>.

[HTML3-19941130] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language (HTML DTD)*, Dave Raggett, 30 November 1994 (平成6年11月30日).

[HTML3-19950301] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language (HTML DTD)*, Dave Raggett, 1 March 1995 (平成7年3月1日).

[HTML3-19950324] *Document Type Definition for the HyperText Markup Language (HTML DTD)*, 24 March 1995 (平成7年3月24日), <<https://www.w3.org/MarkUp/html3/html3.dtd>>.

[HTML3-19950328] *HyperText Markup Language Specification Version 3.0*, Dave Raggett, 23 August 2000 (平成12年8月23日), <<https://www.w3.org/MarkUp/html3/CoverPage.html>>.

[HTML3-19960506] *W3C Document Type Definition for the HyperText Markup Language*, Dave Raggett, 6 May 1996 (平成8年5月6日).

[HTML3-19970113] *HTML 3.2 Reference Specification*, W3C, 13 January 1997 (平成9年1月13日), <<https://web.archive.org/web/20061021172537/http://www.w3.org/TR/REC-html32-970113.html>>.

[HTML3-19970114] *HTML 3.2 Reference Specification*, Dave Raggett, 14 January 1997 (平成9年1月14日), <<https://web.archive.org/web/20061108212618/http://www.w3.org/TR/REC-html32>>.

[HTML3LE19951220] *HTML3 Linking and Embedding Model*, W3C, 20 December 1995 (平成7年12月20日), <<https://www.w3.org/TR/WD-insert-951220.html>>.

[HTML3LE19960226] *HTML3 Linking and Embedding Model*, W3C, 26 February 1996 (平成8年2月26日), <<https://www.w3.org/TR/WD-object-960226.html>>.



[HTML32-19970113]



[HTML32-19970114]



[HTML3LE  
19951220]



[HTML3LE  
19960226]

[HTML4-19960710] *Cougar*, Dave Raggett, 10 July 1996  
(平成8年7月10日).



[HTML4-19970708:Forms]  
[HTML4-19970708]

[HTML4-19970708:Forms] “Forms in HTML documents,” in *HTML 4.0 Specification*, W3C, 8 July 1997 (平成9年7月8日), <<https://www.w3.org/TR/WD-html40-970708/interact/forms.html>>.



[HTML4-19970708:text]  
[HTML4-19970708]

[HTML4-19970708:text] “Paragraphs, Lines, and Phrases,” in *HTML 4.0 Specification*, 8 July 1997 (平成9年7月8日), <<https://www.w3.org/TR/WD-html40-970708/struct/text.html>>.

[HTML4-19971107:forms] *Forms in HTML documents*, W3C, 7 November 1997 (平成9年11月7日), <<https://www.w3.org/TR/PR-html40-971107/interact/forms.html#h-17.3.3>>.



[HTML4-19971107:forms]  
[HTML4-19971107]

[HTML4-19971107:text] “Paragraphs, Lines, and Phrases,” in *HTML 4.0 Specification*, 7 November 1997 (平成9年11月7日), <<https://www.w3.org/TR/PR-html40-971107/struct/text.html>>.

[HTML4-19971218] *HTML 4.0 Specification*, W3C, 18 December 1997 (平成9年12月18日), <<https://www.w3.org/TR/REC-html40-971218/>>.

[HTML4-19971218:about]  
[HTML4-19971218]



[HTML4-19971218:about]  
[HTML4-19971218]

[HTML4-19971218:notes] “Performance, Implementation, and Design Notes,” in *HTML 4.0 Specification*, W3C, 18 December 1997 (平成9年12月18日), <<https://www.w3.org/TR/REC-html40-971218/appendix/notes.html>>.



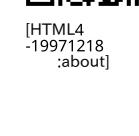
[HTML4-19971218:notes]  
[HTML4-19971218]

[HTML4-19971218:text] “Paragraphs, Lines, and Phrases,” in *HTML 4.0 Specification*, 18 December 1997 (平成9年12月18日), <<https://www.w3.org/TR/REC-html40-971218/struct/text.html>>.



[HTML4-19971218:text]  
[HTML4-19971218]

[HTML4-19980424] *HTML 4.0 Specification*, W3C, 24 April 1998 (平成10年4月24日), <<https://www.w3.org/TR/1998/REC-html40-19980424/>>.



[HTML4-19991224] *HTML 4.01 Specification*, W3C, 24 December 1999 (平成11年12月24日), <<https://www.w3.org/TR/1999/REC-html401-19991224/>>.



[HTML4-19991224]



[HTML4-19980424]



[HTML4-19971218]



[HTML4-19971218:notes]



[HTML6]

[HTML6] *The WHATWG Blog — Plans for HTML6*, Lachlan Hunt, 1 April 2007 (平成19年4月1日), <<https://blog.whatwg.org/html6-plan>>.



[HTML:AddCustom] *Add custom elements to HTML*, domenic, 14 April 2016 (平成28年4月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/6e7eaa4bd2912965fd83766f99f984f249531f3a>>.



[HTML:AddSearch] *Add the <search> element*, domenic, 24 March 2023 (令和5年3月24日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/c598ff023f081dd3f03b2e43177a632fb7dc92ec>>.

[HTML:AddCustom]

[HTML:DeprecateKeygen] *Deprecate <keygen> and appcache*, annevk, 28 August 2015 (平成27年8月28日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/1b438067d84da2ee95988842cd8fe2655444936>>.



[HTML:RbRtc] *Support rb and rtc elements in the parser (ruby)*, annevk, 11 September 2015 (平成27年9月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/8d1c8affec71058de29f8051cb2fa7f7bbad1fe6>>.

[HTML:AddSearch]



[HTML:RemoveKeygen] *Remove <keygen>*, domenic, 14 January 2017 (平成29年1月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/5baa38720f6e83c94a50018c4565808ad548d69c>>.

[HTML:Deprecate Keygen]

[HTML:XMLXHTML] *Refer to XML rather than XHTML syntax*, sideshowbarker, 25 November 2016 (平成28年11月25日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/643d1bce74435ec5e7980245e3ab2669b2bc985b>>.



[HTMLLang] *GitHub - tsoding/HTMLLang: HTML as a Programming Language. Finally all of your dreams came true.*, 6 April 2021 (令和3年4月6日), <<https://github.com/tsoding/HTMLLang>>.

[HTML:RbRtc]



[HTMLLangGet] *changed how you get variables so that you can get children of objects...*, RJ-Infinity, 23 April 2023 (令和5年4月23日), <<https://github.com/RJ-Infinity/HTMLLang/commit/5aac72d72768f620cc4d57f65d39816edba6ab68>>.

[HTML:Remove Keygen]



[HTML:XMLXHTML]



[HTMLLang]



[HTMLLangGet]

[HTMLasPL] *GitHub* - *HTML-as-programming-language/HTML-as-programming-language: A programming language that looks like HTML*, 27 February 2020 (令和2年2月27日), <<https://github.com/HTML-as-programming-language/HTML-as-programming-language/tree/master>>.



[HTMLasPL]

[HmLayout:log] *Terra Informatica Software, Inc.*, Terra Informatica Software Design, 5 December 2010 (平成22年12月5日), <<https://web.archive.org/web/201101081723/http://www.terraininformatica.com/htmlayout/logfile.whtm>>.



[HmLayout:log]

[HmLayout:log310] *Terra Informatica Software Design*, 5 October 2006 (平成18年10月5日), <<https://web.archive.org/web/20110221025439/http://www.terraininformatica.com/htmlayout/logfile310.htm>>.



[HmLayout:log310]

[HmLayout:log320] *Terra Informatica Software Design*, 4 May 2008 (平成20年5月4日), <<https://web.archive.org/web/20100325111913/http://www.terraininformatica.com/htmlayout/logfile320.htm>>.



[HmLayout:log320]

[HmLayout:tags] *HTMLLayout specific tags*, *Terra Informatica Software Design*, 2003 (平成15年), <<https://web.archive.org/web/20101123213344/http://terraininformatica.com/htmlayout/tags.whtm>>.



[HmLayout:tags]

[HmLayoutML] *HtmLayout markup language*, *Terra Informatica Software Design*, 2003 (平成15年), <<https://web.archive.org/web/20041224034631/http://www.terraininformatica.com/htmlayout.old/htmlex.htm>>.



[HmLayoutML]

[HTMLBG] “HTML background,” in *W3C Journal*, 1997 (平成9年), <<https://web.archive.org/web/19980202200106/http://www.w3journal.com/5/s1.discussn.html>>.



[HTMLBG]

[HTMDDTDDave] *Re: HTML DTD*, *Dave Raggett*, 19 May 1993 (平成5年5月19日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q2/0354.html>>.



[HTMDDTDDave]

[HtmlLang] *GitHub* - *joelnet/html-lang: HTML is a Programming Language!*, 4 January 2022 (令和4年1月4日), <<https://github.com/joelnet/html-lang>>.



[HtmlLang]

[HTMLPro] *The HTML Professional DTD*, *Peter Flynn*, 1 January 1997 (平成9年1月1日), <<https://web.archive.org/web/19970512004934/http://www.ucc.ie/html/dtds/htmlpro.html>>.



[HTMLPro]



[HtmlLang]



[HTMDDTDDave]



[HTMLBG]

- [HTMLr1019] *HTML5 r1019*, Hixie, 19 September 2007  
(平成19年9月19日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/846414cd98078c8ab28fd2a8b27942bd4ccadbd7>>.
- [HTMLr1232] *HTML5 r1232*, Hixie, 18 February 2008  
(平成20年2月18日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a1b2ff77457cf198c77975b98f245985d3ba5635>>.
- [HTMLr133] *HTML5 r133*, Hixie, 29 September 2006  
(平成18年9月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/977127c8b6e5ad1059ab1914bb335185376d1eb8>>.
- [HTMLr1400] *HTML5 r1400*, Hixie, 5 April 2008  
(平成20年4月5日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/679ec1e236fc0b28a3bab360206f622bbc078b6b>>.
- [HTMLr1401] *HTML5 r1401*, Hixie, 5 April 2008  
(平成20年4月5日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/08ef3826f902c4b0859487552ac4b496fcfd5c416>>.
- [HTMLr1404] *HTML5 r1404*, Hixie, 5 April 2008  
(平成20年4月5日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/1ff9688ab0090e646f69d64e57c814ca44f584b7>>.
- [HTMLr1434] *HTML5 r1434*, Hixie, 12 April 2008  
(平成20年4月12日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/5eb0ae8312fa2afa3d911ca4335e764d95583418>>.
- [HTMLr15] *HTML5 r15*, Hixie, 29 March 2006  
(平成18年3月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/f8514de7d2d2f408e0f695dd1af3dc110f556c00>>.
- [HTMLr1400] *HTML5 r1511*, Hixie, 29 April 2008  
(平成20年4月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/bd2c20622f8b7f19bf1fe1faa7e83abfaf8607e2>>.
- [HTMLr1637] *HTML5 r1637*, Hixie, 20 May 2008  
(平成20年5月20日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/f6490f17f577fa3478791b29ad8c2b586418001f>>.
- [HTMLr1401] *HTML5 r1704*, Hixie, 26 May 2008  
(平成20年5月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/f4efc73617bb37e721828ba03fe3da1642ce40c9>>.



[HTMLr1434]



[HTMLr15]



[HTMLr1511]



[HTMLr1637]



[HTMLr1704]

[HTMLr1731] *HTML5 r1731*, Hixie, 7 June 2008  
(平成20年6月7日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/265d8350a4e16eac900e6d778798710093dbd6fe>>.



[HTMLr1731]

[HTMLr1863] *HTML5 r1863*, Hixie, 11 July 2008  
(平成20年7月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/d157945d0285b4463a04b57318da0c4b300a99e7>>.



[HTMLr1863]

[HTMLr1894] *HTML5 r1894*, Hixie, 22 July 2008  
(平成20年7月22日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/93f87d3abab2f321e0454f880eedf3433f5c6621>>.



[HTMLr1894]

[HTMLr207] *HTML5 r207*, Hixie, 26 October 2006  
(平成18年10月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/879a72196720e169d339f976545439189bd2fc4f>>.



[HTMLr207]

[HTMLr208] *HTML5 r208*, Hixie, 26 October 2006  
(平成18年10月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/4075f1e21b142f4fc05188f4f0239260662c49a7>>.



[HTMLr208]

[HTMLr210] *HTML5 r210*, Hixie, 26 October 2006  
(平成18年10月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/6bdcd9dc9da3f21cb61f0f8c123ed2d252cd2583>>.



[HTMLr210]

[HTMLr2142] *HTML5 r2142*, Hixie, 3 September 2008  
(平成20年9月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/f3fd8d27785712f8bf62ec9a0bbb95111df59c5e>>.



[HTMLr2142]

[HTMLr2143] *HTML5 r2143*, Hixie, 3 September 2008  
(平成20年9月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/62a6f3ee9bf8b6b5ecccb97b60fa949d482174e1>>.



[HTMLr2143]

[HTMLr2144] *HTML5 r2144*, Hixie, 3 September 2008  
(平成20年9月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/6c8abb44fe635372dfc6cd49c2427b401550ad92>>.



[HTMLr2144]

[HTMLr2145] *HTML5 r2145*, Hixie, 3 September 2008  
(平成20年9月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/fe5d39724d647c0ab3d7bb11f9149800c9edd7bd>>.



[HTMLr2145]

[HTMLr2146] *HTML5 r2146*, Hixie, 4 September 2008  
(平成20年9月4日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/62b5a0e8a5401979e39444abd25b69266a198bf8>>.



[HTMLr2146]



[HTMLr2146]



[HTMLr2145]



[HTMLr2144]



[HTMLr2143]

 [HTMLr2148] *HTML5 r2148*, Hixie, 4 September 2008  
(平成20年9月4日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/739a3c891529b7be0ee55b6c2b65588872205917>>.

 [HTMLr2150] *HTML5 r2150*, Hixie, 4 September 2008  
(平成20年9月4日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/332cebecd184742e7598d76318775aed688b1dab>>.

 [HTMLr2151] *HTML5 r2151*, Hixie, 4 September 2008  
(平成20年9月4日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/2984402d970c550bd1508336217345917126a7cc>>.

 [HTMLr2152] *HTML5 r2152*, Hixie, 4 September 2008  
(平成20年9月4日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/bf9bca6fb670a4318e28bb39edcfcdb7b85258aa>>.

 [HTMLr2153] *HTML5 r2153*, Hixie, 5 September 2008  
(平成20年9月5日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/b8e512670542d102eedf8f8b0de34f22e783b8bd>>.

 [HTMLr2154] *HTML5 r2154*, Hixie, 5 September 2008  
(平成20年9月5日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/952f47dfb772ac6aeea700263a64e36467fd5d79>>.

 [HTMLr2151] *HTML5 r236*, Hixie, 1 November 2006  
(平成18年11月1日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/ca90a8be5f305c34a0b73d8af591ca358ef3951d>>.

 [HTMLr238] *HTML5 r238*, Hixie, 2 November 2006  
(平成18年11月2日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/78a7b2ab829d3010266c0e6a9bb846efef0dfa09>>.

 [HTMLr2152] *HTML5 r240*, Hixie, 2 November 2006  
(平成18年11月2日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/50796195358086318c5e0cca8dc64c679974ef5c>>.

 [HTMLr2484] *HTML5 r2484*, Hixie, 30 November 2008  
(平成20年11月30日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/4729c364f47e05fffb1e8b6b4c3b495705092cf58>>.

 [HTMLr2153] *HTML5 r2486*, Hixie, 30 November 2008  
(平成20年11月30日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/1ce5300ecb0d342584dd55a5a6f6e6e168077fb>>.



[HTMLr2154]



[HTMLr236]



[HTMLr238]



[HTMLr240]



[HTMLr2484]



[HTMLr2486]

[HTMLr277] *HTML5 r277*, Hixie, 10 November 2006  
(平成18年11月10日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/3e91ad36fb894d48e525a9d59dd1f467885b2056>>.



[HTMLr277]

[HTMLr2778] *HTML5 r2778*, Hixie, 11 February 2009  
(平成21年2月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/c7c3e7683f7fbdb988659888fa2df8d51b2d61dd>>.



[HTMLr2778]

[HTMLr278] *HTML5 r278*, Hixie, 10 November 2006  
(平成18年11月10日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/c69186ae0fd4d23baf8145883f3e863907bd4418>>.



[HTMLr278]

[HTMLr280] *HTML5 r280*, Hixie, 11 November 2006  
(平成18年11月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/c20d55135d0466b92456994c2b0261192ab56d29>>.



[HTMLr280]

[HTMLr282] *HTML5 r282*, Hixie, 11 November 2006  
(平成18年11月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/e69c82b06d56b5e87e7d75b42511659a322db272>>.



[HTMLr282]

[HTMLr287] *HTML5 r287*, Hixie, 14 November 2006  
(平成18年11月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/2ac31bb6b632383ef1f08f79b352df9bce9593b8>>.



[HTMLr287]

[HTMLr2870] *HTML5 r2870*, Hixie, 26 February 2009  
(平成21年2月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/43cbdbfb7eb74b0d65e0f4caab2020c0b2a16ff>>.



[HTMLr2870]

[HTMLr288] *HTML5 r288*, Hixie, 14 November 2006  
(平成18年11月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/7ccc7fc08735598557592c97d5e7d897ab2c1c78>>.



[HTMLr288]

[HTMLr289] *HTML5 r289*, Hixie, 14 November 2006  
(平成18年11月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/438d3386acc69747245f9c0d9015d3867b82d9a1>>.



[HTMLr289]

[HTMLr2960] *HTML5 r2960*, Hixie, 7 April 2009  
(平成21年4月7日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/3b0abe669f7f5f266a6f235b3e460cf6f5679fc4>>.



[HTMLr2960]



[HTMLr289]



[HTMLr288]



[HTMLr2870]



[HTMLr287]

[ [HTMLr3039] *HTML5 r3039*, Hixie, 1 May 2009  
(平成 21 年 5 月 1 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/7e9b2d1b87f50e2da6d6a8cb8fe2d6fcbae6cae4>>.

[ [HTMLr3040] *HTML5 r3040*, Hixie, 1 May 2009  
(平成 21 年 5 月 1 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a729fd0c57b9a8cc7ed783a03e72cf74549c9db>>.  
[HTMLr3039]

[ [HTMLr3100] *HTML5 r3100*, Hixie, 15 May 2009  
(平成 21 年 5 月 15 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/90336f6b5b6299066d62cb8c36f1c58e4e084ecd>>.

[ [HTMLr3133] *HTML5 r3133*, Hixie, 26 May 2009  
(平成 21 年 5 月 26 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/04e9529ce80cb08dc723e82cae91a98566f37fc0>>.  
[HTMLr3040]

[ [HTMLr3141] *HTML5 r3141*, Hixie, 27 May 2009  
(平成 21 年 5 月 27 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/b12863fafd50816b41805a1830777dfb81c8904c>>.

[ [HTMLr3183] *HTML5 r3183*, Hixie, 3 June 2009  
(平成 21 年 6 月 3 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/86c83746b0fb7630ebadb06681b0f73f271ca021>>.  
[HTMLr3100]

[ [HTMLr3502] *HTML5 r3502*, Hixie, 31 July 2009  
(平成 21 年 7 月 31 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/74c22f9103edfbf4f376bb183f80ee569674217b>>.

[ [HTMLr3555] *HTML5 r3555*, Hixie, 8 August 2009  
(平成 21 年 8 月 8 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/de556f4ee166a436d0566e40e4486850aab59b25>>.  
[HTMLr3133]

[ [HTMLr358] *HTML5 r358*, Hixie, 23 November 2006  
(平成 18 年 11 月 23 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/6b4f9a66ef6182d552ba5bfb1c87a8cabd59f79d>>.

[ [HTMLr359] *HTML5 r359*, Hixie, 23 November 2006  
(平成 18 年 11 月 23 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/fdfe6548265125712520f3e1b72812235e9a8123>>.

[ [HTMLr360] *HTML5 r360*, Hixie, 23 November 2006  
(平成 18 年 11 月 23 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/6ea26c5e3b39bb8ad99d6e5b14747b10d0a6b3d4>>.  
[HTMLr3141]



[HTMLr3183]



[HTMLr3502]



[HTMLr3555]



[HTMLr358]



[HTMLr359]



[HTMLr360]

[HTMLr361] *HTML5 r361*, Hixie, 26 November 2006  
(平成18年11月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/afc04cb92c239fdf03db01751379817cdc7ae725>>.



[HTMLr361]

[HTMLr3621] *HTML5 r3621*, Hixie, 14 August 2009  
(平成21年8月14日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/922c3a85c555209918e991209fde4124e7377b5>>.



[HTMLr3621]

[HTMLr363] *HTML5 r363*, Hixie, 26 November 2006  
(平成18年11月26日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/967ec89c0f160d612c30aa584f271674f7089f2f>>.



[HTMLr363]

[HTMLr365] *HTML5 r365*, Hixie, 28 November 2006  
(平成18年11月28日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/32bfff0ac1cc9a040ec4d45fdea206b4e9ce09059>>.



[HTMLr365]

[HTMLr3859] *HTML5 r3859*, Hixie, 15 September 2009  
(平成21年9月15日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/9c490f21ae094de128e5bc6d3111640014a195c7>>.



[HTMLr3859]

[HTMLr4022] *HTML5 r4022*, Hixie, 29 September 2009  
(平成21年9月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a09f97d42cbfadfaa139f36e43b5a6bbc221c3aa>>.



[HTMLr4022]

[HTMLr4066] *HTML5 r4066*, Hixie, 3 October 2009  
(平成21年10月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/28017bf6161d6211e94515463caff150103cdfb4>>.



[HTMLr4066]

[HTMLr417] *HTML5 r417*, Hixie, 8 December 2006  
(平成18年12月8日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/dc157f24a557979d457586a6e55ac14720d63bb2>>.



[HTMLr417]

[HTMLr4265] *HTML5 r4265*, Hixie, 21 October 2009  
(平成21年10月21日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/346bf527a8596ddd0d94e8ba5227d7595e5c4e3a>>.



[HTMLr4265]

[HTMLr4273] *HTML5 r4273*, Hixie, 23 October 2009  
(平成21年10月23日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/5fdfad361b40436138b389f01455fa0ebaae06a5>>.



[HTMLr4273]

[HTMLr4439] *HTML r4439*, Hixie, 12 December 2009  
(平成21年12月12日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a3e0301b87535dc637d68b67906f266d29bb321a>>.



[HTMLr4439]



[HTMLr4265]



[HTMLr4273]



[HTMLr4439]



[HTMLr417]



[HTMLr4066]

[HTMLr456] *HTML5 r456*, Hixie, 22 December 2006  
(平成 18 年 12 月 22 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/7f75de99cdef5686b5812ce14c88759aa70ab207>>.

[HTMLr4636] *HTML r4636*, Hixie, 30 January 2010  
(平成 22 年 1 月 30 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/c397495115b089ec52dbec45021159051134445f>>.  
[HTMLr456]

[HTMLr466] *HTML5 r466*, Hixie, 12 January 2007  
(平成 19 年 1 月 12 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/beb452e7c2134a41085175c7bb903a6a8e350cd0>>.

[HTMLr4956] *HTML r4956*, Hixie, 2 April 2010  
(平成 22 年 4 月 2 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/33fc385dc0248f1464af8d8286da1cb55d52eb9c>>.  
[HTMLr4636]

[HTMLr5067] *HTML r5067*, Hixie, 4 May 2010  
(平成 22 年 5 月 4 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a183c8997eb6f5647f9db27a9d3a52da86476d31>>.

[HTMLr5644] *HTML r5644*, Hixie, 23 October 2010  
(平成 22 年 10 月 23 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/bc740d78aab392c54efbe992af2063b88d7dcaf6>>.  
[HTMLr466]

[HTMLr5669] *HTML r5669*, Hixie, 5 November 2010  
(平成 22 年 11 月 5 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/29d7102ea5d923f807d44a402eeff6fafd8f35327>>.

[HTMLr5945] *HTML r5945*, Hixie, 14 March 2011  
(平成 23 年 3 月 14 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/76d736eab54686f44e1ad44457583bc9c5a344a6>>.  
[HTMLr4956]

[HTMLr6004] *HTML r6004*, Hixie, 14 April 2011  
(平成 23 年 4 月 14 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/4cf0cdcf02889d5f75b1f8803e94070968de1a4d>>.

[HTMLr674] *HTML5 r674*, Hixie, 9 March 2007  
(平成 19 年 3 月 9 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/845c40c8035ddccb20301433b2f1225a1203e4de>>.

[HTMLr6783] *HTML r6783*, Hixie, 29 October 2011  
(平成 23 年 10 月 29 日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/70b0ce45a26937a3f26eeb72b146261ff6210a1d>>.  
[HTMLr5067]

[HTMLr5644]



[HTMLr5644]



[HTMLr5945]



[HTMLr6004]



[HTMLr674]



[HTMLr6783]

[HTMLr6827] *HTML r6827*, Hixie, 19 November 2011  
(平成23年11月19日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/92baa8333203ea5b97316bb1775331b216d55dab>>.



[HTMLr6827]

[HTMLr687] *HTML5 r687*, Hixie, 23 March 2007  
(平成19年3月23日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/61af426a3ae6d68ffa00505b6883cbf870481b52>>.



[HTMLr687]

[HTMLr689] *HTML5 r689*, Hixie, 23 March 2007  
(平成19年3月23日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/37bbc4fa05ac4f5a9401e8f2bc7b7e4b7a2fd08c>>.



[HTMLr689]

[HTMLr7000] *HTML r7000*, Hixie, 29 June 2013  
(平成25年6月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/685a5e0b27e963f6b0a62a21cb95078171076e3b>>.



[HTMLr7000]

[HTMLr7050] *HTML r7050*, Hixie, 11 April 2012  
(平成24年4月11日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/2fb24fcf3f916236e8767e2cb72b23e5c75b77e9>>.



[HTMLr7050]

[HTMLr724] *HTML5 r724*, Hixie, 21 August 2012  
(平成24年8月21日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/857114d5aaebe48f918380463fb3739dc1c1b027>>.



[HTMLr724]

[HTMLr7602] *HTML r7602*, Hixie, 29 December 2012  
(平成24年12月29日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/9e2e25f4ae90969a7c64e0763c98548a35b50af8>>.



[HTMLr7602]

[HTMLr7680] *HTML r7680*, Hixie, 1 February 2013  
(平成25年2月1日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/7761b993b22765dbd26ca229d8d89bcb5044392c>>.



[HTMLr7680]

[HTMLr77] *HTML5 r77*, Hixie, 6 July 2006 (平成18年7月6日),  
<<https://github.com/whatwg/html/commit/f98736ae6caf9250ffaed0df557e214f0bf5aebd>>.



[HTMLr77]

[HTMLr8561] *HTML r8561*, Hixie, 3 April 2014  
(平成26年4月3日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/fd376b16b61bd1e6a82463f15c034a8ebac22a53>>.



[HTMLr8561]

[HTMLr8680] *HTML r8680*, Hixie, 18 June 2014  
(平成26年6月18日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/a7716b7a2463323c7f25176f4b3768008d170204>>.



[HTMLr8680]



[HTMLr8680]



[HTMLr8561]



[HTMLr77]



[HTMLr7680]



[HTMLr7602]



[HTMLRemoveApplet]

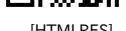
[HTMLRemoveApplet] *Remove <applet>*, zcorpan, 21 August 2017 (平成29年8月21日), <<https://github.com/whatwg/html/commit/b9b9d60f9451c05f8e8d542e4094f987ae1a5fb8>>.



[HTMLRES] *HTML Resource element*, W3C, 20 November 1995 (平成7年11月20日), <<https://www.w3.org/MarkUp/Resource/Specification>>.

[HTMLRES]

[HTMLScaleJoe] *Re: HTML Scalability*, Joe English, 23 January 1995 (平成7年1月23日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/HTML-WG/html-wg-95q1.messages/0213.html>>.



[HTMLStyle00] *HTML and Style Sheets*, Bos, Raggett, Lie, 22 November 1995 (平成7年11月22日), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-style-00>>.



[HTMLStyle01] *HTML and Style Sheets*, Bos, Raggett, Lie, 23 January 1996 (平成8年1月23日), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-style-01>>.



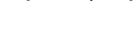
[HTMLTables19950707] *HTML Tables*, Dave Raggett, 7 July 1995 (平成7年7月7日), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-html-tables-00>>.



[HTMLTables19950925] *The HTML3 Table Model*, Dave Raggett, 25 September 1995 (平成7年9月25日), <<https://www.w3.org/TR/WD-tables-950925.html>>.



[HTMLTables19951222] *The HTML3 Table Model*, Dave Raggett, 22 December 1995 (平成7年12月22日), <<https://www.w3.org/TR/WD-tables-951222.html>>.



[HTMLTADS:Deviations] *HTML TADS deviations from standard HTML specifications*, 23 June 2007 (平成19年6月23日), <<https://www.tads.org/t3doc/doc/htmltads/deviate.htm>>.



[HTMLTADS:SM] *HTML TADS Sounds and Music*, 19 March 2011 (平成23年3月19日), <<https://www.tads.org/t3doc/doc/htmltads/sound.htm>>.



[HTMLTADS:WW] *Word Wrapping and Line Breaking in HTML TADS*, 13 December 2002 (平成14年12月13日), <<https://www.tads.org/t3doc/doc/htmltads/linebrk.htm>>.



[HTMLTables  
19950707]



[HTMLTables  
19950925]



[HTMLTables  
19951222]



[HTMLTADS  
:Deviations]



[HTMLTADS:SM]



[HTMLTADS:WW]

[HTMLTodoDan] *HTML todo list*, Dan Connolly, 11 January 1993 (平成5年1月11日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/www-talk-1993q1.messages/39.html>>.



[HTMLTodoDan]

[HTMLWiki:isindex] *Elements/isindex - HTML Wiki*, 14 December 2010 (平成22年12月14日), <<https://web.archive.org/web/20230216093940/https://www.w3.org/html/wiki/Elements/isindex>>.



[HTMLWiki:isindex]

[HTMLWiki:span] *Elements/span - HTML Wiki*, 14 December 2010 (平成22年12月14日), <<https://web.archive.org/web/20221205014248/https://www.w3.org/html/wiki/Elements/span>>.



[HTMLWiki:span]

[HTML提言] 『HTML文書についての提言』, 平田真夫, 宇宙暦28(1996)年9月1日 (平成8年), <<http://hp.vector.co.jp/authors/VA006226/essay/html.html>>。



[HTML提言]

[HTRQ] *Request -- /HTRQ*, Carl Barker, 11 June 1992 (平成4年6月11日), <<https://www.w3.org/History/19921103-hypertext/hypertext/WWW/MarkUp/HTRQ/Request.html>>.



[HTRQ]

[HTTPDelta] *HTTP: Delta-Encoding Notes*, Stephen Williams, 17 January 1997 (平成9年1月17日), <<https://web.archive.org/web/20001203063600/http://ei.cs.vt.edu/~williams/DIFF/prelim.html>>.



[HTTPDelta]

[HTTPDeltaOld] *HTTP: Delta-Encoding Notes*, Stephen Williams, 21 June 1996 (平成8年6月21日), <<https://web.archive.org/web/20020724001151/http://ei.cs.vt.edu/~williams/DIFF/prelim.old.html>>.



[HTTPDeltaOld]

[HTTPEx1] *Ex1 -- /HTTP*, Carl Barker, 16 April 1992 (平成4年4月16日), <<https://www.w3.org/History/19921103-hypertext/hypertext/WWW/Protocols/HTTP/Ex1.html>>.



[HTTPEx1]

[IE2DTD] *DTD for Internet Explorer 2.0 HTML*, Mark Buckley, 4 March 1996 (平成8年3月4日).



[IE2DTD]



[IE5BETA]



[HTTPEx1]



[HTTPDeltaOld]



[ietf-html-94dec]

[ietf-html-94dec] *Minutes of the HyperText Markup Language Working Group (HTML)*, Tom Magliery, 27 February 1995 (平成7年2月27日), <<https://ftp.ripe.net/ietf/html/html-minutes-94dec.txt>>.



[IframeSandbox] *The <iframe> element and sandboxing ideas*, Ian Hickson, 21 May 2008 (平成20年5月21日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2008-May/057147.html>>.

[iHTML] 『iモード対応HTMLのバージョン | サービス・機能 | NTT ドコモ』, NTT DoCoMo, Inc., 平成23(2011)年, <<https://web.archive.org/web/2011020132627/http://www.nttdocomo.co.jp/service/developer/make/content/browser/html/version/index.html>>。

[InAW:+1] *Inside AdWords: The +1 button & AdWords*, Dan Friedman, 30 March 2011 (平成23年3月30日), <<https://adwords.googleblog.com/2011/03/1-button-adwords.html>>.

[INCLUDEJonas] *<include> element*, Jonas Sicking, 23 April 2007 (平成19年4月23日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2007-April/053278.html>>.

[INCLUDELinks] *<INCLUDE> and links with @rel=embed*, bjartur, 18 May 2010 (平成22年5月18日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2010-May/068635.html>>.

[INCLUDELinksHixie1] *<INCLUDE> and links with @rel=embed*, Ian Hickson, 3 August 2010 (平成22年8月3日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2010-August/069853.html>>.

[INCLUDELinksHixie2] *<INCLUDE> and links with @rel=embed*, Ian Hickson, 26 August 2010 (平成22年8月26日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2010-August/070472.html>>.

[INFRA] *Infra Standard*, WHATWG, <<https://infra.spec.whatwg.org/>>. 令和6(2024)年10月19日閲覧。

[InitHeaderDave] *Initializing HTTP headers from HTML documents*, Dave Raggett, 5 January 1994 (平成6年1月5日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1994q1/0022.html>>.



[iHTML]



[InAW:+1]



[INCLUDEJonas]



[INCLUDELinks]



[INCLUDELinksHixie1]



[INCLUDELinksHixie2]



[INFRA]



[InitHeaderDave]

[INPUTDan] *Re: INPUT tag (was: Searching)*, Dan Connolly, 19 January 1993 (平成5年1月19日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q1/0083.html>>.



[INPUTDan]

[InteractiveHyper] *interactive hypermedia*, Jim Whitescarver, 27 November 1992 (平成4年11月27日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0124.html>>.



[InteractiveHyper]

[IntroCanvas] *Introducing the Canvas*, Dave Hyatt, 5 July 2004 (平成16年7月5日), <[https://web.archive.org/web/20100125023023/http://weblogs.mozilla.org/hyatt/archives/2004\\_07.html#005913](https://web.archive.org/web/20100125023023/http://weblogs.mozilla.org/hyatt/archives/2004_07.html#005913)>.



[IntroCanvas]

[IntroDSSSL] *Introduction to DSSSL*, Paul Prescod, 25 July 1997 (平成9年7月25日), <<https://web.archive.org/web/19980213143640/http://itrc.uwaterloo.ca/%7Epapresco/dsssl/tutorial.html>>.

[Involvement] *My involvement with the early days of the Web*, Dave Raggett, 1 December 2004 (平成16年12月1日), <<https://www.w3.org/People/Raggett/the-early-days-of-the-Web.html>>.



[Involvement]

[ISBNMarkup] *ISBN mark-up*, Andy Mabbett, 21 April 2006 (平成18年4月21日), <<http://microformats.org/discuss/mail/microformats-discuss/2006-April/003805.html>>.



[ISBNMarkup]

[ISINDEXDocs] *ISINDEX on documents*, KHOADLEY, 13 November 1992 (平成4年11月13日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1992/0291.html>>.



[ISO8879] ISO 8879 : 1986, *Information processing — Text and office systems — Standard Generalized Markup Language (SGML)*, ISO, 23 October 1986 (昭和61年10月23日). [SGMLHB] 所収。

[ISOHTML19970327] *ISO HyperText Markup Language Document Type Definition, an SGML system conforming to International Standard ISO 8879*, International Organization for Standardization, 1997 (平成9年).



[ISOHTML19970327]

[ISOHTML2000] ISO/IEC 15445 : 2000(E), *ISO/IEC 15445:2000(E) ISO-HTML*, ISO/IEC, 13 November 2000 (平成12年11月13日), <<https://web.archive.org/web/200001121204500/http://woodworm.cs.uml.edu/~rprice/15445/15445.html>>.



[ISOHTML2000]



[ISINDEXDocs]



[ISOHTML2003]

[ISOHTML2003] *ISO/IEC 15445:2000(E) ISO-HTML*, ISO/IEC, 24 April 2003 (平成15年4月24日), <<https://web.archive.org/web/20050722080214/http://woodworm.cs.uml.edu/~rprice/15445/15445.html>>.



[ISOHTMLUG2000]

[ISOHTMLUG2000] *User's Guide to ISO/IEC 15445:2000(E) ISO-HTML*, Roger Price, David Abrahamson, 13 November 2000 (平成12年11月13日), <<https://web.archive.org/web/20001201204900/http://woodworm.cs.uml.edu/~rpri ce/15445/UG.html>>.



[ISOHTMLUG2003]

[ISOHTMLUG2003] *User's Guide to ISO/IEC 15445:2000(E) ISO-HTML*, 24 April 2003 (平成15年4月24日), <<https://web.archive.org/web/20050530074719/http://woodworm.cs.uml.edu/~rprice/15445/UG.html>>.



[ISWEBDTD]

[ISWEBDTD] 『<http://www.satoshi.org/dtd/isweb/>』, 石川哲志, 平成15(2003)年11月30日, <<https://www.satoshi.org/dtd/isweb/>>。

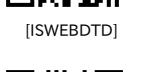


[ITS1]

[ITS1] *Internationalization Tag Set (ITS) Version 1.0*, W3C, 3 April 2007 (平成19年4月3日), <<https://www.w3.org/TR/2007/REC-its-20070403/>>.



[iXBRL] *Inline XBRL Part 1: Specification 1.0*, XBRL International Inc., 20 April 2010 (平成22年4月20日), <<http://www.xbrl.org/Specification/inlineXBRL-part1/REC-2010-04-20/inlineXBRL-part1-REC-2010-04-20.html>>.



[iXHTML] 『DoCoMo Net-iモード対応 XHTML』, 平成15(2003)年2月10日, <<https://web.archive.org/web/20030210181633/http://www.nttdocomo.co.jp/mc-user/i/xhtml/hikaku.html>>。



[iXBRL]

[JepaX] 『JepaX』, 日本電子出版協会出版データフォーマット標準化研究委員会, 平成11(1999)年9月30日, <<https://web.archive.org/web/20010308071816/http://x.jepa.or.jp/jepax/spec/jepaxspec09-sjis.html>>。



[JISTRX0010-1998] TR X 0010 : 1998, 『日本語組版のDSSSLライブラリ』, 日本工業標準調査会, 平成13(2001)年8月19日, <<http://www.y-adagio.com/public/standards/dsllib/toc.htm>>。



[iXHTML]



[JepaX]



[JISTRX0010-1998]

[JISTRX0010-2000] TR X 0010 : 2000,『日本語組版のDSSSLライブラリ』, 日本工業標準調査会, 平成 13 (2001) 年 8 月 19 日, <[http://www.y-adagio.com/public/standards/tr\\_dsl/lib\\_rev/toc.htm](http://www.y-adagio.com/public/standards/tr_dsl/lib_rev/toc.htm)>。



[JISTRX0010-2000]

[JISX4052] JIS X 4052 : 2000,『日本語文書の組版指定交換形式』, 日本工業標準調査会, 平成 12 (2000) 年。



[JISX4052]

[JISX4151] JIS X 4151-1992, 『SGMLindex.html, Latest updated 2015.07.16』, 日本工業標準調査会, 日本ユニシス株式会社, 平成 27 (2015) 年 7 月 19 日, <<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~7lirll/SGMLindex.html>>。



[JISX4151]

[JSGUIDE] *JavaScript Guide*, Netscape Communications Corporation, 1996 (平成 8 年), <<https://web.archive.org/web/20010208103254/http://home.netscape.com/eng/mozilla/3.0/handbook/javascript/getstart.htm#996824>>。

[JSGUIDE]

[KB272246] 『FrontPage を使用する IFRAME タグを使用するバナー広告を作成する方法』, Microsoft Corporation, 西暦 2007 年 1 月 29 日 (平成 19 年 1 月 29 日), <<https://web.archive.org/web/20070209120646/http://support.microsoft.com/kb/272246/ja>>。



[KB272246]

[KeepSimplePei] *Re: Keeping HTML Simple & Format negotiation between Browser & Server*, Pei Y. Wei, 28 May 1993 (平成 5 年 5 月 28 日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q2/0411.html>>.

[KINDER] *Spiderman and the XHTML Kindergarten*, Bjoern Hoehrmann, 14 May 2009 (平成 21 年 5 月 14 日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-archive/2009May/0029.html>>。



[KINDER]

[KolektiPub] waloo, 17 juillet 2008 (平成 20 年 7 月 17 日), <<https://svn.kolekti.org/svn/kolekti/historic/kolekti-0.4/dtd/publication.dtd>>。



[KolektiPub]

[LATEX209] *latex209.tar.gz*, 22 January 1997 (平成 9 年 1 月 22 日), <<https://mirrors.ctan.org/obsolete/macros/latex209/distrib/latex209.tar.gz>>.



[LATEX209]

[LeXML] 『Le』, Digital Assist, Ltd., 令和 3 (2021) 年 9 月 1 日, <<https://www.d-assist.com/LeXML310.pdf>>。



[LeXML]



[LeXML]



[LinksRangeDan]

[LinksRangeDan] *Re: Links that refer to a range of text, not just a point.*, Dan Connolly, 24 June 1992 (平成4年6月24日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992MayJun/0058.html>>.

[LIVEGEEZ] *The LiveGe'ez Remote Processing Protocol*, Daniel Yacob, January 1999 (平成11年1月), <<https://web.archive.org/web/20000824103755/http://libeth.netpedia.net/LiveGeez.html>>.

[LM011a] *WorldWideWeb distributed code*, Tim Berners-Lee, 21 August 1991 (平成3年8月21日), <[https://web.archive.org/web/20140727092012/http://www.openstep.de/net/www/apps/historic/WWLineMode\\_0.11a.tar.gz](https://web.archive.org/web/20140727092012/http://www.openstep.de/net/www/apps/historic/WWLineMode_0.11a.tar.gz)>.

[LM10a] *WorldWideWeb distributed code*, Tim Berners-Lee, 13 December 1991 (平成3年12月13日), <[https://web.archive.org/web/20160905012644/http://www.nic.funet.fi/index/WWW/CERN/WWLineMode\\_1.0alpha.tar.Z](https://web.archive.org/web/20160905012644/http://www.nic.funet.fi/index/WWW/CERN/WWLineMode_1.0alpha.tar.Z)>.

[LMHistory] *Change History of Line Mode Browser*, Tim Berners-Lee, Henrik Frystyk, 23 April 1998 (平成10年4月23日), <<https://www.w3.org/LineMode/User/Features.html>>.



[LM011a]

[Location6] *Web Proposal: Location-aware Content Tag in HTML 6*, 11 October 2023 (令和5年10月11日), <<https://www.aamotsoftware.com/location.html>>.

[Location:Initial] *Initial Location push/pull*, oleamot, 22 June 2014 (平成26年6月22日), <<https://github.com/location/location/commit/0acb5a0472caf6c1271fad4eb90d4c0ad33187c2>>.



[LM10a]

[LWWWHistory] *Change History for W3C Sample Code Library*, José Kahan, 5 January 2017 (平成29年1月5日), <<https://www.w3.org/Library/User/History.html>>.

[Lynx2.7.1] *Lynx Users Guide v2.7.1*, 8 August 1997 (平成9年8月8日), <[http://leb.net/blinux/blynx/Lynx\\_users\\_guide.html](http://leb.net/blinux/blynx/Lynx_users_guide.html)>.



[LWWWHistory]

[M12N20001020] *Modularization of XHTML*, W3C, 20 October 2000 (平成12年10月20日), <<https://www.w3.org/TR/2000/CR-xhtml-modularization-20001020/xhtml-modularization-20001020.html>>.



[M12N20001020]



[Location:Initial]



[LWWWHistory]



[Lynx2.7.1]



[M12N20001020]

[M12N20010410] *Modularization of XHTML*, W3C, 10 April 2001 (平成13年4月10日), <<https://www.w3.org/TR/2001/REC-xhtml-modularization-20010410/xhtml-modularization.html>>.



[M12N20010410]

[M12N20081008] *XHTML™ Modularization 1.1*, W3C, 8 October 2008 (平成20年10月8日), <<https://www.w3.org/TR/2008/REC-xhtml-modularization-20081008/>>.

[M12N20081008]

[M12N20100715] *XHTML™ Modularization 1.1 - Second Edition*, W3C, 15 July 2010 (平成22年7月15日), <<https://www.w3.org/MarkUp/2010/REC-xhtml-modularization-2010-0715/>>.



[M12N20100715]

[M4HMapProposal] *HTML <map> Element Proposal*, W3C Maps for HTML Community Group, 4 October 2017 (平成29年10月4日), <<https://maps4html.org/HTML-Map-Element/spec/>>.

[M12N20081008]

[MAIN20121217] *main element - an HTML5 extension specification*, W3C, 17 December 2012 (平成24年12月17日), <<https://www.w3.org/TR/2012/WD-html-main-element-20121217/>>.

[M12N20100715]

[MAINCONTENT] *maincontent element*, Steve Faulkner, 9 September 2012 (平成24年9月9日), <<http://www.html5accessibility.com/tests/maincontent.html>>.

[M12N20100715]

[MAPML] *Map Markup Language*, W3C Maps for HTML Community Group, 21 August 2024 (令和6年8月21日), <<https://maps4html.org/MapML-Specification/spec/>>.



[M4HMap  
Proposal]

[MathML] *Mathematical Markup Language (MathML) Version 4.0*, W3C, 28 October 2024 (令和6年10月28日), <<https://w3c.github.io/mathml/spec.html>>.



[MAIN20121217]

[MathML3] *Mathematical Markup Language (MathML) Version 3.0*, W3C, 21 October 2010 (平成22年10月21日), <<https://www.w3.org/TR/2010/REC-MathML3-20101021/>>.



[MAIN20121217]

[MathMLCore] *MathML Core*, W3C, 17 September 2024 (令和6年9月17日), <<https://w3c.github.io/mathml-core/>>.



[MAIN20121217]

[MDNOTES] Ian Hickson, 25 September 2009 (平成21年9月25日), <<http://damowmow.com/playground/microdata/NOTES>>.

[MAINCONTENT]



[MDNOTES]



[MathMLCore]



[MathML3]



[MathML]



[MAPML]



[ME:3xCORE] *initial 3.x core*, johndyer, 21 July 2016  
(平成 28 年 7 月 21 日), <<https://github.com/mediaelement/mediaelement/commit/731d84da078fe6c88f98e168ed4b2d51103fb4fb>>.

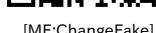


[ME:ChangeFake]

[ME:ChangeFake] *Change default value for fakeNodeName to 'div' for w3c validation* (#2800, digitas-git, 16 July 2021  
(令和 3 年 7 月 16 日), <<https://github.com/mediaelement/mediaelement/commit/f1e17b993c43fdb48f396c25b68d50986e538f1d>>.



[MML2:Parsing] “*Parsing MathML*,” in *Mathematical Markup Language (MathML) Version 2.0*, W3C, 21 February 2001  
(平成 13 年 2 月 21 日), <<https://www.w3.org/TR/2001/REC-MathML2-20010221/appendixa.html>>.



[ModBroadcast] *A Modular Hypertext Markup Language for Broadcast Applications*, ATSC T3/S17 specialist group, 1 October 1998 (平成 10 年 10 月 1 日), <<http://xml.coverpages.org/bhtml-4.html>>.



[ModelBrian] <*model*>: *A 3D Equivalent to <img>*, Brian Blakely, 30 October 2009 (平成 21 年 10 月 30 日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2009-October/066173.html>>.



[Modellan] <*model*>: *A 3D Equivalent to <img>*, Ian Hickson, 9 December 2009 (平成 21 年 12 月 9 日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2009-December/066672.html>>.



[ModuleTag] *The <module> Tag*, Douglas Crockford, 30 October 2006 (平成 18 年 10 月 30 日), <<https://web.archive.org/web/20061216064835/http://www.json.org/module.html>>.



[ModuleTagDave] *GitHub - dherman/module-tag: Specs for the module tag*, 29 September 2014 (平成 26 年 9 月 29 日), <<https://github.com/dherman/module-tag>>.



[MOMDave1] *Re: RFC: Multi-Owner Maintenance robot (MOMspider)*, Dave Raggett, 6 December 1993 (平成 5 年 12 月 6 日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q4/0717.html>>.



[Modellan]



[ModuleTag]



[ModuleTagDave]



[MOMDave1]

[MOMDave2] *Re: RFC: Multi-Owner Maintenance robot (MOMspider)*, Dave Raggett, 7 December 1993 (平成5年12月7日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q4/0753.html>>.



[MOMDave2]

[MOMRoy1] *RFC: Multi-Owner Maintenance robot (MOMspider)*, Roy T. Fielding, 6 December 1993 (平成5年12月6日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q4/0714.html>>.



[MOMRoy1]

[MOMRoy2] *Re: RFC: Multi-Owner Maintenance robot (MOMspider)*, Roy T. Fielding, 7 December 1993 (平成5年12月7日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q4/0750.html>>.



[MOMRoy2]

[MOSAIC010:Released] *NCSA Mosaic for X 0.10 released*, Marc Andreessen, 14 March 1993 (平成5年3月14日), <<http://web.archive.org/web/19970524005359/http://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/.www-talk-1993q1.messages/254.html>>.



[MOSAIC010:Released]

[MOSAIC20:Form] *Mosaic for X version 2.0 Fill-Out Form Support*, 6 April 1994 (平成6年4月6日), <<https://www.w3.org/MarkUp/html-test/ncsa/forms-overview.html>>.



[Moz163050] *163050 - (blinquee) Create New HTML Tag <BLINQUEE>*, 2005 (平成17年), <[https://bugzilla.mozilla.org/show\\_bug.cgi?id=163050](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=163050)>.



[MOSAIC010 :Released]

[Moz676236] *676236 - Add support for the <menuitem> element to the HTML parser*, 10 October 2022 (令和4年10月10日), <[https://bugzilla.mozilla.org/show\\_bug.cgi?id=676236](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=676236)>.



[MOSAIC20 :Form]

[Moz738172] *738172 - Switch from <iframe mozbrowser> to <webview> (or whatever)*, 7 November 2022 (令和4年11月7日), <[https://bugzilla.mozilla.org/show\\_bug.cgi?id=738172](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=738172)>.



[Moz163050]

[MozWiki:XUL] *XUL:Home Page - MozillaWiki*, 12 March 2010 (平成22年3月12日), <[https://wiki.mozilla.org/XUL:Home\\_Page](https://wiki.mozilla.org/XUL:Home_Page)>.



[Moz676236]



[MozWiki:XUL]



[Moz738172]



[MSDHTML:Comment]

[MSDHTML:Comment] *HTML Comment Element | HTML Comment Object*, Microsoft Corporation, 11 October 2000 (平成12年10月11日), <<https://web.archive.org/web/200001011194325/http://msdn.microsoft.com/workshop/author/dhtml/reference/objects/htmlcomment.asp>>.



[MSDHTML:Cond Comments]

[MSDHTML:CondComments] *Conditional Comments*, InetSDK, 17 April 2001 (平成13年4月17日), <[https://web.archive.org/web/20010417124315/http://msdn.microsoft.com/workshop/author/dhtml/overview/ccomment\\_owl.asp](https://web.archive.org/web/20010417124315/http://msdn.microsoft.com/workshop/author/dhtml/overview/ccomment_owl.asp)>.



[MSDHTML:Custom]

[MSDHTML:Custom] *Using Custom Tags in Internet Explorer*, Microsoft Corporation, 16 October 2000 (平成12年10月16日), <<https://web.archive.org/web/200001016031202/http://msdn.microsoft.com/workshop/author/dhtml/overview/customTags.asp>>.



[MSDHTML:DOCTYPE]

[MSDN:HTC] *HTC Reference*, Microsoft Corporation, 1 November 2000 (平成12年11月1日), <<https://web.archive.org/web/20001101060555/http://www.msdn.microsoft.com/workshop/components/htc/reference/htcref.asp>>.



[MSDN:NetscapeBookmark] *Netscape Bookmark File Format (Internet Explorer) | Microsoft Learn*, Microsoft, 15 August 2017 (平成29年8月15日), <[https://learn.microsoft.com/en-us/previous-versions/windows/internet-explorer/ie-developer/platform-apis/aa753582\(v=vs.85\)](https://learn.microsoft.com/en-us/previous-versions/windows/internet-explorer/ie-developer/platform-apis/aa753582(v=vs.85))>.



[MSDN:HTC]

[MSDN:XMLDI] *XML Data Islands*, Microsoft Corporation, 25 October 2000 (平成12年10月25日), <<https://web.archive.org/web/20001025170632/http://msdn.microsoft.com/xml/xmlguide/dataIslandhowto.asp>>.



[MSDN:Netscape Bookmark]



[MSDN:XMLDI]

[MSDN:XMLDSO] *Binding the XML Data Source Object to Data*, Microsoft Corporation, 27 October 2000 (平成12年10月27日), <<https://web.archive.org/web/200001027130748/http://msdn.microsoft.com/xml/XMLGuide/xmldso.asp>>.



[MSDN:XMLDSO]

[MSDN:xmswebview] *x-ms-webview element | x-ms-webview object (Preliminary)*, Microsoft, 1 July 2013 (平成25年7月1日), <<https://web.archive.org/web/20130701205242/http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/apps/dn301831.aspx>>.



[MSDN:xmswebview]

[MSHTMLChris] *New M\$HTML Extensions (or "Why Microsoft is Stupid")*, Chris Wilson, 9 October 1995 (平成7年10月9日), <<https://groups.google.com/g/comp.infosystems.www.advocacy/c/b0egR-mgiE0/m/YnbVtw6hyCYJ>>.



[MSHTMLChris]

[MSUHW3] *MIME, SGML, UDIS, HTML and W3*, Tim Berners-Lee, 11 June 1992 (平成4年6月11日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992MayJun/0038.html>>.



[MSUHW3]

[NativeTab] *Native <tab> elements · Issue #1704 · w3c/html · GitHub*, 30 June 2019 (令和元年6月30日), <<https://github.com/w3c/html/issues/1704>>.



[NativeTab]

[NEComments:Hixie] *Requests for new elements for comments*, Ian Hickson, 25 January 2012 (平成24年1月25日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2012-January/034506.html>>.



[NEComments :Hixie]



[NITFDTD]



[NEWWEBVIEW81]



[NN2:Frames]

[NN2:Frames] *Frames*, Netscape Communications Corporation, 13 June 1997 (平成9年6月13日), <[http://web.archive.org/web/1997061323354/http://www1.netscape.com/comprod/products/navigator/version\\_2.0/frames/index.html](http://web.archive.org/web/1997061323354/http://www1.netscape.com/comprod/products/navigator/version_2.0/frames/index.html)>.



[NN2JS]

[NN2JS] *Navigator Scripting*, Netscape Communications Corporation, 1996 (平成8年), <[http://web.archive.org/web/19970606181855fw\\_/http://www28.netscape.com/eng.mozilla/2.0/handbook/javascript/script.html](http://web.archive.org/web/19970606181855fw_/http://www28.netscape.com/eng.mozilla/2.0/handbook/javascript/script.html)>.



[NN3Welcome]

[NN3Welcome] *Welcome to Netscape Navigator 3.0*, Netscape Communications Corporation, 1996 (平成8年), <<https://web.archive.org/web/20020630200918/http://wp.netscape.com/eng.mozilla/3.0/relnotes/windows-3.0.html>>.



[NNExts]

[NoteHTC] *HTML Components*, Microsoft Corporation, 23 October 1998 (平成10年10月23日), <<https://www.w3.org/TR/1998/NOTE-HTMLComponents-19981023>>.



[NoteHTC]

[NOTES11] *notes.txt,v 1.1*, Dan Connolly, 25 April 1994 (平成6年4月25日), <<https://www.w3.org/People/Connolly/drafts/notes.txt>>.



[NOTES11]



[NSDHTML:Layers31]



[NSDHTML:Layers32]

[NSHTML3] *Extensions to HTML 3.0*, Netscape Communications Corporation, 13 June 1997(平成9年6月13日), <[http://web.archive.org/web/19970613213431/http://www1.netscape.com/assist/net\\_sites/html\\_extensions\\_3.html](http://web.archive.org/web/19970613213431/http://www1.netscape.com/assist/net_sites/html_extensions_3.html)>.



[NSHTML3]

[NSHTML3Proposals] *New HTML 3.0 Proposals*, Netscape Communications Corporation, 14 June 1997(平成9年6月14日), <[http://web.archive.org/web/19970613222237/http://www2.netscape.com/assist/net\\_sites/new\\_html3\\_prop.html](http://web.archive.org/web/19970613222237/http://www2.netscape.com/assist/net_sites/new_html3_prop.html)>.



[NSHTML3Proposals]

[NSHTMLChris] *Netscape & New HTML: lets see some standards.*, Chris Garrigues, 4 November 1994(平成6年11月4日), <<https://groups.google.com/g/comp.infosystems.www.providers/c/uKpD25l80Fk/m/vz2XoCS5-AcJ>>.



[NSHTMLChris]

[NSKeyGen] *Netscape Extensions for User Key Generation*, Jeff Weinstein, 29 June 1996 (平成8年6月29日), <<http://web.archive.org/web/19990129031457/http://www.home.netscape.com/eng/security/ca-interface.html>>.



[NSKeyGen]

[OD11] *OASIS Open Office Specification*, OASIS, 1 February 2007 (平成19年2月1日), <<http://docs.oasis-open.org/office/v1.1/OS/OpenDocument-v1.1-html/OpenDocument-v1.1.html>>.



[OD11]

[OEBPS1] *Open eBook™ Publication Structure 1.0*, Open eBook Authoring Group, 16 September 1999 (平成11年9月16日), <<https://web.archive.org/web/20000817031633/http://www.openebook.org/OEB1.html>>.



[OEBPS1]

[OGHTML6] *HTML6 - The Spec That Brings Us a Product Customizer App*, Oscar Godson, 2 December 2014(平成26年12月2日), <<http://www.html6spec.com/>>.



[OGHTML6]



[OOB]



[OOHTML]



[OLARK]

[OLARK] *Olark*, <<https://www.olark.com/>>. 令和6(2024)年10月11日閲覧。

[OOB] *Out of band encoding for HTML (and other SGMLs)*, Brad Templeton, <<https://www.templetons.com/tech/oob.html>>. 令和6(2024)年9月14日閲覧。



[OOHTML] *GitHub - webkit/oohtml: Towards a more dynamic and object-oriented HTML*, <<https://github.com/webkit/oohtml>>. 令和6(2024)年11月7日閲覧。



[OOHTML :Refactored]



[OOXML]



[OUI#773]



[OUI:Select Naming]



[OUICombobox]



[OUISelectlist1]

[OOHTML:Refactored] *Refactored into the-state-api, named-templates, namespaced-html, scop...*, 19 December 2020 (令和2年12月19日), <<https://github.com/webkit/oohtml/commit/7d00d4b9efd4512a2dbbb1ff7db5a63f5bd4361>>.

[OOXML] ECMA-376-1 : 2016, *Office Open XML File Formats — Fundamentals and Markup Language Reference*, Ecma International, October 2016 (平成28年10月), <[https://ecma-international.org/wp-content/uploads/ECMA-376-1\\_5th\\_edition\\_december\\_2016.zip](https://ecma-international.org/wp-content/uploads/ECMA-376-1_5th_edition_december_2016.zip)>.

[OUI#773] *Rename `selectmenu` to `selectbox` · Issue #773 · openui/open-ui · GitHub*, 4 August 2023 (令和5年8月4日), <<https://github.com/openui/open-ui/issues/773>>.

[OUI:SelectNaming] *select: Naming of <selectedoption> · Issue #1112 · openui/open-ui · GitHub*, <<https://github.com/openui/open-ui/issues/1112>>. 令和6(2024)年11月27日閲覧。

[OUICombobox] *Combobox (Explainer) | Open UI, @sudheer-gowrgiari, @gregwhitworth, 1 May 2024* (令和6年5月1日), <<https://open-ui.org/components/combobox.explainer/>>.

[OUISelectlist1] *Selectlist Element (Explainer) | Open UI, 27 September 2023* (令和5年9月27日), <<https://web.archive.org/web/20230927140115/https://open-ui.org/components/selectlist/>>.

[OUISelectlist2] *Selectlist Element (Explainer) | Open UI, 8 January 2024* (令和6年1月8日), <<https://web.archive.org/web/20240108021700/https://open-ui.org/components/selectlist/>>.

[OUISelectmenu] *Open UI, 24 March 2023* (令和5年3月24日), <[https://open-ui.org/components/selectmenu/](https://web.archive.org/web/20230324052006/https://open-ui.org/components/selectmenu/)>.

[PBHTMLInclude] *Update README.md, Paul-Browne, 12 May 2019* (令和元年5月12日), <<https://github.com/Paul-Browne/HTMLInclude/commit/36bfad90917a7ca46ac08c3cfb26d410524aca3e>>.

[portals] *GitHub - WICG/portals: A proposal for enabling seamless navigations between sites or pages, 23 July 2024* (令和6年7月23日), <<https://github.com/WICG/portals>>.



[portals]



[OUISelectlist2]



[OUISelectmenu]

[POSTHTML] GitHub - posthtml/posthtml: PostHTML is a tool to transform HTML/XML with JS plugins, <<https://github.com/posthtml/posthtml>>. 令和6(2024)年9月25日閲覧。



[POSTHTML]

[POSTHTML:CE] GitHub - posthtml/posthtml-custom-elements: Custom Elements Plugin, <<https://github.com/posthtml/posthtml-custom-elements>>. 令和6(2024)年9月25日閲覧。



[POSTHTML:CE]

[POSTHTML:COMPONENTS] GitHub - posthtml/posthtml-components: A PostHTML plugin for creating components with HTML-friendly syntax inspired by Laravel Blade. Slots, stack/push, props, custom tag and much more., <<https://github.com/posthtml/posthtml-components>>. 令和6(2024)年9月25日閲覧。



[POSTHTML:COMPONENTS]

[POSTHTML:EXP] GitHub - posthtml/posthtml-expressions: Use variables, JS-like expressions, and even markup-powered logic in your HTML., <<https://github.com/posthtml/posthtml-expressions>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。



[POSTHTML:EXP]

[POSTHTML:EXTENDS] GitHub - posthtml/posthtml-extend: Template extending (Jade-like), <<https://github.com/posthtml/posthtml-extend>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。



[POSTHTML:EXTENDS]

[POSTHTML:FETCH] GitHub - posthtml/posthtml-fetch: PostHTML plugin for fetching and displaying remote content., <<https://github.com/posthtml/posthtml-fetch>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。



[POSTHTML:FETCH]

[POSTHTML:IMPORT] GitHub - posthtml/posthtml-import: Import HTML Plugin, <<https://github.com/posthtml/posthtml-import>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。



[POSTHTML:IMPORT]

[POSTHTML:INCLUDE1] Release v1.0.0, voischev, 27 September 2015 (平成27年9月27日), <<https://github.com/posthtml/posthtml-include/commit/42ca3de0637c554ef1569b83d85edaec5d0b6ad2>>.



[POSTHTML:INCLUDE1]

[POSTHTML:INCLUDEMD] GitHub - posthtml/posthtml-include-md: Include markdown plugin for PostHTML, <<https://github.com/posthtml/posthtml-include-md>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。



[POSTHTML:INCLUDEMD]



[POSTHTML:MARKDOWNUNIT]



[POSTHTML:INCLUDE1]



[POSTHTML:EXTENDS]

[POSTHTML:MD] *GitHub - posthtml/posthtml-md2html: Render markdown inside html elements.*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-md2html>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:MIXIN] *GitHub - posthtml/posthtml-mixins: Mixins allow you to create reusable blocks of code.*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-mixins>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:MODULES] *GitHub - posthtml/posthtml-modules: Modules Plugin*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-posthtml-modules>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:MSO] *GitHub - posthtml/posthtml-mso: Makes writing Outlook conditionals in HTML emails easy*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-mso>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:SHIKI] *GitHub - posthtml/posthtml-shiki: Highlight code blocks with PostHTML and Shiki*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-shiki>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:SPACELESS] *GitHub - posthtml/posthtml-spaceless: Spaceless tag to remove whitespace between HTML tags*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-spaceless>>. 令和6(2024)年9月26日閲覧。

[POSTHTML:WC] *GitHub - posthtml/posthtml-web-component: Server Side Web Component Render*, <<https://github.com/posthtml/posthtml-web-component>>. 令和6(2024)年9月25日閲覧。

[ProposedIMG:Marc] *proposed new tag: IMG*, Marc Andreessen, 25 February 1993(平成5年2月25日), <<http://web.archive.org/web/19970524004107/http://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/.www-talk-1993q1.messages/174.html>>.

[ProposedIMG:TBL] *Re: proposed new tag: IMG*, Tim Berners-Lee, 2 March 1993(平成5年3月2日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q1/0221.html>>.

[ProposedIMG:Tony] *Re: proposed new tag: IMG*, Tony Johnson, 25 February 1993(平成5年2月25日), <<https://ksi.cpsc.ucalgary.ca/archives/WWW-TALK/www-talk-1993q1.messages/175.html>>.

[POSTHTML:WC]



[ProposedIMG:Marc]



[ProposedIMG:TBL]



[ProposedIMG:Tony]

[ProtoHTML] *Proto HTML*, Sean B. Palmer, 30 June 2011 (平成23年6月30日), <<http://infomesh.net/stuff/proto>>.



[ProtoHTML]

[QueryFormsInput:Dave] *QueryForms and Input tag*, Dave Raggett, 19 January 1993 (平成5年1月19日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q1/0085.html>>.



[QueryForms  
Input:Dave]

[Raggett4:2] “Chapter 2,” in *Raggett on HTML 4*, 19 May 1998 (平成10年5月19日), <<https://www.w3.org/People/Raggett/book4/ch02.html>>.



[Raggett4:2]

[RDDL20010102] *XML Resource Directory Description Language*, Jonathan Borden, Tim Bray, 2 January 2001 (平成13年1月2日), <<https://openhealth.org/RDDL/20010102/rddl-20010102.htm>>.



[RDDL20010102]

[RDF] *Resource Description Framework (RDF) Model and Syntax Specification*, W3C, 22 February 1999 (平成11年2月22日), <<https://www.w3.org/TR/1999/REC-rdf-syntax-19990222/>>.



[RDF]

[REDOC] *GitHub - Redocly/redoc: OpenAPI/Swagger-generated API Reference Documentation*, <<https://github.com/Redocly/redoc>>. 令和6(2024)年7月12日閲覧。



[REDOC]

[ReliableLink] *Reliable Link Demonstration*, Dan Connolly, 25 April 1994 (平成6年4月25日), <<https://www.w3.org/People/Connolly/drafts/reliable-links.sgml>>.



[ReliableLink]

[ResArchive] *HTML Resource and Archive APIs proposal | Community and Business Groups Forum*, Luigi Baglio, 24 February 2014 (平成26年2月24日), <<https://www.w3.org/community/forum/2014/02/24/html-resource-and-archive-apis-proposal/>>.



[ResNovaTemplates] *Templates*, 4 November 1996 (平成8年11月4日), <<https://web.archive.org/web/19961104033455/http://ugly.resnova.com/templates/>>.



[ResNovaTemplates]

[ResNovaTemplates]

[ResNova  
Templates]

[ResArchive]

[RESPEC] *ReSpec Documentation 1.0*, Robin Berjon, 6 March 2006 (平成18年3月6日), <<https://dev.w3.org/2006/webapi/ReSpec/docs/publish/ReSpec.xhtml>>.



[RETURNABLE] *Returnable.org - The Returnable Project - Home Page*, The Returnable Project, 14 May 2007 (平成19年5月14日), <<https://web.archive.org/web/20070715142539/http://returnable.org/>>.



[RETURNABLE]





[RFC1341]

[RFC1341] RFC 1341, *MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions): Mechanisms for Specifying and Describing the Format of Internet Message Bodies*, Nathaniel S. Borenstein, Ned Freed, June 1992 (平成4年6月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc1341>>.



[RFC1866]

[RFC1866] RFC 1866, *Hypertext Markup Language - 2.0*, Tim Berners-Lee, Daniel W. Connolly, November 1995 (平成7年11月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc1866>>.



[RFC1942]

[RFC1942] RFC 1942, *HTML Tables*, Dave Raggett, May 1996 (平成8年5月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc1942>>.



[RFC1980]

[RFC1980] RFC 1980, *A Proposed Extension to HTML : Client-Side Image Maps*, James L. Seidman, August 1996 (平成8年8月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc1980>>.



[RFC2070]

[RFC2070] RFC 2070, *Internationalization of the Hypertext Markup Language*, Frangois Yergeau, Gavin Thomas Nicol, Glenn Adams, Martin J. Duerst, January 1997 (平成9年1月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc2070>>.



[RFC2659]

[RFC2659] RFC 2659, *Security Extensions For HTML*, Eric Rescorla, Allan M. Schiffman, August 1999 (平成11年8月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc2659>>.



[RFC2660]

[RFC2660] RFC 2660, *The Secure HyperText Transfer Protocol*, Eric Rescorla, Allan M. Schiffman, August 1999 (平成11年8月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc2660>>.



[RFC2070]

[RFC6648] RFC 6648, *Deprecating the "X-" Prefix and Similar Constructs in Application Protocols*, Peter Saint-Andre, Dave Crocker, Mark Nottingham, June 2012 (平成24年6月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc6648>>.



[RICG>AllIn]

[RICG>AllIn] *all in.*, scottjehl, 21 February 2012 (平成24年2月21日), <<https://github.com/ResponsiveImagesCG/picture-element/commit/77defd7f9cfe645143a38b3b57b425a0c7b1f020>>.



[RFC2659]

[ROE] *ROE - XiphWiki*, 12 April 2009 (平成21年4月12日), <<https://wiki.xiph.org/index.php?title=ROE&oldid=10172>>.



[RUBY19981221] *Ruby*, World Wide Web Consortium, 21 December 1998 (平成10年12月21日), <<https://www.w3.org/TR/1998/WD-ruby-19981221/>>.



[RFC2660]



[RFC6648]



[RICG>AllIn]



[ROE]



[RUBY19981221]

[RUBY19990924] *Ruby*, W3C, 24 September 1999  
(平成11年9月24日), <<https://www.w3.org/TR/1999/WD-ruby-19990924/>>.



[RUBY  
19990924]

[RubyMartin] *Internationalization: Ruby Annotation*, Martin J. Dürst, 14 May 1996 (平成8年5月14日), <<https://www.w3.org/International/0-HTML-ruby>>.



[RubyMartin]

[SARCASMian] *several messages about <sarcasm> proposals*, Ian Hickson, 13 April 2008 (平成20年4月13日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2008-April/056672.html>>.



[SARCASMian]

[ScreenModeJim] *ScreenMode binaries, man page reader, experimental server*, Jim Whitescarver, 21 November 1992 (平成4年11月21日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0097.html>>.



[ScreenModeTim]

[ScreenModeTim] *Re: ScreenMode binaries, man page reader, experimental server*, Tim Berners-Lee, 24 November 1992 (平成4年11月24日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0108.html>>.



[ScreenMode  
Tim]

[SCRIPT19960124] *HTML3 Scripting Model*, W3C, 24 January 1996 (平成8年1月24日), <<https://www.w3.org/TR/WD-script-960124.html>>.



[SCRIPT  
19960124]

[SEA] *SEA: A Security Extension Architecture for HTTP/1.x*, W3 Consortium, 8 January 1996 (平成8年1月8日), <<https://www.w3.org/TR/WD-http-sea-960108.html>>.



[SEA]

[SectionHeadingslan] *Re: <section> and headings*, Ian Hickson, 12 November 2004 (平成16年11月12日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2004-November/002362.html>>.



[SERA95Updates]



[SERA97Changes]



[SectionHeadings  
Ian]



[SERAFAQ]

[SERAFAQ] *System for Ethiopic Representation in ASCII*, Daniel Yaqob, 15 Tahesas 1989 EC (平成8(1996)年12月24日), <<https://web.archive.org/web/19970729054757/http://www.cs.indiana.edu/hyplan/dmulholl/fidel/sera-faq.html>>.



[SGMLguid]

[SGMLguid] *CERN SGML User's Guide*, Anders Berglund, 27 October 1986 (昭和61年10月27日), <<https://cds.cern.ch/record/997909/files/cer-002659963.pdf?version=1>>.

[SGMLHB] *The SGML Handbook*, Charles F. Goldfarb, 1990 (平成2年), ISBN 0-19-853737-9.



[SHTML00]

[SHTML00] *Security Extensions For HTML*, E. Rescorla, A. Schiffman, February 1996 (平成8年2月), <<https://datatracker.ietf.org/doc/html/draft-ietf-wts-shtml-00>>.

[SimplestIncludes] *The Simplest Ways To Handle HTML Includes | CSS-Tricks*, Chris Coyier, 26 January 2021 (令和3年1月26日), <<https://css-tricks.com/the-simplest-ways-to-handle-html-includes/>>.



[SimplestIncludes]

[SMIL1] *Synchronized Multimedia Integration Language*, W3C, 15 June 1998 (平成10年6月15日), <<https://www.w3.org/TR/1998/REC-smil-19980615/>>.



[SMIL1]

[SpecEvolves] *Re: The spec evolves...*, Dan Connolly, 4 December 1992 (平成4年12月4日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0159.html>>.

[SpeechAPI] *HTML Speech XG Speech API Proposal*, W3C, 28 February 2011 (平成23年2月28日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-archive/2011Mar/att-0001/microsoft-api-draft-final.html>>.



[SpecEvolves]

[SpeechXGReport] *HTML Speech Incubator Group Final Report*, W3C, 6 December 2011 (平成23年12月6日), <<https://www.w3.org/2005/Incubator/htmlspeech/XGR-htmlspeech-20111206/>>.

[SPICE] *Adding Style and Behavior to XML Pages with a dash of Spice*, Hewlett-Packard Company, 3 February 1998 (平成10年2月3日), <<https://www.w3.org/TR/1998/NOTE-spice-19980123.html>>.



[SpeechAPI]

[SRGS] *Speech Recognition Grammar Specification Version 1.0*, W3C, 16 March 2004 (平成16年3月16日), <<https://www.w3.org/TR/2004/REC-speech-grammar-20040316/>>.



[SpeechXGReport]



[SPICE]



[SRGS]

[SRTResearch] *SRT research - WHATWG Wiki*, 26 January 2011 (平成23年1月26日), <[https://wiki.whatwg.org/wiki/SRT\\_research](https://wiki.whatwg.org/wiki/SRT_research)>.



[SRTResearch]

[SSDE] *Hixie's Natural Log: Server-sent DOM events*, Ian Hickson, 28 April 2004 (平成16年4月28日), <<http://ln.hixie.ch/?start=1083167110&count=1>>.



[SSDE]

[SSI] *NCSA HTTPd Tutorial: Server Side Includes (SSI)*, NCSA HTTPd Development Team, 28 September 1995 (平成7年9月28日), <<https://web.archive.org/web/19970303194503/http://hoohoo.ncsa.uiuc.edu/docs/tutorials/includes.html>>.



[SSI]

[SSML] *Speech Synthesis Markup Language (SSML) Version 1.0*, W3C, 7 September 2004 (平成16年9月7日), <<https://www.w3.org/TR/2004/REC-speech-synthesis-20040907/>>.



[SSML]

[std-switch] *A standard 'Switch' form control*, Kent Tamura, 13 September 2019 (令和元年9月13日), <<https://github.com/tkent-google/std-switch>>.



[std-switch]

[std-toast] *A Standard 'Toast' UI Element*, 29 August 2019 (令和元年8月29日), <<https://github.com/jackbsteinberg/std-toast>>.



[std-toast]

[StyleLink] *Style sheets and the Web meta-data architecture*, Bert Bos, 28 January 1997 (平成9年1月28日), <<https://www.w3.org/Style/NOTE-style-link-970128.html>>.



[StyleLink]

[SubmittingData] *Submitting input-form data to server*, Pei Y. Wei, 4 September 1993 (平成5年9月4日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q3/0810.html>>.



[SubmittingData]



[SVG1]



[SVG11]



[SVG2]

[SVGInHTMLian] *Feedback on SVGWG's SVG-in-text/html proposal*, Ian Hickson, 28 August 2008 (平成20年8月28日), <<http://lists.w3.org/Archives/Public/public-html/2008Aug/0852.html>>.

[SVGT12] *Scalable Vector Graphics (SVG) Tiny 1.2 Specification*, W3C, 22 December 2008 (平成20年12月22日), <<https://www.w3.org/TR/2008/REC-SVGTiny12-20081222/single-page.html>>.

[SW] 『SuikaWiki』, SuikaWiki著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/>>。令和6(2024)年11月2日閲覧。

[SW:!DOCTYPE] 「!DOCTYPE」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%21DOCTYPE>>。

[SW:\$] 「\$」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3C%24%3E>>。

[SW:abrev] 「abrev」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cabrev%3E>>。

[SW:anim] 「anim」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Canim%3E>>。

[SW:animate] 「animate」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Canimate%3E>>。

[SW:app] 「app」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Capp%3E>>。

[SW:applet] 「applet」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/applet>>。

[SW:blink] 「blink」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/blink>>。

[SW:center] 「center」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/center>>。

[SW:centre] 「centre」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Ccentre%3E>>。

[SW:cookie] 「cookie」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Ccookie%3E>>。

- [SW:cs\*] 「cs \*」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Ccs%2A%3E>>。  
  
[SW:ds] 「ds」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cds%3E>>。  
  
[SW:DTHTML6] 「HTML 6.9.0」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%206.9.0>>。  
  
[SW:embedded] 「embedded」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cembedded%3E>>。  
  
[SW:emoji] 「emoji」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cemoji%3E>>。  
  
[SW:enbed] 「enbed」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cenbed%3E>>。  
  
[SW:entity] 「entity」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Centity%3E>>。  
  
[SW:fetch] 「fetch」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cfetch%3E>>。  
  
[SW:flameset] 「flameset」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cflameset%3E>>。  
  
[SW:fontbase] 「fontbase」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cfontbase%3E>>。  
  
[SW:headers] 「headers」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Chanders%3E>>。  
  
[SW:hn] 「hn」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Chn%3E>>。  
  
[SW:HTML+] 「HTML+」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%2B>>。  
  
[SW:HTML1] 「HTML1」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML1>>。  
  
[SW:HTML1991] 「HTML 1991」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%201991>>。



[SW:headers]



[SW:fontbase]



[SW:flameset]



[SW:fetch]



[SW:HTML1991]



[SW:HTML1]



[SW:HTML+]



[SW:hn]

[SW:cs\*]

[SW:DTHTML6]

[SW:emoji]

[SW:enbed]

[SW:entity]



[SW:HTML2] 「HTML2」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML2>>。  
[SW:HTML3.0] 「HTML 3.0」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%203.0>>。

[SW:HTML2]



[SW:HTML6] 「HTML6」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML6>>。  
[SW:htmlarea] 「htmlarea」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/htmlarea>>。

[SW:HTML3.0]



[SW:HTMLもどき] 「HTML もどき」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/HTML%E3%82%82%E3%81%A9%E3%81%8D>>。  
[SW:hype] 「hype」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,<<https://wiki.suikawiki.org/n/hype>>。

[SW:HTML5]



[SW:IE4DOM] 「IE4 DOM」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/IE4%20DOM>>。  
[SW:image] 「image」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,<<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cimage%3E>>。  
[SW:info] 「info」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,<<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cinfo%3E>>。

[SW:HTML6]



[SW:inlineinput] 「inlineinput」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cinlineinput%3E>>。  
[SW:inputmode] 「inputmode」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/inputmode>>。  
[SW:ISO-HTML] 「ISO-HTML」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/ISO-HTML>>。

[SW:htmlarea]



[SW:keygen] 「keygen」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,  
<<https://wiki.suikawiki.org/n/keygen>>。  
[SW:lang] 「lang」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら ,<<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Clang%3E>>。



[SW:HTMLもどき]



[SW:IE4DOM]



[SW:image]



[SW:info]



[SW:inlineinput]



[SW:hype]



[SW:inputmode]



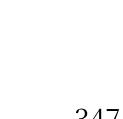
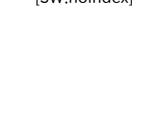
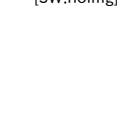
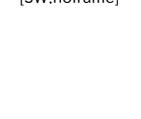
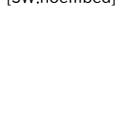
[SW:ISO-HTML]



[SW:keygen]



[SW:lang]

[SW:left] 「left」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cleft%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cleft%3E</a> >。			
[SW:limittext] 「limittext」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Climittext%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Climittext%3E</a> >。			
[SW:location] 「location」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Clocation%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Clocation%3E</a> >。	[SW:left] 		
[SW:MadeByWZ] 「MadeByWZ」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/MadeByWZ">https://wiki.suikawiki.org/n/MadeByWZ</a> >。			
[SW:main] 「main」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmain%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmain%3E</a> >。			
[SW:marque] 「marque」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmarque%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmarque%3E</a> >。	[SW:limittext] 		
[SW:marquee] 「marquee」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/marquee">https://wiki.suikawiki.org/n/marquee</a> >。			
[SW:multicol] 「multicol」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/multicol">https://wiki.suikawiki.org/n/multicol</a> >。			
[SW:multicolumn] 「multicolumn」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmulticolumn%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmulticolumn%3E</a> >。	[SW:location] 		
[SW:Netscape Bookmark] 「NSBookmark」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/NSBookmark">https://wiki.suikawiki.org/n/NSBookmark</a> >。			
[SW:NN4] 「Netscape Navigator 4.0」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/Netscape%20Navigator%204.0">https://wiki.suikawiki.org/n/Netscape%20Navigator%204.0</a> >。	[SW:MadeByWZ] 		
[SW:noembed] 「noembed」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/noembed">https://wiki.suikawiki.org/n/noembed</a> >。			
[SW:noframe] 「noframe」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/noframe">https://wiki.suikawiki.org/n/noframe</a> >。			
[SW:noimg] 「noimg」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cnoimg%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cnoimg%3E</a> >。	[SW:main] 		
[SW:noindex] 「noindex」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, < <a href="https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cnoindex%3E">https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cnoindex%3E</a> >。			
 [SW:NN4]	 [SW:Netscape Bookmark]	 [SW:multicolumn]	 [SW:multicol]
 [SW:marque]	 [SW:marquee]	 [SW:noimg]	 [SW:noframe]
 [SW:MadeByWZ]	 [SW:main]	 [SW:limittext]	 [SW:left]

- [SW:noloc] 「noloc」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Choloc%3E>>。
- [SW:nosmartquotes] 「nosmartquotes」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cnosmartquotes%3E>>。
- [SW:nosmartquotes] [SW:noloc]
- [SW:PAN] 「ncsa-annotation-format-1」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/ncsa-annotation-format-1>>。
- [SW:parseerror] 「parseerror」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cparseerror%3E>>。
- [SW:pg\*] 「pg \*」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cpg%2A%3E>>。
- [SW:pre] 「pre」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/pre>>。
- [SW:pub] 「pub」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cpub%3E>>。
- [SW:PAN] [SW:q] 「q」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cq%3E>>。
- [SW:quote] 「quote」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cquote%3E>>。
- [SW:restoffile] 「restoffile」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/restoffile>>。
- [SW:parseerror] [SW:right] 「right」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cright%3E>>。
- [SW:ruby] 「ruby」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cruby%3E>>。
- [SW:ruby属性] 「ruby 属性」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/ruby%E5%B1%9E%E6%80%A7>>。
- [SW:pg\*] [SW:pub]
- [SW:RXH] 「RDF/XML/HTML注釈」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/RDF%2FXML%2FHTML%E6%B3%A8%E9%87%88>>。

[SW:pre]



[SW:SavedFrom] 「saved from url」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/saved%20from%20url>>。



[SW:SavedFrom]

[SW:SERA] 「SERA」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/SERA>>。



[SW:SERA]

[SW:server] 「server」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cserver%3E>>。



[SW:server]

[SW:shadow] 「shadow」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cshadow%3E>>。



[SW:shadow]

[SW:sidebar] 「sidebar」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Csidebar%3E>>。



[SW:sidebar]

[SW:sound] 「sound」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Csound%3E>>。



[SW:sound]

[SW:spacer] 「spacer」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/spacer>>。



[SW:spacer]

[SW:spell] 「spell」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cspell%3E>>。



[SW:spell]

[SW:textflow] 「textflow」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Ctextflow%3E>>。



[SW:textflow]

[SW:tittle] 「tittle」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Ctittle%3E>>。



[SW:tittle]

[SW:time] 「time」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/time>>。



[SW:time]

[SW:unknown] 「unknown」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cunknown%3E>>。



[SW:unknown]

[SW:vert] 「multicol baseline=vert」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cmulticol%20baseline%3Dvert%3E>>。



[SW:vert]

[SW:WA1] 「Web Applications 1.0」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら , <<https://wiki.suikawiki.org/n/Web%20Applications%201.0>>。



[SW:WA1]



[SW:spell]



[SW:time]



[SW:unknown]



[SW:vert]



[SW:tittle]



[SW:WA1]



[SW:spell]

[SW:WI] 「Web Intents」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/Web%20Intents>>。  
[SW:www-html] 「www-html」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/www-html>>。

[SW:wi] 「x-」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/x->>。

[SW:x-claris-\*] 「x-claris-\*」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cx-claris-%2A%3E>>。

[SW:x-meta] 「x-meta」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Cx-meta%3E>>。

[SW:www-html] 「XForms」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/XForms>>。

[SW:XHTML1.0] 「XHTML 1.0」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/XHTML%201.0>>。

[SW:XHTML2] 「XHTML2」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/XHTML2>>。

[SW:x-] 「マーク付け」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%AF%E4%BB%98%E3%81%91>>。

[SW:XHTMLm12n] 「XHTML m12n」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/XHTML%20m12n>>。

[SW:zeroboard] 「zeroboard」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%3Czeroboard%3E>>。

[SW:マーク付け] 「マーク付け」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%AF%E4%BB%98%E3%81%91>>。

[SW:参照処理モデル] 「参照処理モデル」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E5%8F%82%E7%85%A7%E5%87%A6%E7%90%86%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB>>。

[SW:松風] 「松風」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E6%9D%BE%E9%A2%A8>>。

[SW:特定DTD] 「特定 DTD」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E7%89%B9%E5%AE%9ADTD>>。

[SW:XForms]



[SW:XHTML1.0]

[SW:参照処理モデル]

[SW:松風]

[SW:特定DTD]

[SW:語句化内容] 「語句化内容」,『SuikaWiki』, SuikaWiki 著者ら, <<https://wiki.suikawiki.org/n/%E8%AA%9E%E5%8F%A5%E5%8C%96%E5%86%85%E5%AE%B9>>。



[SW:語句化内容]

[SWING:HowToHTML] *How to Use HTML in Swing Components (The Java™ Tutorials > Creating a GUI With Swing > Using Swing Components)*, Oracle and/or its affiliates, 2022 (令和4年), <<https://docs.oracle.com/java/tutorial/uiswing/components/html.html>>。



[SWING:HowToHTML]

[TAIJU] 『Taiju's Notebook: Toppage』, 令和2(2020)年2月1日, <<http://www2s.biglobe.ne.jp/~Taiju/>>。



[TAIJU]

[TateJPN:Help] 『TateJPN Online Help』, STech, 平成12(2000)年, <[https://web.archive.org/web/20010510201834/http://www.horae.dti.ne.jp/~stech/tatejpn/help\\_reference.html](https://web.archive.org/web/20010510201834/http://www.horae.dti.ne.jp/~stech/tatejpn/help_reference.html)>。



[TAIJU]

[TDS書き方] 『日記ファイルの書き方』, tds-master, 平成13(2001)年, <<https://web.archive.org/web/20021001023114/http://tds.dive-in.to/~tom/tds/doc/tdf.html>>。



[TDS書き方]

[TEXINFO11] *The GNU Documentation Format: Edition 1.1*, Richard M. Stallman, Robert J. Chassell, May 1988(昭和63年5月)。



[TATEJPN:Help]

[TimedDivsHTML] *Timed Divs HTML - XiphWiki*, Silvia, 21 June 2009(平成21年6月21日), <[https://wiki.xiph.org/Timed\\_Divs\\_HTML](https://wiki.xiph.org/Timed_Divs_HTML)>。



[TDS書き方]

[TNF] 『Tokimi Novel Format Reference Version. 2022.5.29』, Tabito Kazeno, 令和4(2022)年5月29日, <[https://www.sylphid.jp/~tabito/Tokimi/TNF\\_Reference.pdf](https://www.sylphid.jp/~tabito/Tokimi/TNF_Reference.pdf)>。



[TopTenHTML] *Top Ten HTML Extensions that Did Not Make it Into Netscape 0.9*, Laura Lemay, 19 October 1994(平成6年10月19日), <[https://web.archive.org/web/20040610043459/http://www.lauralemay.com/essays/top\\_ten.html](https://web.archive.org/web/20040610043459/http://www.lauralemay.com/essays/top_ten.html)>。



[TimedDivsHTML]

[TowardClosure] *Toward Closure on HTML*, Daniel W. Connolly, 7 April 1993(平成5年4月7日), <<https://www.w3.org/People/Connolly/drafts/html-direction.html>>。



[TowardClosure]



[TopTenHTML]



[TNF]



[TTML1]

[TTML1] *Timed Text Markup Language (TTML) 1.0*, W3C, 18 November 2010 (平成22年11月18日), <<https://www.w3.org/TR/2010/REC-ttaf1-dfxp-20101118/>>.

[TTX230] 『T-Time の解釈できるHTML <タグ> v2.3.0』, Voyager Japan Inc., 平成12(2000)年12月。



[Unity2:RichText]

[Unity2:RichText] *Rich Text | Unity UI | 2.0.0*, Unity Technologies, 28 August 2024 (令和6年8月28日), <<https://docs.unity3d.com/Packages/com.unity.ugui@2.0/manual/StyledText.html>>.

[USEBQ] *Does anyone use <BLOCKQUOTE>?*, Dave Raggett, 10 May 1993 (平成5年5月10日), <<http://1997.webhistory.org/www.lists/www-talk.1993q2/0269.html>>.



[USEBQ]

[UseSGMLKbd] *HTML: use SGML keyboarding features?*, Dan Connolly, 8 December 1992 (平成4年12月8日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992NovDec/0181.html>>.



[VideoProposal] <*video*> element proposal, Anne van Kesteren, 28 February 2007 (平成19年2月28日), <<https://lists.whatwg.org/pipermail/whatwg-whatwg.org/2007-February/009702.html>>.



[UseSGMLKbd]

[VOSAIC] *Real Time Video and Audio in the World Wide Web*, 9 November 1995 (平成7年11月9日), <<https://www.w3.org/Conferences/WWW4/Papers/211/>>.



[VXML1] *Voice eXtensible Markup Language (VoiceXML) version 1.0*, VoiceXML Forum, 5 May 2000 (平成12年5月5日), <<https://www.w3.org/TR/2000/NOTE-voicexml-20000505/>>.



[VideoProposal]

[W3C13608] *13608 – Add <menuitem> element*, 7 January 2013 (平成25年1月7日), <[https://www.w3.org/Bugs/Public/show\\_bug.cgi?id=13608](https://www.w3.org/Bugs/Public/show_bug.cgi?id=13608)>.



[W3C2009] *2009 - W3C*, W3C, 30 August 2019 (令和元年8月30日), <<https://www.w3.org/News/2009>>.



[VOSAIC]

[W3C28561] *28561 – [Shadow]: rename <content> to <slot>*, 2 April 2019 (平成31年4月2日), <[https://www.w3.org/Bugs/Public/show\\_bug.cgi?id=28561](https://www.w3.org/Bugs/Public/show_bug.cgi?id=28561)>.



[WA1-20040407] *Web Applications Markup Language 1.0*, Opera Software, 7 April 2004 (平成16年4月7日), <<http://www.hixie.ch/specs/html/apps/web-apps-1>>.



[VXML1]



[W3C13608]



[W3C2009]



[W3C28561]



[WA1-20040407]

[WA1-20040602] *Web Applications Markup Language 1.0*, Opera Software, 2 June 2004 (平成16年6月2日), <<https://web.archive.org/web/20040605213911/http://www.whatwg.org/specs/web-apps/current-work/>>.



[WA1-20040602]

[WA1-20040721] *Web Applications Markup Language 1.0*, Opera Software, 21 July 2004 (平成16年7月21日), <<https://web.archive.org/web/20040803041815/http://whatwg.org/specs/web-apps/current-work/>>.



[WA1-20040721]

[WA1-20040923] *Web Applications 1.0*, WHATWG, 23 September 2004 (平成16年9月23日), <<https://web.archive.org/web/20041009144718/http://whatwg.org/specs/web-apps/current-work/>>.



[WA1-20040923]

[WA1-20041208] *Web Applications 1.0*, WHATWG, 8 December 2004 (平成16年12月8日), <<https://web.archive.org/web/20041210054847/http://www.whatwg.org/specs/web-apps/current-work/>>.



[WA1-20041208]

[WACDFWS] *The W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents*, Dean Jackson, 13 January 2005 (平成17年1月13日), <<https://www.w3.org/2004/04/webapps-cdf-ws/>>.



[WACDFWS]

[WACDFWS:OPERA] *Position Paper for the W3C Workshop on Web Applications and Compound Documents*, The Mozilla Foundation, Opera Software, ASA, 3 May 2004 (平成16年5月3日), <<https://www.w3.org/2004/04/webapps-cdf-ws/papers/opera.html>>.



[WA1-20050901]

[WAStats:Editors] *Google Code: Web Authoring Statistics: Editors and their custom markup*, Ian Hickson, 2006(平成18年), <<https://web.archive.org/web/20060203031245/http://code.google.com/webstats/2005-12/editors.html>>.



[WAStats:Editors]

[WAStats:P&E] *Google Code: Web Authoring Statistics: Pages and elements*, Ian Hickson, 2006 (平成18年), <<https://web.archive.org/web/20060203033128/http://code.google.com/webstats/2005-12/pages.html>>.



[WAStats:P&E]



[WAStats:Editors]



[WACDFWS :OPERA]



[WC#1059]

[WC#1059] *Exploration: HTML Module Imports and Exports · Issue #1059 · WICG/webcomponents · GitHub*, <<https://github.com/WICG/webcomponents/issues/1059>>. 令和6(2024)年9月28日閲覧。



[WC:AddedShadow]

[WC:AddedShadow] [Shadow]: Added shadow element., dglazkov, 8 December 2011(平成23年12月8日), <<https://github.com/WICG/webcomponents/commit/6ffd49ea1405ee6694d92ada5aecd609beb025338>>.



[WC:NameDef]

[WC:NameDef] [Custom]: Updated custom element name definition., dglazkov, 18 January 2013(平成25年1月18日), <<https://github.com/WICG/webcomponents/commit/df4217c34f15ccf7bd8b5e3e716f76375a715648>>.



[WC:Polished] [Custom]: Polished custom element name definition., dglazkov, 16 August 2012(平成24年8月16日), <<https://github.com/WICG/webcomponents/commit/6bef6e0f640c3278f7a29bebe17de540918cad35>>.



[WC:TemplateElement] [Templates]: Added template element definition., dglazkov, 21 January 2012(平成24年1月21日), <<https://github.com/WICG/webcomponents/commit/111ace78c25fb63905c4e8227126d06cfcc11b7e2>>.



[WC:Polished]

[WEBSGML] ISO/IEC JTC 1/SC 34 N0029, ISO/IEC JTC1/SC34 N0029, ISO/IEC JTC 1/SC 34, 6 December 1998(平成10年12月6日), <<http://web.archive.org/web/20120415095548/http://www1.y12.doe.gov/capabilities/sgml/sc34/document/0029.htm>>.



[WebTV:AUDIOSCOPE] “<AUDIOSCOPE>,” in *WebTV HTML Elements*, 1 June 2000(平成12年6月1日), <[http://web.archive.org/web/20000601020014fw\\_](http://web.archive.org/web/20000601020014fw_/) / <http://developer.webtv.net/authoring/html/audioscope.html>>.



[WebTV:BLACKFACE] “<BLACKFACE>,” in *WebTV HTML Elements*, 4 March 2000(平成12年3月4日), <[http://web.archive.org/web/20000304084337fw\\_](http://web.archive.org/web/20000304084337fw_/) / <http://developer.webtv.net/authoring/html/blackface.html>>.



[WebTV:FN] “<FN>,” in *WebTV HTML Elements*, 10 February 2001(平成13年2月10日), <[https://web.archive.org/web/20010210023423fw\\_](https://web.archive.org/web/20010210023423fw_/) / <http://developer.webtv.net/authoring/html/fn.html>>.



[WEBSGML]



[WebTV:AUDIOSCOPE]



[WebTV:BLACKFACE]



[WebTV:FN]

[WebTV:NOTE] “<NOTE>,” in *WebTV HTML Elements*, 7 January 2001 (平成13年1月7日), <[http://web.archive.org/web/20010107063000fw\\_/http://developer.webtv.net/authoring/html/note.fm.html](http://web.archive.org/web/20010107063000fw_/http://developer.webtv.net/authoring/html/note.fm.html)>.



[WebTV:NOTE]

[WEBVTT] *WebVTT: The Web Video Text Tracks Format*, W3C, 10 March 2023 (令和5年3月10日), <<https://w3c.github.io/webvtt/>>.



[WEBVTT]

[Webメンテ] 『Web メンテナンスのためのメモ』, Japan GNOME Users Group, 平成23(2011)年5月1日, <<http://www.gnome.gr.jp/jgug/authoring.html>>。

[WF2-20031204] *Proposed XHTML Module: XForms Basic*, Opera Software, 4 December 2003 (平成15年12月4日), <<http://www.hixie.ch/specs/html/forms/xforms-basic-1>>.



[Webメンテ]

[WF2-20040205] *Web Forms 2.0*, Opera Software, 5 February 2004 (平成16年2月5日), <<http://www.hixie.ch/specs/html/forms/web-forms-2>>.



[WF2-20040205]

[WF2-20041210] *Web Forms 2.0*, WHATWG, 10 December 2004 (平成16年12月10日), <<https://whatwg.org/specs/web-forms/2004-12-10-call-for-comments>>.



[WF2-20041210]

[WG8n1935] ISO/IEC JTC 1/WG 4 N1935, *Information Technology—Hypertext Markup Language (ISO-HTML)*, ISO/IEC JTC1/WG4, 14 October 1997 (平成9年10月14日), <<http://web.archive.org/web/20010605011051/http://www.ornl.gov/sgml/wg8/document/1935.pdf>>.



[WG8n1935]

[whatwg20070501] *IRC logs: freenode / #whatwg / 20070501*, 1 May 2007 (平成19年5月1日), <<https://krijnhoetmer.nl/irc-logs/whatwg/20070501>>.



[whatwg20070501]

[whatwg20071225] *IRC logs: freenode / #whatwg / 20071225*, 25 December 2007 (平成19年12月25日), <<https://krijnhoetmer.nl/irc-logs/whatwg/20071225>>.



[whatwg20071225]

[whatwg20121210] *IRC logs: freenode / #whatwg / 20121210*, 10 December 2012 (平成24年12月10日), <<https://krijnhoetmer.nl/irc-logs/whatwg/20121210>>.



[whatwg20121210]

[WHATWGWiki:Dialogs] *Dialogs - WHATWG Wiki*, WHATWG, 4 April 2012 (平成24年4月4日), <<https://wiki.whatwg.org/wiki/Dialogs>>.



[WHATWGWiki :Dialogs]



[whatwg 20121210]



[whatwg 20071225]



[whatwg 20070501]



[WG8n1935]



[WK26545]

[WK26545] *Bug 26545 – [datagrid] Implement the HTML5 datagrid*, 19 June 2009 (平成 21 年 6 月 19 日), <[https://bugs.webkit.org/show\\_bug.cgi?id=26545](https://bugs.webkit.org/show_bug.cgi?id=26545)>.



[WKModelExplainer] Add an explainer for the HTML model element. (#58), grorg, 30 August 2021 (令和3年8月30日), <https://github.com/WebKit/explainers/commit/7b985d0690c6d3daf2f8b60a1af3c689b16f29d6>.



[WML11/DTD] *Wireless Markup Language (WML) Document Type Definition*, Wireless Application Protocol Forum Ltd., 1999 (平成 11 年), <[http://www.wapforum.org/DTD/wml\\_1.1.xml](http://www.wapforum.org/DTD/wml_1.1.xml)>.



[WKModelExplainer] [WML2] *Wireless Markup Language Version 2.0 Version 11-Sep-2001*, Wireless Application Protocol Forum, Ltd., 11 September 2001 (平成13年9月11日), <<http://www.openmobilealliance.org/tech/affiliates/wap/wap-238-wml-20010911-a.pdf>>.



[WML11:DTD]



[WorldWideWeb] *Tim Berners-Lee: WorldWideWeb, the first Web client*, Tim Berners-Lee, 4 April 2017 (平成29年4月4日),  
<<https://www.w3.org/People/Berners-Lee/WorldWideWeb.html>>.



[WMI 2]



[WorldWideWeb]



[WP:Laura]

[WP:Laura] *Laura Lemay - Wikipedia*, <[https://en.wikipedia.org/wiki/Laura\\_Lemay](https://en.wikipedia.org/wiki/Laura_Lemay)>. 令和 6 (2024) 年 10 月 12 日閲覧。



[WWW19920109] *Re: Is there a paper which describes the www protocol?*, Tim Berners-Lee, 9 January 1992  
(平成4年1月9日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/www-talk/1992JanFeb/0000.html>>.



[www19920109]



[WWWHistory]



[WWWNotes]



[WWWNotes  
Dave]

[WZ2FIXED] 『WZ EDITOR For WINDOWS Ver.2.0 改良、修正履歴』, Village Center, Inc., 平成 8 (1996) 年 9 月 19 日, <<https://web.archive.org/web/19971014142014/http://www.villagecenter.co.jp/wz20/fixed/WZ200E.htm>>。



[WZ2FIXED]

[WZ3HTML] 『WZ3.0 HTML機能拡張プロダクト』, y.mikome, 平成 10 (1998) 年 1 月 30 日, <<https://web.archive.org/web/19980131163139/http://www.villagecenter.co.jp/ftp/Macro-WZ/htmlex/htmlex.htm>>。



[WZ3HTML]

[X3D+HTML5] *X3D+HTML5 talk presented to HTML5 working group today*, Don Brutzman, 13 July 2023 (令和5年7月13日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/public-html/2009Nov/0174.html>>.



[X3D+HTML5]

[XITE:DOM] *DOM Integration | XITE X3D Browser*, CREATE3000, 22 May 2024 (令和6年5月22日), <[https://create3000.github.io/x\\_ite/dom-integration/](https://create3000.github.io/x_ite/dom-integration/)>.



[XITE:DOM]

[XBL2-20100903] *XBL 2.0*, W3C, 3 September 2010 (平成22年9月3日), <<https://web.archive.org/web/20120306233919/http://dev.w3.org/2006/xbl2/Overview.html>>.



[XBL2-20100903]

[XEV20081223] *XML Events 2*, W3C, 23 December 2008 (平成20年12月23日), <<https://www.w3.org/MarkUp/2008/ED-xml-events-20081223/>>.



[XEV20081223]

[XF20000406] *Datamodeling Proposal for XForms*, W3C, 6 April 2000 (平成12年4月6日), <<https://www.w3.org/TR/2000/WD-xforms-datamodel-20000406/>>.



[XF20000406]

[XHReport] *XML in HTML Meeting Report*, W3C, 11 May 1998 (平成10年5月11日), <<https://www.w3.org/TR/1998/NOTE-xh-19980511>>.



[XHReport]

[XHTML10-20000126] *XHTML 1.0: The Extensible HyperText Markup Language*, W3C, 26 January 2000 (平成12年1月26日), <<https://www.w3.org/TR/2000/REC-xhtml1-20000126>>.



[XHTML10-20000126]

[XHTML10-20020801] *XHTML 1.0: The Extensible HyperText Markup Language (Second Edition)*, W3C, 1 August 2002 (平成14年8月1日), <<https://www.w3.org/TR/2002/REC-xhtml1-20020801>>.



[XHTML10-20020801]



[XHReport]



[XHTML10-20000126]



[XF20000406]



[XHReport]



[XHTML10  
-20090602]

[XHTML10-20090602] *XHTML™ 1.0: The Extensible HyperText Markup Language (Third Edition)*, W3C, 2 June 2009 (平成21年6月2日), <<https://www.w3.org/MarkUp/2009/ED-xhtml1-20090602/>>.



[XHTML11  
-20010531]

[XHTML11-20010531] *XHTML 1.1 - Module-based XHTML*, W3C, 31 May 2001 (平成13年5月31日), <<https://www.w3.org/TR/2001/REC-xhtml11-20010531/>>.

[XHTML11-20101123] *XHTML™ 1.1 - Module-based XHTML - Second Edition*, W3C, 23 November 2010 (平成22年11月23日), <<https://www.w3.org/TR/2010/REC-xhtml11-20101123/>>.



[XHTML11  
-20101123]

[XHTML2-20020805] *XHTML 2.0*, W3C, 5 August 2002 (平成14年8月5日), <<https://www.w3.org/TR/2002/WD-xhtml2-20020805/xhtml2.html>>.

[XHTML2-20021218] *XHTML 2.0*, W3C, 18 December 2002 (平成14年12月18日), <<https://www.w3.org/TR/2002/WD-xhtml2-20021218/xhtml2.html>>.



[XHTML2  
-20020805]

[XHTML2-20030131:text] - *XHTML Text Module*, W3C, 31 January 2003 (平成15年1月31日), <<http://www.w3.org/TR/2003/WD-xhtml2-20030131/mod-text.html>>.

[XHTML2-20030506] *XHTML 2.0*, W3C, 7 May 2003 (平成15年5月7日), <<https://www.w3.org/TR/2003/WD-xhtml2-20030506/xhtml2.html>>.



[XHTML2  
-20020805]

[XHTML2-20040722] *XHTML 2.0*, W3C, 22 July 2004 (平成16年7月22日), <<https://www.w3.org/TR/2004/WD-xhtml2-20040722/xhtml2.html>>.



[XHTML2  
-20021218]

[XHTML2-20050527] *XHTML 2.0™*, W3C, 27 May 2005 (平成17年5月27日), <<https://www.w3.org/TR/2005/WD-xhtml2-20050527/xhtml2.html>>.



[XHTML2  
-20021218]

[XHTML2-20101216] *XHTML™ 2.0*, W3C, 16 December 2010 (平成22年12月16日), <<https://www.w3.org/TR/2010/NOTE-xhtml2-20101216/>>.



[XHTML2-20030131  
:text]

[XHTMLBasic20001219] *XHTML Basic*, W3C, 19 December 2000 (平成12年12月19日), <<https://www.w3.org/TR/2000/REC-xhtml-basic-20001219/>>.



[XHTML2  
-20101216]



[XHTML2-20030506]



[XHTML2-20040722]



[XHTML2-20050527]



[XHTMLBasic  
20001219]

[XHTMLBasic20080729] *XHTML™ Basic 1.1*, W3C, 29 July 2008 (平成 20 年 7 月 29 日), <<https://www.w3.org/TR/2008/REC-xhtml-basic-20080729/>>.



[XHTMLBasic  
20080729]

[XHTMLBasic20101123] *XHTML™ Basic 1.1 - Second Edition*, W3C, 23 November 2010 (平成 22 年 11 月 23 日), <<https://www.w3.org/TR/2010/REC-xhtml-basic-20101123/>>.



[XHTMLBasic  
20101123]

[XHTMLBasicタグ] 『技術情報』, KDDI Corporation, 平成 14 (2002) 年, <<https://web.archive.org/web/20020602035253/http://www.au.kddi.com/ezfactory/tec/spec/xhtml.html>>。

[XHTMLDeluxe] *Semantic Frenzy » XHTML Deluxe*, Mirko Prugovecki, 20 September 2006 (平成 18 年 9 月 20 日), <<https://web.archive.org/web/20061201052610/http://www.prugo.de/blog/xhtml-deluxe/>>.



[XHTMLBasicタグ]

[XHTMLEv20000828] *XHTML Events*, W3C, 28 August 2000 (平成 12 年 8 月 28 日), <<https://www.w3.org/TR/2000/WD-xhtml-events-20000828/>>.



[XHTMLDeluxe]

[XHTMLEv20010608] *XHTML Events Module*, W3C, 8 June 2001 (平成 13 年 6 月 8 日), <<https://www.w3.org/TR/2001/WD-xhtml-events-20010608/>>.

[XHTMLMP12] *XHTML Mobile Profile*, Open Mobile Alliance Ltd., 18 January 2005 (平成 17 年 1 月 18 日), <[https://web.archive.org/web/20060518111806/http://www.openmobilealliance.org/release\\_program/docs/Browsing/V2\\_3-20050614-C/OMA-TS-XHTMLMP-V1\\_2-20050118-C.pdf](https://web.archive.org/web/20060518111806/http://www.openmobilealliance.org/release_program/docs/Browsing/V2_3-20050614-C/OMA-TS-XHTMLMP-V1_2-20050118-C.pdf)>.



[XHTMLDeluxe]

[XHTMLPrint20060902] *XHTML-Print*, W3C, 20 September 2006 (平成 18 年 9 月 20 日), <<https://www.w3.org/TR/2006/REC-xhtml-print-20060920/>>.



[XHTMLEv  
20000828]

[XHTMLPrint20101123] *XHTML-Print - Second Edition*, W3C, 23 November 2010 (平成 22 年 11 月 23 日), <<https://www.w3.org/TR/2010/REC-xhtml-print-20101123/>>.



[XHTMLEv  
20101123]



[XInclude1]



[XHTMLPrint  
20101123]



[XHTMLMP12]



[XLIFF12HTML]

[XLIFF12HTML] *XLIFF 1.2 Representation Guide for HTML*, OASIS, 16 October 2006 (平成 18 年 10 月 16 日), <<http://docs.oasis-open.org/xliff/v1.2/xliff-profile-html/xliff-profile-html-1.2-cd02.html>>.



[XML] *Extensible Markup Language (XML) 1.0 (Fifth Edition)*, W3C, 7 February 2013 (平成 25 年 2 月 7 日), <<https://www.w3.org/TR/xml/>>.



[XML]

[XMLspec] *The XML Spec schema and Stylesheets*, Norman Walsh, 7 September 2011 (平成 23 年 9 月 7 日), <<https://www.w3.org/2002/xmlspec/>>.



[XMLsubmit] *Web Collections using XML Submission* - 970309, Alex Hopmann, Scott Berkun, George Hatoun, 9 March 1997 (平成 9 年 3 月 9 日), <<https://www.w3.org/TR/NOTE-XMLsubmit>>.

[XMS] *An XHTML + MathML + SVG Profile*, W3C, 9 August 2002 (平成 14 年 8 月 9 日), <<https://www.w3.org/TR/2002/WD-XHTMLplusMathMLplusSVG-20020809>>.



[XV1] *XHTML+Voice Profile 1.0*, International Business Machines, Motorola, Inc., Opera Software, 21 December 2001 (平成 13 年 12 月 21 日), <<https://www.w3.org/TR/2001/NOTE-xhtml+voice-20011221>>.



[Yandex:NOINDEX:EN] *How do I prohibit indexing of the site or pages? - Webmaster. Help*, ООО «Яндекс», 16 September 2024 (令和 6 年 9 月 16 日), <<https://yandex.ru/support/webmaster/adding-site/indexing-prohibition.html?lang=en>>.



[Yandex:NOINDEX:RU] *Как запретить индексирование сайта или страниц - Вебмастер. Справка*, ООО «Яндекс», 16 сентябрь 2024 (令和 6 年 9 月 16 日), <<https://yandex.ru/support/webmaster/adding-site/indexing-prohibition.html?lang=ru>>.



[YHTML] *『yhtml 公式ウェブ』*, 80, 平成 19 (2007) 年 2 月 7 日, <<https://web.archive.org/web/20070207033314/http://www.yhtml.net/>>。

[XV1]



[Yandex:NOINDEX:EN]



[Yandex:NOINDEX:RU]



[YHTML]

[Z39.86-2002] ANSI/NISO Z39.86-2002, *DAISY ANSI/NISO Z39.86-2002 - The DAISY Consortium*, National Information Standards Organization, 6 March 2002 (平成14年3月6日), <<https://daisy.org/info-help/document-archive/archived-projects/daisy-ansi-niso-z39-86-2002-ed/>>.



[Z39.86-2002]

[ZaimaDM] *A Document Model for Zaima Chant*, W3C, 23 Tikimt 2016 EC (令和5(2023)年11月3日), <<https://w3c.github.io/elreq/zaima/ZaimaModel.html>>.



[ZaimaDM]

[ZaimaPagesYacob] *In Development: Pages to Describe Zaima Chant Requirements*, Daniel Yacob, 23 Tikimt 2010 EC (平成29(2017)年11月2日), <<https://lists.w3.org/Archives/Public/public-i18n-ethiopic/20170ctDec/0000.html>>.



[ZaimaPages Yacob]

[ZobelPub] *Web Publishing With Zobel*, 4 Meskerem 1993 EC (平成12(2000)年9月14日), <<https://web.archive.org/web/20000914184123/http://libeth.netpedia.net/Zobel/Tutorial.html>>.



[ZobelPub]

[たてがき君] 『たてがき君～IE忍法帖』, 縦の会, 平成13(2001)年10月15日, <<http://hp.vector.co.jp/authors/VA022533/tate/ninpoo.html>>。



[たてがき君]

[ルビ付き] 『ルビ付きテキストのマークアップ－組版処理対象要素の構造化と複数の構造モデルを内包する XHTML Ruby DTD モジュール－』, 家辺勝文, 平成14(2002)年, <[https://web.archive.org/web/20050704044922/http://world.nijl.ac.jp/~kiban-s/project/seika\\_pdf/2002-013.pdf](https://web.archive.org/web/20050704044922/http://world.nijl.ac.jp/~kiban-s/project/seika_pdf/2002-013.pdf)>。



[ルビ付け]

[ルビ開発] 『JIS X 4052:2000(日本語文書の組版指定交換形式)』と“Ruby Annotation, W3C Recommendation 31 May 2001”におけるルビ・マークアップ方式の開発－テキスト形態構造の交換可能性と国際整合性を求めて－, 家辺勝文, 平成13(2001)年7月14日, <<https://web.archive.org/web/20060517182416/http://www.ne.jp/asahi/yabe/masafumi/articles/yb010714.pdf>>。



[一太郎8補助]



[ルビ開発]



[交フォ報]

[交フォ報] 『電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト【調査報告書】』, 一般社団法人 日本電子書籍出版社協会, 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日, <<https://dl.ndl.go.jp/view/prepareDownload?itemId=info%3Andljp%2Fpid%2F3525276&contentNo=1>>。



[朝刊太郎タグ]

[朝刊太郎タグ] 『[朝刊太郎改]タグ解説』, 令和 6 (2024) 年 3 月 4 日, <<https://www.chokantaro.com/tag/tag.html>>。



[特許庁DTD] 『Tokkyocho HTML DTD』, show@softvision.co.jp, 平成 10 (1998) 年 10 月 28 日, <<https://www.antenna.co.jp/XML/dtd/tokkyocho-html.zip>>。

[特許庁HTML] 『HTML の規定』, <<https://www.pcinfo.jpo.go.jp/guide/Content/Rules/HtmlRules.htm>>。 令和 6 (2024) 年 2 月 22 日閲覧。

[電子添削] 『HTMLの拡張による電子文書の添削の試み』, 春木良且, 安部清哉, 平成 9 (1997) 年 3 月, <<https://ferris.repo.nii.ac.jp/records/658>>。



[特許庁DTD]



[特許庁HTML]



[電子添削]



えいちていーえむえるよう そ そうさくいん  
**HTML要素総索引**

---

令和6(2024)年12月1日 令和6年12月版(初版)発行

編集・発行 情報体系調査会  
日本国京都府京都市

Webページ <<https://suikawiki.org/b1>>

---

© 2002–2024 SuikaWiki 著者ら。 © 2024 情報体系調査会。本書には SuikaWiki 寄稿文のライセンス <<https://suikawiki.org/c>> が適用されます。同ライセンスによれば、本書の一部または全部は CC BY-SA 3.0 によって複製、配布、改変等が可能です。同ライセンスによれば、図書館等は本書の一部または全部を複写して利用者に提供できます。